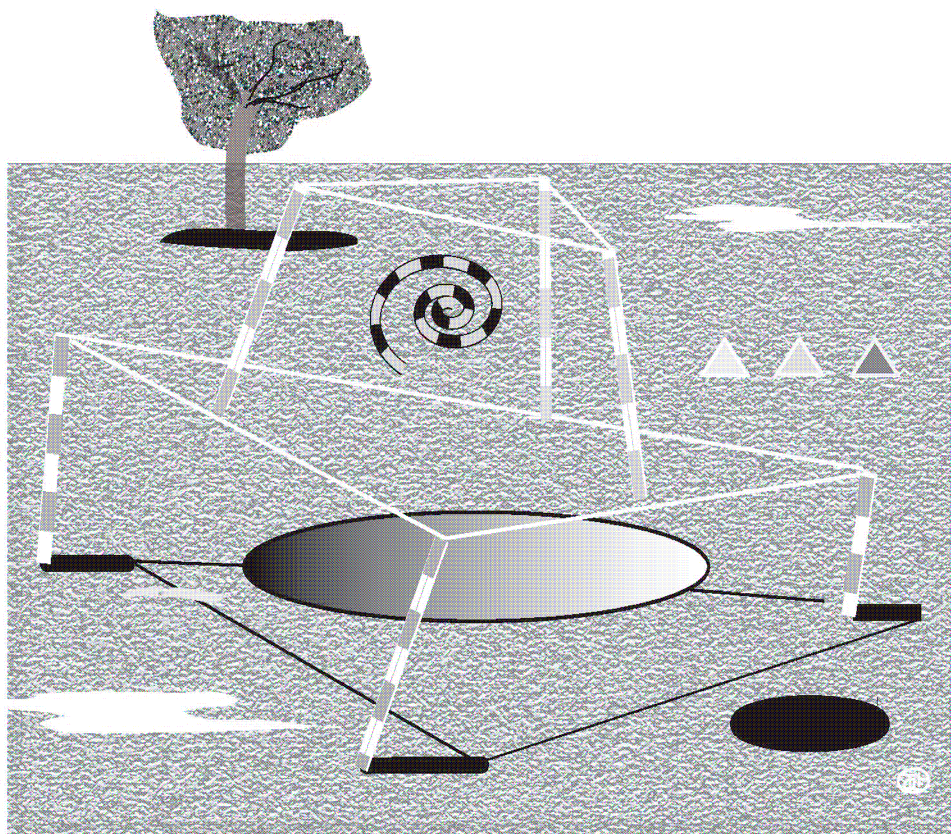


福島県版 生きる力をはぐくむ 学習評価指導事例集



福島県教育委員会

はじめに

新しい学習指導要領は、小学校については平成23年度より、中学校については本年度より全面実施されました。各学校においては、新しい学習指導要領のねらいを実現するために、児童生徒や地域の実態等に応じた適切な教育課程を編成し、指導方法等を工夫しながら、円滑な実施に努められていることと思います。

教育課程の実施にあたっては、学習指導要領に示す内容が児童生徒一人一人に確実に身に付いているかどうかを適切に評価し、その後の学習指導の改善に生かしていくとともに、学校の教育活動全体の改善に結び付けていくことがとても大切となります。

新しい学習指導要領の下での学習評価については、平成22年3月に中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会の報告がとりまとめられ、同年5月に文部科学省初等中等教育局長より「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」の通知が発出され、目標に準拠した評価を引き続き着実に実施すること、新しい学習指導要領の趣旨や改善事項等を学習評価において適切に反映させることなどが示されました。

これらを受け、国立教育政策研究所教育課程研究センターからは、平成22年11月に「評価規準の作成のための参考資料」が、平成23年3月には「評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校編）」、同年7月には同中学校編が刊行されました。同年11月には両資料が合冊され教科ごとに分冊されました。

本県においては、それらを参考に、本年度「学習評価指導事例集作成委員会」を立ち上げ、この度、各学校において学習評価を進める上で参考となる指導事例等を盛り込んだ資料を作成いたしました。

各学校においては、前述の国立教育政策研究所教育課程研究センターより示された内容や本資料等を参考としながら、評価規準を設定し、観点別学習状況の評価を適切に行うよう改めてお願いいたします。

最後に、本資料の作成にあたられた作成委員の皆様をはじめ、作成にあたって御協力いただきました多くの方々に心から感謝を申し上げます。

平成25年3月

福島県教育庁義務教育課長 吉 田 尚

目 次

第1章 学習評価の基本的な考え方

1 新しい学習指導要領の理念	1
2 学習評価の意義・目的	1
3 評価規準の設定と評価方法の工夫・改善	5
4 評価から評定へ	7
Q & A	9

第2章 各教科等の実践事例

(1) 国語(小・中)	1 1
(2) 社会(小・中)	2 3
(3) 算数・数学(小・中)	3 4
(4) 理科(小・中)	4 4
(5) 生活(小)	5 4
(6) 音楽(小・中)	5 9
(7) 図画工作・美術(小・中)	6 9
(8) 家庭(小)	7 8
(9) 技術・家庭(中)	8 3
(10) 体育・保健体育(小・中)	9 3
(11) 外国語活動・外国語(小・中)	1 0 5
(12) 特別活動(小・中)	1 1 3
(13) 道徳(小・中)	1 2 3

第3章 各教科等のQ & A

参考資料

◇ 各教科の観点の変更	1 5 6
◇ 各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨	1 5 8
◇ 文部科学省初等中等教育局長「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」 (H22.5.11)	1 8 0
◇ 児童生徒の学習評価の在り方について(報告)の概要	1 8 4

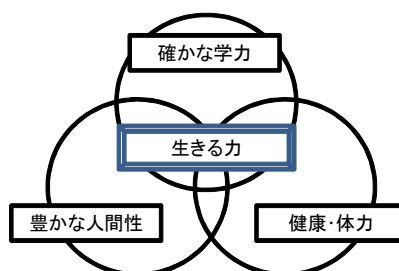
第1章

学習評価の基本的な考え方

第1章 学習評価の基本的な考え方

1 新しい学習指導要領の理念

21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す「知識基盤社会」の時代であると言われている。このような時代において、次代を担う子どもたちに確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむという基本理念はますます重要になっている。



改正教育基本法では、学校教育で自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視することが明示されるとともに、学校教育法及び学習指導要領総則において、学力の重要な3つの要素として

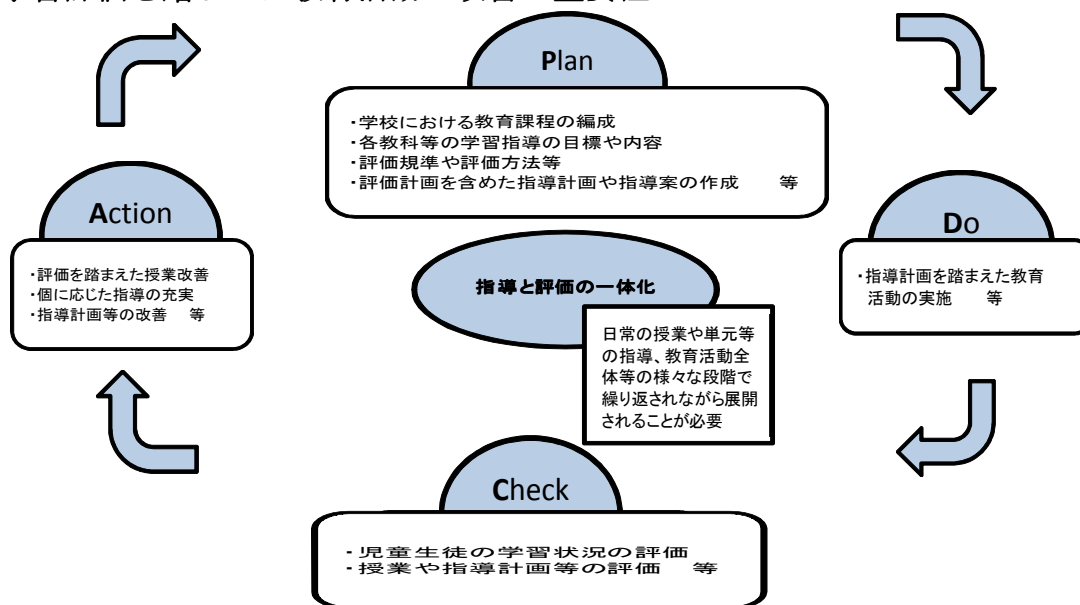
- 基礎的・基本的な知識・技能
- 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- 主体的に学習に取り組む態度

を明確化し、これらを育成することが示された。

2 学習評価の意義・目的

学習評価には、児童生徒の学習状況を検証し、結果の側面から教育水準の維持向上を保障する機能がある。学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要である。

(1) 学習評価を踏まえた教育活動の改善の重要性



これまでも指導と評価の一体化が推進されてきたところであり、今後とも、各学校における学習評価は、学習指導の改善や学校における教育課程全体の改善に向けた取組と効果的に結び付け、学習指導に係る PDCA サイクルの中で適切に実施されることが重要である。

(2) 学習評価の改善に関する基本的な考え方

学習評価の改善を図っていくためには以下の基本的な考え方に沿って学習評価を行うことが必要である。

目標に準拠した評価を引き続き着実に実施する

学習評価の意義や現在の学習評価の在り方が小・中学校を中心に定着してきていることや、新しい学習指導要領が次代を担う児童生徒に「生きる力」をはぐくむという理念を引き継いでいることを踏まえれば、現在行われている学習評価の在り方を基本的に維持しつつ、その深化を図っていくことが重要である。

このため、今後とも、きめの細かい学習指導の充実と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を図るため、各教科における児童生徒の学習状況を分析的にとらえる観点別学習状況の評価と総括的にとらえる評定とについては、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価する目標に準拠した評価として引き続き着実に実施していくことが適当である。

観点別学習状況の評価：各教科における児童生徒の学習の実現状況を分析的に評価する

評定（第3学年以上）：各教科における児童生徒の学習の実現状況を総括的に評価する

「目標に準拠した評価」として実施

新しい学習指導要領の趣旨や改善事項等を適切に反映する

新しい学習指導要領の総則においては、「生きる力」を支える「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和が重視されるとともに、学校教育を行うに当たり「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養う」ことに努めなければならないことが示された。また、小学校における「外国語活動」の導入等様々な改善が行われており、学習指導要領の改訂に対応した学習評価の在り方を検討していくことも求められている。

学校や設置者の創意工夫を一層生かした学習評価の推進

教育は、地域や学校、児童生徒の実態に応じて効果的に行われることが重要であり、近年の教育行政においては、各学校や設置者等の創意工夫を生かすことが重視されている。学校評価についても、各学校や設置者における教育の目標や学習指導に当たって重点を置いている事項を、指導要録等においてこれまで以上に反映できるようにするなど、学校や設置者の創意工夫を一層生かしていく方向で改善を図っていくことが求められる。

(3) 学校教育法や新しい学習指導要領の趣旨を踏まえた、評価の観点に関する考え方

学習評価における観点については、新しい学習指導要領を踏まえ、以下のような視点に基づき観点の整理を行っている。

まず、基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを活用する思考力・判断力・表現力等をいわば車の両輪として相互に関連させながら伸ばしていくとともに、学習意欲の向上を図るという学習指導要領の改訂の趣旨を反映し、学習指導と学習評価の一体化を更に進めていくため、学力の3つの要素を踏まえて評価の観点に関する考え方を整理することとする。

新しい学習指導要領においては、思考力・判断力・表現力等を育成するために、基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動を重視するとともに、論理や思考等の基盤である言語の果たす役割を踏まえ、言語活動を充実することとしている。これらの能力を適切に評価し、一層育成していくため、各教科の内容等に即して思考・判断したことを、その内容を表現する活動と一体的に評価する観点として「思考・判断・表現」を設定することが適切と考えられる。

新しい観点

今回、学校教育法、新しい学習指導要領を踏まえ、新しい観点が次のように設定された。

「関心・意欲・態度」

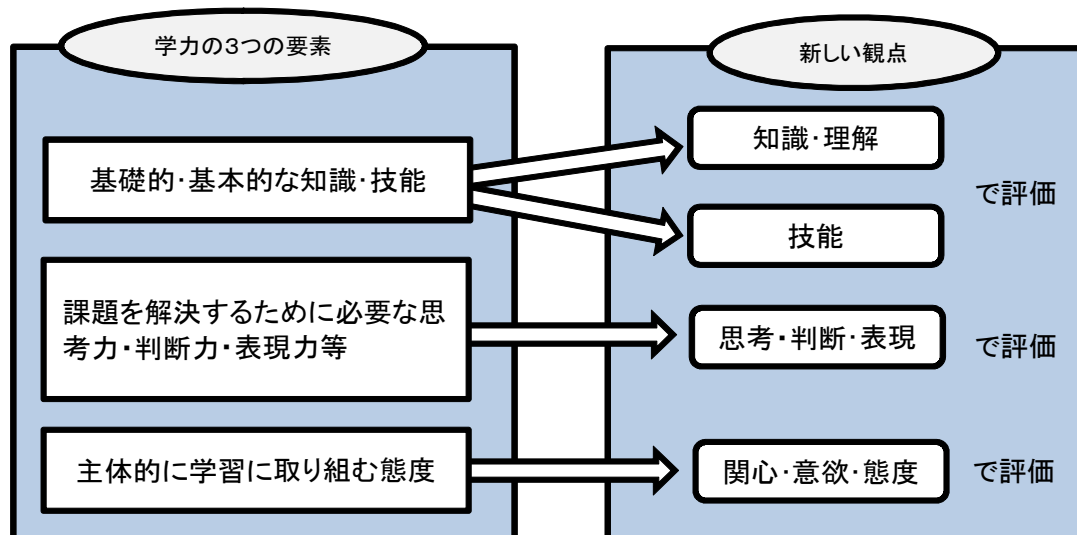
「思考・判断・表現」

「技能」

「知識・理解」

※ 各教科等の評価の観点は、上に示した観点を基本としつつ、各教科等の特性に応じて設定

学力の3つの要素と評価の4観点についての整理



新しい学習指導要領の下における評価の観点について、基本的には、基礎的・基本的な知識・技能については「知識・理解」や「技能」において、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等については「思考・判断・表現」において、主体的に学習に取り組む態度については「関心・意欲・態度」においてそれぞれ評価を行うこととして整理する。

(4) 各観点の評価に関する考え方

「関心・意欲・態度」

「関心・意欲・態度」は、各教科が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を児童生徒が身に付けているかどうかを評価するものである。

- ・ 評価に当たっては、各教科が対象としている学習内容に対する児童生徒の取組状況を通じて評価することを基本とし、他の観点と同様、目標に照らして「おおむね満足できる」状況にあるかどうかの評価を中心とすることが適当である。
- ・ 具体的な評価方法としては、授業や面談における発言や行動等を観察するほか、ワークシートやレポートの作成、発表といった学習活動を通して評価することが考えられる。その際、授業中の挙手や発言の回数といった表面的な状況のみに着目することにならないよう留意する必要がある。
- ・ 各教科が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度をはぐくむことは、他の観点に係る資質や能力の定着に密接に関係するものである。
- ・ 教師の指導により、学習意欲の向上は見られたものの、その他の観点について目標の実現に至っていない場合は、学習指導の一層の充実を図ることが重要である。その際、個人内評価を積極的に活用し児童生徒の学習を励ますことも有効である。

「思考・判断・表現」

「思考・判断・表現」は、それぞれの教科の知識・技能を活用して課題を解決すること等のために必要な思考力・判断力・表現力等を児童生徒が身に付けているかどうかを評価するものである。

- ・ 新しい学習指導要領に示された思考力・判断力・表現力等は、学校教育において育む能力を一般的に示したものであり、そのような能力を育成するという目標の下、各教科の内容等に基づき、具体的な学習評価を行うための観点が「思考・判断・表現」である。
- ・ 「思考・判断・表現」として、従来の「思考・判断」に「表現」を加えて示した趣旨は、この観点に係る学習評価を言語活動を中心とした表現に係る活動や児童生徒の作品等と一体的に行うことを明確にするものである。
- ・ 単に文章、表や図に整理して記録するという表面的な現象を評価するものではなく、例えば、自ら取り組む課題を多面的に考察しているか、観察・実験の分析や解釈を通じ規則性を見いだしているかなど、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容等に即して思考・判断したことを、記録、要約、説明、論述、討論といった言語活動等を通じて評価するものであることに留意する必要がある。
- ・ 指導後の児童生徒の状況を記録するための評価を行うに当たっては、思考・判断の結果だけではなく、その過程を含め評価することが特に重要であることに留意する必要がある。

「技能」

「技能」は、各教科において習得すべき技能を児童生徒が身に付けているかどうかを評価するものである。

- ・ 教科によって違いはあるものの、基本的には、これまで「技能・表現」で評価していた内容は引き続き「技能」で評価することが適当である。
- ・ 各教科の内容等に即して思考・判断したことを、その内容を表現する活動と一体的に評価する観点として「思考・判断・表現」を設定することから、当該観点における「表現」との混同を避けるため、評価の観点の名称を「技能・表現」から「技能」に改めた。

「知識・理解」

「知識・理解」は、各教科において習得すべき知識や重要な概念等を児童生徒が理解しているかどうかを評価するものである。

- ・ 新しい学習指導要領のもとにおいても、従来の「知識・理解」の趣旨を踏まえた評価を引き続き行うことが重要である。

3 評価規準の設定と評価方法の工夫・改善

(1) 目標に準拠した評価と評価規準の設定

目標に準拠した評価の必要性

学習評価は、児童生徒が学習指導要領の示す目標に照らしてその実現状況を見ることが求められるものである。新しい学習指導要領は次代を担う児童生徒に「生きる力」をはぐくむという理念を引き継いでいることを踏まえれば、今まで行われている学習評価の在り方を基本的に維持しつつ、その深化を図っていくことが重要である。

(2 (2) 学習評価の改善に関する基本的な考え方参照)

目標に準拠した評価の着実な実施において必要なこと

児童生徒一人一人の学習状況をきめ細かに把握し、学習状況に応じた指導の改善を行うことができるようにする（指導と評価の一体化）ためには、次の点が重要となる。

- ◇ 各教科の目標だけでなく、単元や内容項目レベルの指導の目標が整理され、明確になっていること。
- ◇ 児童生徒の学習状況において、どのような状態が学習指導のねらいが実現された状態であるか具体的に想定していること。

評価規準の設定と適切な活用

観点別学習状況の評価が目標に準拠した評価として適切に行われるよう、国立教育政策研究所教育課程研究センターで作成した資料「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」を参考にして、各学校において評価規準を設定する。評価規準を設定することで、児童生徒の学習状況の判断が教師の経験や主観に偏らない信頼性の高いものになる。

評価規準

児童生徒が学習指導要領に示す目標を実現した「おおむね満足できる」状況の評価の観点別に具体的に示したもの。

本県においては、かつて目標に準拠した評価を導入するに当たり、各学校が設定した評価規準について、どの程度達成したかという量的、尺度的な判断の目安を「達成基準」とし、特に単元のねらいに直結する中心的な学習の場面においてより具体的に設定してきた。（「児童生徒の夢がかなう福島の教育の実現に向けてⅡ」平成14年3月 福島県教育委員会）

(A)・(B)・(C)それぞれの状況にある児童生徒の姿を「達成基準」として具体的にイメージしておくという考え方は、それぞれの状況にある児童生徒への手立てを明確にする上で今なお有効な手段であるが、学習評価の意義や現在行われている学習評価の在り方が、本県においても定着してきていることや、教師の負担感の軽減、学校や設置者の創意工夫を生かす現場主義といった観点から、本資料では、学習集団全体が目指すところの評価規準を「おおむね満足できる」状況(B)として明記することとし、「おおむね満足できる」状況(B)に満たない「努力を要する」状況(C)の児童生徒に対しては、「おおむね満足できる」状況(B)に導くための具体的な「手立て」を明記することとした。なお、「十分に満足できる」状況(A)についても、児童生徒の具体的な姿をイメージしておき、さらに伸ばすための手立てを考えておくことが肝要である。

※ 評価規準の設定の手順については、P8「評価規準の設定について」を参照

(2) 評価方法等の工夫・改善

観点別学習状況の評価を円滑に実施するに当たっては、適切な評価時期を設定することや学習指導の目標に沿った学習評価を行うこと等が重要である。

評価方法の工夫改善

各教科の学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や児童生徒の発達段階に応じて、観察、対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における児童生徒の学習の状況を的確に評価できる方法を選択していくことが必要である。これらの評価方法に加えて、児童生徒による自己評価や児童生徒同士の相互評価を工夫することも考えられる。

評価を適切に行うという点のみでいえば、できるだけ多様な評価を行い、多くの情報を得ることが重要であるが、他方、このことにより評価に追われてしまえば、十分に指導ができなくなるおそれがある。児童生徒の学習状況を適切に評価し、その評価を指導に生かす点に留意し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図っていくことが重要である。

評価時期の工夫

授業改善のための評価は日常的に行われることが重要である。一方で、指導後の児童生徒の状況を記録するための評価を行う際には、単元等ある程度長い区切りの中で適切に設定した時期において「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価することが求められる。

「関心・意欲・態度」については、表面的な状況のみに着目することにならないよう留意するとともに、教科の特性や学習指導の内容等も踏まえつつ、ある程度長い区切りの中で適切な頻度で「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価するなどの工夫を行うことも重要である。

なお、各学校で年間指導計画を検討する際、それぞれの単元(題材)において、観点別学習状況の評価に係る最適な時期や方法を観点ごとに整理することが重要である。これにより、評価すべき点を見落とししていないかを確認するだけでなく、必要以上に評価機会を設けて評価資料の収集・分析に多

大な時間を要するような事態を防ぐことができ、各学校において効果的・効率的な学習評価を行うことにつながると考えられる。

学習指導の目標と学習活動の関係

各教科において、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る学習活動と思考力・判断力・表現力等の育成を図る学習活動は相互に関連し合っており、はっきりと分類されるものではない。たとえば、同様の学習活動であっても、教師の指導のねらいに応じ、「知識・理解」や「技能」の評価に用いられることも、「思考・判断・表現」の評価に用いられることもあると考えられる。また、学習指導の目標に照らして実現状況の評価するという目標に準拠した評価の趣旨に沿って、学習活動を通じて子どもたちに身に付けさせようとしている資質や能力を明確にした上で、それに照らして学習評価を行うことが重要である。

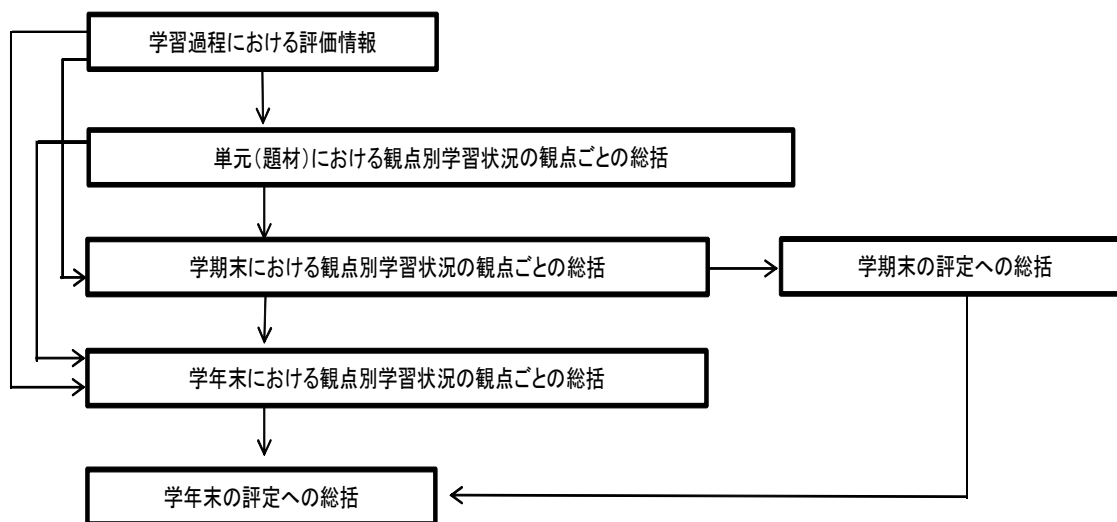
効果的・効率的な学習評価の推進

学校や設置者においては、国等が示す評価に関する資料を参考にしつつ、評価規準や評価方法の一層の共有や教師の力量の向上等を図り、学習評価の妥当性、信頼性を高めるとともに、教師の負担感を軽減するための組織的・計画的な学習評価の推進が重要である。

4 評価から評定へ

評定が学習指導要領に示す各教科の目標に照らして学習の実現状況を総括的に評価するものであるのに対し、観点別学習状況は学習指導要領に示す各教科の目標に照らして学習の実現状況を分析的に評価するものであり、観点別学習状況の評価が評定を行うための基本的な要素となる。

評定への総括は、学期末や学年末などに行うことが考えられる。具体的な総括の流れとしては、以下の図に示したように、いくつかの例が考えられる。



また、評定については、小学校は3, 2, 1（中学校は5, 4, 3, 2, 1）という数値で表されるが、これを児童生徒の学習の実現状況を3つ（中学校は5つ）に分類したものとして捉えるのではなく、常にこの結果の背景にある児童生徒の具体的な学習の実現状況を思い描き、適切に捉えることが大切である。各学校では観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法について共通理解を図り、児童生徒及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切である。

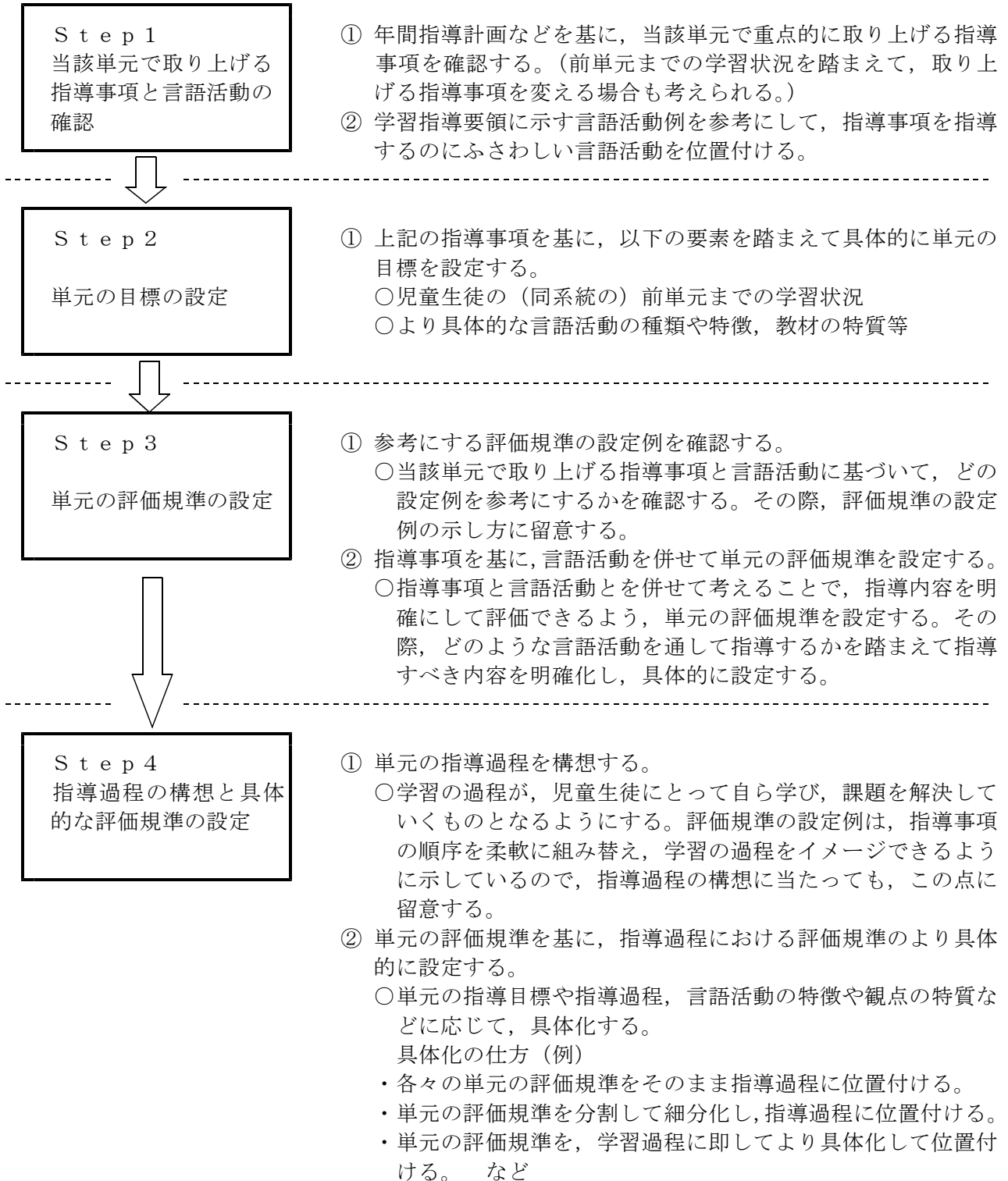
評価規準の設定について

評価規準の設定における基本的な考え方

評価規準を設定する際は、児童生徒の発達の段階を踏まえ、単元や題材の指導のねらいを明確にするとともに、実際の指導に対応した評価規準を設定することが大切である。

評価規準の設定の手順

《 国語科の例 》



Q & A

Q 1 : 学習評価の意義や目的は何ですか。

A : 学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものです。現在、各学校においては、きめの細かい学習指導の充実と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を図るため、学習状況を分析的にとらえる観点別学習状況の評価と総括的に捉える評定とを、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施することが明確にされています。

また、学習評価を行うに当たっては、児童生徒一人一人に学習指導要領の内容が確実に定着するよう、学習指導の改善につなげていくことが重要です。

Q 2 : 評価規準の作成において、留意することはどんなことですか。

A : 評価規準作成のよりどころとなるものは、
「学習指導要領」
「学習指導要領解説」
「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」
(国立教育政策研究所教育課程研究センター)
であり、これらを参考にして評価規準を作成します。

また、目標に準拠した評価であることから、学習指導要領の目標を踏まえた各単元(題材)の目標を設定し、授業をイメージして、育てたい力、身に付けさせたい力を明確にした評価規準を作成することが必要です。

また、評価規準を具体化した児童生徒の姿、評価場面や方法、結果に対する児童生徒への手立てを考えておくことも大切です。

Q 3 : 観点別学習状況の評価の評定への総括について、留意することはどんなことですか。

A : 評定は、観点別学習状況の評価を基本的な要素として総括していきます。

観点別学習状況の評価の評定への総括は、各観点の評価結果をA, B, Cの組合せ、又は、A, B, Cを数値で表したものに基づいて総括し、その結果を3段階(中学校は5段階)で表します。

A, B, Cの組合せから評定に総括する場合、各観点とも同じ評価がそろう場合、小学校では、「AAAA」であれば3、「BBBB」であれば2、「CCCC」であれば1とするのが適当であると考えられます。中学校の場合は、「AAAA」であれば4又は5、「BBBB」であれば3、「CCCC」であれば2又は1とするのが適当であると考えられます。それ以外の場合は、各観点のA, B, Cの数の組合せから適切に評定する必要があります。また、評定は3, 2, 1(中学校では5, 4, 3, 2, 1)という数値で表されますが、これを児童生徒の学習状況を3つ(中学校では5つ)に分類したものとして捉えるのではなく、結果の背景にある児童生徒の具体的な学習の実現状況を思い描き、適切に捉えることが大切です。

なお、評定への総括の考え方や方法については、各学校で共通理解を図り組織的に取り組むこと、児童生徒及び保護者に十分説明し理解を得ることが重要です。

Q 4 : 学習評価について、保護者に説明するとき、留意することはどんなことですか。

A : まず、学習評価について教職員間で共通理解を図り、学校全体としての考え方をもつことが大切です。

その上で、保護者に説明する際は、分かりやすい評価資料等を用意し、学習評価に関する仕組み等について事前に説明したり、評価結果の説明を充実したりするなどして、学習評価に関する情報をより積極的に提供することが重要です。特に評価結果については、面談や通知票等を活用するなど、評価・評定を適切に分かりやすく伝えることが大切です。

Q 5 : 学習評価の妥当性、信頼性等を高めるために、留意することはどんなことですか。

A : 学習評価の妥当性、信頼性等を高めるためには、学習評価を進める際に、指導の目標及び内容と対応した形で評価規準を設定することや評価方法を工夫する必要があります。

評価方法を検討する際には、評価の観点で示される資質や能力等を評価するのにふさわしい方法を選択することが、評価の妥当性、信頼性等を高めることにつながります。また、評価規準と対応するように評価方法を準備することによって、評価方法の妥当性、信頼性等が高まるものと考えられます。

第2章

各教科等の実践事例

国 語 (小)

1 国語科における学習評価の考え方

国語科の学習は、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる」ことが目標である。この目標への到達状況を把握するために、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の5観点を設定している。

国語科では、言語活動を行う能力の育成が目標となるが、一方で言語活動は言語能力を育成するための手段でもある。このことを踏まえ、記録、要約、説明、論述、討論といった具体的な言語活動を通じて評価を行うことが大切である。

この際、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」の評価に当たっては、言語活動を中心とした表現に係る活動や児童の作品等と一体的に行う必要がある。

2 教科目標及び評価の観点等

(1) 国語科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

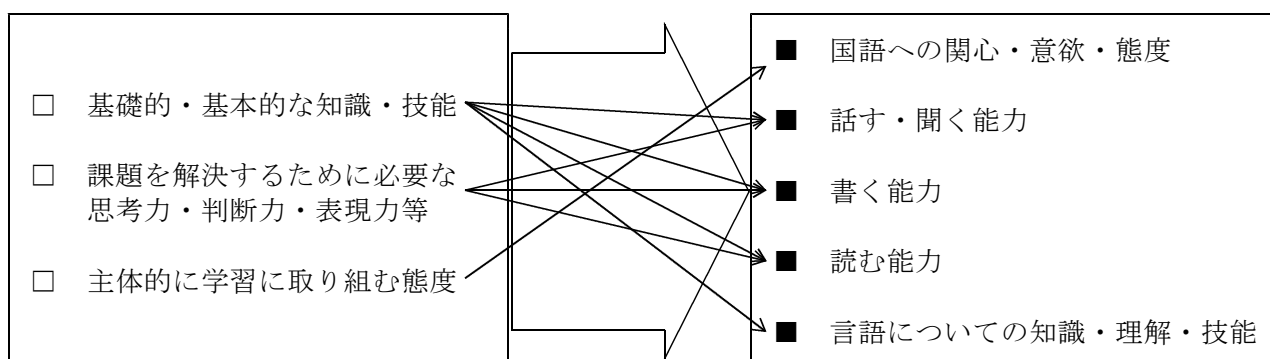
(2) 評価の観点及びその趣旨

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、国語を尊重しようとする。	相手や目的、意図に応じ、話したり聞いたり話したりし、自分の考えを明確にしている。	相手や目的、意図に応じ、文章を書き、自分の考えを明確にしている。	目的に応じ、内容をとらえながら本や文章を読み、自分の考えを明確にしている。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて書いている。

(3) 学力の3要素と評価の観点との関係

[学力の3要素]

[国語科の評価の観点]



※ 国語科においては、学習指導要領の内容の示し方やこれまでの実践を踏まえ、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」を、学習指導要領の内容のまとまりに合わせ、基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」とを合わせて評価する観点として位置付けている。そこで、上記のように、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の5観点を設定している。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

年間指導計画の見通しのもと、重点的に取り上げる指導事項を確定する。国語科においては、一つの指導事項を年間で複数回繰り返して取り上げながら指導することが多い。そのため、年間指導計画を見通して当該単元の指導目標や単元の評価規準を設定することが重要である。

年間指導計画とともに重要になるのが一覧表(マトリックス)である。この一覧表は、例えば、縦の列に単元名、横の列に5観点(「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」)を並べたものである。

こうした一覧表を作成することによって、年間を見通した上で当該単元においてどの指導事項等を取り上げて指導し評価するのかを把握することができる。

(2) 評価方法及び評価の時期

① 国語科における5観点の基本的な考え方

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
基本的などの単元でも 設定	年間指導計画の見通しのもと、当該単元で重点的に指導するものを精選して設定 ☆目標・学習活動・指導・評価の一貫性を図る。			基本的などの単元でも 設定 ☆各領域の学習を通して指導する。

② 評価方法

評価する機会や場면을繰り返し設定することによる確実な指導と評価を行うことが重要である。また、学習の過程における評価を意図的に行うことは、その後の指導に結び付けることができることから非常に大切である。

具体的には、ノート、学習カード、メモ、発言、対話・会話、作品(作文、スピーチ原稿等)、態度、質問や感想等、スピーチ(あるいはリハーサル)の状況等が考えられる。

③ 評価の時期

評価方法とともに、評価の時期も事前に確定しておくことが肝要である。評価の時期については、学習中の評価と学習後の評価に分けて考えることができる。

学習中の評価については、特定の評価場面を設定して共通に評価のための資料を収集して行う場合と、学習において特に高まりが見られた児童の姿を加点的に評価する場合とがある。

学習後の評価に当たっては、ノートや学習カード、作品等、学習の記録による評価と事後のテストによる評価が考えられる。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

国語科においては、より具体的な言語活動を位置付けていくことで、より効果的で実効性のある評価に結び付けることができる。その際、1単位時間という短いスパンの言語活動ではなく、単元を貫く言語活動を設定していくことが児童の言語能力の育成とその評価に当たって重要である。

学習指導要領では、36の言語活動例を示している。この言語活動例と指導事項から評価規準を作っていくことが求められる。(Q & A 131ページ参照)

(2) 「言語についての知識・理解・技能」と学習評価

学習指導要領において、従来の「言語事項」に代わり、新設された「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に示された指導すべき事項の内容についての評価である。

この「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、「ア 伝統的な言語文化に関する事項」「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項」「ウ 文字に関する事項」とからなる(1)と、(2)「書写に関する事項」からなっている。(1)については、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の指導を通して指導することになっているが、特定の事項をまとめて指導したり、繰り返して指導したりすることが必要な場合については、特にそれだけを取り上げて指導することも可能である。

この事項はそれぞれの領域の指導と密接に関連しており、評価を進めるに当たっては、各領域の学習活動を支える能力となるとともに、国語を駆使する場合の基礎・基本となることから、継続的、計画的な評価をしていくことが重要である。

(国語科における学習指導と学習評価の実際)

1 単元名 いのちに学ぶ「海のいのち」他 (第6学年)

※ 学習指導要領における単元の位置付け 「C 読むこと」

2 単元の目標

- (1) 自分が推薦しようと考えた理由を明らかにしながら本を読み返したり、必要な内容に応じて本を選んで推薦したりしよとすることができる。
- (2) 物語の特徴を把握して推薦するために、登場人物の相互関係から人物像や役割を捉えることができる。
- (3) 本の推薦の文章を読み合い、共通点や相違点を明らかにし、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
- (4) 文章を特徴付ける語句に気付き、語句と語句との関係を理解し、言葉の美しさを捉えることができる。

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・本を推薦するという目的に応じ、推薦する理由を明確にしながら本や文章を読もうとしている。 ・読書を通して自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。	・登場人物の相互関係から人物像や役割を捉え、自分の考えをまとめている。 ・本の推薦の文章を発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。	・文章の中での語句と語句との関係を理解している。 ・言葉の美しさ、言葉の使い方に対する感覚などについて意識して文章を読んでいる。

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、単元の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画（本時 ）

学習活動	学習活動に即した評価規準（評価方法）		
	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<p>1 教材文を読み、学習の見通しをもつ。 （2時間）</p> <p>①これまでの読書体験を基に、本の選び方について振り返る。</p> <p>②「5年生が読みたくなるように推薦しよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p>	<p>◆自らの読書傾向を振り返り、本を推薦するという目的に応じた読書の在り方に目を向けようとしている。 （観察記録の分析）</p> <p>◆5年生の読書傾向について調べた結果を学習計画表に記入し、推薦する相手を具体的に意識している。 （学習計画表の確認）</p>		
<p>2 自分の心に響く叙述を見付けながら、推薦文を書く。 （6時間）</p> <p>①教材文を読み、「読み手である自分の心に強く響いてきた叙述」を見付ける。</p> <p>②前時に見付けた叙述をもとに、与吉じいさの海に対する考えや漁師となった太一の考え方について、自分の考えをまとめる。</p>		<p>◆物語の特徴を把握して推薦するために、それぞれの登場人物について説明している言葉や、人柄や考え方が表れている言葉を探している。 （発言の分析・ノートの記述内容の分析）</p> <p>◆物語を推薦するために、太一と他の人物が、互いにどんな気持ちを持っているかが分かる言葉を探して、内面に描かれた心情を想像して読んでいる。 （発言の分析・ノートの記述内容の分析）</p>	<p>◆太一を中心として、登場人物の相互関係を特徴付ける語句に気付き、語句と語句との関係を理解して読んでいる。 （発表の分析・ノートの記述内容の分析）</p> <p>◆言葉の美しさを捉えたり、その言葉が適切であるかどうかを感じ取ったりしながら読んでいる。 （発表の分析・ノートの記述内容の分析）</p>

<p>③前々時に見付けた叙述をもとに、クエと対峙した太一の行動や心情から、作品が自分に最も強く語りかけてきたことについて、自分の考えをまとめる。</p>		<p>◆「海のいのち」という言葉にこめられた意味や、太一にとって海はどのようなものかを考え、本を推薦するために自分の考えをまとめている。 (ノートの記述内容の分析)</p>	
<p>④⑤並行読書を進めてきた作者の他の作品の中から一つを選び、教材文の心に響く叙述との関連を考え、推薦文にまとめる。</p> <p>⑥互いの心に響く叙述について、理由を明らかにしながら推薦文を紹介し合い、グループで交流する。</p>	<p>◆作品が自分に最も語りかけてきたことをもとに、推薦する理由を明確にしなが、本を選んで推薦しようとしている。 (観察記録の分析)</p>	<p>◆推薦する本の内容や作者に関連する本を読むなど、推薦するという目的に応じて、複数の本を選んで比べて読み、推薦文を書いている。 (推薦文の分析)</p> <p>◆推薦の文章を読み合い、共通点や相違点を明らかにし、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (観察記録の分析)</p>	
<p>3 本の推薦の文章を5年生に紹介する。 (2時間)</p> <p>①自分の心に響いてきた叙述の魅力が伝わるように推薦文を紹介する準備を行う。</p> <p>②推薦文を5年生に紹介し、感想をもらう。</p>	<p>◆推薦する相手を意識しながら工夫をして、推薦する文を紹介する準備をしようとしている。 (観察記録の分析)</p> <p>◆実際に推薦文を聞いた感想をもらい、学習の成果を確認しようとしている。 (観察記録の分析)</p>		

※ 「評価規準の設定例」を基に、具体的な学習活動を踏まえ、言葉を省略したり変更したりしている。

5 本時の目標

- 「瀬の主」と対峙する太一の行動や心情について考えを深めていくことにより、物語が自分に最も強く語りかけてくることをとらえ、文章にまとめることができる。

6 学習過程（指導と評価の計画）

段階	学習活動・内容	時間	形態	○ 指導上の留意点 評価規準（評価方法） ■ Bに達しない児童への手立て
課題把握	1 学習課題を把握する。 「海のいのち」にこめられた意味は何か。	5	一斉	○ 登場人物の相互関係やおとうと与吉じいさの海への考え方などについて振り返ることができるように資料を掲示していく。 ○ 作品が自分に最も強く語りかけてくることを推薦文に入れるために、「海のいのち」にこめられた意味を読み深めていくことを確認する。
課題追究	2 クエと対峙する太一の行動、心情について考える。 (1) どうして、太一はクエを殺さなかったのか。 (2) 太一が「大魚」をこの海のいのちだと思えたのはなぜか。 3 作品が自分に最も強く語りかけてくることについて考える。	35	個人 一斉 個人 一斉	○ 海に挑んだおとうと千匹に一匹の海の恵みを獲っていた与吉じいさの海に対する考え方が太一の心情にどう関わっているかに着目させる発問を設定する。 ○ 全体での話合いの前に小集団で対話させ、自分の考えをもつきっかけをつかませたり、自分の読み取りを比較整理させたりする。 ○ 友達の意見を聞くことで自分の考えが広がったり、新たな視点で読み広げていくきっかけになるように全体での話合いをコーディネートしていく。 ○ それぞれの考えをノートにまとめ、全体で交流させることで、自分の考えの広がりや深まりを実感させる。 【読む能力】 「海のいのち」という言葉にこめられた意味や太一にとって海はどのようなものかを考え、本を推薦するために、自分の考えをまとめている。 (ノートの記述内容の分析) ■ 「海」という言葉やそれに関連する言葉が含まれている会話にサイドラインを引かせる。そこから太一と海との関係を考えさせる。
まとめ	4 学習を振り返り、推薦文に入りたいことをまとめる。	5	個人	○ 推薦文の内容を踏まえて学習を振り返らせ、次時へとつないでいくようにする。

※ 評価規準は「おおむね満足できる状況（B）」について設定する。

国 語（中）

1 国語科における学習評価の考え方

国語科の学習は、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる」ことが目標である。この目標への到達状況を把握するために、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の5観点を設定している。

国語科では、言語活動を行う能力の育成が目標となるが、一方で言語活動は言語能力を育成するための手段でもある。このことを踏まえ、記録、要約、説明、論述、討論といった具体的な言語活動を通じて評価を行うことが大切である。

この際、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」の評価に当たっては、言語活動を中心とした表現に係る活動や生徒の作品等と一体的に行う必要がある。

2 教科目標及び評価の観点等

(1) 国語科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

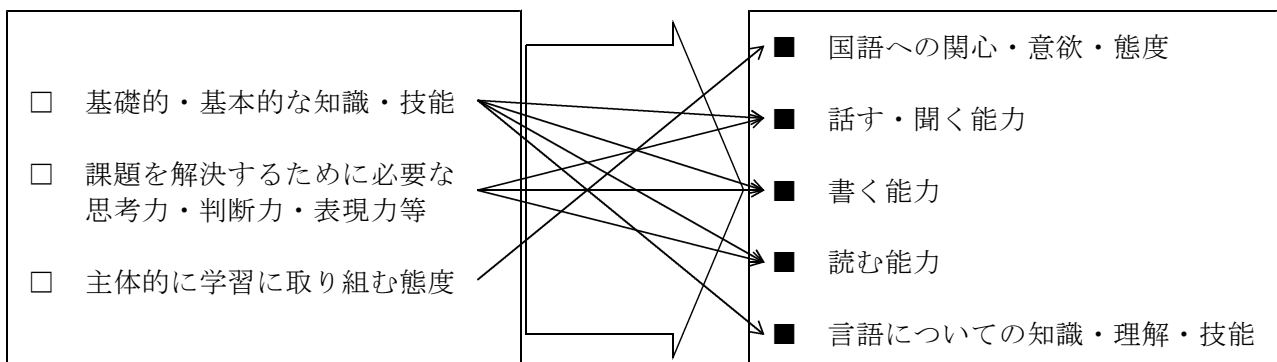
(2) 評価の観点及びその趣旨

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、国語を尊重しようとする。	目的や場面に応じ、適切に話したり聞いたり話し合ったりして、自分の考えを豊かにしている。	相手や目的、意図に応じ、筋道を立てて文章を書いて、自分の考えを豊かにしている。	目的や意図に応じ、様々な文章を読んだり読書に親しんだりして、自分の考えを豊かにしている。	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて速く書いている。

(3) 学力の3要素と評価の観点との関係

[学力の3要素]

[国語科の評価の観点]



※ 国語科においては、学習指導要領の内容の示し方やこれまでの実践を踏まえ、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」を、学習指導要領の内容のまとまりに合わせ、基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」とを合わせて評価する観点として位置付けている。そこで、上記のように、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の5観点を設定している。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

年間指導計画の見通しのもと、重点的に取り上げる指導事項を確定する。国語科においては、一つの指導事項を年間で複数回繰り返して取り上げながら指導することが多い。そのため、年間指導計画を見通して当該単元の指導目標や単元の評価規準を設定することが重要である。

年間指導計画とともに重要になるのが一覧表(マトリックス)である。この一覧表は、例えば、縦の列に単元名、横の列に5観点(「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」)を並べたものである。

こうした一覧表を作成することによって、年間を見通した上で当該単元においてどの指導事項等を取り上げて指導し評価するのかを把握することができる。

(2) 評価方法及び評価の時期

① 国語科における5観点の基本的な考え方

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
基本的にどの単元でも 設定	年間指導計画の見通しのもと、当該単元で重点的に指導するものを精選して設定 ☆目標・学習活動・指導・評価の一貫性を図る。			基本的にどの単元でも 設定 ☆各領域の学習を通して指導する。

② 評価方法

評価する機会や場면을繰り返し設定することによる確実な指導と評価を行うことが重要である。また、学習の過程における評価を意図的に行うことは、その後の指導に結び付けることができることから非常に大切である。

具体的には、ノート、学習カード、メモ、発言、対話・会話、作品(作文、スピーチ原稿等)、態度、質問や感想等、スピーチ(あるいはリハーサル)の状況等が考えられる。

③ 評価の時期

評価方法とともに、評価の時期も事前に確定しておくことが肝要である。評価の時期については、学習中の評価と学習後の評価に分けて考えることができる。

学習中の評価については、特定の評価場面を設定して共通に評価のための資料を収集して行う場合と、学習において特に高まりが見られた生徒の姿を加点的に評価する場合とがある。

学習後の評価に当たっては、ノートや学習カード、作品等、学習の記録による評価と事後のテストによる評価が考えられる。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

国語科においては、より具体的な言語活動を位置付けていくことで、より効果的で実効性のある評価に結び付けることができる。その際、1単位時間という短いスパンの言語活動ではなく、単元を貫く言語活動を設定していくことが生徒の言語能力の育成とその評価に当たって重要である。

学習指導要領では、23の言語活動例を示している。この言語活動例と指導事項から評価規準を作っていくことが求められる。(Q & A 131ページ参照)

(2) 「言語についての知識・理解・技能」と学習評価

学習指導要領において、従来の「言語事項」に代わり、新設された「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に示された指導すべき事項の内容についての評価である。

この「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、「ア 伝統的な言語文化に関する事項」「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項」「ウ 漢字に関する事項」とからなる(1)と、(2)「書写に関する事項」からなっている。(1)については、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の指導を通して指導することになっているが、特定の事項をまとめて指導したり、繰り返して指導したりすることが必要な場合については、特にそれだけを取り上げて指導することも可能である。

この事項はそれぞれの領域の指導と密接に関連しており、評価を進めるに当たっては、各領域の学習活動を支える能力となるとともに、国語を駆使する場合の基礎・基本となることから、継続的、計画的な評価をしていくことが重要である。

(国語科における学習指導と学習評価の実際)

1 単元名 想像豊かに読み、表現を工夫して書く「盆土産」 (第2学年)

※ 学習指導要領における単元の位置付け 「C 読むこと」

2 単元の目標

- (1) 描写の効果や登場人物の言動の意味を考え、文章の表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。
- (2) 主人公を替えて創造的に書き換えること(リライト)で、必要な情報を読み取り、心情が相手に効果的に伝わるような表現の仕方を工夫することができる。
- (3) 共通語と方言の果たす役割を理解することができる。

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none">・主人公を替えて創造的に書き換える(リライト)ために必要な情報を読み取ろうとしている。・自分の感動や意見が読み手に伝わるように、根拠を明らかにしながら言葉の使い方や構成を工夫して文章を書こうとしている。	<ul style="list-style-type: none">・登場人物の言動や様子が描かれている表現を探し、それぞれの人柄や心情を読み取っている。・人柄や心情が相手に伝わるように、表現の仕方を工夫している。・文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。	<ul style="list-style-type: none">・方言が作品に与える効果について考え、共通語と方言の果たす役割について理解して読んだり書いたりしている。・相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解して書いている。

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、単元の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画（本時 ）

学習活動	学習活動に即した評価規準（評価方法）		
	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<p>1 教材文を読み学習の見通しをもつ。 （1時間）</p> <p>① 本単元で行うリライトの条件を確かめ「主人公を替えてリライトしよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p>	<p>◆様々な創造的な書き換え（リライト）があることを理解し、学習の仕方について見通しをもとうとしている。 （学習計画表の点検）</p>		
<p>2 登場人物の人物像について考えを深め、条件に応じてリライトする。 （4時間）</p> <p>① 作品における「えびフライ」の意味を考える。</p>		<p>◆「えびフライ」の語が出てくる場面を探して、そこから読み取れる話し手の心情を考えている。 （発言の分析・ノートの記述内容の分析）</p>	<p>◆方言が作品に与える効果を考え、共通語と方言の果たす役割について理解している。 （発言の分析・ノートの記述内容の分析）</p>
<p>② 登場人物の人物像についてグループで話し合い、考えを深める。</p>		<p>◆登場人物の言動や様子が描かれている表現から読み取れる人柄や心情について考えている。 （発言の分析・ノートの記述内容の分析）</p>	

<p>③リライトする部分を決め，リライトに取り入れる表現の工夫を考える。</p> <p>④条件に応じてリライト作品を書き上げ，推敲する。</p>	<p>◆主人公を替えて創造的に書き換える（リライト）ために，優しさや温かさが表れているところなどの必要な情報を読み取ろうとしている。 （発言の分析・ノートの記事内容の分析）</p> <p>◆自分の感動や意見が読み手に伝わるように，根拠を明らかにしながら言葉の使い方や構成を工夫して文章を書こうとしている。 （リライト作品の分析）</p>	<p>◆優しさや温かさが表れているところなど，一番印象に残る場面から，根拠を明確にして自分の考えをまとめている。 （リライト作品の分析）</p>	<p>◆読み手に自分の考えやその根拠などが効果的に伝わるように文章の展開を工夫している。 （リライト作品の分析）</p>
<p>3 リライト作品を発表し合い，よいところやアドバイスを伝え合う。 （1時間）</p> <p>①学級でリライト作品を発表し合う。</p>		<p>◆友達の発表を聞き，登場人物の描写に着目して，その人柄や心情を読み取っている。 （発言の分析・ノートの記事内容の分析）</p>	

※ 「評価規準の設定例」を基に，具体的な学習活動を踏まえ，言葉を省略したり変更したりしている。

5 本時の目標

- 登場人物に関する情報を読み取り，その人物像についてグループで話し合い，考えを深めることにより，リライト作品の主人公にする人物を理由を明らかにして決めることができる。

6 学習過程（指導と評価の計画）

段階	学習活動・内容	時間	形態	○ 指導上の留意点 評価規準（評価方法） ■ Bに達しない生徒への手立て
課題把握	1 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> リライト作品の主人公はだれがよいか。 </div>	5	一斉	○ 自分なりの理由を明らかにして決めることがねらいであることを確認する。
課題追究	2 登場人物のことが分かる表現に気を付けて読み，どのような人物かを考える。 ○ 登場人物の言動や様子 ○ 「えびフライ」という言葉 3 登場人物の人物像について，グループで話し合い，考えを深める。 ○ 登場人物の描写 ○ 人柄や心情 4 リライト作品の主人公にする人物を理由を明らかにして決める。	40	個人 一斉 小集団	○ 祖母を例にして，作品の表現を根拠に，どのような人物か想像する手順や方法を説明する。 ○ 人物像の根拠となった表現について尋ねたり答えたりさせながら考えさせる。 ○ 心情表現の仕方を手掛かりに，主人公にする人物を決めさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> <p>【読む能力】 登場人物の言動や様子が描かれている表現から読み取れる人柄や心情をもとに，理由を明らかにして主人公にしたい人物を決めている。 (ノートの記述内容の分析)</p> </div> <p>■ 主人公にしたい人物を決められない場合には，グループの話し合いで出された考えの中から，自分の考えに近いものを確認させる。その上で，どの人物に興味があるか，どの人物に一番寄り添えそうかを考えさせる。</p>
まとめ	5 主人公にしたい人物を決めた理由を発表し合い，次時への意欲を高める。	5	一斉	○ それぞれの登場人物について発表させ，選んだ人物ごとに，互いの考えの共通点と相違点を確認させる。

※ 評価規準は「おおむね満足できる状況（B）」について設定する。

社 会（小）

1 社会科における学習評価の考え方

社会科においては、地域社会や我が国の国土、歴史などに対する理解と愛情を深めることを通して、社会的な見方や考え方を養い、そこで身に付けた知識、概念や技能などを活用し、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことを重視している。

学習評価は、このような教科で目指す児童像を実現するために行うものであり、学習評価を行う際は、単元の目標、学習活動等に応じて「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用の技能」「社会的事象についての知識・理解」の4つの観点の趣旨を生かしながら、適切な「単元の評価規準」や「学習活動に即した評価規準」を設定することが大切である。

2 教科目標及び評価の観点等

(1) 社会科の目標

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

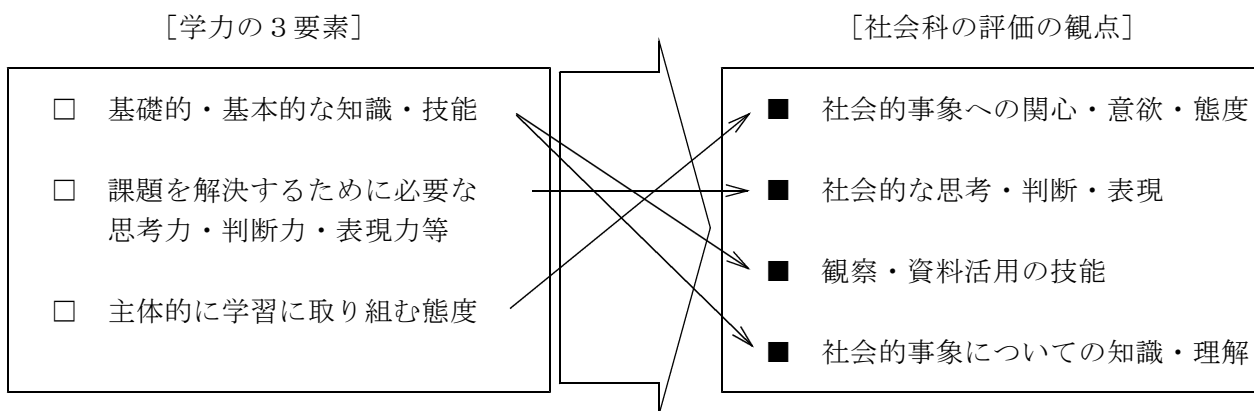
(2) 評価の観点及びその趣旨

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べ、社会の一員として自覚をもってよりよい社会を考えようとする。	社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	社会的事象を的確に観察、調査したり、各種の資料を効果的に活用したりして、必要な情報をまとめている。	社会的事象の様子や働き、特色及び相互の関連を具体的に理解している。

※1 「社会的な思考・判断・表現」は、思考・判断したことを表現する活動と一体的に評価する。

※2 「観察・資料活用の技能」は、従前の「技能・表現」で評価した評価材料を、「必要な情報をまとめる力」として評価する。

(3) 学力の3要素と評価の観点との関係



※ ここでは「学力の3要素」と「評価の観点」との関連性について、「→」で主なものを示してあるが、「学力の3要素」と「評価の観点」との関連については、一義的ではなく、実際の指導と評価に当たっては、各単元ごとに、評価の観点に沿ってねらいと評価規準を設定し、指導のプロセスにおいて、児童に身に付く学力を見極めながら指導と評価を進めていくことになる。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

指導計画を作成する際には、「課題を見つける」「予想する」「予想をもとに調べる」「わかったことを考えてまとめる」「発表する」「みんなで話し合う」「他の児童の意見を聞き、必要があれば自分の意見を修正する」といった問題解決的な学習を展開していく中に、適切な方法による評価を位置付けることが大切である。

評価の位置付けについては、学習指導要領の目標と内容を踏まえ、単元の指導のねらい、教材、学習活動等に即して適切な評価規準を設定し、教師が指導した内容について評価を行い、指導と評価の一体化を図る。

(2) 評価方法及び評価の時期

評価の方法としては、学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や児童の発達段階に応じて、観察、児童との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中からその場面における児童の学習の状況を的確に評価できる方法を選択していくことが必要であり、児童による自己評価や児童同士の相互評価を工夫することも考えられる。

評価時期については、授業改善のための評価は日常的に行うことが重要である。ただ、指導後の児童の状況を記録するための評価を行う際は、単元等のある程度長い区切りの中で適切に設定した時期において評価する必要がある。また、年間指導計画を検討する際、それぞれの単元において、観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することも重要である。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

社会科における言語活動の充実は、それ自体が目的ではない。言語活動の充実は、「思考力・判断力・表現力」等を育成するための効果的な手段であり、社会科のねらいを効果的に達成するための手段でもある。

観察・調査や資料活用を通して必要な情報を入手し的確に記録する学習、それらを比較・関連付け・総合しながら再構成する学習、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考え方を深めていく学習の充実が大切である。

(2) 評価の工夫改善（「社会的な思考・判断・表現」の評価）

社会的な事象について、思考・判断（たとえば、学習課題を見いだしたり、社会的な事象の特色や相互の関連、意味などについて、広い視野から考えたり、公正に判断したり）したことは説明、論述、討論など、「話す」「書く」といった言語活動で表現される。この言語活動を通して「社会的な思考・判断・表現」について評価する。児童のワークシートの記述や作品から「思考・判断」の状況を読み取ることも、この観点の趣旨に沿った評価である。

(社会科における学習指導と学習評価の実際)

1 単元名 「情報産業とわたしたちの暮らし」(第5学年)

※ 学習指導要領における単元の位置付け 第5学年 内容(4)

「我が国の情報産業や情報化した社会の様子」

2 単元の目標

放送などの情報産業と国民生活との関わりについて関心をもって、資料やインターネットを活用したり聞き取り調査を行ったりして意欲的に調べ、これらの産業が国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや、情報産業を通じた情報の有効な活用が大切であることを理解するとともに、情報の発展に関心を持ち、情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする。

3 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none">・情報化した社会の様子に関心を持ち、意欲的に調べている。・社会の情報化の進展に関心を持ち、情報を有効に活用しようとしている。	<ul style="list-style-type: none">・情報化した社会の様子について、学習問題や予想、学習計画を考えノートに記述している。・調べたことを相互に関連付けたり情報ネットワークの取組と国民生活とを関連付けたりして考え、情報活用の効果や責任の大きさについて根拠を示して説明している。	<ul style="list-style-type: none">・資料やネットワークを活用したり聞き取り調査を行ったりして、情報化した社会の様子について必要な情報を集め、読み取っている。・調べたことを整理して、図などにまとめている。	<ul style="list-style-type: none">・情報ネットワークを有効に活用して公共のサービスの向上に努めている取組の様子を理解している。・情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを理解している。

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、単元の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画（本時 ）

学習活動	学習活動に即した評価規準（評価方法）			
	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象について の知識・理解
<p>1 学習問題をつかむ （1時間）</p> <p>テレビ放送から多くの情報を得ていることや、得た情報が生活の中で活用されていることに気づき、テレビ放送への関心をもち、学習問題を設定することができる。</p> <p>①テレビ放送からどんな情報を得ているのか発表し合う。</p> <p>②保護者への聞き取り調査のグラフから読み取ったことをまとめる。</p> <p>③テレビからの情報をどう活用しているか話し合い、学習問題を設定する。</p>	<p>◆テレビ放送から多くの情報を得ていることに気づき学習問題を考え、表現している。</p> <p>（ノートの記述内容の分析、発言の分析）</p>			
<p>2 調べる（1時間）</p> <p>テレビの放送局からどのように情報が提供されているか、教科書や図書資料、インターネットをもとに調べ、視聴者の立場に立った工夫をしていることを読み取ることができる。</p> <p>①新聞のテレビ欄を見て、気付いたことを発表し合う。</p> <p>②気付いたことをワークシートに整理し、発表する。</p> <p>③テレビ局のホームページや教科書、図書資料をもとに、ニュース番組の作り方を調べる。</p> <p>④番組編成の工夫について調べる。</p>			<p>◆放送局からどのように情報が提供されているのかを資料から調べ、視聴者の立場に立った工夫をしていることを読み取る。</p> <p>（ノートの記述内容の分析、発言の分析）</p>	

<p>3 考える (1時間)</p> <p>メディアにはそれぞれの特徴があり、わたしたちは生活の中でそれらを使い分けて活用していることを理解することができる。</p> <p>①地上デジタル放送について知っていることを話し合う。</p> <p>②地上デジタル放送の導入により、変わってきたテレビ放送の特徴と番組を制作する人の思いを読み取る。</p> <p>③様々なメディアの特徴についてテレビと比べながら調べ、まとめる。</p>				<p>◆メディアにはそれぞれ特徴があり、わたしたちは生活の中でそれらを使い分けて活用していることを理解している。</p> <p>(ノートの記述内容の分析)</p>
<p>4 まとめる (1時間)</p> <p>情報を送る側、受け取る側の双方が気を付けていることについて考え、受け取る側の情報の選択・判断や活用が大切であることを文章に表現することができる。</p> <p>①メディアで流される情報がわたしたちの生活にどのような影響を及ぼしているのか考え、発表する。</p> <p>②情報を送る側と受け取る側、それぞれが気を付けていることをKJ法を用いて発表し合い、自分の考えを深める。</p> <p>③本小単元で学習してきたことをもとに、自分の考えを文章でまとめる。</p>		<p>◆情報を送る側、受け取る側が気を付けていることについて考え、双方の立場に立った情報の選択・判断や活用が大切であることを文章に表現している。</p> <p>(ノートの記述内容の分析)</p>		

※ 「評価規準の設定例」を基に、具体的な学習活動を踏まえ、言葉を省略したり変更したりしている。

5 本時の目標

- 情報を送る側、受け取る側の双方が気を付けていることについて考え、情報を受け取る側の情報の選択・判断や活用が大切であることを文章に表現することができる。

6 学習過程（指導と評価の計画）

段階	学習活動・内容	時間 形態	○ 指導上の留意点 評価規準（評価方法） ■ Bに達しない児童への手立て
課題把握	1 メディアからの情報がわたしたちの生活にどのような影響を及ぼしているのか考え、発表する。 (1) 写真資料から、情報が伝わることでわたしたちの生活にどのような影響があるか考え、話し合う。 ・天気予報の写真・大地震の写真 ・ガソリンスタンドに並ぶ車の写真 (2) 情報が、自分の生活に与える影響について調べたことを発表させる。 ・震災時のボランティア活動の写真 メディアからの情報を役立てるためには、わたしたちは、どのようなことに気を付ければよいのでしょうか。	10 一斉	○ 天気予報の写真を提示し、情報を利用し、生活に生かしていることを想起できるようにする。 ○ ガソリンスタンドに並ぶ車列の写真、中国での大地震の写真を提示し、メディアからの情報が、わたしたちの生活にどのような影響を与えたのか、教科書で確認をさせる。 ○ 「情報が生活に与える影響」について保護者インタビューを事前に行い、身近な生活場面においても情報の与える影響と情報のかかわりについて考えさせる。
課題追究	2 情報を送る側と受け取る側のそれぞれが気を付けることについて自分の考えを深める。 (1) 情報を送る側が気を付けることを確認する。 ・責任をもち、正しく情報を伝える。 ・受け取る側の立場に立って伝える。 (2) 情報を受け取る側が気を付けることを考え、グループで整理し発表する。 ・情報を比べる　・冷静に判断する ・情報の発信源や内容を見分ける (3) 報道による被害の事例を知る。 ・松本サリン事件	30 個人 グループ 一斉	○ 情報を送る側と受け取る側の双方が気を付けることを、児童が視覚的に対比できるように資料を提示する。 ○ 「テレビ局の番組作りの工夫のまとめ」を活かし、情報を送る側が気を付けていることを確認できるようにする。 ○ 情報を受け取る立場として気を付けることを考え付箋に記入させ、グループとしての考えをまとめ、発表することで考えを深めることができるようにする。 ○ 報道による被害の事例を紹介することにより、情報伝達の難しさについて考えることができるようにする。
まとめ	3 小単元で学習してきたことをもとに自分の考えをキーワードを用いて文章でまとめる。 <キーワード> ・情報　・送る側　・受け取る側 わたしは、情報を受け取る側として情報を分析し冷静に判断できるようになりたいと思う。なぜなら、情報を送る側が責任をもって正しく情報を送る努力をしても、間違えた情報を送ってしまうこともあることがわかったからです。	5 個人 一斉	○ 本小単元で学習してきたキーワードを提示することにより、自分の言葉で学習のまとめができるようにする。 【社会的な思考・判断・表現】 情報を送る側、受け取る側が気を付けることについて考え、双方の立場に立った情報の選択・判断や活用が大切であることを文章に表現している。 （ノートの記述内容の分析） ■ 板書や資料をもとに、自分の考えをまとめることができるように、キーワードを多く提示する。

※ 評価規準は「おおむね満足できる状況（B）」について設定する。

社 会（中）

1 社会科における学習評価の考え方

社会科においては、基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得に努めるとともに、思考力・判断力・表現力等を確実に育むため言語活動の充実を図る必要がある。また、社会参画に関する学習を重視することを通して、知識基盤社会化やグローバル化が進む時代にある今こそ、世界や日本に関する基礎的教養を培い、国際社会に主体的に生き、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することが大切である。

学習評価は、このような教科で目指す生徒像を実現するために行うものであり、学習評価を行う際は、単元の目標、学習活動等に応じて「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断・表現」「資料活用の技能」「社会的事象についての知識・理解」の4つの観点の趣旨を生かしながら、適切な「単元の評価規準」や「学習活動に即した評価規準」を設定することが大切である。

2 教科目標及び評価の観点等

(1) 社会科の目標

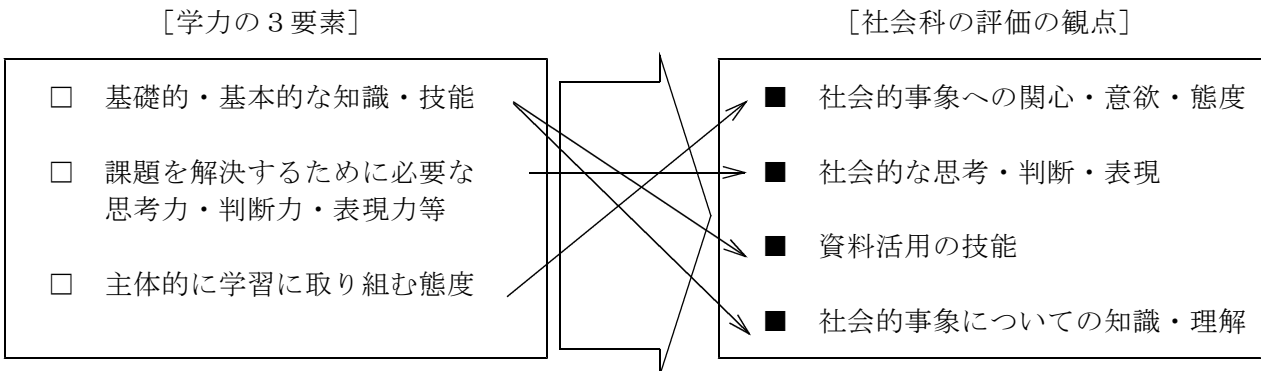
広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

(2) 評価の観点及びその趣旨

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。	社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身に付けている。

- ※1 「社会的な思考・判断・表現」は、思考・判断したことを表現する活動と一体的に評価する。
 ※2 「資料活用の技能」の評価は、従前の「資料活用の技能・表現」と同等の趣旨であるが、効果的に活用する点が一層明確にされた。

(3) 学力の3要素と評価の観点との関係



※ ここでは「学力の3要素」と「評価の観点」との関連性について、「→」で主なものを示してあるが、「学力の3要素」と「評価の観点」との関連については、一義的ではなく、実際の指導と評価に当たっては、各単元ごとに、評価の観点に沿ってねらいと評価規準を設定し、指導のプロセスにおいて、生徒に身に付く学力を見極めながら指導と評価を進めていくことになる。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

指導計画を作成する際には、「価値ある課題を見つける」「予想する」「予想をもとに調べる」「わかったことを自分の言葉で考えてまとめる」「課題について意見交流する」「課題をふりかえる」といった問題解決的な学習を展開していく中に、適切な方法による評価を位置付けることが大切である。

評価の位置付けについては、学習指導要領の目標と内容を踏まえ、単元の指導のねらい、教材、学習活動等に即して適切な評価規準を設定し、教師が指導した内容について評価を行い、指導と評価の一体化を図る。

(2) 評価方法及び評価の時期

評価の方法としては、学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や生徒の発達段階に応じて、観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習の状況を的確に評価できる方法を選択していくことが必要であり、生徒による自己評価や生徒同士の相互評価を工夫することも考えられる。

評価時期については、授業改善のための評価は日常的に行うことが重要である。ただ、指導後の生徒の状況を記録するための評価を行う際は、単元等のある程度長い区切りの中で適切に設定した時期において評価する必要がある。また、年間指導計画を検討する際、それぞれの単元において、観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することも重要である。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

社会科における言語活動の充実は、それ自体が目的ではない。言語活動の充実は、「思考力・判断力・表現力」等を育成するための効果的な手段であり、社会科のねらいを効果的に達成するための手段でもある。

観察・調査や資料活用を通して必要な情報を入手し的確に記録する学習、それらを比較・関連付け・総合しながら再構成する学習、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考え方を深めていく学習の充実が大切である。

(2) 評価の工夫改善（「社会的な思考・判断・表現」の評価）

社会的事象について、思考・判断（たとえば、学習課題を見いだしたり、社会的事象の特色や相互の関連、意味などについて、広い視野から考えたり、公正に判断したり）したことは説明、論述、討論など、「話す」「書く」といった言語活動で表現される。この言語活動を通して「社会的な思考・判断・表現」について評価する。生徒のワークシートの記述や作品から「思考・判断」の状況を読み取ることも、この観点の趣旨に沿った評価である。

(社会科における学習指導と学習評価の実際)

1 単元名 「東北地方」 (第2学年)

※ 学習指導要領における単元の位置づけ 地理的分野 内容(2)「日本の様々な地域」

2 単元の目標

東北地方は自然環境や産業との関わりから独特の「生活・文化」を保持発展させてきた地域である。近年の都市化、情報社会や交通網の発達により関東地方の結びつきも強まっている。また東日本大震災で大きな被害を受けたことにより人口の移動や産業への大きな影響があった。一方で町並みの保全や祭り、伝統工芸品を通して地域への願いや連帯感が強まり、観光資源としても地域経済の発展に深くかかわりをもつようになってきた。

東北地方の地形や気候などの概要、伝統的な生活の営みと産業の特色と変容を理解し、「生活・文化」を中核とした考察を通して地域的特色を捉える。

3 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none">生活・文化を中核としたテーマを設定し、東北地方の地域的特色に対する関心をもつことができる。東北地方が日本全体の中でどのような役割をもつ地域なのか、今後発展していくための方策について考えとともに、地域的特色を調べる方法に関心を持ち意欲的に追究することができる。	<ul style="list-style-type: none">東北地方の地域的特色を、祭りや伝統工芸品を具体的事象として生活・文化を中核とした多面的・多角的な考察を基に、その過程や結果を適切に表現している。東北地方の伝統的な生活文化を大切にしてきた人々の生活と、自然環境条件や交通網の発達を踏まえた産業の様子と変容に着目し、まとめている。	<ul style="list-style-type: none">東北地方の地域的特色に関する様々な資料を収集している。収集した資料から、東北地方の地域的特色について有用な情報を適切に選択している。適切に選択した情報を基に、東北地方の地域的特色について読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	<ul style="list-style-type: none">東北地方について、生活・文化を中核とした考察の仕方を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。東北地方の祭りや伝統工芸品の由来、役割、特色、問題点などについて多面的・多角的に理解している。

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、単元の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画（本時 ）

学習活動	学習活動に即した評価規準（評価方法）			
	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
1 東北地方の 自然と伝統 （1時間） 東北地方の歴史 地形・気候等を まとめる。 生活・文化を中 核とした東北地 方の特色を追究 する課題を決め る。	◆地図を活用して 自然環境の特色を とらえ、単元全体 を貫く追究課題づ くりに取り組もう としている。 （ノートの記述内 容の点検、発言の 分析）			◆県名と県庁所在 地、位置を正しく指 摘でき、地形や気候 が伝統的な生活や文 化に与えた影響につ いて正しく答えるこ とができる。 （ノートの記述内容 の点検）
2 伝統行事と 農業（1時間） 東北地方の祭り や伝統行事と農 業とのかかわり を調べる。		◆おもな祭りの場 所、農業とのかか わりや人々の願 い、観光資源とし ての役割について 考え表現する。 （ノートの記述内 容の点検）		
3 生活の変化 と産業 （1時間） 生活の変化が伝 統的工芸品をつ くる産業に与え た影響をまとめ る。			◆伝統的工芸品 のよさや工夫に ついて調べ、伝 統工業が抱える 課題と対策につ いてまとめるこ とができる。 （ノートの記述内 容の点検）	
4 町並みとそ の変化 （1時間） 県内に残る伝 統的な町並みの保 存や景観保全の 取組の様子をと らえる。	◆県内や自分の暮 らす地域の町並み と変化の様子につ いて関心を持ち、 地域のよさと価値 を認め尊重しよ うとしている。 （発言の分析）			

※ 「評価規準の設定例」を基に、具体的な学習活動を踏まえ、言葉を省略したり変更したりしている。

5 本時の目標

- 東北地方の祭りと産業とのかかわりを調べ、人々の願いと役割について考察しまとめることができる。

6 学習過程（指導と評価の計画）

段階	学習活動・内容	時間	形態	○指導上の留意点 ■ Bに達しない生徒への手立て	評価規準（評価方法）
課題把握	1 学習課題を把握する。 東北地方の祭りは産業とどのようなかかわりがあるのだろうか。	5	一斉	○ 東北地方にはいつ頃、どのような祭りがあるのか。ポスター、写真、音声などから捉えさせる。	
課題追究	2 米・果樹の生産量，栽培が盛んな理由を調べる。 (1) 東北6県の米・主な果樹の生産量や銘柄米 (2) 米 ～平野，盆地，雪解け水の利用 果樹～水はけのよい山の斜面，扇状地	15	個人・小集団	○ 資料の読み取り方について確認する。 ○ 読み取った内容はノートに記入後，発表させる。 ○ 生産量，地域の様子等から米，果樹の栽培に適した地形や土地の条件に着目させる。 ○ 小学校での学習内容や地形名や雨温図から読み取った結果を踏まえて発表させる。 ○ 米，果樹栽培が盛んな地域，適した条件と栽培の工夫などについて，資料や地図帳を活用してまとめさせる。	
	3 祭りにこめる人々の願いについて考察する。 (1) 祭りの日程と特色 (2) 祭りにこめる人々の願い	10	一斉	○ 祭りが行われる時期と米作りの流れを暦で確認する。 ○ 祭りにこめる人々の願いについて聞き取りや，教科書からの読み取りをさせる。	
	4 祭りが地域に果たす役割について資料から考察する。 ・ 祭りの人出データ ・ 宣伝ポスター ・ 時代の違いのある写真 ・ 経済効果がわかる数値	15	個人・小集団	○ 祭りの人出データなどを示し，観光資源の役割に着目させ，地域経済への影響について考えさせる。 ○ 古い時代の写真と比較させたり，祭りのかけ声などを聞かせたりする。 【社会的な思考・判断・表現】 おもな祭りの場所，農業とのかかわりや人々の願い，観光資源としての役割について考え表現する。(ノートの記述内容の点検) ■ 教科書を読み取る視点，祭りの写真を限定的に示し，()に適する語句や短文で記述させる。	
まとめ	5 次時の学習につながる課題を提示する。 次のものは見聞きしたことがあるかどうか，名称，素材特徴，用途等を調べよう。 ・大堀相馬焼，南部鉄器，将棋駒，曲げわっぱ，など	5	一斉	○ 東北地方の伝統的工芸品を示し，家庭学習で自ら調べることにより意欲をもたせ，次時の学習へつなげる。 ○ 調べる視点，方法を提示する。	

※ 評価規準は「おおむね満足できる状況（B）」について設定する。

算 数（小）

1 算数科における学習評価の考え方

算数科では、「計算ができる」「図形がかける」「面積を求めることができる」などの基礎的な知識及び技能の定着を図るだけが目的ではない。算数的活動を通して、基礎的な知識及び技能を身に付け、数学的な思考力・表現力を育て、学ぶ意欲を高めることを目指している。

学習評価は、上記のような教科の目標を実現するために行うものであり、学習評価を行う際は、単元の目標、学習活動等に応じて「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」の4つの観点の趣旨を踏まえながら、適切な「単元の評価規準」や「学習活動に即した評価規準」を設定することが大切である。

2 教科目標及び評価の観点等

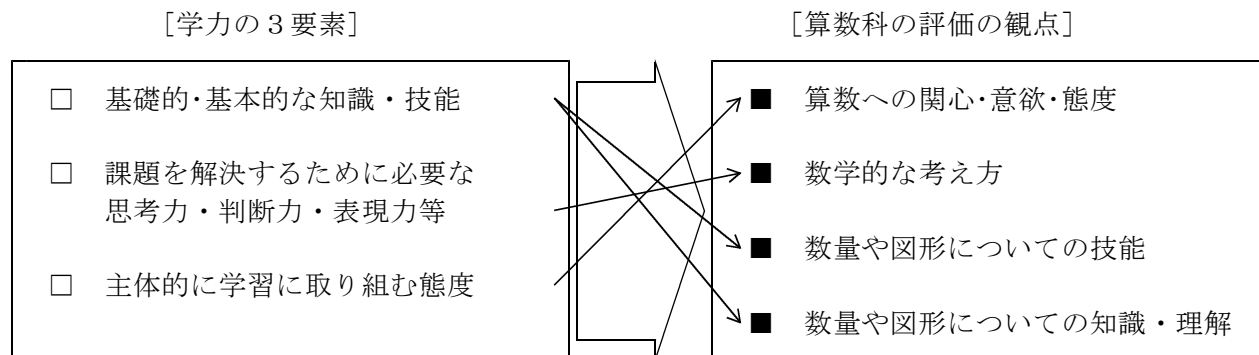
(1) 算数科の目標

算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

(2) 評価の観点及びその趣旨

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
数理的な事象に関心をもつとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする。	日常の事象を数理的にとらえ、見通しをもち筋道立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	数量や図形についての数学的な表現や処理にかかわる技能を身に付けている。	数量や図形についての豊かな感覚をもち、それらの意味や性質などについて理解している。

(3) 学力の3要素と評価の観点との関係



※ 「基礎的・基本的な知識・技能」に対する評価の観点は、「数量や図形についての技能」と「数量や図形についての知識・理解」であり、児童の学習状況を的確に把握できるように2つの観点で評価することになる。

実際の指導と評価に当たっては、各単元ごとに、評価の観点に沿ってねらいと評価規準を設定し、指導のプロセスにおいて、児童に身に付く学力を見極めながら指導と評価を進めていくことになる。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

算数科の指導では、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に定着させるとともに、必要な場面においてそれらを活用できるようにする必要がある。教科の目標達成を目指して、算数としての内容の系統性を重視するとともに、児童の学習状況をみながら適切な練習の機会や問題解決における活用の場面を意図的・計画的に位置付ける。また、ある領域で指導した内容を、他領域の内容の学習指導の場面で活用するなど、複数の領域間の指導の関連を図ることができるようにする。

評価の位置付けに当たっては、単元や授業のねらいを踏まえ、育みたい資質や能力及びそれを実現した児童の姿を明確にして目標と評価規準を関連付けて設定し、教師が指導した内容について評価を行い、指導と評価の一体化を図る。なお、1単位時間で4観点を評価することは実際的ではないので、目標を分析し、1または2観点到絞るようにする。

(2) 評価方法及び評価の時期

授業改善のための評価は常に行うことが重要だが、児童の状況を記録するための評価は、単元等のある程度長い区切りの中で、適切に設定した時期において評価する。

評価の観点	主な評価方法	各観点の特性の配慮
算数への 関心・意欲・態度	観察 ノート ワークシート	挙手の回数などで量的に捉えるよりも、小単元等の学習のまとまりで同一の評価規準を設定し、小単元の中で少なくとも1回は評価し、ある程度長い期間で質的に評価する。
数学的な考え方	観察 ノート レポート ペーパーテスト	学習したことについて、思考・判断・表現を評価する観点である。この観点で捉える表現は、思考・判断したことの表現であり、見いだした数や図形の性質やそれらが成り立つ理由などの説明及びその解釈を対象とする。
数量や図形についての 技能	ノート ワークシート ペーパーテスト	技能としての表現はこの観点で評価する。「作図をする」「式の意味を読み取る」など、算数における基本的な「読みかき」に関わる事柄を身に付けているかどうか評価し、量ではなく、評価問題の難易度を工夫するなど質的に評価する。
数量や図形についての 知識・理解	ノート ペーパーテスト	用語や記号の意味などについての知識だけでなく、問題を解決する手順や方法などについての知識も評価の対象であることに配慮する。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

言語活動の充実とは、それ自体が目的ではない。言語活動を充実させることで授業のねらいや教科目標の達成を目指すものであり、数学的な考え方等の資質や能力を育み、高めることにある。算数科の指導においては、言葉による表現とともに、数、式、図、表、グラフといった数学的な表現の方法を用いることに特質がある。よって、言葉、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの学習活動を取り入れていくことが一層重視されている。

また、このような学習活動においては、考え方の発表会で終わることのないように、ねらいを明確にするとともに、ねらいを実現した具体的な児童の姿を想定し、その姿と実際の学習状況を照らし合わせながら指導していくことが大切である。

(2) 算数的活動の充実と学習評価

目標の冒頭に加えられた「算数的活動」とは、「児童が目的意識をもって主体的に取り組む算数にかかわりのある様々な活動」を意味しており、作業的・体験的な活動など身体を使ったり、具体物を用いたりする活動に限られるものではない。算数の知識をもとに、発展的・応用的に考えたりする活動や、考えたことなどを表現したり説明したりする活動は、具体物などを用いた活動でないとしても算数的活動に含まれる。だからこそ、授業を行う際には、算数的活動の在り方や育みたい資質・能力を明確する必要がある。問題を解決する過程やその結果を表出する場や時間を確保し、適切に評価することが大切である。

(算数科における学習指導と学習評価の実際)

1 単元名 「比べ方を考えよう(2)」(学5学年)

※ 学習指導要領における単元の位置付け 「D 数量関係(3)(4)」

2 単元の目標

資料における数量の比較や全体と部分の関係の考察などで割合を用いる場合があることや、その表し方についての百分率について理解するとともに、資料を円グラフや帯グラフを用いて表したり、特徴を調べたりすることができる。

3 単元の評価規準

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
割合を整数で表すことによるよさや百分率や円グラフ等が日常生活の様々な場面に用いられていることに気付き、百分率や円グラフ等を生活や学習に用いようとする。	<ul style="list-style-type: none"> 資料の全体と部分、部分と部分の関係について、割合を用いた表し方を考えたり、全体と部分、部分と部分の間の関係を調べ特徴を捉えたりしている。 目的に応じて、表やグラフを選び、活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体と部分、部分と部分の関係を割合を用いて表すことができる。 円グラフや帯グラフを用いて表したり、円グラフや帯グラフを読み取ったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体と部分、部分と部分の関係を割合で表すことができることや百分率の意味について理解している。 円グラフや帯グラフは、割合を表すグラフであることを理解している。

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、単元の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画(本時) 【一部抜粋】

学習活動	学習活動に即した評価規準 (評価方法)			
	算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
1 割合と百分率(3時間)	※ 評価規準は省略			
2 百分率の問題(4時間) ①基準量×割合で、比較量を求める。			◎基準量と割合から比較量を求めることができる。(ノート)	
②比較量÷割合で、基準量を求める。			◎比較量と割合から基準量を□として立式して求めることができる。(ノート)	

③和や差を含んだ割合の場合において、比較量や基準量の求め方を考える。	○日常の事象や資料を数量的に考察するのに、割合を用いて考えようとしている。 (観察, ノート)	◎割引きの場面で、引かれる金額や割合に着目して解決方法を考え、説明している。 (観察, ノート)	○割合の和や差を含んだ場合の比較量や基準量の求め方を理解している。 (ノート)
④日常の事象において、割合が用いられている問題場面について考える。		◎学習内容を適用して、問題を解決することができる。 (ノート, ワークシート)	
3 割合を表すグラフ (4時間) ①収穫量や割合を見やすく表すグラフについて考え、既習のグラフと比較しながら、帯グラフや円グラフの特徴を調べる。	◎帯グラフや円グラフは、全体に対する割合が視覚的に捉えやすいというよさに気付き、資料の特徴や傾向を捉えようとしている。 (観察, ノート)		○帯グラフや円グラフの特徴を理解している。 (ノート)
②提示された資料の特徴について考え、帯グラフや円グラフから割合を読み取る。			◎帯グラフや円グラフの読み方を理解している。 (ノート, 適用問題)
③アンケートの結果を、帯グラフや円グラフにかき表す。	○資料の結果を、帯グラフや円グラフに表そうとしている。 (観察, ノート)		◎帯グラフや円グラフをかくことができる。 (ワークシート, 適用問題)
④グラフから、割合やその割合に対する数量を読み取り、問題を解決する。	○割合を表したグラフから、資料の特徴や傾向を捉えようとしている。 (観察)	◎割合の大小とその割合に対する数量の大小は一致しないことに気付き、基準量の違いに着目してその理由を説明している。 (観察, ノート)	
4 まとめ (1時間)	※ 評価規準は省略		

※ 「評価規準の設定例」を基に、具体的な学習活動を踏まえ、言葉を省略したり変更したりしている。

※ 「◎」については、単元における総括の資料とするための評価とし、全児童の記録を取る。「○」については、学習指導の過程における評価を中心とし、原則として全児童の記録を取ることを前提としていない。

5 本時の目標

- 資料の特徴や傾向に関心を持ち、割合の大小とその割合に対する数量の大小の関係について考え、基準量の違いに着目し説明することができる。

6 学習過程（指導と評価の計画）

段階	学習活動・内容	時間	形態	○指導上の留意点 評価規準（評価方法） ■Bに達しない児童への手立て															
課題把握	<p>1 問題場面について話し合い、本時の課題を捉える。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>南小学校</td> <td>すりきず 40%</td> <td>切りきず 25%</td> <td>打ぼく 20%</td> <td>その他 15%</td> </tr> <tr> <td>東小学校</td> <td>40%</td> <td>20%</td> <td>25%</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>西小学校</td> <td>43%</td> <td>18%</td> <td>20%</td> <td>19%</td> </tr> </table> <p>切りきずの件数が一番多い学校はどこか調べよう。</p>	南小学校	すりきず 40%	切りきず 25%	打ぼく 20%	その他 15%	東小学校	40%	20%	25%	15%	西小学校	43%	18%	20%	19%	5	一斉	<p>○ 南小学校、東小学校、西小学校のけが調べの結果を、けがの種類ごとに帯グラフで表したものを提示する。その際、割合とその割合に対する数量の両方を意識させるために、全体の件数は示さずに提示する。そして、「割合だけでは比べられないよ」という児童のつぶやきを引き出し、学級全体でその考えを共有した後に、南小学校と東小学校の全体の件数は60件、西小学校は96件であることを伝える。</p> <p>【関心・意欲・態度】 資料の特徴や傾向を捉えようとしている。 (学習活動の観察)</p> <p>■ 特徴や傾向に着目しやすくするために、拡大した見やすい帯グラフを提示し、それをもとに切りきずの割合を読み取らせる。また、教科書やノートをもとに、帯グラフの学習を振り返らせる。</p>
	南小学校	すりきず 40%	切りきず 25%	打ぼく 20%	その他 15%														
東小学校	40%	20%	25%	15%															
西小学校	43%	18%	20%	19%															
課題解決	<p>2 自力解決をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 南小：$60 \times 0.25 = 15$ (件) ○ 東小：$60 \times 0.2 = 12$ (件) ○ 西小：$96 \times 0.18 = 17.28$ (件) ○ 切りきずは、西小が一番多い <p>3 結果や理由について話し合う。 (1) 学級全体で話し合う。 (2) ペアで説明し合う。</p>	10 25	個人 一斉	<p>○ 割合の大小にだけ着目し、解決の見通しがもてない場合は、60件の20%や96件の18%の意味について考えさせる。</p> <p>○ 計算による結果だけではなく、「基準量が同じ（東小と南小）」「基準量が違う」（東小・南小と西小）ことから分かることについて話し合わせ、それらも共有させていく。</p> <p>○ 簡単な数に置き換えて、割合の大小とその割合に対する数量の大小について考えさせる。</p> <p>○ 理由を学級全体で共有することができるように話し手に区切って話をさせたり、聞き手に聞いた内容を再度話させたりするなどの活動を取り入れていく。</p> <p>○ 学習内容の定着を図るために、隣同士で説明し合う場を設ける。</p> <p>【数学的な考え方】 割合の大小とその割合に対する数量の大小は一致しないことに気付き、その理由を説明している。 (話し合いの様子を観察、ノート記述の分析)</p> <p>■ 説明をノートに書かせる場を設ける。説明を書くのに苦労する場合は、友達の説明を聞いて分かったことをノートに付け加えさせたり、教科書の吹き出しの続きを考えさせたりして、ノートをもとに説明することができるようにする。</p>															
まとめ	<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>もとにする量がちがうときには、割合だけで件数が多いか少ないかはわからない。</p>	5	個人	<p>○ 板書をもとに本時の学習を振り返る。そして、意図的に板書したキーワードを用いて、自分なりのまとめを書かせる。</p>															

※ 評価規準は、「おおむね満足できる状況（B）」について設定する。

数 学 (中)

1 数学科における学習評価の考え方

数学科では、小学校算数科の基礎の上にさらにそれを発展させることをねらいとし、基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、数学的な思考力・表現力を育むとともに、数学のよさを知り、数学が生活に役立つことや数学と科学技術との関係などについての理解を深め、事象を数理的に考察する能力と態度を養うことが求められている。数学科の目標はこのような背景から示されている。

学習評価は、評定を出すことが第一の目的ではなく、数学科の目標を達成するために行われる。目標を達成するために、評価を通して生徒の達成状況を把握し、学習指導の改善に生かさなければならぬ。

2 教科目標及び評価の観点等

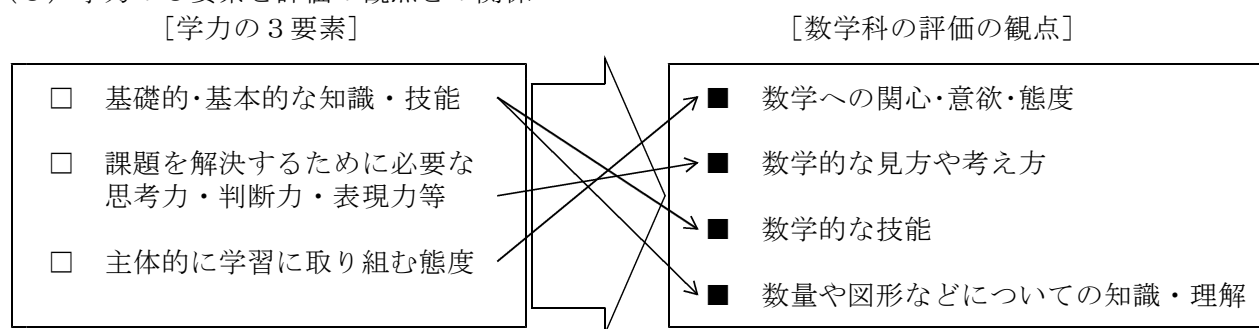
(1) 数学科の目標

数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的な活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

(2) 評価の観点及びその趣旨

数学への 関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形など についての知識・理解
数学的な事象に関心をもつとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を活用して考えたり判断したりしようとする。	事象を数学的にとらえて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数量や図形などで数学的に表現し処理する技能を身に付けている。	数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けている。

(3) 学力の3要素と評価の観点との関係



※ 「基礎的・基本的な知識・技能」に対する評価の観点は、「数学的な技能」と「数量や図形などについての知識・理解」であり、生徒の学習状況を的確に把握できるように2つの観点で評価することになる。

実際の指導と評価に当たっては、各単元ごとに、評価の観点に沿ってねらいと評価規準を設定し、指導のプロセスにおいて、生徒に身に付く学力を見極めながら指導と評価を進めていくことになる。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

数学科の指導に当たっては、生徒の実態に応じて指導計画を作成する必要がある。指導計画作成に当たっては、教師がより一層創意工夫できるようにするために、弾力的な取扱いができるよ

うにすることが重要であり、各学年の目標の達成に支障のない範囲内で、各学年の取り扱う内容の一部について、学年にまたがって指導順序を変更したり、前学年の復習を取り入れたり、後の学年の内容の一部を加えたりすることができる。実際に、既習内容を意図的に取り上げることで、生徒の理解を広げたり深めたりするために有効な場合があり、生徒の実態に応じて、学び直しの機会を適切に位置付ける必要がある。

評価は、生徒の学習状況を把握するだけでなく、指導の改善に生かすために行うものである。よって、評価計画を作成し、各単元において観点別学習状況の評価に係る時期や方法を整理し、作成した計画を基にして、授業のねらいと学習活動、指導、評価方法が適切だったのか等について振り返り、授業改善に生かしていくことが重要である。

(2) 評価方法及び評価の時期

授業改善のための評価は常に行うことが重要だが、生徒の状況を記録するための評価は、単元等のある程度の長い区切りの中で、適切に設定した時期において評価する。

評価の方法は、下記の各観点の特性に配慮して計画する。

評価の観点	主な評価方法	各観点の特性の配慮
数学への 関心・意欲・態度	観察、ノート ワークシート レポート	挙手の回数などで量的に捉えるよりも、小単元等の学習のまとまりで同一の評価規準を設定し、小単元の中で少なくとも1回は評価し、ある程度長い期間で質的に評価する。
数学的な 見方や考え方	観察 ノート 小テスト ペーパーテスト	学習したことについて、思考・判断・表現を評価する観点である。この観点で捉える表現は、思考・判断したことの表現であり、見いだした数や図形の性質やそれらが成り立つ理由などの説明及びその解釈を対象とする。
数学的な技能	小テスト ペーパーテスト ノート	技能としての表現はこの観点で評価する。「作図をする」、「式の意味を読み取る」など、数学における基本的な「読みかき」に関わる事柄を身に付けているかどうか評価し、量ではなく、評価問題の難易度を工夫するなど質的に評価する。
数量や図形などについて の知識・理解	小テスト ペーパーテスト ノート	用語や記号の意味などについての知識だけでなく、問題を解決する手順や方法などについての知識も評価の対象であることに配慮する。ペーパーテストの問題を工夫するなどして評価する。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

効果的な学習評価は、適切なねらいがあって初めて可能となる。言語活動は、教科の目標やねらいを達成するための一つの手立てである。よって、まずねらいを明確にし、それを達成するために取り入れた言語活動（言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的表現を用いて、論理的に考察し、表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりする学習活動）は、ねらいを達成するために適切だったのかという視点で評価しなければならない。そのためにも、言語活動を取り入れる目的を明らかにしておくことは大切である。ねらいを達成するための手立てとして、言語活動の充実につながる評価をすることが重要である。

(2) 数学的活動の充実と学習評価

数学的活動は、基本的に問題解決の形で行われるが、その過程では、生徒が見通しをもって活動に取り組み、問題を解決するための構想をまとめ、その構想を基にして試行錯誤等しながら、結果を導くことができるようにすることが大切である。また、結果が誤っていたとしても、解決過程を振り返り評価することにより、よりよいものに改めたり、新しい課題を見つけたりすることも大切である。さらに、数学的活動の楽しさは、知的成長がもたらされることによる楽しさという側面もあることに留意し、生徒が数学を学習する意義や数学の必要性について、自分なりの答えを見いだすことができるように配慮しなければならない。

指導に当たっては、授業で実現したい数学的活動や活動を通して育みたい資質・能力を事前に明確にしておく必要がある。そして、生徒個々の問題解決の状況を把握し、生徒の努力したよさに対し称賛したり、適宜助言したりするなど、問題解決過程における評価を一層進め、評価と指導の一体化を図ることが大切である。

(数学科における学習指導と学習評価の実際)

- 1 単元名 「比例と反比例」(第1学年)
 ※ 学習指導要領における単元の位置付け 「C 関数(1)」

- 2 単元の目標
 具体的な事象の中にある、ともなうて変わる2つの数量に着目して、比例や反比例を見だし、その変化や対応の様子を考察することを通して、表、式、グラフの理解を深め、比例や反比例を用いて具体的な事象を説明することができる。

3 単元の評価規準

数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
様々な事象を比例、反比例などで捉えたり、表、式、グラフなどで表したりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとしている。	比例、反比例などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を見通しをもって論理的に考察し表現して説明したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	比例、反比例などの関数関係を、表、式、グラフなどを用いて的確に表現したり、数学的に処理したりするなど、技能を身に付けている。	関数関係の意味、比例や反比例の意味、比例や反比例の関係を表す表、式、グラフの特徴などを理解し、知識を身に付けている。

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、単元の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画(本時)【一部抜粋】

学習活動	学習活動に即した評価規準 (評価方法)			
	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
1 関数 (2時間) 2 比例 (7時間)	※ 評価規準は省略			
3 反比例 (5時間) ①反比例する量 長方形の縦と横の長さの関係や変化の特徴を調べる。	◎2つの数量の関係に関心を持ち、その関係の変化や対応の様子を捉えようとしていたり、式で表したりしようとしている。 (観察, ノート)	○具体的な事象の中の2つの数量の関係を、値の変化や対応の様子に着目して調べたり、式で表したりして、2つの数量が反比例の関係にある事象を見いだすことができる。 (観察, ノート)		
②反比例する量 x の変域や比例定数が負になる反比例について、表や式で表す。			◎反比例の関係を、表や式に表すことができる。(小テスト) ◎反比例の関係を表す式に数を代入し、対応する値を求めることができる。 (小テスト)	◎反比例の意味、比例定数の意味を理解している。(小テスト)

<p>③反比例のグラフ 反比例のグラフがどんなグラフになるかを、多くの点をとって調べる。</p>	<p>◎反比例の特徴に関心を持ち、表、式、グラフなども用いて考えようとしている。 (観察、ノート、ワークシート)</p>		<p>◎比例定数に着目して反比例のグラフをかくことができる。 (ワークシート)</p>	<p>◎反比例のグラフのかき方を理解している。(ワークシート) ◎反比例のグラフが双曲線になることを理解している。 (ワークシート)</p>
<p>④反比例のグラフ 比例定数となる反比例のグラフをいくつかかき、反比例の特徴をまとめる。</p>		<p>○比例定数に着目して、反比例の特徴をまとめることができる。(観察、ノート)</p>		
<p>⑤反比例の式を求めること 1組の x, y の値やグラフから、反比例の式を求める。</p>			<p>◎1組の x, y の値やグラフから反比例の式を求めることができる。 (ノート、小テスト)</p>	
<p>4 比例と反比例の利用 (4時間) ①比例と反比例の利用 図形の面積や周の長さについて、比例、反比例の関係を調べる。</p>	<p>◎比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え、説明することに関心を持ち、問題の解決に生かそうとしている。 (観察、ノート、ワークシート)</p>	<p>○具体的な事象から取り出した2つの数量の関係が比例、反比例であるかどうかを判断し、その変化や対応の特徴を捉え、自分なりに説明することができる。 (観察、ノート)</p>	<p>○比例、反比例の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。 (ノート)</p>	
<p>②比例と反比例の利用 具体的な問題を、比例や反比例の見方や考え方を利用して解決する。</p>		<p>○具体的な事象から取り出した2つの数量の関係を、理想化したり、単純化したりして比例、反比例とみなし、変化や対応の様子を調べたり、予測したりすることができる。その結果が適切であるかどうかを振り返って考えることができる。 (観察、ノート)</p>		<p>○具体的な事象の中には、比例、反比例とみなすことで変化や対応の様子について調べたり、予測したりできるものがあることを理解している。(ノート)</p>
<p>③比例と反比例の利用 比例のグラフを読み取って、具体的な問題を解決する。</p>			<p>○グラフから具体的な数量を読み取り、問題を解決することができる。 (ワークシート)</p>	
<p>④比例と反比例の利用 全国学力・学習状況調査の問題を素材として、2つの数量の関係を表やグラフを用いて考察し、問題を解決する。</p>		<p>◎具体的な事象から取り出した2つの数量の関係が比例、反比例であるかどうかを判断し、その変化や対応の特徴を捉え、説明することができる。 (観察、ワークシート)</p>	<p>◎比例、反比例の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。 (ワークシート)</p>	

- ※ 「評価規準の設定例」を基に、具体的な学習活動を踏まえ、言葉を省略したり変更したりしている。
- ※ 「◎」については、単元における総括の資料とするための評価とし、全生徒の記録を取る。「○」については、学習指導の過程における評価を中心とし、原則として全生徒の記録を取ることを前提としない。
- ※ 「関心・意欲・態度」の観点については、小単元に評価規準を一つ設定し、どの生徒も少なくとも1回は評価できるようにしている。

5 本時の目標

- 具体的な事象の中の2つの数量の関係について、値の変化や対応の様子を調べようとしたり、式で表そうとしたりし、2つの数量が反比例の関係にある事象を見いだすことができる。

6 学習過程

段階	学習活動・内容	時間	形態	○指導上の留意点 評価規準(評価方法) ■Bに達しない生徒への手立て
課題把握	1 本時の課題を把握する。 面積が18cm ² と周の長さが18cmの長方形の横と縦の長さには、それぞれどのような関係があるだろうか。	7	一斉	○ コンピュータを活用し、横と縦の長さの関係を視覚的に捉えさせる。
課題	2 次の2つの長方形の横の長さ(x)と縦の長さ(y)の関係を表にまとめ、それぞれどのような関係があるかを調べる。 [面積が18cm ² の長方形] 横 … 1 2 3 4 5 6 … 18 … 縦 … 18 9 6 4.5 3.6 3 … 1 … ・xとyの積はいつも18 ・xが2倍、3倍になると、yは½倍、⅓倍 [周の長さが18cmの長方形] 横 … 1 2 3 4 5 6 7 8 … 縦 … 8 7 6 5 4 3 2 1 … ・xとyの和はいつも9 ・xが1増えるとyは1減る	15	個別	○ 比例の3通りの意味を確認し、調べる関係の視点を明確にすることで、解決の見通しをもたせる。 【関心・意欲・態度】 長方形の横と縦の長さの関係に関心を持ち、その関係を変化や対応の様子を捉えようとしたり、式で表そうとしたりしている。 (学習活動の観察、ノート) ■ 横の長さが2cmときの縦の長さを求めるなど、具体的なxの値で実際に計算して表を作成させ、対応(縦の関係)と変化(横の関係)から、比例の学習を参考にして規則等を見つけるように指示する。
解決	3 まとめた関係を発表し合い、反比例の意味を知る。 4 反比例の定義の説明を聞く。 yがxの関数で、 $y = \frac{a}{x}$ のような式で表されるとき、「yはxに反比例する」という。	10 3	一斉 一斉	○ 比例の意味と対比させながら、反比例の3通りの意味を確認する。 ○ $y = ax$ の式で表される関係を比例としたことから、統合的な考えをもとに式で反比例を定義する。 ○ 面積が18cm ² の長方形の縦の長さは、横の長さに反比例することと、周の長さが18cmの長方形の横の長さは縦の長さの関数であることをまとめる。 ○ 分母にxがあることから、x=0は除くことに気づかせる。
適用	5 適用問題を解く。 次のア～エの中から、yがxに反比例しているものを選び、選んだ理由も説明しなさい。 ア 120cmのひもをx等分したときのひも1本の長さy cm イ 1500mの道のりをx m歩いたときの残りの道のりy m ウ 身長x cmの人の体重y kg エ 1辺がx cmの正方形の周の長さy cm	10	個別・ペア	【数学的な見方や考え方】 2つの数量の関係について、値の変化や対応のようすを調べたり式で表したりすることで、2つの数量が反比例の関係にある事象を見いだすことができる。 (ノートの記述分析) ■ 図をかいて場面理解を図ったり、xに具体的な数値を入れてyの値を求めて表を作らせたりして、立式につなげさせる。 ○ 解決状況に応じて、身の回りから反比例している事象を考えさせる。 ○ 比例でも反比例でもない関数があることや、関数ではない2つの数量があることを確認する。 ○ 解答を隣同士で説明し合う場を設け、学習内容の定着を図る。
まとめ	6 本時の学習内容を振り返り、反比例の定義や、反比例と判断する方法についてまとめる。	5	一斉	○ 本時のまとめとして適した内容を記述している生徒を意図的に指名し、発表させる。

※ 評価規準は、「おおむね満足できる状況(B)」について設定する。

理 科 (小)

1 理科における学習評価の考え方

理科における学習は、単に自然体験を行ったり、自然の事物・現象を対象に観察、実験を行ったりすればよいわけではない。小・中・高等学校を通じ、発達の段階に応じて、児童が知的好奇心や探究心をもって、自然に親しみ、目的意識をもった観察・実験を行うことにより、科学的に調べる能力や態度を育てるとともに、科学的な認識の定着を図り、科学的な見方や考え方を養うことを目指している。特に、実社会や実生活との関連性をもたせることにより、学ぶことの意義や有用性を実感することができる教科である。学習評価は、理科で目指す児童像を実現するために行うものであり、学習評価を行う際には、単元の目標、学習活動等に応じて「自然事象への関心・意欲・態度」「科学的な思考・判断」「観察・実験の技能」「自然事象についての知識・理解」の4つの観点の趣旨を生かしながら、適切な評価規準を設定することが大切である。

2 教科目標及び評価の観点等

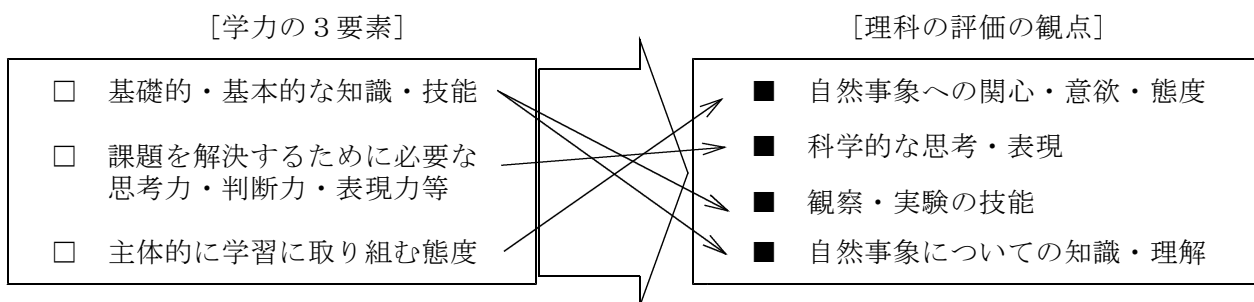
(1) 理科の目標

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

(2) 評価の観点及びその趣旨

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
自然に親しみ、意欲をもって自然の事物・現象を調べる活動を行い、自然を愛するとともに生活に生かそうとする。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって事象を比較したり、関係付けたり、条件に着目したり、推論したりして調べることによって得られた結果を考察し表現して、問題を解決している。	自然の事物・現象を観察し、実験を計画的に実施し、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱うとともに、それらの過程や結果を的確に記録している。	自然の事物・現象の性質や規則性、相互の関係などについて実感を伴って理解している。

(3) 学力の3要素と評価の観点との関係



※ 理科の場合、評価の観点は、学力の3要素と現行の4観点を上図のように整理し、考えることができる。まず、「自然事象についての知識・理解」及び「観察・実験の技能」の観点を集約したものが「基礎的・基本的な知識・技能」となり、知識・技能を活用した「科学的な思考・判断」が「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」とすることができる。そして、「自然事象への関心・意欲・態度」の観点が、「主体的に学習に取り組む態度」と関連を図ることができ、おおむね明確な関連を見出すことができる。

特に、「主体的に学習に取り組む態度」は、理科において、自然に親しむという状況の中で、児童が意欲をもって主体的に観察、実験などを行い、自然を愛する心情を育みながら、調べる方法や調べた結果などを生活に生かそうとする態度を育成する上で重視したい学力の要素である。

3 指導計画及び評価計画作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

指導計画作成に当たっては、児童が具体的な自然の事物・現象に関心や意欲をもってかかわり、体験を通して問題を見だし、科学的な知識や概念の定着、科学的な見方や考え方を育成することが必要である。そのためには、地域の特色を生かし、他教科との関連を図りながら、自然の事物・現象を対象として観察、実験や自然体験、科学的な体験を充実させることにより、児童の学習活動が主体的に進めることができるように展開を工夫することが必要である。

評価の位置付けにあたっては、単元や本時のねらいを踏まえ、育みたい資質や能力を明確にして目標と評価規準を関連付けて設定し、指導と評価の一体化を図ることにより、目標に照らしあわせ、その実現状況を把握する評価を着実に実施していくことが大切である。

(2) 評価方法及び評価の時期

評価方法としては、児童の学習内容の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面、児童の発達の段階に応じて、児童観察、児童との対話、ノート、ワークシート、学習カード、ものづくり等での作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接など、児童の学習状況に応じた評価方法を的確に選択する必要がある。

また、評価時期については、日常的に評価を実施するとともに、各学校及び児童の実態等に応じて、児童への支援、さらには授業改善を進める上で適切な時期を設定することが必要である。しかし、「自然事象への関心・意欲・態度」においては、単元の特性や学習内容を踏まえつつ、ある程度の長い区切りが必要である。学習指導内容によって、最適な時期を観点ごとに整理しておくことが大切である。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

理科における言語活動を充実させたい場面とそのポイントは、次の2つである。

1つめが、実際に観察、実験に入る前の段階の「予想や仮説をもつ場面」での言語活動（言語活動Ⅰ）である。この場面では、児童一人一人がそれまでの経験や知識などをもとに自分なりの予想や仮説をもつことが大切である。教師は、どのような予想や仮説をもっているのか、根拠はあるのかということを見取る必要がある。さらに、互いの予想や仮説について話し合い、検証の視点を明確にしたり検証計画を立案したりすることにより、観察、実験を行った後の言語活動を充実させることにもつながるのである。

2つめが、観察、実験を行った後の段階の「観察、実験の結果から何が言えるのかを考察し、まとめていく場面」での言語活動（言語活動Ⅱ）である。この場面では、児童が出した観察、実験の結果や、観察、実験後に抱いた考えを共有化し、予想や仮説と照合させながら考察したり、観察、実験の結果における共通性や傾向性に着目しながら結論をまとめたりすることが大切である。また、日常生活との関わりを意識したり、活用を図ったりするための言語活動を充実させることも重要である。

このように、言語活動Ⅰと言語活動Ⅱを充実させる視点が評価の重要なポイントとなる。

(2) 「自然事象への関心・意欲・態度」における学習評価

「自然事象への関心・意欲・態度」における学習評価の視点においては、特に次の点を重視する必要がある。

1つめは、小学校理科のねらい「自然に親しみ～」の文言に象徴されるように、単に、自然の事物・現象への興味・関心をもつだけでなく、児童が主体的に関わる姿を評価することである。

2つめは、自然の事物・現象に主体的に関わる中で、身の回りの現象を見直したり自然愛護や生命尊重したりする意欲や態度、見いだした特性を生活に生かそうとする意欲や態度などを重視し、評価することが大切である。

(3) 「科学的な思考・表現」における学習評価

「科学的な思考・表現」における学習評価においては、問題解決の過程に沿った児童の思考、表現を評価することが重要である。特に、言語活動の充実に関連した場面において、各学年における科学的な見方や考え方をふまえて評価することが大切である。例えば、観察、実験前であれば、経験や科学的根拠に基づく思考・表現を評価し、観察、実験後であれば、自分の予想や仮説を踏まえ、観察、実験の結果をもとにしながら思考、表現している姿を評価することが大切である。

(4) 「観察・実験の技能」における学習評価

「観察・実験の技能」における学習評価においては、児童が観察、実験などを計画的に進めるために必要な器具や機器を適切に扱ったり、観察、実験などの過程や結果を的確に記録することができるかどうかを重視し、評価をすることが大切である。

(理科における学習指導と学習評価の実際)

1 単元名「物と重さ」(第3学年)

※ 学習指導要領における単元の位置付け 「A 物質・エネルギー (1) 物と重さ」

2 単元の目標

物と重さについての興味・関心をもって追究する活動を通して、物の形や体積、重さなどの性質の違いを比較する能力を育てるとともに、それらの関係の理解を図り、物の性質についての見方や考え方をもちつことができる。

3 単元の評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 物の形や体積と重さの関係に興味・関心をもち、進んで物の性質を調べようとしている。 物の形や体積と重さの関係を適用し、身の回りの現象を見直そうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 物の形を変えたときの重さや、物の体積を同じにしたときの重さを比較して、それらについて予想や仮説をもち、表現している。 物の形を変えたときの重さや、物の体積を同じにしたときの重さを比較して、それらを考察し、自分の考えを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> てんびんや自動上皿はかりを適切に使って、安全に実験やものづくりをしている。 物の形や体積と重さの関係について体感をしながら調べ、その過程や結果を記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> 物は、形が変わっても重さは変わらないことを理解している。 物は、体積が同じでも重さは違うことがあることを理解している。

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、単元の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画 (本時)

学習活動	学習活動に即した評価規準 (評価方法)			
	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な 思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
1 物は、形を変えると重さもかわるのか (4時間) ①ポーズを変えて体重計に乗ったときの体重の変化を調べる。(1)	◆ポーズの違いと体重の関係に興味・関心をもち、進んで物の性質を調べようとしている。 (発言分析・行動観察)			

<p>②粘土の置き方や形を変えたときの重さの変化を調べる。(1)</p>	<p>◆粘土の置き方や形と重さの関心に興味・関心をもち、進んで物の性質を調べようとしている。(発言分析・行動観察)</p>	<p>◆粘土の置き方や形を変えたときの重さを比較して、それらについての予想や仮説をもち、表現している。(発言分析・記述分析)</p>		
<p>③粘土以外の物の置き方や形を変えたときの重さの変化を調べる。(2)</p>			<p>◆粘土以外の物の置き方や形と重さの関係について体感を基にしながら調べ、その過程や結果を記録している。(行動観察・記録分析)</p>	<p>◆物は、形が変わっても重さは変わらないことを理解している。(記述分析)</p>
<p>2 物は、体積が同じなら、重さはどうなるのか(4時間) ①体積が異なるいろいろな物の重さを比べる。(1)</p>	<p>◆物の体積と重さの関係に興味・関心をもち、進んで物の性質を調べようとしている。(発言分析・行動観察)</p>		<p>◆てんびんや自動上皿はかりを適切に使って、実験をしている。(行動観察・記録分析)</p>	
<p>②比較実験素材を活用して、同体積の物の重さを比べる。(1)</p>			<p>◆てんびんや自動上皿はかりを適切に使って、実験をしている。(行動観察・記録分析)</p>	
<p>③身の回りにある物の重さを、同体積にして比べる。(2)</p>	<p>◆物の体積と重さの関係を適用し、身の回りの現象を見直している。(発言分析・記録分析)</p>	<p>◆物の体積を同じにしたときの重さを比較して、それらを考察し、自分の考えを表現している。(発言分析・記述分析)</p>		<p>◆物は、体積が同じでも重さは違うことがあることを理解している。(記述分析)</p>

※ 「評価規準の設定例」を基に、具体的な学習活動を踏まえ、言葉を省略したり変更したりしている。

理 科 (中)

1 理科における学習評価のあり方

理科における学習は、単に自然体験を行ったり、自然の事物・現象を対象に観察、実験を行ったりすればよいわけではない。小・中・高等学校を通じ、発達の段階に応じて、生徒が知的好奇心や探究心をもって、自然に親しみ、目的意識をもった観察・実験を行うことにより、科学的に探究する能力や態度を育てるとともに、科学的な認識の定着を図り、科学的な見方や考え方を養うことを目指している。特に、実社会や実生活との関連性をもたせることにより、学ぶことの意義や有用性を実感することができる教科である。学習評価は、理科で目指す生徒像を実現するために行うものであり、学習評価を行う際には、単元の目標、学習活動等に応じて「自然事象への関心・意欲・態度」「科学的な思考・判断」「観察・実験の技能」「自然事象についての知識・理解」の4つの観点の趣旨を生かしながら、適切な評価規準を設定することが大切である。

2 教科目標及び評価の観点等

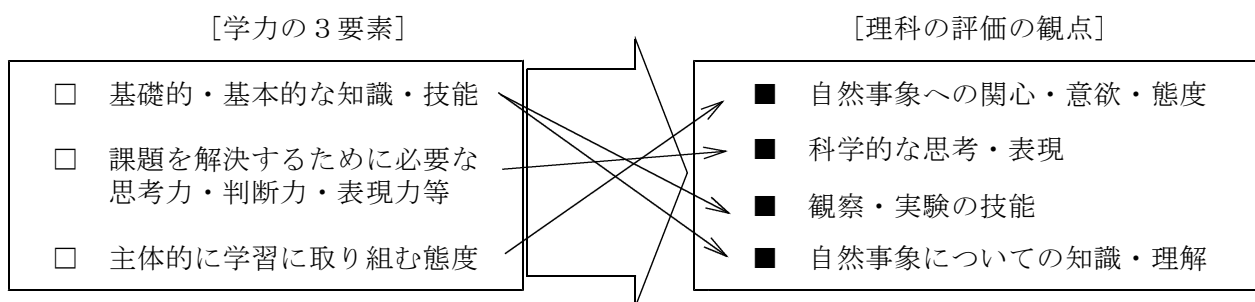
(1) 理科の目標

自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに、自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

(2) 評価の観点及びその趣旨

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
自然の事物・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探究するとともに、事象を人間生活とのかかわりでみようとする。	自然の事物・現象に問題を見だし、目的意識を持って観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

(3) 学力の3要素と評価の観点との関係



※ 理科の場合、評価の観点は、学力の3要素と現行の4観点を上図のように整理し、考えることができる。まず、「自然事象についての知識・理解」及び「観察・実験の技能」の観点を集約したものが「基礎的・基本的な知識・技能」となり、知識・技能を活用した「科学的な思考・判断」が「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」とすることができる。そして、「自然事象への関心・意欲・態度」の観点が、「主体的に学習に取り組む態度」と関連を図ることができ、おおむね明確な関連を見出すことができる。

特に「主体的に学習に取り組む態度」は、理科において自然の事物・現象に進んでかかわるとい状況の中で、生徒が目的意識をもって主体的に観察、実験などを行い、科学的に探究したり、事象を人間生活に生かしたりしていこうとする態度を育成する上で、重視したい学力の要素である。

3 指導計画及び評価計画作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

指導計画作成に当たっては、生徒が具体的な自然の事物・現象に関心や意欲をもってかかわり、体験を通して問題を見だし、科学的な知識や概念の定着、科学的な見方や考え方を育成することが必要である。そのためには、地域の特色を生かし、自然の事物・現象を対象として観察、実験や自然体験、科学的な体験を充実させることにより、科学的に探究する活動を主体的に進めることができるように展開を工夫することが必要である。

評価の位置付けにあたっては、単元や本時のねらいを踏まえ、育みたい資質や能力を明確にして目標と評価規準を関連付けて設定し、指導と評価の一体化を図ることにより、目標に照らしあわせ、その実現状況を把握する評価を着実に実施していくことが大切である。

(2) 評価方法及び評価の時期

評価方法としては、生徒の学習内容の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面、児童の発達段階に応じて、生徒観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、ものづくり等での作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接など、生徒の学習状況に応じた評価方法を的確に選択する必要がある。

また、評価時期については、日常的に評価を実施するとともに、各学校及び児童の実態等に応じて、児童への支援、さらには授業改善を進める上で適切な時期を設定することが必要である。しかし、「自然事象への関心・意欲・態度」においては、単元の特性や学習内容を踏まえつつ、ある程度の長い区切りが必要である。学習指導内容によって、最適な時期を観点ごとに整理しておくことが大切である。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

理科における言語活動を充実させたい場面とそのポイントは、次の2つである。

1つめが、実際に観察、実験に入る前の段階の「予想や仮説をもつ場面」での言語活動（言語活動Ⅰ）である。この場面では、生徒一人一人がそれまでの経験や知識などをもとに自分なりの予想や仮説をもつことが大切である。教師は、どのような予想や仮説をもっているのか、根拠はあるのかということを見取る必要がある。さらに、互いの予想や仮説について話し合い、検証の視点を明確にしたり検証計画を立案したりすることにより、観察、実験を行った後の言語活動を充実させることにもつながるのである。

2つめが、観察、実験を行った後の段階の「観察、実験の結果から何が言えるのかを考察し、まとめていく場面」での言語活動（言語活動Ⅱ）である。この場面では、生徒が出した観察、実験の結果や、観察、実験後に抱いた考えを共有化し、予想や仮説と照合させながら考察したり、観察、実験の結果における共通性や傾向性に着目しながら分析し、結論を導きだしたりした自分の考えを表現することが大切である。また、人間生活との関わりを意識したり、活用を図ったりするための言語活動を充実させることも重要である。

このように、言語活動Ⅰと言語活動Ⅱを充実させる視点が評価の重要なポイントとなる。

(2) 「自然事象への関心・意欲・態度」における学習評価

「自然事象への関心・意欲・態度」における学習評価の視点においては、特に次の点を重視する必要がある。1つめは、中学校理科のねらい「自然の事物・現象に進んでかかわり～」の文言に象徴されるように、単に、自然の事物・現象への目的意識をもって積極的に興味・関心をもつ主体的に関わる姿である。2つめは、自然の事物・現象に主体的に関わる中で、科学的に探究しようとする意欲や態度である。生徒自らが課題を探究しようとする積極的な意欲や態度を評価することが大切である。

(3) 「科学的な思考・表現」における学習評価

「科学的な思考・表現」における学習評価においては、探究的な学習活動に沿った生徒の思考、表現を評価することが重要である。特に、言語力の育成という教科横断の改善の視点を踏まえ、観察、実験の結果を分析して解釈する能力や、導出した自分の考えを科学的な概念や使用して考えたり表現したりする姿を評価することが大切である。

(4) 「観察・実験の技能」における学習評価

「観察・実験の技能」における学習評価においては、生徒が主体となり観察、実験を行うための器具や機器等の基本操作を習得したり、観察、実験の過程や結果を的確に記録したりすることができたかどうかを重視し、科学的に探究する技能の基礎を評価をすることが大切である。

(理科における学習指導と学習評価の実際)

1 単元名 「運動とエネルギー」 (第3学年)

※ 学習指導要領における単元の位置付け 「[第1分野](5)運動とエネルギー」

2 単元の目標

物体の運動やエネルギーに関する観察、実験を通して、物体の運動の規則性やエネルギーの基礎について理解するとともに、日常生活や社会と関連付けて運動とエネルギーの初歩的な見方や考え方をもちつことができる。

3 単元の評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
<p>・力のつり合い、運動の速さと向き、力と運動に関する事物・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、事象を日常生活とのかかわりでみようとする。</p> <p>・仕事とエネルギー、力学的エネルギーの保存に関する事物・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、事象を日常生活とのかかわりでみようとする。</p>	<p>・力がつり合うときの条件、合力や分力の規則性、運動の速さと向き、物体に力が働くときと働かないときの運動の規則性などについて自らの考えを導いたりまとめたりして、表現している。</p> <p>・仕事と仕事率、エネルギーと仕事、運動エネルギーと位置エネルギーの相互の移り変わり、力学的エネルギーの保存などについて自らの考えを導いたりまとめたりして、表現している。</p>	<p>・力のつり合い、運動の速さと向き、力と運動に関する観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理などの仕方を身に付けている。</p> <p>・仕事とエネルギー、力学的エネルギーの保存に関する観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理などの仕方を身に付けている。</p>	<p>・力がつり合うときの条件、合力や分力の規則性、運動の速さと向き、物体に力が働くときと働かないときの運動の規則性などについて理解し、知識を身に付けている。</p> <p>・仕事と仕事率、物体のもつエネルギーの量は物体が他の物体になし得る仕事で測れること、運動エネルギーと位置エネルギーが相互に移り変わることで、力学的エネルギーの総量が保存されることなどについて理解し、知識を身に付けている。</p>

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、単元の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画 (本時) 【一部抜粋】

学習活動	学習活動に即した評価規準 (評価方法)			
	自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な 思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
1 物体のもつエネルギー (2時間)	※ 評価規準は省略			
2 力学的エネルギー (1時間)	※ 評価規準は省略			
3 仕事とエネルギー (4時間) ①仕事と力と距離の関係、仕事の単位や求め方について理解し、次時の実験計画を立てる。(1)		◆同じ力でおした場合、おす距離が長い方が速くなることを指摘できる。 (発言分析・記述分析)		◆仕事と力と距離の関係、仕事の単位や求め方について説明できる。 (発言分析・記述分析)


②小球と木片の衝突実験を行い、位置エネルギーや運動エネルギーと3つの要素の規則性について考える。(1)		◆グラフを基に分析し、位置エネルギーや運動エネルギーと3つの要素(質量・転がす位置の高さ・速さ)の規則性を的確に説明している。(発言分析・記述分析)	◆位置エネルギーや運動エネルギーの大きさを捉える実験を計画し、適切な方法で実験している。(行動観察・記録分析)	
③仕事の原理について理解し、滑車やてこを使うときの仕事の大きさについての実験を行う。(1)	◆斜面を使って引き上げる場合と直接垂直に引き上げる場合とで仕事の大きさが異なるか、関心をもって考えている。(行動観察・発言分析)		◆正しい操作で実験を行い、結果を表にまとめることができる。(行動観察・ワークシートへの記述内容)	
④道具を使った場合と使わなかった場合とで、仕事の原理が成り立っているか考える。(1)		◆実験の結果から道具を使った場合と使わなかった場合を比較して、仕事の原理が成り立っているか、考えを表現できる。(発言分析・記述分析)		◆動滑車や輪軸を使った仕事について説明できる。(発言分析・記述分析)
4 小さな力で大きな仕事はできるか(2時間) ※ 評価規準は省略				
5 まとめ(1時間) ※ 評価規準は省略				


※ 「評価規準の設定例」を基に、具体的な学習活動を踏まえ、言葉を省略したり変更したりしている。

5 本時の目標

小球を物体に衝突させたときの仕事の大きさから、位置エネルギーや運動エネルギーの大きさを推察し、これらのエネルギーと「質量」「転がす位置の高さ」「速さ」の関係を確かめる実験を行い、3つの要素の関係を説明することができる。

6 学習過程(指導と評価の計画)

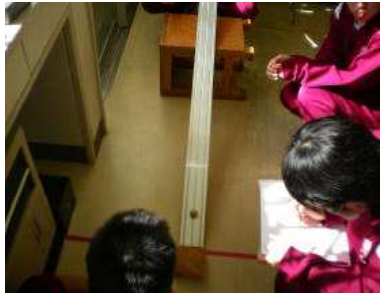
段階	学習活動・内容	時間	形態	○指導上の留意点
				評価規準(評価方法) ■Bに達しない生徒への手立て
課題把握	1 本時の課題を把握する。 位置エネルギーや運動エネルギーを、2倍、3倍、4倍にするにはどうすればよいか。	5	一斉	○ 前時を振り返り、位置エネルギーと運動エネルギーの大きさを決める要素や、結果についての予想を確認することにより、本時の課題をとらえることができるようにする。 

課題追究	2 前時に立てた実験計画をもとに、衝突実験を行う。	15	個人・班・一斉	【観察・実験の技能】 位置エネルギーや運動エネルギーの大きさをとらえる実験を計画し、適切な方法で実験している。 (行動観察・記録分析)
	3 実験結果について考察し、発表用の資料を作成する。 	20		【科学的な思考・表現】 グラフをもとに分析し、位置エネルギーや運動エネルギーと3つの要素(質量・転がす位置の高さ・速さ)の規則性を的確に説明している。 (発言分析・記述分析)
	4 考察した結果を発表し結論を導き出す。			
まとめ	5 本時を振り返る。 ○ 各班の発表をもとに、位置エネルギーや運動エネルギーと3つの要素の関係についてまとめる。	10	個人・一斉	○ 位置エネルギーと「斜面の傾き」、運動エネルギーと「速さ」の関係について確認する。

<評価事例>

【観察・実験の技能】
実験計画をもとに、衝突実験を行う場面 (行動観察・記録分析)

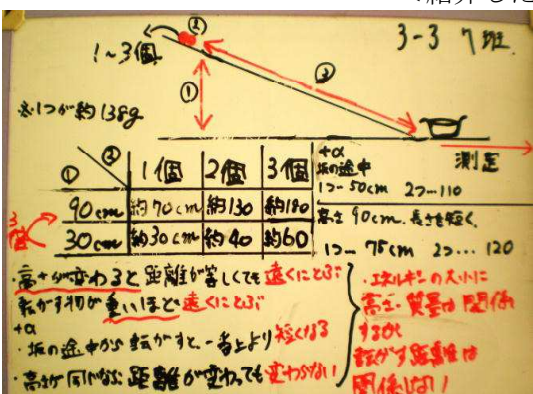
■ : 実験で統一する条件と変化させる条件を区別して実験できるように、実験の目的及び実験計画を再度説明し、とらえ直すことができるようにする。また、実験の目的に応じた測定できるように、実験方法を再確認する機会を設ける。



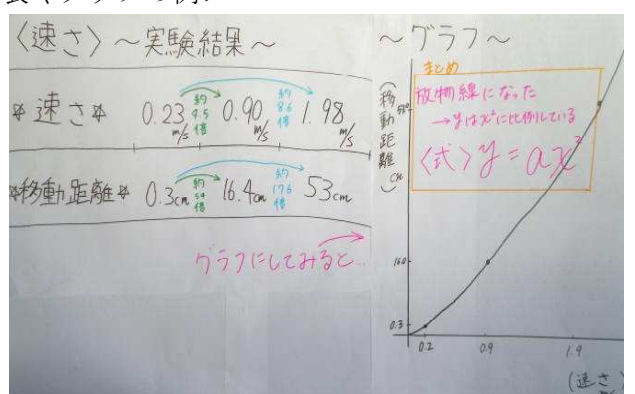
【科学的な思考・表現】
実験結果について考察し、発表用の資料を作成する場面 (発言分析・記述分析)

■ : 実験の目的や実験計画に応じた結果のまとめ方を紹介し、運動エネルギーの実験結果を表やグラフでまとめることができるようにする。

<紹介したい表やグラフの例>



高さ	1個	2個	3個	測定
約90cm	約70cm	約130	約180	約17-50cm 27-110
約30cm	約30cm	約40	約60	高さ90cm.長さ短く 17-75cm 27...120



速度 0.23 m/s, 0.90 m/s, 1.98 m/s
移動距離 0.3cm, 16.4cm, 53cm

グラフにしてみる。

～グラフ～
y = ax²
→ yはx²に比例している

※ 評価規準は、「おおむね満足できる状況 (B) について設定する。

生活(小)

1 生活科における学習評価の考え方

生活科の究極的な目標は自立の基礎を養うことである。ここでいう自立は「学習上の自立」「生活上の自立」「精神的な自立」の3つを意味し、これらは互いに支え合い補い合って育まれていく。評価を進めていく際は、これらの自立が児童にどのような形で具現化されているかを捉えていきたい。

自立の基礎は具体的な活動や体験を通して養っていくものであり、具体的な活動や体験は単なる手段ではなく目標であり内容である。評価の際は、活動や体験そのもの、すなわち結果ではなく結果に至るまでの過程を重視する。児童がどんな対象とかかわり、どのような活動を行っているか、その中で何を考え、どんな工夫をし、何に気付いていったかを活動の広がりや深まりから評価することが大切である。学習活動が体験だけで終わったり表現のできばえのみを目指したりすることのないように注意したい。

思考と表現の一体化という低学年の特質を生かし、児童が様々な場面で表現する思いや願いを共感的にとらえ、一人一人の多様な学びのよさを評価し、そのよさが次の活動でさらに発揮できるよう指導に生かしていくことが大切である。

2 教科目標及び評価の観点等

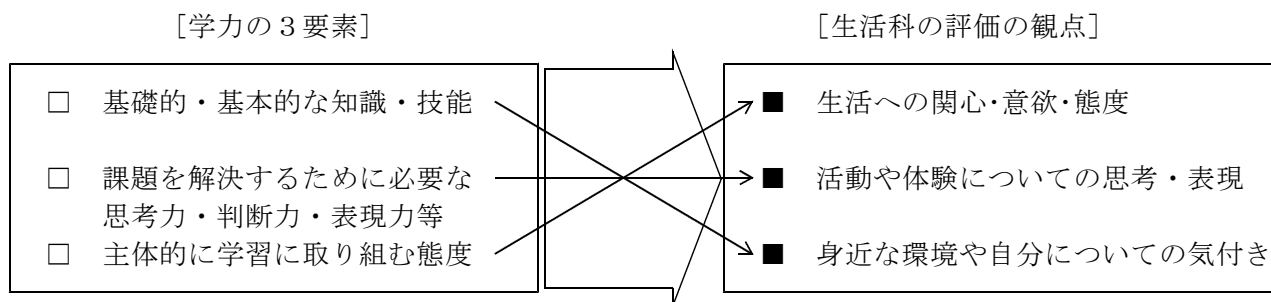
(1) 生活科の目標

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

(2) 評価の観点及びその趣旨

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
身近な環境や自分自身に関心を持ち、進んでそれらとかかわり、楽しく学習や生活をしようとする。	具体的な活動や体験について、自分なりに考えたり、工夫したりして、それをすなおに表現している。	具体的な活動や体験をしながら、自分と身近な人、社会、自然とのかかわり及び自分自身のよさなどに気付いている。

(3) 学力の3要素と評価の観点との関係



※ 学習指導要領では、「気付きは、対象に対する一人一人の認識であり、児童の主体的な活動によって生まれるもの」と規定している。「学力の3要素」から整理すると、「気付き」を「知識・技能」に対応するものと捉えることができる。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

指導計画を作成する際は、学習指導要領の目標と9つの内容の階層性を踏まえ、児童の実態や地域の特性、授業時数などを考慮し、2年間を見通して単元や学習活動を配置することが大切である。特に、児童が自ら学び、自ら考え、主体的な学習が展開できるようにするために、①具体的な活動や体験が十分にできる時間があるか、②主体的な活動の広がりや深まりを可能にする空間があるか、③学習の対象にじっくりと安心してかかわることができるか、という3つの視点から、児童の目線に立った計画を作成したい。

評価計画を作成する際は、単元の目標や学習活動等に応じて、①「生活への関心・意欲・態度」、②「活動や体験についての思考・表現」、③「身近な環境や自分についての気付き」の3つの観点から身に付けさせたい力を明確にする。その上で、適切な「単元の評価規準」や「学習活動に即した評価規準」を設定し、指導と評価の一体化を図ることができるようにすることが大切である。

(2) 評価方法及び評価の時期

評価方法としては、発言や行動などの観察記録、児童が思いや願いを書き込んだ計画表や設計図、活動を振り返って感想などを書き込んだ学習カード、かかわった方へのお手紙、ポートフォリオ、自己評価や相互評価など、様々なものが考えられる。一人一人のよさに着目して多くの視点から活動の様子を見取り、多面的かつ総合的に評価することが大切である。児童の思いや願いを共感的に捉え、行動の意味やその背景を含めて見取って評価していくために、記録をする際は、個別のカルテ、座席表や観点別の一覧表などを作成し、視点を定めて的確に行いたい。

評価の時期については、1単位時間だけでなく、学習対象と出あい思いや願いをふくらませ見通しをもつ段階、具体的な体験や活動の段階、交流や振り返りの段階などの各段階毎の評価や単元全体を通して児童の変容や成長の様子を捉える長期的な評価も重要である。学習評価を効率的に行うために、あらかじめ単元計画の中に評価時期と評価方法を明確に位置付けておくことが肝心である。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

授業のねらいや教科目標を達成するために言語活動の充実を図っていくことが大切である。活動で気付いたことを他の人と伝え合う、活動や体験したことを言葉や絵で表す、体験活動を振り返り、そこから学んだことを記述するなどの言語活動を充実させる。活動の中で書いたり話し合ったりする場を意図的に位置付け、そこから対象に対する児童一人一人の認識をとらえ評価し、そのことを教師が価値付けていくことで、自信や意欲につなげる評価を進めていきたい。

(2) 活動や体験についての思考・表現と学習評価

具体的な活動や体験を通して学ぶ生活科では、児童が調べたり、育てたり、作ったりするなどの具体的な活動の中で、考えたり、工夫したり、振り返ったりするなどの思考の様子を評価していかなければならない。思考と表現が一体的である低学年の児童の特性を生かし、思考・判断したことをすなおに表現している姿から積極的に見取っていくことが大切である。

(3) 気付きの質を高める評価

気付きは対象に対する一人一人の認識であり、児童の主体的な活動によって生まれ、次の自発的な活動を誘発するものである。気付きは活動や体験を繰り返したり他者とともに活動したりしていく中で、対象へのかかわりが深まり、児童自身が意味付けをしていくことによって高まっていく。無自覚なものから自覚したものへ、単独の気付きから関連付けられた気付きへ、対象への気付きから自分自身の成長への気付きへといった質的な高まりである。気付きの質を高めるためには、見つける、比べる、たとえるなどの具体的な学習活動を充実させるとともに、その場面で児童が対象に対してどのような意味を見出しているかを見取り、教師が価値付けていくという指導と評価の一体化が大切である。特に、活動を通して成長してきた自分自身への気付きの質を高めるため、活動の見通しをもつ、活動を振り返るなどの学習場面での評価をしっかり行い、活動の広がり深まりが自分自身の成長にもつながっているという価値にも気付かせていきたい。

(生活科における学習指導と学習評価の実際)

1 単元名「うごくおもちゃをつかって みんなであそぼう」(第2学年)

※ 学習指導要領における単元の位置付け 内容(6)「自然や物を使った遊び」

2 単元の目標

身近な材料を使って動くおもちゃをつかっていく中で、自分でいろいろと試したり友達と工夫した点を教え合ったりすることを通して、動きの面白さや不思議さ、友達のよさや自分との違いに気付き、みんなでおもちゃの国で遊びを楽しむことができる。

3 単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
<p>・身近な物を利用してつくるおもちゃやその遊びに関心を持ち、動きに着目しながら思いや願いをふくらませておもちゃをつくらうとしている。</p> <p>・おもちゃを友達に紹介したり友達とかかわったりしながら、みんな楽しく遊ぼうとしている。</p>	<p>・自分なりの方法ですなおに表現したり、友達と比べたり試したりして動くおもちゃづくりを工夫している。</p> <p>・友達とかかわりながら約束やルールを考え、動くおもちゃを使った遊びを創り出している。</p>	<p>・動くおもちゃの動きと仕組みの面白さや不思議さに気付いている。</p> <p>・遊びに使う物を友達とアドバイスし合いながらつくる面白さ、友達のよさや自分との違い、みんな遊ぶ楽しさに気付いている。</p>

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、単元の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画（本時 ）

学習活動	学習活動に即した評価規準 (評価方法)		
	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
<p>1 いろいろなものであそんでみよう (3時間)</p> <p>①身近な物を動かして遊び、どんなおもちゃが面白そうかを話し合う。 (タイヤ、ゴム、磁石、風などを利用した遊び)</p> <p>②楽しかったことや面白かった動きなどを「たのしかったよカード」に書いて発表し合う。</p> <p>③どのような力で動いているかを仲間分けする。</p>	<p>◆身近な物を利用した遊びや動くおもちゃづくりに関心を持ち、友達と遊ぼうとしている。 (行動観察、発言分析)</p>		<p>◆身近な物を利用して、動くおもちゃをつくって遊べることに気付いている。 (行動観察、発言分析、「たのしかったよカード」の分析)</p> <p>◆どのような力を利用しておもちゃが動いているか、その動力と仕組みについて気付いている。 (行動観察、発言分析、「たのしかったよカード」の分析)</p>
<p>2 うごくおもちゃをつくろう (7時間)</p> <p>①動きが分かるように、「おもちゃせつけいず」を描く。</p> <p>②似たおもちゃをつくる友達と一緒に、試したり比べたり、アドバイスし合ったりしながらつくる。</p> <p>③「おもちゃせつけいず」に工夫した点を朱書きで加えていく。</p>	<p>◆自分の思いや願いをもとに動きを生かしたおもちゃをつくろうとしている。 (行動観察、発言分析、「おもちゃせつけいず」の分析)</p>	<p>◆友達と比べたり試したりしながら、動くおもちゃを工夫してつくっている。 (行動観察、発言分析、「おもちゃせつけいず」の分析)</p>	<p>◆動きの面白さや不思議さに気付いている。 (行動観察、発言分析、「おもちゃせつけいず」の分析)</p>
<p>④つくったおもちゃと「おもちゃせつけいず」を友達同士で紹介し合う。</p>	<p>◆おもちゃに対する自分の思いや願いを友達に伝えようとしている。 (行動観察、発言分析、設計図・感想カードの分析)</p>		<p>◆友達とかかわってつくる楽しさ、友達のよさや自分との違いに気付いている。 (行動観察、発言分析、設計図・感想カードの分析)</p>
<p>⑤友達からのアドバイスを参考にさらにおもちゃに工夫を加える。</p>		<p>◆友達からのアドバイスをもとにさらに工夫しておもちゃをつくっている。 (行動観察、発言分析)</p>	
<p>3 おもちゃの国であそぼう (4時間)</p> <p>①おもちゃの国の計画を話し合い、準備をする。</p> <p>②おもちゃの国を開いて遊ぶ。</p> <p>③活動を振り返り、学習カードをまとめ、話し合う。</p>	<p>◆おもちゃの国で友達とかかわりながら、みんなで楽しく遊ぼうとしている。 (行動観察、発言分析)</p>	<p>◆おもちゃの国での遊びの約束やルール等を考えて遊びを創り出している。 (行動観察、発言分析、計画書の分析)</p> <p>◆遊びの中での工夫や友達とのかかわりを振り返り、自分なりの方法で表している。 (行動観察、発言分析、学習カードの分析)</p>	<p>◆おもちゃの動きの面白さや不思議さに気付いている。 (行動観察、発言分析)</p> <p>◆友達とかかわって遊ぶ楽しさ、友達のよさ、自分との違いに気付いている。 (行動観察、発言分析、学習カードの分析)</p>

※ 「評価規準の設定例」を基に、具体的な学習活動を踏まえ、言葉を省略したり変更したりしている。

5 本時の目標

- おもちゃの動かし方や、友達からアドバイスを受けた点などを紹介し合うことにより、友達とかわりながら工夫してつくる楽しさに気付くことができる。

6 学習過程（指導と評価の計画）

段階	学習活動・内容	時間	形態	○指導上の留意点 評価規準(評価方法) ■Bに達しない児童への手立て
導入	<p>1 映像をもとに、おもちゃづくりの様子を振り返る。</p> <p>2 本時の学習課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">おもちゃを ともだちに しょうかいしよう。</div>	10	一斉	<p>○ 製作中には気付きにくい友達の様子を映像や写真で紹介し、友達と楽しく作ってきた点や工夫してきた点に気付かせる。</p>
展開	<p>3 実物と「おもちゃせつけいず」を提示し、おもちゃを紹介する。 (1) おもちゃの名前に込めた思い (2) 自慢したい点(動き, 仕組み) (3) 友達からアドバイスを受けて直したり工夫したりしたところなど</p> <p>4 友達のおもちゃで遊び、感想を述べ合う。 (1) よくできている点 (2) もっとよくなるアドバイス</p>	30	動きの似ている者同士のグループ	<p>○ おもちゃの名前や自慢したい点(動き, 仕組み)を「おもちゃせつけいず」に記入させ、自信をもって発表できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">【関心・意欲・態度】 おもちゃに対する自分の思いや願いを友達に伝えようとしている。 (「おもちゃせつけいず」, 紹介の様子)</div> <p>■ 付けた名前や理由や「おもちゃせつけいず」に書き込んだ工夫点について聞く。うまくできた点, 苦労した点を「おもちゃせつけいず」に書き込ませておき, 紹介の中で実物とあわせて称賛していく。</p> <p>○ 友達の感想をもとに, 動きと仕組みの面白さ, 友達とアドバイスし合って工夫した点に着目できるよう助言していく。</p> <p>○ 遊んでいく中で動きに着目させ, さらに工夫できる点についてアドバイスし合えるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">【気付き】 友達とかかわって作る楽しさ, 友達のよさや自分との違いに気付いている。 (「おもちゃせつけいず」, 紹介の様子, 遊んでいる様子, アドバイスの言葉)</div> <p>■ 「おもちゃせつけいず」に書き込んだ友達のアドバイスが, 完成したおもちゃにどのように生かされているかに着目させ, 友達と作ってきた楽しさを振り返らせる。また, 動きに着目して友達と自分のおもちゃとを比べさせることで, 友達のよさや自分との違いに気付かせていく。</p>
まとめ	<p>5 本時を振り返り, 次時の見通しをもつ。 ○ 感想カードに感想を記入する。</p>	5	一斉	<p>○ 紹介し合った感想を書かせ, おもちゃの国で楽しく遊ぶために, 次時でさらにおもちゃに工夫を加えていこうとする意欲を高めさせる。</p>

※ 評価規準は「おおむね満足できる状況 (B)」について設定する。

音 楽（小）

1 音楽科における学習評価の考え方

音楽科では、教科目標の実現に向け、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、思いや意図をもち必要な技能を身に付けて表現したり、楽曲全体を味わって聴いたりするなど、主体的・創造的に学習する児童を育成することを目指している。そこで、児童の学習状況を適切に見取り、それを指導に生かしていくことが評価の目的である。

2 教科目標及び評価の観点等

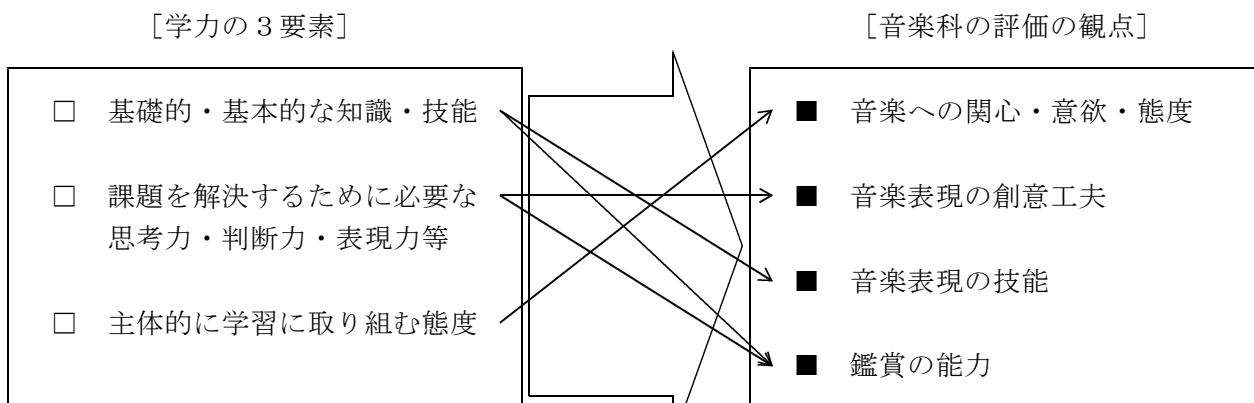
(1) 音楽科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

(2) 評価の観点及びその趣旨

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え、味わって聴いている。

(3) 学力の3要素と評価の観点の関係



※ 思考力・判断力・表現力等については、表現領域では「音楽表現の創意工夫」、鑑賞領域では「鑑賞の能力」の観点で評価することになる。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

音楽科の指導計画における「題材」とは、育成する力を明らかにして、一定のまとまりのある学習を行う教育課程を構成する実質的な単位である。また学習指導要領で新設された〔共通事項〕は、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要なものである。そこで指導する領域、分野、指導事項を明確にするとともに、指導のねらいに即して必要な〔共通事項〕を位置付け、表現活動と鑑賞活動の関連を図るようにすることが大切である。

評価計画を作成する上では、指導計画で重点化した指導内容や〔共通事項〕を踏まえつつ、題材全体における評価観点のバランスを考慮し、1単位時間の評価を厳選・設定することにより、指導と評価の一体化を図ることに留意したい。なお、表現領域においては「音楽への関心・意欲・態度」、「音楽表現の創意工夫」、「表現の技能」の3観点で、鑑賞領域においては「音楽への関心・意欲・態度」、「鑑賞の能力」の2観点で評価する。

(2) 評価方法及び評価の時期

音楽科の授業は、児童の主体的な音楽活動を通して展開されていく。したがって、音楽活動における児童の学習している状況を直接的に評価することが多くなる。例えば、児童の言動や演奏を観察する方法、音楽ノートやワークシートに記述させたり演奏を録音・録画したりするなど作品として記録する方法がこれに当たる。また、学習内容に応じて自己評価や相互評価を組み合わせる方法も工夫する必要がある。これらの記録を授業中の指導に役立てたり、授業後に整理して次時の授業構想や題材全体の評価に生かしたりしていく。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

学習指導要領では、鑑賞領域において「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなど」の活動が位置付けられている。表現領域においても、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、表現への思いや意図などを伝え合ったり理解し合ったりする上で言語活動は欠かせない。

音楽にふれているときの児童に目を向けると、身体の動きやつぶやき、表情の変化などが見て取れる。このとき児童は、音楽に反応して拍を刻んだり、拍の流れを感じていたり、旋律を口ずさんだりしながら、楽しさや喜びなどを感じているのである。この様子をとらえ児童に問い返すことが、音楽の何に反応し、どんなことを感じていたのかを言葉で明確にすることにつながり、児童の音楽的な感受を理解する上で重要な手立てとなる。

(2) 〔共通事項〕と学習評価

学習指導要領に新設された〔共通事項〕は表現及び鑑賞の活動を支えるものである。また、児童が音楽を聴取するポイントかつ感受する根拠であり、音楽の価値を見だし他者と分かち合うためのものでもある。したがって、指導内容を構想するときには、取り扱う〔共通事項〕を精選・重点化するとともに、指導の手立てや評価の内容に生かしていくことが求められる。

(音楽科における学習指導と学習評価の実際)

1 題材名 音の重なりを感じ取ろう (第3学年)

※ 教材

- ・ 輪唱曲 「フレールジャック」
- ・ パートナーソング 「かすみか雲か」と「きらきら星」, 「証城寺」と「かたつむり」
- ・ 合唱奏曲 「かえるの合唱」, 「小さな世界」
- ・ 鑑賞曲 「ファランドール」

※ 学習指導要領の内容

- ◎A(1)エ 互いの歌声や副次的な旋律, 伴奏を聴いて, 声を合わせて歌うこと
- A(2)エ 互いの歌声や副次的な旋律, 伴奏を聴いて, 音を合わせて演奏すること

※ [共通事項]: 旋律, 音の重なり, 強弱

2 題材の目標

輪唱曲やパートナーソングなどに出合い, 声や音を合わせて歌ったり演奏したりすることに興味・関心をもち, 楽曲の旋律, 音の重なり, 強弱を聴き取り, それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら, 思いや意図をもって歌ったり演奏したりする。

3 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
声や音を合わせて歌ったり演奏したりすることに興味・関心をもち, 歌唱や器楽の学習に進んで取り組もうとしている。	旋律, 音の重なり, 強弱を聴き取り, それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら, 曲想にふさわしい表現などを工夫し, どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもっている。	範唱を聴いたりハ長調の楽譜を見たりして歌ったり, 友達の声や演奏を聴きながら声や音を合わせて歌ったり演奏したりするなどの基礎的な技能を身に付けている。

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に, 題材の内容に合わせて, 言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画 (本時)

学習活動 < [共通事項] >	学習活動に即した評価規準 (評価方法)		
	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
1 2つの旋律が重なる面白さを感じ取る。(1時間) <旋律><音の重なり>		◆旋律, 音の重なりを聴き取り, それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取っている。 (態度等の観察・学習カードの分析)	


<p>2 旋律が重なることの面白さを歌って感じ取る。(2時間)</p> <p>①輪唱曲, パートナーソングの歌唱 <旋律><音の重なり></p>	<p>◆輪唱曲やパートナーソングの旋律を聴きながら歌ったり, 2つの旋律の重なる感じを聴き取ったりする活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>(態度等の観察・学習カードの分析)</p>		<p>◆範唱を聴いたりハ長調の楽譜を見たりして歌っている。</p> <p>(演奏態度の観察)</p>
<p>②旋律の重ね方の工夫と, 互いの演奏の聴き比べ <音の重なり><強弱></p>		<p>◆輪唱曲やパートナーソングの旋律, 音の重なりを聴き取り, それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら, 声を合わせて歌うことへの思いや意図をもっている。</p> <p>(演奏の聴取・学習カードの分析)</p>	
<p>3 音が重なることの面白さを感じ取りながら, 旋律を重ねた歌唱や演奏をする。(2時間)</p> <p>①歌唱やリコーダー演奏の練習 <旋律><音の重なり></p>	<p>◆友達の歌声やリコーダーの旋律を聴きながら, 自分の声を合わせて歌う活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>(態度等の観察・学習カードの分析)</p>		<p>◆互いの歌声やリコーダーの旋律, 音の重なりを聴きながら, 自分の声を合わせて歌ったり演奏したりしている。</p> <p>(演奏発表の聴取・録音の分析)</p>
<p>②ハミングやリコーダーを加えた合唱奏 <音の重なり><強弱></p>		<p>◆互いの歌声やリコーダーの旋律, 音の重なりを聴き取り, それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら, 声を合わせて歌うことへの思いや意図をもって表現を工夫している。</p> <p>(態度等の観察・学習カードの分析)</p>	

※ 「評価規準の設定例」を基に, 具体的な学習活動を踏まえ, 言葉を省略したり変更したりしている。

5 本時の目標

- オスティナートを加えた歌唱や「ファランドール」の鑑賞を通して、2つの旋律が重なること
のよさや面白さを感じ取る。

6 学習過程（指導と評価の計画）

段階	学習活動・内容	時間 形態	○指導上の留意点 評価規準（評価方法） ■Bに達しない児童への手立て
課題把握	<p>1 「かえるの合唱」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歌詞唱，オスティナート唱 <p>2 本時のめあてを捉え，活動の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>2つのせんりつを重ねて，歌ったり聴いたりしてみよう。</p> </div>	<p>5 一斉</p> <p>5 一斉</p>	<p>○ 児童の歌詞唱に教師が7～8小節目を繰り返すオスティナート唱を加え，2つの旋律を重ねる歌い方をつかませる。また，聴き役を設定し，2つの旋律が重なる感じや響きを聴き取らせることにより，本時の学習への意欲を高めていく。</p> 
課題追究	<p>3 「ファランドール」の鑑賞をする。</p> <p>(1) 2つの旋律を聴き取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「王の行進」の旋律を聴き取る。 ○ 「馬のダンス」の旋律を聴き取る。 ○ それぞれの旋律を歌ったり聴いたりして感じたことを話し合う。 <p>(2) 2つの旋律の重なりで感じたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全曲を通して聴く。 ○ 感じたことを学習カードへ記入する。 ○ 感じたことを話し合う。 	<p>30</p> <p>⑮ 個人 ・ 一斉</p> <p>⑮ 個人 ・ 一斉</p>	<p>○ 「音楽を形づくっている要素」の中から「旋律」を聴くポイントとしてカードで掲示し，「王の行進」と「馬のダンス」の旋律が出てくる前半部分に絞って鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身体表現や旋律の口ずさみなどを行い，旋律の特徴を捉えさせていく。また，旋律の違いは鑑賞中に挙手させて確認していく。 ○ 児童の感じたことは実際に歌ったり聴いたりして，言葉と音楽とを結び付けながら，全体で共有していく。 ○ 図形譜を掲示し，旋律の動きや楽曲の構成を確認するとともに，「音の重なり」を聴くポイントとして提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>【音楽表現の創意工夫】 旋律，音の重なりを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取っている。 (態度等の観察・学習カードの分析)</p> </div> <p>■ 旋律がうまく聴き取れない場合は，鑑賞曲に合わせて図形譜上を指でなぞったり口ずさんだりしながら，感覚的に捉えさせていく。</p>
まとめ	<p>4 本時を振り返り，次時の見通しをもつ。</p>	<p>5 一斉</p>	<p>○ 児童の感想をもとに学習を振り返り，本題材では2つの旋律を重ねた音楽を歌ったり演奏したりする学習をしていくことを捉えさせる。</p>

※ 評価規準は「おおむね満足できる状況（B）」について設定する。

音 楽（中）

1 音楽科における学習評価の考え方

音楽科では、教科目標の実現に向け、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、思いや意図をもち必要な技能を身に付けて表現したり、文化・歴史等と関連付けて楽曲を味わって聴いたりするなど、主体的・創造的に学習する生徒を育成することを目指している。そこで、学習指導要領の趣旨を生かした学習指導を行うとともに、生徒の学習状況を適切に見取り、それを指導に生かしていくことが評価の目的である。

2 教科目標及び評価の観点等

(1) 音楽科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

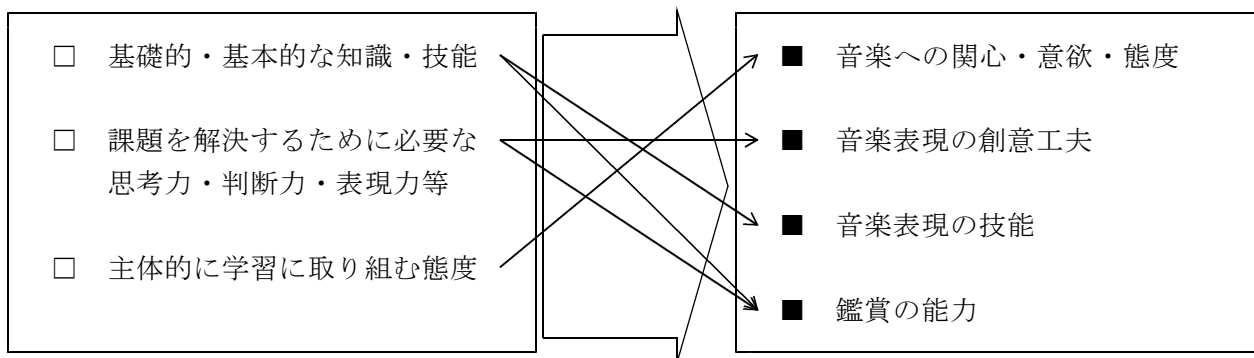
(2) 評価の観点及びその趣旨

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするため、その技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わって聴いている。

(3) 学力の3要素と評価の観点の関係

[学力の3要素]

[音楽科の評価の観点]



※ 思考力・判断力・表現力等については、表現領域では「音楽表現の創意工夫」、鑑賞領域では「鑑賞の能力」の観点で評価することになる。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

音楽科の指導計画における「題材」とは、育成する力を明らかにして、一定のまとまりのある学習を行う教育課程を構成する実質的な単位である。また学習指導要領で新設された〔共通事項〕は、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要なものである。そこで指導する領域、分野、指導事項を明確にするとともに、指導のねらいに即して必要な〔共通事項〕を位置付け、表現活動と鑑賞活動の関連を図るようにすることが大切である。

評価計画を作成する上では、指導計画で重点化した指導内容や〔共通事項〕を踏まえつつ、題材全体における評価の観点のバランスを考慮し、1 単位時間の評価を厳選・設定することにより、指導と評価の一体化を図ることに留意したい。なお、表現領域においては「音楽への関心・意欲・態度」、「音楽表現の創意工夫」、「表現の技能」の3 観点で、鑑賞領域においては「音楽への関心・意欲・態度」、「鑑賞の能力」の2 観点で評価する。

(2) 評価方法及び評価の時期

音楽科の授業は、生徒の主体的な音楽活動を通して展開されていく。したがって、音楽活動における生徒の学習している状況を直接的に評価することが多くなる。例えば、生徒の言動や演奏を観察する方法、音楽ノートやワークシートに記述させたり演奏を録音・録画したりするなど作品として記録する方法がこれに当たる。また、学習内容に応じて自己評価や相互評価を組み合わせる方法も工夫する必要がある。これらの記録を授業中の指導に役立てたり、授業後に整理して次時の授業構想や題材全体の評価に生かしたりしていくことが大切である。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

学習指導要領では、鑑賞領域において「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って（理解して）聴き、言葉で説明する（根拠をもって批評する）」活動が位置付けられている。表現領域においても、知覚・感受したこと、表現への思いや意図などを伝え合ったり理解し合ったりする上で言語活動は欠かせない。

音楽にふれているときの生徒に目を向けると、身体の動きやつぶやき、表情の変化などが見て取れる。このとき生徒は、音楽に反応して拍を刻んだり、拍の流れを感じていたり、旋律を口ずさんだりしながら、楽しさや喜びなどを感じているのである。この様子をとらえ生徒に問い返すことが、音楽の何に反応し、どんなことを感じていたのかを言葉で明確にすることにつながり、生徒の音楽的な感受を理解する上で重要な手立てとなる。

(2) 〔共通事項〕と学習評価

学習指導要領に新設された〔共通事項〕は表現及び鑑賞の活動を支えるものである。また、生徒が音楽を聴取するポイントかつ感受する根拠であり、音楽の価値を見だし他者と分かち合うためのものでもある。したがって、指導内容を構想するときには、取り扱う〔共通事項〕を精選・重点化するとともに、指導の手立てや評価の内容に生かしていくことが求められる。

(音楽科における学習指導と学習評価の実際)

1 題材名 「ふるさとの四季」を箏曲で表現しよう (第3学年)

※ 教材

- ・ 「後世に残したい郷土の四季」をテーマにした箏による旋律創作
- ・ 箏曲「荒城の月」
- ・ 鑑賞曲「さくらさくら変奏曲」

※ 学習指導要領の内容

◎A(3)イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。

○A(2)イ 楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏すること。

※ [共通事項]: 音色, 旋律, 形式, 構成

2 題材の目標

創作に関心をもち、箏の音色や響き、平調子による旋律、構成を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、表現したいイメージをもって、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを生かした旋律をつくったり、演奏したりする。

3 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
箏の音色や響き、平調子や曲の構成、全体のまとまりなどに関心をもち、それらを生かして音楽表現を工夫して旋律をつくったり演奏したりする学習に主体的に取り組もうとしている。	箏の音色や音のつながり方、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、イメージにふさわしい音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	曲のイメージを生かした音楽表現をするために必要な音の組合せ方、記譜の仕方を身に付けて形式に基づいた旋律をつくり、自作の曲を表現するために必要な技能を身に付けて演奏している。

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、題材の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画 (本時)

学習活動 ＜〔共通事項〕＞	学習活動に即した評価規準 (評価方法)		
	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
1 箏の演奏や、変奏曲の鑑賞から曲の構成について理解を深める。(2時間) ①箏による「荒城の月」の演奏 ＜音色＞＜旋律＞	◆箏の音色や響き、曲の構成に関心をもち、箏の基本的な奏法、音のつながり方などに留意して主体的に演奏に取り組もうとしている。 (学習カードの分析)		
②「さくらさくら変奏曲」の鑑賞 ＜旋律＞＜構成＞		◆楽曲を形づくっている旋律、構成などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 (学習カードの分析)	◆音楽表現をするために必要な箏の基礎的な奏法や読譜の仕方などの技能を身に付けて演奏している。 (演奏の聴取)
2 ペアで情景のイメージをもとに、旋律をつくる。(3時間) ①イメージの共有と動機の創作 ＜旋律＞	◆平調子の雰囲気や音のつながり方に関心をもち、イメージを生かして旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 (発言、態度等の観察)		
②ペアによる創作 ＜旋律＞＜形式＞ ＜構成＞		◆反復、変化、対照などの構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、イメージにふさわしい音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。 (態度等の観察)	
③練り上げ ＜形式＞＜構成＞			◆イメージを生かした音楽表現をするために必要な音の組合せ方、記譜の仕方を身に付けて、形式に基づいた旋律をつくっている。 (作品の聴取)
3 作品の発表会を行う。(1時間) ・ 表現の工夫 ・ 作品発表 ＜音色＞＜旋律＞			◆自作の曲を表現するために必要な奏法などの技能を身に付けて演奏している。 (演奏の分析)

※ 「評価規準の設定例」を基に、具体的な学習活動を踏まえ、言葉を省略したり変更したりしている。

5 本時の目標

- 「後世に残したい郷土の四季」のイメージからつくった動機をもとに、思いや意図をもって、反復、変化、対照などの構成を生かした二部形式による旋律をつくる。

6 学習過程（指導と評価の計画）

段階	学習内容・活動	時間形態	○指導上の留意点 評価規準（評価方法） ■Bに達しない生徒への手立て
課題把握	1 前時に創作した「動機」の紹介をする。 ○ 動機の確認とその紹介	5 一斉	○ ペアで創作した動機（2小節）をリレー奏で発表させる。
	2 本時のめあてをとらえ、活動の見通しをもつ。 自分たちが選んだ情景のイメージにふさわしい旋律をつくろう。	5 一斉	○ これまでの学習を振り返り、旋律をつくるルールを確認する。 ・ ペアのイメージに合う曲を創作すること。 ・ 二部形式の曲（16小節）であること。 ・ 七の音で始まり、五の音で終止すること。 ・ 縦書きの楽譜に漢数字で記譜すること。
課題追究	3 旋律を創作する。 (1) 表したい情景や雰囲気合う2部形式の旋律を協力して創作する。 ○ 2部形式の確認 ○ 動機をもとにした創作 (2) ペアで練り上げる。 ○ イメージにふさわしい音楽表現を工夫している友達の作品の鑑賞 ○ 作品の練り上げ	35 ⑨ ペア ・ 一斉 ⑩ 一斉 ・ ペア	○ 動機をもとにペアで分担を決め、創作させる。その際、自分たちが表現したいイメージに一番ふさわしい旋律を、相談しながら決めていくように助言する。 ○ 「荒城の月」の楽譜をもとに、反復、変化、対照などの構成について確認し、動機の展開を考えさせる。 ○ 動機をもとにした創作が進んでいるペアには、いろいろな奏法を試しながら、イメージにふさわしい奏法を取り入れるよう助言する。 【音楽表現の創意工夫】 反復、変化、対照などの構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、イメージにふさわしい音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。 (態度等の観察) ■ イメージを図形譜にしたり、言葉にしたりして構想を膨らませるよう助言する。また、いくつかの「反復、変化、対照」のパターンを例示し、動機展開のヒントを示す。
まとめ	4 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。	5 個人 ・ 一斉	○ イメージにふさわしい構成を意識した旋律になっているかという観点から、ワークシートに振り返りを記入させ、形式や構成を練り上げていこうとする意識を高めていく。

※ 評価規準は「おおむね満足できる状況（B）」について設定する。

図画工作（小）

1 図画工作科における学習評価の考え方

図画工作科では、創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり、主体的にかかわっていく態度を育むことを目指している。

学習評価は、図画工作科で目指す児童像を実現するために行うものであり、学習評価を行う際には、題材の目標、内容、学習活動等に応じて「造形への関心・意欲・態度」、「発想や構想の能力」、「創造的な技能」、「鑑賞の能力」の4つの評価の観点の趣旨を生かしながら、適切な「題材の評価規準」や「学習活動に即した評価規準」を設定することが大切である。

2 教科目標及び評価の観点等

(1) 図画工作科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

(2) 評価の観点及びその趣旨

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自分の思いをもち、進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや材料などを基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途などを考えたりしている。	感覚や経験を生かしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫している。	作品などの形や色などから、表現の面白さをとらえたり、よさや美しさを感じ取ったりしている。

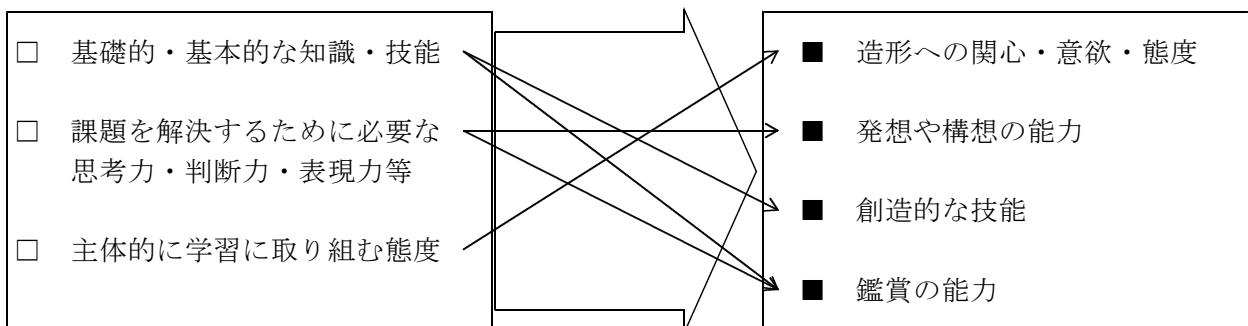
※ 具体的な評価場面では、「内容のまとまり」ごとに評価の観点を設定する。

※ 「内容のまとまり」は、学習指導要領の内容の「A 表現（1）造形遊び」、「A 表現（2）絵や立体、工作」、「B 鑑賞（1）鑑賞」である。

(3) 学力の3要素と評価の観点との関係

[学力の3要素]

[図画工作科の評価の観点]



※ 図画工作科においては、「学力の3要素」と「評価の観点」との関連性について、「→」は主なものを示してある。「学力の3要素」と「評価の観点」との関連については、各題材ごとに、評価の観点に沿ってねらいと評価規準を設定し、指導のプロセスにおいて、児童が身に付く学力を見極めながら指導と評価を進めていくことになる。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

教科目標の達成を目指して表現及び鑑賞の各領域の内容をバランスよく計画に位置付ける。また、表現及び鑑賞は個別に扱うのではなく、相互の活動に関連性をもたせながら〔共通事項〕の内容を視点として題材を計画し、ねらいに応じた手立てを講じた上で、適切な方法によって評価する。

指導と評価は、生きる力を育むために、児童一人一人のよさや可能性の実現を目指して取り組む。指導と評価の一体化を図り、学習評価を個々の授業の改善に加え、学校における教育活動全体の改善に結び付ける。また、学校として組織的な取組を推進し、学習評価の妥当性、信頼性等を高め、説明責任を果たすとともに、児童や保護者との間で必要な情報の共有を進めることも重要である。

(2) 評価方法及び評価の時期

評価方法としては、児童の発言内容（自分の考えやグループでの話し合いの様子を含む）、アイデアスケッチ、ワークシートの記述内容、活動の内容、作品などが考えられる。記録に関しては、座席表や観点別の一覧表などを作成しておき、視点を定めて効率的に行う。

また、評価時期については、導入時、発想・構想時、制作の初期・中期・末期に行う他、全体評価として完成作品やワークシートなどから取組の変容や全体像を把握するようにする。

学習評価を効率的に行うためには、あらかじめ題材計画の中に評価方法と評価時期を明確に位置付けておくことが重要である。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

「言語活動」そのものが目的にならないようにする。「言語活動」を通して、教科の目標が達成され、図画工作科で育むべき資質・能力が育成できるようにする。指導計画の作成に当たっては、形や色、イメージなどの〔共通事項〕を観点として、どのような資質や能力を育成したいのかを明確にして「言語活動」を位置付ける。さらに材料や場所の特徴、表したいことや用途などについて、考えたことを伝え合ったり、形や色、材料の感じなどを生かして表現するなどの学習を一層重視しながら評価する。

(2) 〔共通事項〕と学習評価

表現及び鑑賞の各活動において、共通に必要な資質や能力を〔共通事項〕として示す。指導においては、自分の感覚や活動を通して形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これを基に自分のイメージをもつことが十分に行われるようにする。〔共通事項〕は「すべての活動において共通に働き、授業や指導の見直しにつながるもの」であり、具体的に児童に身に付けさせたい「ア 形や色をとらえる力」「イ 形や色からイメージする力」として位置付けられた。授業を進めるに当たり、常に〔共通事項〕を意識し、どのような力を育むのかを明確にした。

(3) 「図画工作科の役割」と学習評価

図画工作科の題材に対して、児童が自分の発想で表すことを決め、表現する手順の見通しをもって、活動を進める。活動の過程では、活動の方法や用具類の使い方などで創造的な技能を発揮し、問題が発生したときは、よりよい方法を考えて解決したり、アイデアを変更したりして対応を図る。教師の指導や支援を受け、友達と相談しながらも、最終的には自分で判断、決定して作品を完成させる。このような学びの過程を経て身に付く学力は「生きる力」そのものである。

(図画工作科における学習指導と学習評価の実際)

- 1 題材名 「行ってみたい○○の世界」 (第3学年)
 ※ 学習指導要領における題材の位置付け 「A表現(2)」及び「B鑑賞」
- 2 題材の目標
 行ってみたい想像の世界への思いをふくらませながら、斜めに切った段ボール箱の中への配置を考えたり、思いに合わせた材料の使い方を工夫したりして立体に表す。
- 3 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自分の想像の世界を表すことや、自他の作品のよさや面白さを感じ取ることを楽しもうとしている。	・自分が表したい想像の世界のイメージに合わせて、形や色、組み合わせを考えている。 ・素材やテーマからイメージを広げたり、表した形や色、組み合わせから、新たにイメージを広げたりしている。	自分の思いが表れるように、材料の使い方や配置を工夫している。	友達とかかわりながら、自他の表現で遊び、よさや面白さを捉えている。

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、題材の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画 (本時)

学習活動	学習活動に即した評価規準 (評価方法)			
	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1 題材や半分に切った段ボールと出会い、表したい想像の世界を考える。(1時間) ①半分の段ボールの空間に表す想像の世界を考える。 ②想像の世界に登場する自分の画像を撮影する。	◆自分の想像の世界を、半分の段ボールの空間の中に表すことを楽しもうとしている。(対話・アイデアスケッチ)	◆想像の世界と空間の使い方や想像の世界と材料を関係付けながら、想像の世界へのイメージを広げている。(対話・アイデアスケッチ)		
2 思いに合わせて、工夫して表す。(2時間) ①持参した材料や共同で使用する材料の組み合わせを考えて表す。 ②想像の世界に必要なアイテムや、登場する自分などの配置を考えながら表す。		◆思いに合わせて、全体や部分の形や色を考えたり、材料の組み合わせを考えたりしている。(対話・ワークシート)	◆材料の見立てや使い方、配置を試しながら工夫して表している。(ワークシート・作品)	
3 表しながら思いをさらにふくらませて表す。(2時間) ①目の前の途中表現を基に、新たなイメージをもつ。 ②新たなイメージの具現に向けて表す。		◆つくり出される表現からさらにイメージをふくらませ、必要なアイテムを思い付いている。(対話・ワークシート・作品)	◆切ったり重ねたり、かき加えたりして表している。(対話・ワークシート・作品)	
4 自他の表現で遊びながら、鑑賞をしたり、題材を振り返ったりする。(1時間) ①自他の表現で遊びながら、鑑賞をする。 ②自他の表現のよさや面白さを基に、題材を振り返る。	◆自他の作品のよさや面白さを感じ取ることを楽しもうとしている。(発表・ワークシート・作品)			◆自他の表現で遊び、材料の使い方や配置のよさや想像の世界の面白さを捉えている。(発表・ワークシート・作品)

※ 「評価規準の設定例」を基に、具体的な学習活動を踏まえ、言葉を省略したり変更したりしている。

5 本時の目標

- 思いに合わせて、材料の組み合わせや配置を試しながら、工夫して表すことができる。

6 学習過程（指導と評価の計画）

段階	学習活動・内容	時間	形態	○指導上の留意点 評価規準（評価方法） ■ B に達しない児童への手立て
課題把握	1 本時のめあてをつかむ。 材料の組み合わせや、置く場所を考えながら表そう。	10	一斉	○ 児童が前時に思い描いた想像の世界を例として取り上げるとともに、雰囲気や必要なアイテムについて具体的に引き出す。そして、どのような材料で、どのあたりに配置するとよいかについて話し合うことにより、本時のめあてを捉えることができるようにする。
課題追究	2 材料の組み合わせや配置を考えながら表す。 ○ 材料の組み合わせ ・ 空は画用紙と綿で ・ 草は画用紙で、地面は砂で ・ 城は空き箱で、飾りは毛糸などで ○ 配置の仕方 ・ 奥には森を、手前には草むらわを ・ 大きい建物は向こう側に、小さい建物は手前に ・ 空中ブランコは一番上に ・ 乗り物が通れるように隙間を空けて建物を並べて など	70	個人	○ 材料を選んだり、組み合わせを試したりしている児童の思いを聞き、全体や部分をどのようにするかイメージをもって取り組むよさや、見通しをもって組み合わせを試しているよさを称賛し、周りに広める。そのことにより、思いに合わせて考えながら取り組むことができるようにする。 【発想や構想の能力】 思いに合わせて、全体や部分の形や色を考えたり、材料の組み合わせを考えたりしている。（対話・アイデアスケッチ） ■ 表したい想像の世界へのイメージを引き出し、用いる材料や材料の組み合わせについていくつか提案し、児童が選択することができるようにする。 ○ 材料の向きや形を変えたり加工したりしている児童、考えながら置き場所を決めている児童の思いに傾聴し、表し方のよさについて称賛する。そのことにより、さらに材料の生かし方や配置を工夫して表すことができるようにする。 【創造的な技能】 材料の見立てや使い方、配置を試しながら工夫して表している。（作品・ワークシート） ■ 材料の使い方や配置で悩む児童に対し、具体物を操作しながら示したり、友達の表現を参考に促したりして、思いの具現につながるようにする。
まとめ	3 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。	10	個人	○ 自他の材料の組み合わせや配置の仕方の工夫を振り返って現在の立ち位置を確認させた後、さらに取り組みたいことについて問いかけて引き出し、次時への見通しをもつことができるようにする。

※ 評価規準は「おおむね満足できる状況（B）」について設定する。

美術（中）

1 美術科における学習評価の考え方

美術科における学習は、単に絵や立体などの作品に表現できるようにすることが目的ではない。表現や鑑賞の活動を通して生涯にわたって美術を愛好する心情を育てるとともに豊かな情操を養うなど、生活を豊かにしてよりよく生きることを目指している。

学習評価は、このような教科で目指す生徒像を実現するために行うものであり、学習評価を行う際は、題材の目標、学習活動等に応じて「美術への関心・意欲・態度」「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」の4つの観点の趣旨を生かしながら、適切な「題材の評価規準」や「学習活動に即した評価規準」を設定することが大切である。

2 教科目標及び評価の観点等

(1) 美術科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

(2) 評価の観点及びその趣旨

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。	感性や想像力を働かせて、美術作品などからよさや美しさなどを感知取り味わったり、美術文化を理解したりしている。

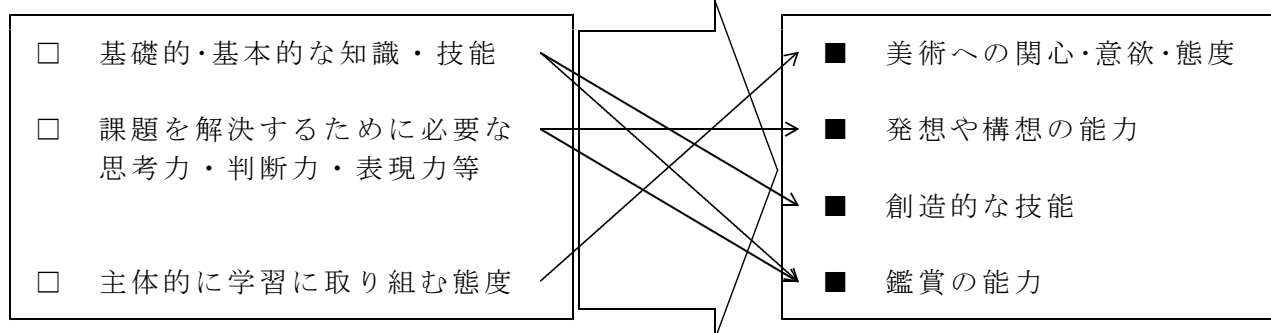
※ 具体的な評価場面では、「内容のまとまり」ごとに評価の観点を設定する。

※ 「内容のまとまり」とは、「A 表現 (1)(3)感じ取ったことや考えたことの表現」「A 表現 (2)(3)目的や機能の表現」「B 鑑賞」である。

(3) 学力の3要素と評価の観点との関係

[学力の3要素]

[美術科の評価の観点]



※ 美術科においては、「学力の3要素」と「評価の観点」との関連性について、「→」は主なものを示してある。「学力の3要素」と「評価の観点」との関連については、各題材ごとに、評価の観点に沿ってねらいと評価規準を設定し、指導のプロセスにおいて、生徒に身に付く学力を見極めながら指導と評価を進めていくことになる。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

教科目標の達成を目指して表現及び鑑賞の各領域の内容をバランスよく計画に位置付ける。また、表現及び鑑賞は個別に扱うのではなく、相互の活動に関連性をもたせながら〔共通事項〕の内容を視点として題材を計画し、ねらいに応じた手立てを講じた上で、適切な方法によって評価する。

評価の位置付けにあたっては、題材や授業のねらいを踏まえ、育みたい資質や能力を明確にして目標と評価規準を関連付けて設定し、教師が指導した内容について評価を行い、指導と評価の一体化を図る。

(2) 評価方法及び評価の時期

評価方法としては、生徒の発言内容（グループ活動での話し合いの様子を含む）、アイデアスケッチ、ワークシートの記述内容、制作の様子、作品（制作途中の作品を含む）などが考えられる。記録に際しては、座席表や観点別の一覧表などを作成しておき、視点を定めて効率的に行う。

また、評価時期については、導入時、発想・構想時、制作の初期・中期・末期に行う他、全体評価として完成作品やワークシートなどから取組みの変遷や全体像を把握するようにする。

学習評価を効率的に行うためには、あらかじめ題材計画の中に評価方法と評価時期を明確に位置付けておくことが肝心である。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

言語活動の充実は、それ自体が目的ではない。言語活動を充実させることで授業のねらいや教科目標の達成を目指すものであり、「発想や構想の能力」や「鑑賞の能力」等の資質や能力を育み、高めることにある。

表現においては、「発想や構想の能力」を高めるためにアイデアスケッチで構想を練ったり、言葉で整理するなどの学習を一層充実させるようにする。また、鑑賞においては、「鑑賞の能力」を高めるために作品に対する自分の価値意識を話し合うなど、対象の見方や感じ方を広げる等の学習を一層充実させるようにする。

(2) 〔共通事項〕と学習評価

〔共通事項〕は、「A 表現」と「B 鑑賞」の活動の中で共通に働いている資質や能力であり、形や色彩、感情、材料などから性質や感情、イメージなどを豊かに感じ取る力の育成をねらいに設けられたものである。

授業においては、〔共通事項〕の視点から言語活動の充実を図ったり、〔共通事項〕の視点から評価規準を設定したりすることが大切である。生徒が「色遣いから〇〇のように感じる」とか「想いを□□に置き換えて表現した」など、教師が〔共通事項〕を意識して手立てを講じることで、育成したい資質や能力が具体的なものになってくる。

(3) 「主題を生み出すこと」と学習評価

美術科の学習は、価値を生み出す（見出す）活動であるといってもよい。その意味では鑑賞も創造活動であり、作品や他者とのかかわりをとおして意味や価値をつくり出したり、他者との共有によって自分の価値観に自信をもったりする。

生徒自らが強く表現したいことを心の中に思い描くことにより主題が生まれ、作品として顕在化する。学習評価は、「主題を生み出す」手立てを教師がどのように設定し、学習状況をどのような方法で把握し、さらに次の手立てを講じていくかという指導と評価の計画に基づき行う。このことが主題性のある作品づくりや魅力ある授業づくりを可能とする。

(美術科における学習指導と学習評価の実際)

1 題材名 「かたちを重ねて表そう」回転木版画の制作 (第1学年)

※ 学習指導要領における題材の位置付け 「A表現(1)絵や彫刻」及び「B鑑賞」

2 題材の目標

版で表すことに関心を持ち、材料や構成の美しさを考えながら、木版画のよさや制作の楽しさを味わうことができる。

3 題材の評価規準

美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ・版で表現することに関心を持ち、主体的に構想を練ったり材料や用具を生かしたりしている。 ・版画作品に関心を持ち、主体的に作品のよさや美しさを感じ取ろうとしている。 	<p>感性や想像力を働かせて、幾何形を組み合わせた形や色彩の重なるの美しさなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考えて構成を工夫し、表現の構想を練っている。</p>	<p>感性や造形感覚などを働かせて、材料や構成の美しさなどを考え、意図に応じて材料や用具を生かしたり、制作の順序などを考え、見通しをもったりしながら、創意工夫して表現している。</p>	<p>感性や想像力を働かせて、版画作品の表現のよさや美しさを感じ取り、相互に意見を交換して理解を深め、版画作品のよさや美しさを創造的に味わっている。</p>

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、題材の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画（本時 ）

学習活動	学習活動に即した評価規準（評価方法）			
	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<p>1 課題の把握 （1時間）</p> <p>①参考作品を鑑賞し、これから制作する内容について理解する。</p> <p>②ラワンベニヤ板から版材を切り出す。</p>	<p>◆版表現に関心をもち、作品を主体的に鑑賞し、よさを感じながら楽しく制作しようとする。（発言内容、対話）</p>		<p>◆カッターナイフの安全な使い方を理解し、材料を切断している。（制作の様子）</p>	
<p>2 表現の発想・構想 （1時間）</p> <p>①ワークシートに版下絵を複数発想し、アイデアを構想する。</p> <p>②版下用紙に決定した版下絵図案を描く。</p>	<p>◆版の効果をイメージしながら、主体的にアイデアを生み出そうとしている。（アイデアスケッチ、対話）</p>	<p>◆条件を考慮しながら、形の重なり的美しさを想定して構想を練っている。（アイデアスケッチ、版下絵）</p>		
<p>3 作品の版制作 （4時間）</p> <p>①版木に転写する。</p> <p>②糸鋸、カッターナイフ、彫刻刀等で製版する。</p> <p>③版を仕上げる。ブラシで目立てをする。</p>	<p>◆加工のおもしろさを感じながら、用具類を工夫して用いて表現しようとしている。（制作の様子）</p>		<p>◆版画の反転作用を理解し、用具を正しく用いている。（版木）</p> <p>◆用具の特性を生かし、安全に加工している。（制作の様子）</p> <p>◆用具や素材の特性を理解し、正しい手順で表現している。（版木、制作の様子）</p>	
<p>4 作品の摺り</p> <p>①1色ずつ版を90°回転させながら3色重ね摺りする。</p> <p>②色を選択して摺る。</p>		<p>◆色の重ね方や版の重ね方を自由に発想して工夫している。（作品、対話）</p>	<p>◆インクの特性やインクの量の加減などに留意しながら表そうとしている。（作品、制作の様子）</p>	
<p>5 鑑賞・反省</p> <p>①完成作品を鑑賞し合い、友達の作品の題名を考える。</p> <p>②制作を振り返り、まとめる。</p>	<p>◆友達の様々な表現効果を感じ取ろうとしている。（鑑賞の様子）</p> <p>◆自分の経験と照らし合わせて、意欲的に作品から感じ取ろうとしている。（話し合いの様子、ワークシートの記述）</p>			<p>◆友達の作品からイメージをわかせて自分の思いや考えをもって味わっている。（鑑賞の様子）</p> <p>◆版画作品のよさや美しさなどを感じ取り、美術文化の特性やよさに気付いている。（ワークシートの記述）</p>

※ 「評価規準の設定例」を基に、具体的な学習活動を踏まえ、言葉を省略したり変更したりしている。

5 本時の目標

- 版制作の条件を考慮し、形の重なりのおもしろさをもとに主題を生み出し、アイデアを練りながら版下絵を構想する。

6 学習過程（指導と評価の計画）

段階	学習活動・内容	時間	形態	○指導上の留意点 評価規準（評価方法） ■ B に達しない生徒への手立て
課題把握	1 本時の学習課題を把握する。 形の重なりのおもしろさをイメージして版下絵を描こう。	10	一斉	○ 前時に鑑賞した回転木版画の参考作品を例として、形の重なり方のいくつかのパターンを提示し、幾何形（○△□など）の重なりや、重なったときに見られる形を想定して、版下絵が描けるようにする。
課題追究	2 回転木版画の条件に従って版下絵を構想する。 (1) 条件を把握する。 ○ 版下絵の条件 ・全体の面積の2/3は彫らずに残す ・対称の位置に同じ形を作らない ・版の外側の角を2つ以上残す ○ 形の考え方 ・○△□のような単純な組み合わせから ・具体的な形を単純化して (2) アイデアスケッチを描く。 3 版下用紙に版下絵を描く。 (1) いくつかのアイデアスケッチから気に入ったものを選ぶ。 (2) 実寸の用紙に形を修正しながら版下絵を描く。	35	一斉 個人	○ 版を回転させながら、重ね摺りで表すことをイメージして、条件をもとに構想させる。 ○ 前時の材料の切り出しの体験から、細かい形や、複雑な形より、単純な形の組み合わせが効果的なことに気付かせる。 【発想や構想の能力】 条件を考慮しながら、形の重なりをイメージしながら構想を練っている。 (アイデアスケッチ) ■ 自分のお気に入りのものや形から構想し、全体のイメージがもてるようにする。 ○ 実寸を縮小した正方形の枠に、いくつかのイメージを構想させ、数多くのアイデアスケッチから気に入ったイメージを選択させるようにする。 【美術への関心・意欲・態度】 版の重なりのおもしろさをイメージしながら、主体的にアイデアを生み出そうとしている。 (アイデアスケッチ・版下絵) ■ 繰り返しの形やの大小などを提示して発想を広げられるようにする。
まとめ	4 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。	5	個人	○ 版下図の作成を振り返って、完成した版下絵をもとに工夫点をまとめさせる。また、作品の制作手順を確認させ、次時の転写への見通しをもたせる。

※ 評価規準は「おおむね満足できる状況（B）」について設定する。

家庭（小）

1 家庭科における学習評価の考え方

家庭科においては、教科の目標から、生活の自立の基礎を培うことに重点を置き、衣食住などに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にしている心情を育むこと、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てることを重視している。このような資質や能力を一人一人に確実に身に付けさせるためには、題材の工夫とともに指導計画の立案から評価計画を組み込み、評価を学習指導に生かすことが重要である。

家庭科では、「家庭生活への関心・意欲・態度」「生活を創意工夫する能力」「生活の技能」「家庭生活についての知識・理解」の4つの観点の趣旨を生かしながら、適切な「題材の評価規準」や「学習活動に即した評価規準」を設定し、指導と評価の工夫改善に当たらなければならない。

2 教科目標及び評価の観点等

(1) 家庭科の目標

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にしている心情を育み、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

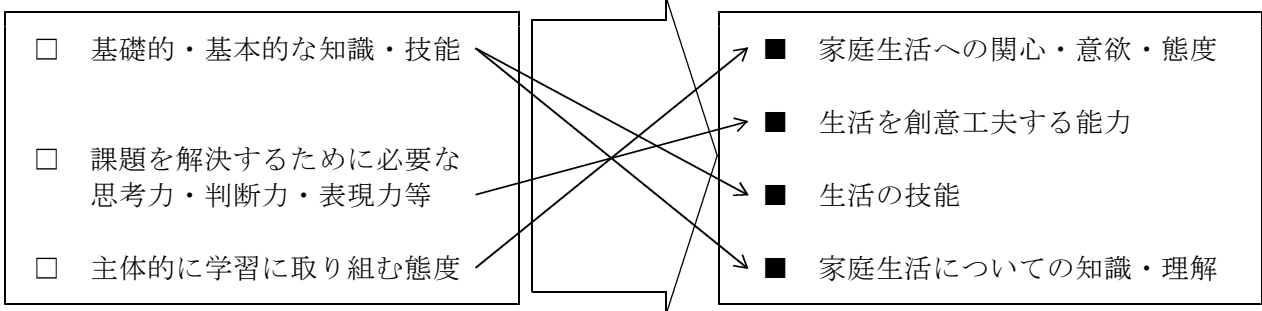
(2) 評価の観点及びその趣旨

家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
衣食住や家族の生活などについて関心を持ち、その大切さに気づき、家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。	家庭生活について見直し、身近な生活の課題を見付け、その解決を目指して生活をよりよくするために考え自分なりに工夫している。	日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

(3) 学力の3要素と評価の観点との関係

〔学力の3要素〕

〔家庭科の評価の観点〕



※ 学習指導要領改訂の趣旨を評価に反映させるために、家庭科においては、「学力の3要素」を上図のように「4つの評価の観点」に整理した。特に、今回の改訂では、思考・判断したことを、その内容を表現する活動と一体的に評価することがポイントとなっている。そのため、「生活を創意工夫する能力」の観点は、よりよい生活を目指して課題を解決する能力をとらえようとするものであり、家庭生活における身近な課題を様々な角度から考える思考力、考えたことをもとに課題の解決を図るための判断力、自らの考えを的確に表す表現力などを含んでいる。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

指導計画の作成に当たっては、2年間を見通してA～Dの4つの内容を、各学校の特色や地域性を考えて、各内容の指導の順序及び各事項の重点の置き方に工夫を加え、効果的な学習指導ができるように題材を構成し、2学年間にわたって適切に配列して、指導計画を作成することが大切である。その中で、「A家庭生活と家族」の(1)アについては、第5学年の最初に履修させるなどガイダンス的な内容として計画することが必要である。

また、評価においては、家庭科では内容相互の関連を図り、題材を構成して指導することから、「題材の評価規準」は、題材の指導目標を明確にして「内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」(国立教育政策研究所)を参考にして設定することになる。その際、毎時間4観点から評価するのではなく、その時間のねらいや学習活動に照らして、いずれかの観点到重点を置くなど、評価規準を適切に設定することが大切である。したがって、2年間を見通した年間指導計画をもとに、各題材で指導する内容を明確にして評価計画を立てる必要がある。

(2) 評価方法及び評価の時期

評価方法としては、作品、ワークシートの記述内容、行動観察、発言内容、実技テスト、ペーパーテスト等が考えられる。これらの特徴を生かし、評価場面や時期によって、評価方法を工夫することが必要であり、評価結果の積み重ねにより総合的に評価することが求められている。

また、評価時期については、学期末や学年末だけでなく題材や単位時間ごとに設ける等、様々な角度から継続的に評価することが重要である。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

家庭科の言語活動では、衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために、言葉や図表等を用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮しなければならない。

これらの言語活動を充実させることが、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むことであり、評価するに当たっては、「生活を創意工夫する能力」の観点を意識して行う必要がある。

(2) 問題解決的な学習の充実と学習評価

家庭科では、主体的に生活を営む能力を育てるために問題解決的な学習を重視していることから、結果だけから評価するのではなく、家庭生活に問題意識をもち、課題の解決を目指して、いろいろと考えてよい方法を得ようと自分なりに工夫している過程を含めて評価することが重要である。

(3) 製作及び調理における学習評価

2学年間の中で繰り返し指導する製作や調理にかかわる題材においては、指導すべき技能に抜けがないか、その題材で重点をおく技能は何かを確認する必要がある。その際、基本的なものから応用的なものへ、簡単なものから難しいものへ、要素的なものから複合的なものへと次第に発展するように段階的に題材を配列する。また、年間指導計画において、それぞれの題材での指導内容が学習指導要領の内容項目を網羅しているか確認する。評価においては、重点を置く指導内容を確実に評価するようにする。

(4) 実習の指導と学習評価

家庭科は、実践的・体験的な活動を通して学習することを特徴としているので、その中心的な学習活動である製作や調理などの実習を安全かつ効果的に進めるために、事故の防止に留意する必要がある。また、食品については衛生に十分留意して扱うことを徹底する。実習における安全や衛生については、身に付けるべき基礎的・基本的な知識・技能として、具体的に指導計画に位置付け、身に付いているか評価していかなければならない。

(家庭科における学習指導と学習評価の実際)

1 題材名 「宿泊学習に役立つ袋物を作ろう」(第6学年)

※ 学習指導要領における題材の位置付け C(3)ア, イ, ウ D(2)ア

2 題材の目標

宿泊学習に用いる袋物の製作に関心を持ち、製作手順、目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱い方について理解するとともに、製作計画や環境に配慮した布等の使い方を自分なりに工夫しながら、宿泊学習に用いる袋物を製作することができるようにする。

3 題材の評価規準

家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
宿泊学習に用いる袋物の製作に関心を持ち、布等の材料を無駄なく使い、見通しをもって製作し、活用しようとしている。	宿泊学習に用いる袋物の製作計画や環境に配慮した布等の使い方を考えたり、自分なりに工夫したりしている。	目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱い方に関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	製作手順や目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱い方に関する基礎的・基本的な知識を理解している。

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、題材の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画（本時 ）

学習活動	学習活動に即した評価規準 (評価方法)			
	家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
<p>1 製作物の試作を通して、製作計画を工夫することができる。 (本時・2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙などを使用して試作し、製作手順を確認する。 製作計画を見直す。 		<p>◆無駄のない材料の使い方について考えたり、宿泊学習で活用しやすい袋物になるように、製作計画について自分なりに工夫したりしている。 (行動観察、製作計画表への記述分析、試作品の観察)</p>		<p>◆製作手順や目的に応じた縫い方を理解している。 ┌───────────┐ │ 指導に生かす評価 │ └───────────┘ (行動観察、製作計画表への記述分析、試作品の観察)</p>
<p>2 布等の材料を無駄なく使い、目的に応じた縫い方で製作物を製作することができる。 (4時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料の無駄のない使い方を考えて布を裁つ。 目的に応じた縫い方で製作する。 かがり縫い なみ縫い 半返し縫い 本返し縫い ボタン付け ミシンの直線縫い 	<p>◆無駄のない材料の使い方を考えながら、見通しをもって楽しく製作している。 (行動観察、実習記録表への記述分析)</p>		<p>◆目的に応じた手縫いやミシンを用いた直線縫いで製作することができる。 (行動観察、作品観察)</p> <p>◆製作に必要な用具の安全な取扱いができる。 (行動観察)</p>	<p>◆製作手順や目的に応じた縫い方を理解している。 ┌───────────┐ │ 評価結果として │ │ 記録する評価 │ └───────────┘ (行動観察、実習記録表への記述分析、ペーパーテスト)</p> <p>◆製作に必要な用具の安全な取扱い方について理解している。 (行動観察、ペーパーテスト)</p>
<p>(※宿泊学習で活用)</p> <p>3 製作物を紹介し合い、作品の良い点や改善点を見付け、次の製作に生かそうとする。 (1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 製作物を紹介し合い、相互評価を行う。 手作りのよさを味わい、家庭で実践できることを考える。 	<p>◆製作物を活用した感想を発表し合い、活用する喜びを味わっている。 (発表分析)</p>	<p>◆製作物を相互評価し、作品の良い点や改善点を考えたり、環境に配慮した物の使い方について自分なりに工夫したりしている。 (ワークシートへの記述分析)</p>		







※ 「評価規準の設定例」を基に、具体的な学習活動を踏まえ、言葉を省略したり変更したりしている。

※ ペーパーテストについては、ある程度の内容のまとまりについて実施する。

5 本時の目標

- 製作物の試し作りを通して、製作手順や目的に応じた縫い方を理解し、製作計画を工夫することができる。

6 学習過程（指導と評価の計画）

段階	学習活動・内容	時間	形態	○指導上の留意点 評価規準（評価方法） ■ Bに達しない児童への手立て
課題把握	1 本時のめあてを確認する。 宿泊学習に持っていく袋の試し作りを通して、製作計画を工夫しよう。	5	一斉	○ 宿泊学習に必要な袋について話し合う中で、宿泊学習に持っていくオリジナル袋を作りたいという意欲をもたせる。 ○ いくつかの袋を提示し、宿泊学習で活用しやすくするためには、袋の形や大きさ、製作手順、縫い方を考え、製作計画を工夫して立てることが大切であることに気付かせる。 ○ 紙での試し作りを通して、製作の見通しをもつことを確認する。
課題追究	2 紙を使って試し作りを行う。 (予想される袋) ・野外活動用品入れ ・下着入れ ・シューズ入れ ・洗面用具入れ 等 3 試し作りをもとに、自分なりに工夫して製作計画を立てる。 (1) 作りたい袋 (2) 形 (3) 大きさ (4) 製作手順 (5) 縫い方 (6) 準備する材料	60	個人・グループ	○ 自分は何を入れる袋を作りたいのかを明確にさせ、紙、のり、ステープラーなどを用いて試し作りをさせる。 ○ 製作したい袋が同じ児童同士でグループを作り、教え合いながら活動できるようにする。 ○ 宿泊学習に持参する物品を用意し、必要な大きさや形を具体的に構想させ、製作手順、縫いしろの必要性、ゆとり、無駄のない材料の使い方、目的に応じた縫い方を確認させる。 ○ 縫い方については、製作計画表の完成図に下記の記号で記入させる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  なみ縫い </div> <div style="text-align: center;">  半返し縫い </div> <div style="text-align: center;">  かがり縫い </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  本返し縫い </div> <div style="text-align: center;">  ミシン縫い </div> <div style="text-align: center;">  ボタン付け </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【家庭生活についての知識・理解】 製作手順や目的に応じた縫い方を理解している。 (行動観察・製作計画表への記述分析、試作品の観察)</p> <p>■ 試作品を観察させ、製作手順を考えさせる。 ■ 参考作品を提示し、既習の手縫いやミシン縫いを活用して、丈夫に縫う箇所を視覚的にとらえさせる。</p> <p>○ 製作計画を工夫するとは、どのような形や機能をもつ袋にするかなどを具体的に構想し、目的にあっているか、使って便利であるか、好みの外観であるかなどを考えて、適切な形や大きさ、デザインにすることであることをおさえる。 ○ 無駄のない材料の使い方を考えさせるために、自宅にある布やボタン、古着などの再利用をうながす。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【生活を創意工夫する能力】 無駄のない材料の使い方について考えたり、宿泊学習で活用しやすい袋物になるように、製作計画について自分なりに工夫したりしている。 (行動観察、製作計画表への記述分析、試作品の観察)</p> <p>■ 試作によりわかった布の長さや付属品の個数を確認させる。 ■ 製作見本等を用意し、自分の製作計画と比べたり、縫い方や大きさを確認したりできるようにする。</p> </div>
まとめ	5 本時の学習のまとめをする。	5	一斉	○ 次時から製作することを伝え、材料を準備し、本時の試し作りの手順を確認しておくように助言する。

※ 評価規準は「おおむね満足できる状況（B）」について設定する。

技術・家庭(技術分野)

1 技術・家庭科(技術分野)における学習評価の考え方

技術・家庭科(技術分野)は実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を通して、基礎的・基本的な内容の確実な定着と個性を生かす教育の充実を図らなければならない。そのためには技術・家庭科の学習が生徒にとって主体的な活動となり、学ぶことの喜びを実感させるためにも、題材の工夫とともに指導計画の立案から評価計画を組み込み、評価を学習指導に生かすことが重要である。生徒のものづくりなどのレディネスを的確にとらえ、指導過程を工夫し、確実な習得を図るためにも情意面等も含めた指導と評価の一体化が必要である。

技術・家庭科では「生活や技術への関心・意欲・態度」「生活を工夫し創造する能力」「生活の技能」「生活や技術についての知識・理解」の4つの観点から、それぞれの題材についての評価規準を設定し、指導と評価の工夫改善に当たらなければならない。

2 教科目標及び評価の観点等

(1) 技術・家庭科(技術分野)の目標

- ① 生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。(教科の目標)
- ② ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。
(技術分野の目標)

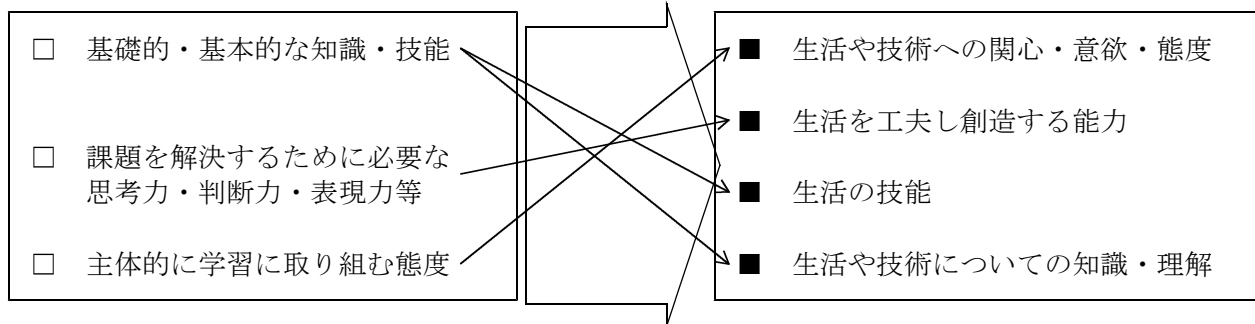
(2) 技術分野の評価の観点及びその趣旨

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する技術について関心を持ち、技術の在り方や活用の仕方等に関する課題の解決のために、主体的に技術を評価し活用しようとする。	材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する技術の在り方や活用の仕方等について課題を見つけるとともに、その解決のために工夫し創造して、技術を評価し活用している。	材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する技術を適切に活用するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する技術についての基礎的・基本的な知識を身に付け、技術と社会や環境とのかかわりについて理解している。

(3) 学力の3要素と評価の観点との関係

[学力の3要素]

[技術・家庭科の評価の観点]



※ 学習指導要領改訂の趣旨を評価に反映させるために、技術・家庭科においては、「学力の3要素」を前ページの図のように「4つの評価の観点」に整理した。特に、今回の改訂では、思考・判断したことを、その内容を表現する活動と一体的に評価することがポイントとなっている。そのため、

「生活を工夫し創造する能力」の観点は、生活を営む上で生じる課題に対して、自分なりの判断をして課題を解決することができる能力、すなわち、問題解決能力をとらえようとするものであり、課題に対して様々な角度から考える思考力、その思考力を総合して解決を図る判断力、判断した結果を的確に総合的に示すことができる表現力などを含んでいる。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

指導計画の作成に当たっては、中学校3年間を見通してA～D 4つの内容を生徒や地域の実態、履修学年に応じて適切に配列することが大切である。その中で、「A材料と加工に関する技術」の(1)は、第1学年の最初に履修させるなどガイダンス的な内容として計画する必要がある。

また、評価においては、題材や授業のねらいを踏まえ、学習が生徒にとって主体的な活動となり、学ぶことの喜びを実感できるよう評価計画を立てなくてはならない。特に作品づくりや観察、実験においては、授業の前後や指導過程に評価を取り入れて生徒のよい点や進歩の状況を積極的にとらえ、より意欲的に学習に取り組ませるよう、学習課題、学習コースの選択、学習形態を工夫し、次の指導に生かすようにする。具体的には、「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」や「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校 技術・家庭」(国立教育施策研究所)を参考に行うが、一単位時間当たり、多くの観点を評価することのないよう、学習のねらいに即して計画を立てることが大切である。

(2) 評価方法及び評価の時期

評価は、レディネスとして題材に関する生徒の実態、定着状況を把握するために、工具の使い方などのパフォーマンステストや質問紙等を行うことが考えられる。また、一単位時間の授業の中では形成的な評価として、実習における観察や作品づくり(プロセス)、ノート等の記述内容等から評価計画を立て、指導と評価の一体化を図る。総括的な評価としては、作品や作品発表会などから題材全体の評価を行い、成績などに利用することができる。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

技術・家庭科では、知的活動の基盤という言語の役割の観点から、実習等の結果を整理し考察するといった学習活動を充実する必要がある。また、教科の特質から、生活における課題を解決するために、言語のみならず、設計図などの図表を用いて考えたり、説明したりする活動も大切である。その際、情報通信ネットワークや情報の特性を生かして伝え合う活動も考えられる。

これら言語活動を充実させることが、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むことであり、これらの活動を評価するに当たっては、生活を工夫し創造する能力や生活や技術への関心・意欲・態度の観点を意識しながら行う必要がある。

(2) 問題解決的な学習の充実と学習評価

技術・家庭科では実際の生活の場で学習したことが生きて働く力になることをねらいとしている。特に、将来にわたって変化し続ける社会に主体的に対応していくには、問題解決能力をもつことが必要である。そのため、学習の進め方として、計画、実践、評価、改善などの一連の学習過程を適切に組み立て、課題把握、解決の見通し、課題解決、まとめと生徒が段階を追って学習を深めていく必要がある。

そこで、課題を解決する時には、課題解決の根拠となる価値判断の基準が大切なので、生徒個々が課題に直面した時のよりどころとなる価値観を育成することが必要である。その際、個人の生活の範囲で基準を設定するだけでなく、地域や社会というより大きな視点で考えることができるよう配慮したい。

(3) 実習の指導と学習評価

技術・家庭科では、実習室等の環境整備、材料や工具の管理などの安全管理や、実習室等の使用、学習時の服装などの安全指導を配慮しながら身に付けていかななくてはならない。そのためにも安全の保持や機器類の取扱いには、適切な使用方法を厳守させるなどの事故防止に万全の注意を払わなければならない。これらは、身に付けるべき基礎的・基本的な知識・技能として、具体的に指導計画に位置付け、身に付いているか評価していきたい。

(技術・家庭科(技術分野)における学習指導と学習評価の実際)

- 1 題材名 「〇〇中学校トマト園を成功させよう」(第3学年)
 ※ 学習指導要領における題材の位置付け C(1)ア, (2)ア

2 題材の目標

生物育成に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、生物育成に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深め、生物育成に関する技術を適切に評価し活用する能力と態度を育成する。

3 題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
よりよい社会を築くために、生物育成に関する技術を適切に評価し活用しようとするとともに、生物育成に関する技術に関わる倫理観を身に付け、知的財産を創造・活用しようとしている。	よりよい社会を築くために、生物育成に関する技術を適切に評価し活用するとともに、目的や条件に応じて栽培計画を立て、育成する生物の観察を通して成長の変化を捉え、その変化に応じた対応を工夫している。	生物の適切な管理作業ができる。	生物を取り巻く生育環境が生物に及ぼす影響や、生物の育成に適する条件及び育成環境を管理する方法についての知識を身に付け、生物育成に関する技術と社会や環境との関わりについて理解するとともに、生物の計画的な管理方法についての知識を身に付けている。

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、単元の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画 (本時)

学習活動	学習活動に即した評価規準(評価方法)			
	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
1 生物育成技術の特徴 (2時間) ①身の回りの生物を育てる技術の例を調べる。 ②植物・動物を育てる技術を知る。	◆身の回りでの生物育成に関心を持ち、育てる技術について調べようとしている。 (ノート記述分析)			◆様々な環境要因が生物の成長に与える影響について指摘できる。 (ノート記述分析, 観察) ◆生物育成(植物栽培)に適する条件と、育成環境を管理する方法について指摘できる。 (ノート記述分析)

<p>2 生物育成の計画 (2時間)</p> <p>① トマトを育てるための基礎技能を知る。 ② それぞれの目的に合ったトマトの栽培計画を立てる。 (本時2/2)</p>	<p>◆環境に対する負荷や安全に配慮し栽培する方法を考えようとしている。 (ノート, 栽培計画表記述分析)</p>	<p>◆目的に応じた栽培計画を作成するため, 品種, 資材, 育成期間, 管理技術などを社会的, 環境的, 経済的側面から比較検討し決定している。 (栽培計画表記述分析)</p>		<p>◆トマトに発生しやすい病気, 害虫等とそれらを安全に防ぐ知識を身に付けている。 (栽培記録分析)</p>
<p>3 生物育成の管理 (4時間)</p> <p>① 土作りを行う。 ② 種まきを行う。 ③ 移植, 定植, 支柱立て, 誘因, 摘芽, 追肥等を行う。 ④ 病害虫防除をする。 ⑤ 収穫する。 ※適宜かん水をして記録を取る。 ⑥ レポートを作成する。</p>	<p>◆トマト栽培を通して, 学んだことをレポートにまとめ, 生物育成に関する課題を見いだそうとしている。 (レポート記述分析)</p>	<p>◆トマトの成長の変化を捉え, その変化に応じて管理作業や栽培方法を工夫・改善している。 (栽培記録分析)</p>	<p>◆計画に基づき, トマトの管理作業として適切な用具を用いて合理的かつ安全に配慮した作業をすることができる。 (観察, 栽培記録分析)</p>	<p>◆トマトの成長段階における管理作業, 及び必要な資材, 用具, 設備についての知識を身に付けている。 (栽培記録分析)</p>
<p>4 評価・活用 (2時間)</p> <p>① 生物を育てる技術が社会や環境に与える影響を考える。 ② バイオテクノロジーなど, 生物の機能を生かす技術について学ぶ。</p>	<p>◆生物・検討し, 適切な解決しようとしている。 (ノート記述分析)</p>	<p>◆生物育成に関する技術の課題を明確にし, 社会的, 環境的, 経済的側面などから比較・検討し, 適切な解決策を見出している。 (ノート記述分析)</p>		<p>◆生物育成に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響について説明できる。 (ノート記述分析)</p>

※ 「評価規準の設定例」を基に, 具体的な学習活動を踏まえ, 言葉を省略したり変更したりしている。

5 本時の目標

- 生育目的に応じ, 安全で丈夫な面に配慮したトマトの栽培計画を立てることができる。

6 学習過程（指導と評価の計画）

段階	学習活動・内容	時間	形態	○指導上の留意点 評価規準（評価方法） ■Bに達しない生徒への手立て																																																	
課題把握	1 本時の課題を把握する。 安全で丈夫なトマトを育てるにはどうすればよいのだろうか。（トマトの栽培計画を立てよう）	3	一斉	○ トマトの生育の様子（動画）を見せ、課題解決の見通しをもたせる。																																																	
課題追究	2 目的を達成できる品種を選び、適切な栽培方法を選択し、必要な管理作業を調べる。 ・ 品種 ・ 栽培時期 ・ 栽培場所 ・ 栽培方法	15	個人	○ 様々な制約条件を確認させ、目的を達成できる品種選択、栽培方法選択、管理作業の洗い出しをさせるために、種が入っている袋に書いてある資料に気づかせる。																																																	
	3 栽培計画表を作成する。 例 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="5">栽培計画「〇〇中学校トマト園を成功させよう」</th> </tr> <tr> <th colspan="5">年 組 番 氏名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>野菜の種類</td> <td>トマト</td> <td>品種</td> <td></td> <td>科・原産</td> </tr> <tr> <td>品種の特徴</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>テーマ</td> <td colspan="4">「安全で丈夫なトマトを育てる」</td> </tr> <tr> <td>テーマ達成のための対策</td> <td colspan="4">防虫対策としてニラとバジルを一緒に植えて、できるだけ農薬を使わないよう</td> </tr> <tr> <td>時期</td> <td>おこなった作業</td> <td colspan="3">作業の注意点・ポイント</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">4月中旬</td> <td>・種まき</td> <td colspan="3">・種まき用の土を入れた直径9cmのポットに深さ1cmほどの穴を2～4つあけ、1つの穴に1粒ずつまき、覆土し軽く手でおさえる。 ・鉢底から水が出るまで水やりをする。 ※発芽までは土が乾かないようにする。</td> </tr> <tr> <td>・間引き</td> <td colspan="3">・約1週間経過後するので、本葉が2枚になるまでに1株に間引きをする。</td> </tr> <tr> <td>5月上旬</td> <td>・土作り</td> <td colspan="3">・畑に腐葉土、苦土石灰を施し、よく耕す。植えつけ前に、有機質肥料を施し、よく耕す。</td> </tr> </tbody> </table>	栽培計画「〇〇中学校トマト園を成功させよう」					年 組 番 氏名					野菜の種類	トマト	品種		科・原産	品種の特徴					テーマ	「安全で丈夫なトマトを育てる」				テーマ達成のための対策	防虫対策としてニラとバジルを一緒に植えて、できるだけ農薬を使わないよう				時期	おこなった作業	作業の注意点・ポイント			4月中旬	・種まき	・種まき用の土を入れた直径9cmのポットに深さ1cmほどの穴を2～4つあけ、1つの穴に1粒ずつまき、覆土し軽く手でおさえる。 ・鉢底から水が出るまで水やりをする。 ※発芽までは土が乾かないようにする。			・間引き	・約1週間経過後するので、本葉が2枚になるまでに1株に間引きをする。			5月上旬	・土作り	・畑に腐葉土、苦土石灰を施し、よく耕す。植えつけ前に、有機質肥料を施し、よく耕す。			12	個人	○ 2で選択・抽出したものを、時期をふまえて計画表に記入させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【知識・理解】 トマトに発生しやすい病気、害虫等とそれらを安全に防ぐ知識を身に付けている。 （栽培計画表の記述分析）</p> </div> <p>■ トマトの特徴を踏まえて、多い病気と害虫について説明し、それに対処する資料集のページを指摘させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【工夫・創造】 安全で丈夫なトマトを育てるために栽培方法等の管理技術を工夫して栽培計画を作成している。 （ワークシート、栽培計画表の記述分析）</p> </div> <p>■ 4で他の生徒の意見や考えを聞かせ、参考になる事項を取り入れさせる。</p>
	栽培計画「〇〇中学校トマト園を成功させよう」																																																				
	年 組 番 氏名																																																				
野菜の種類	トマト	品種		科・原産																																																	
品種の特徴																																																					
テーマ	「安全で丈夫なトマトを育てる」																																																				
テーマ達成のための対策	防虫対策としてニラとバジルを一緒に植えて、できるだけ農薬を使わないよう																																																				
時期	おこなった作業	作業の注意点・ポイント																																																			
4月中旬	・種まき	・種まき用の土を入れた直径9cmのポットに深さ1cmほどの穴を2～4つあけ、1つの穴に1粒ずつまき、覆土し軽く手でおさえる。 ・鉢底から水が出るまで水やりをする。 ※発芽までは土が乾かないようにする。																																																			
	・間引き	・約1週間経過後するので、本葉が2枚になるまでに1株に間引きをする。																																																			
5月上旬	・土作り	・畑に腐葉土、苦土石灰を施し、よく耕す。植えつけ前に、有機質肥料を施し、よく耕す。																																																			
4 栽培計画を発表し、計画の見直しをする。	15	一斉・個人	○ 同じ目的の計画を立てた生徒の意見を聞かせ、自ら考えた栽培計画と比較させ、よりよい栽培計画を検討させる。																																																		
まとめ	5 本時を振り返り、目的にあった栽培計画を立てたか確認する。 6 次時の見通しをもつ。	5	一斉	○ トマトの特徴ある栽培方法等の管理作業に気付かせる。 ○ 計画表を基に、次時で必要な準備物の確認をする。																																																	

※ 評価規準は「おおむね満足できる状況（B）」について設定する。

技術・家庭（家庭分野）

1 技術・家庭科（家庭分野）における学習評価の考え方

技術・家庭科（家庭分野）は実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を通して、基礎的・基本的な内容の確実な定着と個性を生かす教育の充実を図らなければならない。そのためには、技術・家庭科の学習が生徒にとって主体的な活動となり、学ぶことの喜びを実感させるためにも、題材の工夫とともに指導計画の立案から評価計画を組み込み、評価を学習指導に生かすことが重要である。生徒の作品づくりなどのレディネスを的確にとらえ、指導過程を工夫し、確実な習得を図るためにも情意面等の指導と評価の一体化が必要である。

技術・家庭科では「生活や技術への関心・意欲・態度」「生活を工夫し創造する能力」「生活の技能」「生活や技術についての知識・理解」の4つの観点から、それぞれの題材についての評価規準を設定し、指導と評価の工夫改善に当たらなければならない。

2 教科目標及び評価の観点等

(1) 技術・家庭科（家庭分野）の目標

- ① 生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。（教科の目標）
- ② 衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。（家庭分野の目標）

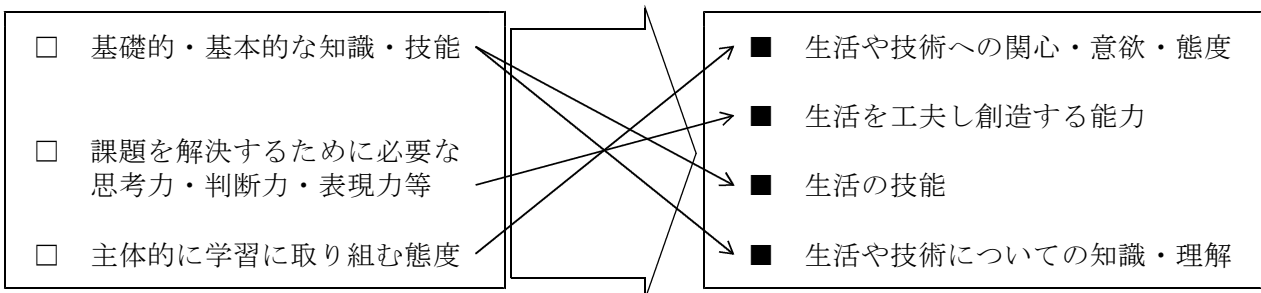
(2) 家庭分野の評価の観点及びその趣旨

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
衣食住や家族の生活などについて関心を持ち、これからの生活を展望して家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。	衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫し創造している。	生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

(3) 学力の3要素と評価の観点との関係

〔学力の3要素〕

〔技術・家庭科の評価の観点〕



※ 学習指導要領改訂の趣旨を評価に反映させるために、技術・家庭科においては、「学力の3要素」を上図のように「4つの評価の観点」に整理した。特に、今回の改訂では、思考・判断したことを、その内容を表現する活動と一体的に評価することがポイントとなっている。そのため、「生活を工夫し創造する能力」の観点は、生活を営む上で生じる課題に対して、自分なりの判断をして課題を解決することができる能力、すなわち、問題解決能力をとらえようとするものであり、課題に対して様々な角度から考える思考力、その思考力を総合して解決を図る判断力、判断した結果を的確に総合的に示すことができる表現力などを含んでいる。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

家庭分野は、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、小学校家庭科との体系化を図り、A～Dの4つの内容で構成され、すべての生徒に履修させることとしている。ただし、学習した知識と技術などを活用し、これからの生活を展望する能力と実践的な態度を育むことの必要性から、「生活の課題と実践」に関する3つの指導事項を設定している。具体的には、「A家族・家庭と子どもの成長」の(3)のエ、「B食生活と自立」の(3)のウ及び「C衣生活・住生活と自立」の(3)のイについては、生徒の興味・関心等に応じて1又は2事項を選択して履修させることとしている。

指導計画の作成に当たっては、中学校3年間を見通して、A～Dの4つの内容を地域や学校及び生徒の実態等を考慮しながら構成し、履修学年や指導内容を適切に配列して、全体として調和のとれた具体的な指導計画を作成することが大切である。その中で、A(1)「自分の成長と家族」については、第1学年の最初に履修させるなどガイダンス的な内容として計画することが必要である。

また、評価においては、家庭分野は内容相互の関連を図り、題材を構成して指導することから、「題材の評価規準」は、題材の指導目標を明確にして「内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」(国立教育政策研究所)を参考にして設定することになる。その際、毎時間4観点から評価するのではなく、その時間のねらいや学習活動に照らして、いずれかの観点到重点を置くなど、評価規準を適切に設定することが大切である。したがって、3学年間を見通した指導計画を基に、各題材で指導する内容を明確にして評価計画を立てる必要がある。

(2) 評価方法及び評価の時期

評価方法としては、作品、ワークシートの記述内容、行動観察、発言内容、実技テスト、ペーパーテスト等が考えられる。これらの特徴を生かし、評価場面や時期によって、評価方法を工夫することが必要であり、評価結果の積み重ねにより総合的に評価することが求められている。

また、評価時期については、学期末や学年末だけでなく題材や単位時間ごとに設ける等、様々な角度から継続的に評価することが重要である。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

技術・家庭科の言語活動では、実習等の結果を整理し考察する学習活動の充実や、生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮しなければならない。

これらの言語活動を充実させることが、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むことであり、評価するに当たっては、「生活を工夫し創造する能力」の観点を意識して行うことが必要である。

(2) 問題解決的な学習の充実と学習評価

技術・家庭科では、生徒自らが課題を発見し、習得した知識や技術を活用し意欲をもって追求し、解決のための方策を探るなどの学習を繰り返し行うことが重要である。そのためには、学習の進め方として、計画、実践、評価、改善などの一連の学習活動を適切に組み立て、生徒が段階を追って学習を深められるよう配慮する必要がある。

このように、技術・家庭科では問題解決的な学習を重視していることから、結果だけから評価するのではなく、家庭生活に問題意識をもち、課題の解決を目指して、いろいろと考えてよい方法を得ようと自分なりに工夫している過程を含めて評価することが重要である。

(3) 実習の指導と学習評価

技術・家庭科では、実践的・体験的な活動を通して学習することを特徴としているので、その中心的な学習活動である製作や調理などの実習を安全かつ効果的に進めるために、事故の防止に留意する必要がある。また、食品については衛生に十分留意して扱うことを徹底する。実習における安全や衛生については、身に付けるべき基礎的・基本的な知識・技能として、具体的に指導計画に位置付け、身に付いているか評価していかなければならない。

(技術・家庭科(家庭分野)における学習指導と学習評価の実際)

1 題材名 「生活を豊かにする防災グッズを工夫して作ろう」(第2学年)

※ 学習指導要領における題材の位置付け C(3)ア, イ ※イ: 生活の課題と実践

2 題材の目標

防災グッズの製作を通して布を用いた物の製作に関心を持ち, 目的に応じた縫い方や用具の安全な使い方を理解し製作することができる。また, 自分や家族の生活をよりよくするための課題を見つけ, その解決を目指して自分なりに工夫することができるようにする。

3 題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
布を用いた物の製作に関心を持ち, 防災グッズの製作に取り組み, 自分や家族の生活をより豊かにするために実践しようとしている。	防災グッズの製作の工夫について課題を見付け, その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	目的に応じた縫い方や用具の安全な使い方に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	目的に応じた縫い方や用具の安全な使い方に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に, 題材の内容に合わせて, 言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画（本時 ）

学習活動	学習活動に即した評価規準（評価方法）				
	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解	
1 生活を豊かにする防災グッズを考え、製作計画を工夫することができる。（1時間） ・習得した知識や技術（小学校の学習並びに補修の技術）を活用し、計画を工夫する。	◆防災グッズの製作計画に関心をもって取り組み、生活を豊かにしようとしている。（行動観察、製作計画表への記述分析）	◆製作物を考え、製作に必要な材料や用具、製作手順、縫い方等の見通しをもち、自分なりに製作計画を工夫している。（製作計画表への記述分析）			
2 補修の技術を取り入れながら、安全に製作することができる。（5時間） 補修の技術 ・まつり縫い ・スナップ付け ・ミシン縫い	◆防災グッズの製作に主体的に取り組んでいる。（行動観察、実習記録表への記述分析）		◆用具を安全に取扱い、目的に応じた縫い方で、防災グッズを製作することができる。（行動観察、作品観察）	◆用具の安全な取扱い、目的に応じた縫い方に関する知識を身に付けている。（行動観察、実習記録表への記述分析、ペーパーテスト）	
（※家庭で活用）					
生活の課題と実践（4時間）	3 製作物を活用し作品の良い点や改善点を見つけ、生活をより豊かにする製作意欲をもつことができる。（1時間） ・製作物を紹介し合い、相互評価を行う。	◆防災グッズを活用した感想を発表し合い、生活を豊かにする製作物の成果と課題を考えようとしている。（発表分析、実習記録表への記述分析）	◆防災グッズの製作の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。指導に生かす評価。 （発表分析、実習記録表への記述分析）		
	4 家族の生活をより豊かにする防災グッズを考え、製作計画を工夫することができる。（本時・1時間） ・前時の課題を解決するための製作計画を立てる。	◆家族の生活をより豊かにする防災グッズの製作に関心をもち、課題を主体的にとらえ、製作計画と家庭での実践に取り組もうとしている。（行動観察、製作計画表への記述分析）	◆家族の生活をより豊かにする防災グッズの製作について、課題解決を目指して、学習した知識と技術を活用し、製作計画を自分なりに工夫している。（製作計画表への記述分析）		
	（※長期休業中）				
	5 計画をもとに家庭で製作し、活用する。				
6 実践報告会を通して、学習した知識と技術を活用し生活をよりよくすることの意義に気付くことができる。（2時間） ・実践を振り返り相互評価を行う。	◆自分や家族の生活を豊かにするために、見通しをもって今後も家庭実践をしようとしている。（実践記録表への記述分析）	◆布を用いた物の製作の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。評価結果として記録する評価。 （発表内容、実践記録表への記述分析）			

※ 「評価規準の設定例」を基に、具体的な学習活動を踏まえ、言葉を省略したり変更したりしている。

※ ペーパーテストについては、ある程度の内容のまとまりについて実施する。

5 本時の目標

- 家族の生活をより豊かにする防災グッズの製作に関心を持ち、課題を主体的にとらえ、製作計画を工夫することができる。

6 学習過程（指導と評価の計画）

段階	学習活動・内容	時間	形態	○指導上の留意点 評価規準(評価方法) ■ Bに達しない生徒への手立て
課題把握	1 前時の課題を振り返り、本時のめあてを確認する。 (予想される前時の課題) ・数が足りない ・もっと必要な防災グッズがある ・素材の問題 ・大きさの問題 等 課題を解決し、家族の生活をより豊かにする防災グッズの製作計画を立てよう。	5	一斉	○ 前時の防災グッズ製作の成果と課題を振り返り、活用することにより新たに生まれた課題の解決を目指して、家族の生活をより豊かにする防災グッズの製作計画を立てることを確認する。 ○ 計画は学校で立てるが、製作については各自が長期休業中に家庭で行うことを確認し、実践可能な計画を工夫して立てることを伝える。 ○ 家庭にミシンがない生徒には、習得した手縫いの技術を活用して製作することを伝える。 ○ 新たに防災グッズを作るのではなく、完成した防災グッズを改良することも考えられることを助言する。
課題追究	2 工夫して製作計画を立てる。 (1) 解決する課題 (2) 解決する方法 (3) 製作物 (4) 製作手順 (5) 目的に応じた縫い方 (6) 材料	30	個人	【生活や技術への関心・意欲・態度】 家族の生活をより豊かにする防災グッズの製作に関心を持ち、課題を主体的にとらえ、製作計画と家庭での実践に取り組もうとしている。 (行動観察、製作計画表への記述分析) ■ 前時の課題が作品に生かせるように、家庭で活用した時のことを想起させたり、友達の作品のよいところを取り入れさせたりする。 ○ 製作計画を工夫するとは、前時の課題を踏まえて、それを改善するために、習得した知識や技術を活用することであることを助言する。 【生活を工夫し創造する能力】 家族の生活をより豊かにする防災グッズの製作について、課題解決を目指して、学習した知識と技術を活用し、製作計画を自分なりに工夫している。 (製作計画表への記述分析) ■ 解決したい課題がないと工夫はできないので、活用した時の様子を聞き取りながら課題を明確にさせていく。 ■ 製作手順が不明確で、作業の支障になると予想される部分を、製作物の見本や製作の順序に応じた標本等をもとに、具体的に助言する。
	3 製作手順や縫い方について確認し合い、製作計画を見直す。	10	ペア・個人	○ 製作計画の工夫をペアで確認し合うことにより、実践の内容や課題解決の方法が適切であるか、確認させる。
まとめ	4 本時の学習のまとめをする。	5	一斉	○ 長期休業中に家庭で製作し、家族から活用した感想を記入してもらうことを確認する。(実践記録表の配布) ○ 長期休業後に、実践報告会を行い発表することを伝え、家庭実践への意欲を高める。

※ 評価規準は「おおむね満足できる状況 (B)」について設定する。

体 育 (小)

1 体育科における学習評価の考え方

体育科の究極の目標は、「楽しく明るい生活を営む態度を育てる」ことである。その基盤には、「運動に親しむ資質や能力の育成」「健康の保持増進」「体力の向上」の3つの具体的な目標があり、相互に密接に関連している。さらに、2学年ごとに低・中・高学年の3段階で学年の目標が設定され各学年における体育の学習指導の方向をより具体的に示している。これらの目標を達成するには、発達の段階を踏まえ、実態に沿った計画を作成するとともに、それに基づいて十分な指導を行い評価することが重要となる。適切な評価は、運動や健康に対する児童の関心をいっそう高め、主体的に運動や健康づくりに親しむ態度を育てることにつながるものである。

2 教科目標及び評価の観点等

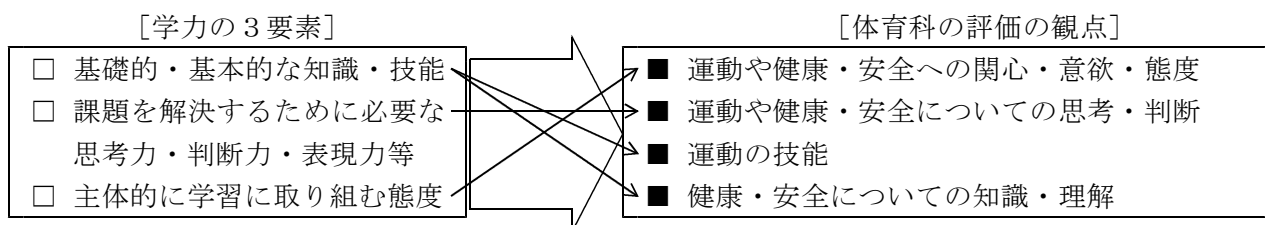
(1) 体育科の目標

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

(2) 評価の観点及びその趣旨

運動や健康・安全への関心・意欲・態度	運動や健康・安全についての思考・判断	運動の技能	健康・安全についての知識・理解
運動に進んで取り組むとともに、友達と協力し、安全に気を付けようとする。また、身近な生活における健康・安全について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力に適した課題の解決を目指して、運動の仕方を工夫している。また、身近な生活における健康・安全について課題の解決を目指して考え、判断し、これらを表している。	運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けている。	身近な生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

(3) 学力の3要素と評価の観点の関係



※ 学習指導要領の体育科の指導内容として、例えば表現運動においては、「表したい動きを表現したり」等が規定されている。このような場合の「表現」は、体育科における技能を示すものであることから、『運動の技能』で評価することが適当であるとされている。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

学習指導要の改訂により、指導内容について2学年ごとに示され、「体づくり運動」以外は2学年のいずれかの学年で取り上げることができるようになった。これに伴い、指導計画を作成する際には6年間の見通しをもって計画することと、各領域を1年間で実施するのか2年間に分けて実施するのか、いつ、何を、どのように指導するのかなど、各学年の単元計画を含めより具体的に学習活動と評価内容を設定することが重要となる。その際、「運動の技能」の観点とは、領域の内容ごとに各学年の「学習指導に即した評価規準」を設定し、それ以外の観点は、各学年での指導内容を重点化し、領域共通の評価規準を各学年に振り分けるようにする。

(2) 評価方法及び評価の時期

学習評価を行う際には、評価することが最終目的ではなく、指導を充実させるための手段の一つであること、児童にとっては、自らの学習状況に気付きその後の学習や発達・成長が促される契機となるべきものであることなどを踏まえ、体力や運動能力の向上に偏ることなく、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能」「知識・理解」の4つの観点の趣旨を生かし、バランスよく評価することが大切である。

なお、運動領域においては、『健康・安全についての知識・理解』を除く3観点で評価し、保健領域は『運動の技能』を除く3観点で評価することとなる。「技能」を評価する際は、児童のどのような動きを評価するのか明確にしておくことが必要である。「関心・意欲・態度」は、児童にも分かりやすいよう観察の視点を明確にして、基本的に観察で評価を行う。「思考・判断」「知識・理解」については、学習カード等への記述に観察を加味し、評価の妥当性や信頼性を高めるようにする。

評価する際は、1単位時間ごとに評価する項目を多く設定しすぎると評価が困難となる。そのため、無理なく評価が行えるように、「いつ」「何を」「どのような方法で」評価するのかといった、「指導と評価の計画」を立てておく必要がある。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

体育科の授業を進める上で言語活動の充実は重要である。体育科の授業では、体を動かすことで身体能力を身に付け、情緒面や知的な発達を促し、集団的な活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動を通じて論理的思考力を育むことなどが求められており、その際に言語活動の果たす役割は大きい。なお、体育科では、運動しながら学ぶことが基本であり十分な運動量を確保する必要がある。そのため、体育科では言語活動の量ではなく、質的向上を目指すことが特に望まれる。

授業においては、教師が課題を明確に示し、思考の前提となる適切な情報の確保や、話したくなる・教えたい材料を提供することで、喜びや感動のある楽しい授業づくりなどに心がける。評価する際は、伝え合いや教え合い、話し合いなどの児童の活動を観察するほか、学習カードを用いて評価することが有効である。

(2) 効果的・効率的な学習評価

効果的・効率的に学習評価を行うには、学習活動に即した評価規準を設定し、育みたい力を学習活動のどの場面において、どのような観点で評価するのか、具体的な指導と評価の計画を作成しておくことが重要となる。その際、実施可能な学習評価とするために、評価規準をあまり細かくしすぎず、おおむね満足な姿を規準として設定し、評価項目を厳選したうえで漏れの無いように配置することが重要である。

(体育科における学習指導と学習評価の実際)

1 単元名 チャレンジ マット運動 (第3学年)

※ 学習指導要領における単元の位置付け「B器械運動 ア マット運動」

2 単元の目標

- (1) マット運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動したり，活動の場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
- (2) 自己の能力に適した課題をもち，技ができるようになるための活動を工夫することができるようにする。
- (3) 基本的な回転技や倒立技をすることができるようにする。

3 単元の評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none">・それぞれの技を習得しようとして、マット運動に進んで取り組もうとしている。・器具の使い方や試技のきまりを守り、友達と励まし合って運動しようとしている。・友達と協力して準備や片付けをしようとしている。・運動する場の危険性を取り除き、器械・器具や試技前の安全を確かめようとしている。	<ul style="list-style-type: none">・基本的な技の動き方や技のポイントを知るとともに、自分の力に合った課題を選んでいる。・マット運動の技の練習の仕方を知るとともに、自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいる。	<ul style="list-style-type: none">・自分の力に合った基本的な回転技や倒立技ができる。

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、単元の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画（本時 ）

学習活動	学習活動に即した評価規準（評価方法）		
	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能
<p>1 オリエンテーション （1時間）</p> <p>①学習の進め方を知り，学習の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用具や場の準備 ・運動身体づくりプログラム <p>②前転のポイントを知り，前転をして楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい前転 ・手つなぎ前転 ・前転リレー 	<p>◆用具の準備や片付けで，分担された役割を果たそうとしている。（行動観察）</p>	<p>◆前転の動き方やポイントを知るとともに自分の力に合った課題を選んでいる。（行動観察※・学習ノートの記録分析※）</p>	
<p>2 前転ミニ発表会をして楽しむ （1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続前転 ・開脚前転 ・ペア前転 	<p>◆前転に進んで取り組もうとしている。（行動観察・学習ノートの記録分析）</p>		<p>◆しゃがんだ姿勢から体を丸めて前方に回転し，回転の勢いを利用してしゃがみ立ちになることができる。（行動観察※・学習ノートの記録分析）</p>
<p>3 後転のポイントを知り後転をして楽しむ （1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適した場での練習 		<p>◆後転の動き方やポイントを知るとともに自分の力に合った課題を選び，自分に合った練習方法や練習の場を選んでいる。（行動観察※・学習ノートの記録分析※）</p>	
<p>4 後転距離競争をして楽しむ （1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班対抗後転距離競走 ・開脚後転は+5点 	<p>◆後転に進んで取り組もうとしている。（行動観察・学習ノートの記録分析）</p>		<p>◆しゃがんだ姿勢から体を丸めて後方へ回転し，両手で押してしゃがみ立ちになることができる。（行動観察※・学習ノートの記録分析）</p>

<p>5 壁倒立をして楽しむ (1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助倒立 ・頭倒立 		<p>◆倒立のポイントを知るとともに自分の力に合った課題を選び、自分に合った練習方法や練習の場を選んでいる。 (行動観察※・学習ノートの記録分析※)</p>	<p>◆体を振り下ろして両手を着くとともに脚を振り上げ、両足を壁にもたせかけ逆さ姿勢になることができる。 (行動観察※・学習ノートの記録分析※)</p>
<p>6 腕立て横跳び越しのポイントを知り、腕立て横跳び越しをして楽しむ (1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適した場での練習 		<p>◆腕立て横跳び越しの動き方やポイントを知るとともに自分の力に合った課題を選び、自分に合った練習方法や練習の場を選んでいる。 (行動観察※・学習ノートの記録分析※)</p>	
<p>7 腕立て横跳び越し競争をして楽しむ (1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班対抗腕立て横跳び越し競争 	<p>◆腕立て横跳び越しに進んで取り組もうとしている。 (行動観察・学習ノートの記録分析)</p>		<p>◆体を振り下ろして体側に着手するとともに脚を振り上げ、腰の位置を高く保ちながら反対側へ移動することができる。 (行動観察※・学習ノートの記録分析)</p>

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、単元の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

※ 「行動観察」の中には、VTRを活用して分析する方法も含む。

5 本時の目標

- 後転の練習の仕方を知るとともに、自分の力に合った練習方法や練習の場を選び、できるようになるためのポイントを意識しながら、練習することができる。

6 学習過程（指導と評価の計画）

段階	学習活動・内容	時間	形態	○指導上の留意点 評価規準（評価方法） ■Bに達しない児童への手立て
課題把握	1 運動身体づくりプログラムを行う。 ・マットを使って ・連続ゆりかご→後転 2 本時のめあてをつかむ。 (1) 後転ができるようになるための課題を話し合う。 (2) ポイントと場所の関係を説明する (3) 全員に一通りの場所を経験させる。 課題に向かって後転に挑戦しよう。	20	一斉	○ ゆりかごやアンテナなどを取り入れながら基礎感覚を養うことができるようにする。 ○ 連続ゆりかごから後転に挑戦し、自分の動きを確かめるとともに、「できそうだ」という気持ちをくすぐることで後転ができるようになりたいという意欲を高める。 ○ 各局面を表した図に児童が見つけたポイントを書き込みながら、後転ができるようになるための課題を確認するようにする。 ○ 練習に取り組む際に「後ろに回る怖さを克服するために」や「回転の勢いをつけるために」「首を抜くために」といった課題から練習の方法と場所を紹介する。 ○ 練習する方法を適切に選択できるようにそれぞれの場所で数回、試しの運動を行わせるようにする。
課題追究	3 後転に取り組む。 ○ ポイントを意識しながら練習する。 <後ろに回る怖さに対応するために> ・ソフトマットを使って ・2人組でスローモーションで <回転の勢いをつけるために> ・坂道を利用して ・ゆりかごの繰り返しから <首を抜くことができるようにするために> ・手をグーにして押して ・マットの段差を利用して	20	ペア	○ 付箋紙に意識して練習したいポイントを書かせ、各局面を表した図に貼らせることで、互いにポイントを意識して取り組むことができるようにする。 【運動についての思考・判断】 自分の力に合った練習方法や練習の場を選び、できるようになるためのポイントを意識しながら練習している。 （行動観察・学習ノートの記録分析） ■ 取り組んでいる場所が、技能習得に適していないと思われる児童には、ペアの友達の観察を生かしながら適した場所で練習できるよう助言する。 ○ 後転ができている児童には、連続後転や前転から後転の連続技、開脚後転やペア後転などに取り組むことができるように助言する。 ○ 教師は、練習している姿をVTRで撮影し、評価に役立てることができるようにする。
まとめ	4 本時のまとめをする。 (1) ペアでの相互評価 ・感想発表 (2) 自己評価 ・学習カードへの記入	5	一斉・ペア	○ ペアになった友達に、努力した点や工夫した点などを紹介することができるよう助言する。 ○ 付箋を見直ししながら、課題を意識して練習することができたかを振り返り、感想をまとめることができるようにする。

※ 評価規準は「おおむね満足できる状況（B）」について設定する。

※ 「行動観察」の中には、VTRを活用して分析する方法も含む。

※ 「学習ノートの記録分析」の中には、自分の課題やポイントを書き込んだ付箋紙と学習ノートに記録したまとめや感想等との関連の分析も含む。

保健体育（中）

1 保健体育科における学習評価の考え方

保健体育科の究極の目標は、「明るく豊かな生活を営む態度を育てる」ことである。その基盤には、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」「健康の保持増進のための実践力の育成」「体力の向上」の3つの具体的な目標があり、それらは相互に密接に関連しあっている。この目標を達成するには、実態に沿った指導・評価計画を作成し、それに基づいて十分な指導を行い評価することが重要となる。適切な評価は、運動や健康に対する生徒の関心をいっそう高め、主体的に運動や健康づくりに親しむ態度を育てることにつながるものである。

2 教科目標及び評価の観点等

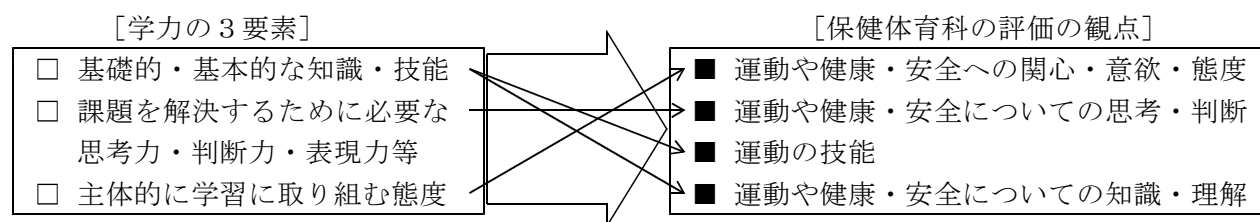
(1) 保健体育科の目標

心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

(2) 評価の観点及びその趣旨

運動や健康・安全への関心・意欲・態度	運動や健康・安全についての思考・判断	運動の技能	運動や健康・安全についての知識・理解
運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に積極的に取り組もうとする。また、個人生活における健康・安全について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	生涯にわたって運動に親しむことを目指して、学習課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫している。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	運動の合理的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって運動に親しむための理論について理解している。また、個人生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

(3) 学力の3要素と評価の観点の関係



※ 学習指導要領の保健体育の指導内容として、例えばダンスにおいては、「動きに変化をつけて即興的に表現したり」等が規定されている。このような場合の「表現」は、保健体育科における技能を示すものであることから、『運動の技能』で評価することが適当であるとされている。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

第1学年及び第2学年では、2年間の指導内容が示されているので、1年間で実施するのか、2年間に分けて実施するのかを検討する必要がある。その際、「運動の技能」の観点は、領域の内容ごとに各学年の「学習指導に即した評価規準」を設定することとなる。それ以外の観点は、各学年での指導内容を重点化し領域共通の評価規準を各学年に振り分け、2年間を見通した「学習活動に即した評価規準」を設定する。

(2) 評価方法及び評価の時期

学習評価を行う際には、評価することが最終目的ではなく、指導を充実させるための手段の一つであること、生徒にとっては、自らの学習状況に気付きその後の学習や発達・成長が促される契機となるべきものであることなどを踏まえ、体力や運動能力の向上に偏ることなく、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能」「知識・理解」の4つの観点の趣旨を生かし、バランスよく評価することが大切である。そのためには、全ての領域をバランスよく配置し指導することが前提となる。

なお、体育分野の「A体づくり運動」「H体育理論」では、「運動の技能」の観点は設定せず、保健分野と同様に他の3つの観点を評価する。「技能」を評価する際は、生徒のどのような動きを評価するのか明確にしておくことが必要である。「関心・意欲・態度」は、生徒にも分かりやすいよう観察の視点を明確にして、基本的に観察で評価を行う。「思考・判断」「知識・理解」については、学習カード等への記述に観察を加味し、評価の妥当性や信頼性を高めるようにする。

評価する際は、1単位時間ごとに評価する項目を多く設定しすぎると評価が困難となる。そのため、無理なく評価が行えるように、「いつ」「何を」「どのような方法で」評価するのかといった、「指導と評価の計画」を立てておく必要がある。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

保健体育科の授業を進める上で言語活動の充実は重要である。保健体育科の授業では、体を動かすことで身体能力を身に付け、情緒面や知的な発達を促し、集団的な活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動を通じて論理的思考力を育むことなどが求められており、その際に言語活動の果たす役割は大きい。言語活動をいかに学習活動に生かし、その活動をどの観点を評価するのかが大事になってくる。なお、体育分野においては、運動しながら学ぶことが基本であり十分な運動量を確保する必要がある。そのため、保健体育科では、言語活動の量ではなく、質的向上を目指すことが特に望まれる。

授業においては、教師が課題を明確に示し、思考の前提となる適切な情報の確保や、話したくなる・教えたい材料を提供することで、喜びや感動のある楽しい授業づくりなどに心がける。評価する際は、伝え合いや教え合い、話し合いなどの生徒の活動を観察するほか、学習カードを用いて評価することが有効である。

(2) 効果的・効率的な学習評価

効果的・効率的に学習評価を行うには、学習活動に即した評価規準を設定し、育みたい力を学習活動のどの場面において、どのような観点を評価するのか、具体的な指導と評価の計画を作成しておくことが重要となる。その際、実施可能な学習評価とするために、評価規準をあまり細かくしすぎず、おおむね満足な姿を規準として設定し、評価項目を厳選したうえで漏れの無いように配置することが重要である。

(保健体育科における学習指導と学習評価の実際)

1 単元名 球技 サッカー (第2学年)

※ 学習指導要領における単元の位置付け「E球技 ア ゴール型」

2 単元の目標

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。〔ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開すること。〕
- (2) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。
- (3) 球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

3 単元の評価規準 (●：第2学年・：第1学年)

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・フェアなプレイを守ろうとしている。 ● 分担した役割を果たそうとしている。 ● 作戦などについての話し合いに参加しようとしている。 ● 仲間の学習を援助しようとしている。 ・健康・安全に留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見つけている。 ・自己やチームの課題を見つけている。 ● 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ● 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見つけている。 ● 学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ゴール前での攻防を展開するためのボール操作と空間に走り込むなどの動きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球技の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ● 技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ・球技に関連して高まった体力について、学習した具体例を挙げている。 ● 試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、単元の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

※ 3 (1) で示したように、領域を2年間に分けて実施する際は、各学年での指導内容を重点化し、領域共通の評価基準を各学年に振り分け、2年間を見通した「学習活動に即した評価規準」を設定する。上記の表では、第2学年を●表記で、第1学年を・表記で示している。

4 指導と評価の計画（本時 ）

学習活動	学習活動に即した評価規準（評価方法）			
	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
1 オリエンテーション （1時間） ①前年度の学習の確認 ②学習の進め方と約束の確認				◆サッカーの技術の名称や行い方について，学習した具体例を挙げている。 （行動観察）
2 チームづくりと試しのゲーム （1時間）		◆仲間と協力する場面で，分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。 （学習ノートの記録分析）		
3 ボール操作や視野の確保につながる身体動作を身に付ける。 （2時間） ①ボールを使った鬼ごっこ ②フェイント ③グラウンダーのパス交換 ④ボール操作と視野の確保を意識したゲーム	◆練習の際に，ボール出しやボール拾いなどの補助をするなど仲間の学習を援助しようとしている。 （学習ノートの記録分析）			
			◆パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。 （行動観察，学習ノートの記録分析）	
4 ボール操作やボールを持たないときの動きを身に付ける。（3時間） ①ボールコントロールからのパス・シュート ②ゴール前の空間を意識させるためのゲーム（5対5）		◆提供された練習方法から，自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 （学習ノートの記録分析）		
	◆チームなどの課題の解決に向けて，自らの考えを述べるなど，積極的に話し合いに参加しようとしている。 （行動観察，学習ノートの記録分析）			
			◆パスを受けるために，ゴール前の空いている場所に動くことができる。 （行動観察，学習ノートの記録分析）	

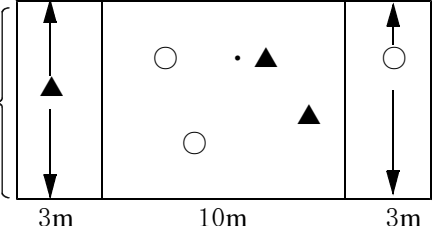
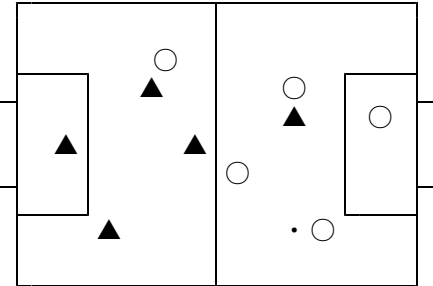
<p>5 ボール操作やボールを持たないときの動きを身に付ける。(3時間)</p> <p>①ターゲットへのパスゲーム</p> <p>②オーバーナンバーのターゲットゲーム(5対5)</p>				◆サッカーの技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。(行動観察)
		◆仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見つけている。(学習ノートの記録分析)		
		◆仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見つけている。(学習ノートの記録分析)	◆得点しやすい空間にいる味方へパスを出すことができる。(行動観察, 学習ノートの記録分析)	
<p>6 ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前の攻防を中心としたゲームを楽しむ。(4時間)</p> <p>①正規のルールに近いゲーム(11対11)</p> <p>②審判や運営</p> <p>③チームに応じた作戦</p>	◆分担した役割を果たそうとしている。(行動観察, 学習ノートの記録分析)			◆試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。(行動観察)
		◆学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめている。(行動観察, 学習ノートの記録分析)		◆試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。(行動観察)
	◆分担した役割を果たそうとしている。(行動観察, 学習ノートの記録分析)		◆守備者がいない位置でのシュートができる。(行動観察, 学習ノートやゲーム記録の分析)	
		◆学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめている。(行動観察, 学習ノートの記録分析)	◆守備者がいない位置でのシュートができる。(行動観察, 学習ノートやゲーム記録の分析)	

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、単元の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

5 本時の目標

- 得点しやすい空間にいる味方にパスを出せるように練習し、ゲームで発揮することができる。
- 仲間と協力する場面で分担した役割に応じた協力の仕方を見つけることができる。

6 学習過程（指導と評価の計画）

段階	学習活動・内容	時間	形態	○指導上の留意点 評価規準（評価方法） ■Bに達していない生徒への手立て
課題把握	1 コート・用具を準備し、準備運動を行う。 ・ 対面パスリレー、連続シュート等 2 本時のめあてをつかむ。 兄弟チーム同士、助言し合いながら練習し、ゲームのなかで、得点しやすい空間にいる味方にパスを出せるようにしよう。	10	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ○ コートや用具の準備とともに心身の状態も確認する。 ○ 周囲の状況を見ながらプレイするよう助言する。 ○ 得点しやすい空間にいる味方にパスを出すために必要とされるポイントに気付かせる。 ○ 自チームのゲームがない場合は、兄弟チームのために役立つことを分担して取り組むように促す。
課題追究	3 ターゲットへのパスゲームを行う。 <ルール> ・ エンドゾーンにいる味方にパスを通しゾーン内で止められれば1点 ・ 得点後は相手ボールで再開する。  4 オーバーナンバーのターゲットゲームを行う。 (1) 次のルールでゲームをする。 <ルール> ・ 相手コートに一人は残る。(自陣に戻れない) ・ GKを含め5人対5人 ・ 前後半4分 正規のゴール使用  (2) 兄弟チームのゲームを観点に沿って記録し、情報を収集する。	10 20	チ ー ム	<ul style="list-style-type: none"> ○ 兄弟チーム同士で、プレイヤーを交代しながら、前後半4分のゲームを行い、総得点を記録する。 ○ ターゲットの動きに応じてタイミングよくパスをつなぐためには、味方と連携するとともに周囲を見ながらプレイすることが大切であることに気付かせる。 ○ ボール保持者とターゲットを結んだ直線上に守備者がいるとパスがつながりにくいことを理解させる。 ○ ハーフタイムを活用して、総得点の確認や観察して気付いた点をお互いに意見交換する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【運動の技能】 相手コートに残っている味方の状況を判断して正確なパスができる。 (行動観察, 学習ノートの記録分析)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ■ ターゲットへのパスゲームでパスが繋がった場面を想起させ、プレイヤーの位置関係を図で確認させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【運動についての思考・判断】 シュート回数や相手コートへの侵入回数等、分担した役割に沿って記録し、ゲーム分析に役立てようとしている。 (学習ノートの記録分析)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ■ 正確に記録するため、観察が不慣れた生徒には、観察者と記録者を分けるよう助言する。
まとめ	5 用具を片付け、整理運動を行う。 6 本時のまとめをする。 (1) ゲームの記録を交換し合う。 (2) 学習カードに記録する。	10	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観察記録を兄弟チームと交換し、ゲームで気付いた点も意見交換させる。 ○ 兄弟チームからの情報をもとにチームで話し合った内容を記録させる。

※ 評価規準は「おおむね満足できる状況（B）」について設定する。

※ 兄弟チームとは、互いのチーム戦力を高めるため、共に練習したり、ゲームの記録・観察を行ったりする関係のチームを指している。

外国語活動

1 外国語活動における学習評価の考え方

外国語活動では、「聞くこと・話すこと」を中心として、「コミュニケーション能力の素地」を養うことを目指している。

学習評価は、外国語活動の目標を踏まえながら評価の観点と評価規準を設定し行うことが重要であるが、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）平成22年5月11日付（以降「改善通知」）」において、評価は文章による記述とすることが明示されているとおり、教科のような数値による評価はなじまない。

これを受けて、2年間を通して、単元ごとの目標に即して、活動や体験を通じて、児童のものの見方や考え方の広がりや深まりを見取って評価することが求められる。ただし、学習事項の定着度や言語の運用能力を評価するのではなく、他との関わりを通して言葉の大切さに気付いたりする過程を重視し、児童一人一人の成長を把握するとともに、学習意欲の喚起につながるものとしなければならない。

外国語科の学習への円滑な接続を可能とするための素地づくりを意識した指導と評価により、外国語を用いて他と関わることで、社会の中で主体的に自己を生かすことができる力を自ら育む励みとなる評価としたい。

2 教科目標及び評価の観点等

(1) 外国語活動の目標

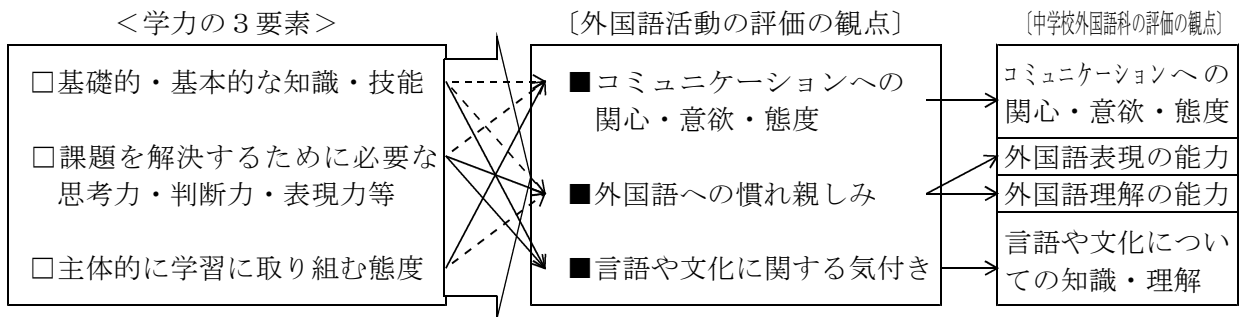
外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

(2) 評価の観点及びその趣旨

観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
趣旨	コミュニケーションに関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言語の面白さや豊かさ、多様なものの見方や考え方があることなどに気付いている。

※ 評価の観点については、「改善通知」を参考に設定したものである。また、指導要録の「外国語活動の記録」については、設置者が評価の観点を設定することが示されているが、「各学校において、観点を追加して記入できるようにする」と示されていることから、各学校において観点を追加して評価することができるが、外国語活動の目標を踏まえることが大切である。

(3) 学力の3要素と評価の観点との関係



※ 外国語活動の目標は「コミュニケーション能力の素地を養う」ことであり、評価も数値で行わないことから、学力との関係性が見えにくいですが、運用能力や定着を評価する中学校の外国語科とのつながりは上のようなになる。なお、「3要素」と「観点」の関連性について、「→」で主なものを示してあるが、活動や内容により、それぞれの要素が各観点と関わることも考えられる。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

第5学年から学習を始める外国語活動については、学習指導要領の目標及び内容を踏まえながら、2年間を見通して効果的な指導が展開できるよう、教師による創意工夫を加えた特色ある指導計画を作成することが大切である。

この際、単元の意義や位置づけを明確にし、取り扱う内容の順序や重点の置き方を工夫したり、他教科の既習事項を意図的に取り上げたりしながら、児童の活動に広がりや深まりを与えるために有効な話題や教材を提供するなど、各学年の目標の達成に支障のない範囲内で弾力的な指導ができるように適切に配列することが必要である。

また、学校の特色や児童の実態及び地域性等を加味しながら、育みたい資質や能力及びそれらを実現した「目指す児童の姿」を明確にすることも必要である。そのうえで、単元や授業のねらいとともに、それに対応する学習活動及び適切な評価規準を関連付けて設定することで、より効果的な指導に向け、工夫改善を重ねることができるよう、指導と評価の一体化を具現化した指導計画の作成が望ましい。

(2) 評価方法及び評価の時期

外国語活動の評価は、「改善通知」に、「評価の観点を記入した上で、それらの観点到照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述する」ことが示されている。外国語活動の特質を踏まえながら観点到別学習状況の評価を円滑に実施するためには、すべての時間において3観点到から評価しなければならないわけではない。評価の観点到について年間を通してバランスよく評価できるようにすることに配慮しながら、指導計画に設定した単元の目標やその時間のねらいに沿っていずれかの観点到に重点を置き、様々な評価方法の中から、学習活動の場面における児童の学習状況を的確に評価できる方法を厳選していくことが求められる。また、自己評価や児童同士の相互評価も積極的に取り入れるなど、より多くの情報を得ながら適切に評価を行う工夫も必要である。

外国語活動は学習内容の定着を評価するものではないことから、単元のみにとどまることなく、学期ごとなど、適切に設定した時期と頻度において、児童の変容や成長の様子を様々な角度から捉える総括的・継続的な評価の在り方も求められる。そのため活動の場面での児童の努力や意欲、よさなど、多面的・総合的な評価を蓄積していくことが大切である。

さらに、評価によって児童が活動を振り返りながら自らの学習状況に気付くとともに、新たな目標や課題を見出すなど、その後の学習や発達を促す契機とすることが望ましい。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価〔「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の評価〕

語彙や表現が乏しい外国語学習入門期の児童を評価する場合は、小学校学習指導要領解説外国語活動編「第2章 外国語活動の目標及び内容」に示されている内容に加え、表現してみたいといった思いや願いを共感的に捉え、言葉以外の非言語手段を用いて表現しようとする意欲や態度なども含めて評価することが望ましい。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度を評価するための学習活動を設定する場合は、児童が関心を示す話題性や活動に取り組む必然性が盛り込まれていることが重要である。自分一人では解決することのできない課題を他者との関わりを通して解決しながら、単元の目標や目指す児童の姿へ到達しようとする一人一人の多様な学びの様子を評価することが大切である。

(2) 多面的、総合的な評価の工夫〔「外国語への慣れ親しみ」の評価〕

外国語への慣れ親しみを評価するための学習活動に取り組ませる場合、表面的な楽しさや面白さにとどまったものではなく、様々な相手と「外国語を通じて」互いに思いや考えを伝え合うことの楽しさや大切さを体験させる要素を含んでいることが必要である。その中で、単元に設定されている表現を中心に、児童が外国語を使用しながらコミュニケーションを図っている様子を外国語への慣れ親しみとして評価する。ただし、正しい発音や用法といった外国語の運用能力の評価は行わない。

(3) 気付きの質を高める評価〔「言語や文化に関する気付き」の評価〕

一人一人の体験や他者との関わりによって、身の回りのことやものに対して新たな視点や概念を見出すことをすべて含めて気付きと捉えることができる。

我々を取り囲む日常生活の中にも、興味をもって見れば新たな発見をすることができる対象も数多い。他国のものと比べることを通して違いや共通点を見出したり文化的な背景を学んだりすることも可能となる。この際、外国の文化のみならず日本の文化を含めた様々な国や地域の生活、慣習などを積極的に取り上げていくことや、日常生活における食生活や遊び、地域の行事など児童にとって身近な話題を取り扱うことが大切である。児童に何を気付かせたいのか、さらに世界の中における日本とはどのような存在であるのかなどを学ぶことができる機会を設定したい。

外国語活動の時間においては、単元に設定されている外国語と日本語との比較などを通して発見した言語の共通性や相違点から、言葉の面白さや豊かさに気付き、児童自身が意味付けをしている様子を見取ることが大切である。また、多様な文化の存在を知り、様々な見方や考え方があることを認識する過程を評価しながら、自分自身の成長にもつながっているということを児童に気付かせたい。

(外国語活動における学習指導と学習評価の実際)

1 単元名 Hi, friends! 1 Lesson 7 What's this? (第5学年)

2 単元の目標

- (1) ある物について、それが何かを積極的に尋ねたり答えたりしようとする。
- (2) ある物について、それが何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
- (3) 日本語と英語の共通点や相違点から、言葉のもつ面白さに気付く。

3 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
級友や先生と、ある物について、それが何かを積極的に尋ねたり答えたりしようとしている。	ある物が何かを尋ねたり、それが何かを答えたりしている。	様々な物の言い方から、言葉の面白さに気付いている。

4 指導と評価の計画 (本時)

学習のねらい	学習活動に即した評価規準 (評価方法)		
	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する 気付き
1 (1)様々な物の言い方から、言葉の面白さに気付く。 (2)身の回りの物を表す英語に慣れ親しむ。			◆外来語と、そのもとなる英語との音の違いに気付いている。(行動観察・振り返りカード分析)
2 身の回りの物を表す英語や、ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。		◆それが何かを尋ねたり答えたりしている。 (行動観察・振り返りカード点検)	
3 ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。		◆それが何かを尋ねたり答えたりしている。 (行動観察・振り返りカード分析)	
4 ある物について、それが何かを積極的に尋ねたり答えたりしようとする。	◆ある物について、それが何かを積極的に尋ねたり答えたりしている。(行動観察・振り返りカード分析)		

※「分析」－評価規準に沿って達成している状況について評価する。「点検」－次の指導に生かす。

5 本時の目標

- 身の回りの物を表す英語や、ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。

6 学習過程（指導と評価の計画）

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 評価規準（評価方法） ■評価規準に示した姿が見られない児童への手立て	
			T 1（担任等）	T 2（ALT）
導入	1 英語の歌を歌う。 2 あいさつをする。 3 チャンツを行う。 4 カードクイズ ・カードの絵について英語で答える。 5 What's this?のチャンツを行う。 6 本時の課題を把握する。 「これな～に？」クイズをしよう	10	○ "Hello song"を歌う。 ○ Hello. - How are you? ○ 速さに変化をつけて、全員が参加できるようにする。 ○ カードの一部を隠して、ALT の質問に答えさせ、前時で学習したことを想起させる。 ○ 児童と一緒に英語で答える。 ○ 速さに変化をつけて、全員が参加できるようにする。	○ "Hello song"を歌う。 ○ Hello. -How are you? ○ ジェスチャーを交えながら行い、楽しく学習する雰囲気作りをする。 ○ What's this?と尋ね、答えさせる。 ○ 全体で言い方を確認する。 ○ リズムに注意させながらチャンツを行う。
展開	7 What's this?クイズをする。 (1) カード・クイズ ①一部を隠したカードを一人1枚持つ。 ②出会った友達とジャンケンをし、負けたら"What's this?"と尋ね、相手が正解を答えたら、そのカードを相手にわたす。 ③カードがなくなったら、教師からもらう。 ④時間内にできるだけたくさんカードを集める。 (2) ブラックボックス・クイズ ①一人が前に出て、ブラックボックスに手を入れる。 ②それを見ている児童は、"What's this?"と尋ねる。 ③触った感触から予想し、"It's a ~."と答える。 ④見ている児童は、正解かどうかを英語で伝える。 ＊3人グループで一人ずつ順番に答える。他の2人は英語でヒントを出してもよいこととする。 (3) スリーヒント・ゲーム ①ALTがカードを1枚引く。児童は"What's this?"と尋ねる。 ②ALTはカードの答えのヒントを3つ出す。 ③答えが分かったら、手を挙げて"It's a ~."と答える。 ④3～4問行った後、児童とALTが役割を交代し、児童がヒントを3つ出し、ALTが答える。	30	○ あいさつやお礼など、コミュニケーションに欠かせないマナーも意識させる。 ○ 児童が発音が分からない単語については、ヒントを出す。 【外国語への慣れ親しみ】 それが何かを尋ねたり、答えたりしている。（行動観察・振り返りカード点検） ■ What's this?とその答え方の確認をするとともに、答えとなる語の言い方について助言する。	○ 児童と一緒にカードクイズに参加する。 ○ クイズの前に、箱の中に入れる物の言い方の練習を行う。 ○ 児童が、言い方が分からない単語は、何度か繰り返す。 ○ ヒントを3つ出し、児童の答えを促す。 ○ 後半は、児童のヒントをもとに答える。
終末	8 振り返りをする。 (1) 振り返りカードに記入する。 (2) 英語の歌を歌い、あいさつをする。	5	○ 児童に、自分の良かったところを認識させる。 ○ "Good bye song"を歌う。 ○ See you.	○ 児童の良かったところを称賛し、次時につなげる。 ○ "Good bye song"を歌う。 ○ See you.

外国語（中）

1 外国語科における学習評価の考え方

中学校外国語科においては、外国語活動においてコミュニケーション能力の素地が育成されることを踏まえ、「コミュニケーション能力の基礎」を養うことが求められている。

学習評価は、4技能の総合的な育成を図りながら、「言語や文化に対する知識・理解」、「聞くことや読むことなど外国語を理解する能力」、「話すことや書くことなど外国語で表現する能力」、「コミュニケーションを図ろうとする態度」という学力の要素ごとに設定された「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「外国語表現の能力」、「外国語理解の能力」、「言語や文化についての知識・理解」の4つの観点に沿って評価することとなる。

2 教科目標及び評価の観点等

(1) 外国語科の目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

(2) 評価の観点及びその趣旨

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

※ 教科の指導と目標に準拠した評価を着実に進めていくためには、領域や内容項目レベルの学習指導のねらいが明確になっている必要がある。さらに、学習指導のねらいが生徒の学習状況として実現されている状態についても具体的に想定されている必要がある。

評価規準を設定する際は、「内容のまとめり」ごとの「*評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例」を参考とする。

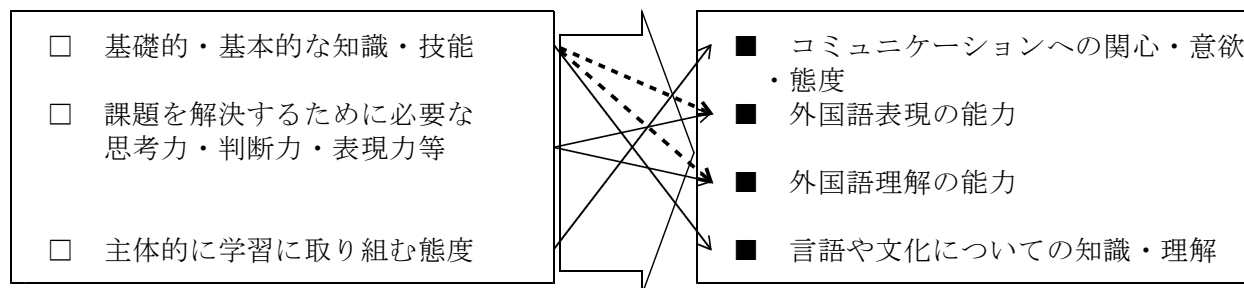
*評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例：QA の1に掲載

なお、外国語科における「内容のまとめり」については、学習指導要領の内容の言語活動における「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」である。

(3) 学力の3要素と評価の観点との関係

[学力の3要素]

[外国語科の評価の観点]



※ なお、ここでは「学力の3要素」と「評価の観点」との関係性について、「→」で主なものを示してある。ただし、例えば、ねらいに沿って設定した学習活動において、評価する観点は異なるものの、「何を、どのように」といった思考・判断や「伝えるための正しい表現を」といった言語に関する知識や技能、さらには「もっと伝えたい、もっと聞きたい」といった意欲など、それぞれが必然的に関わり合っていくことも考えられる。

実際の指導と評価に当たっては、各単元ごとに、評価の観点に沿ってねらいと評価規準を設定し、指導のプロセスにおいて、生徒に身に付く学力を見極めながら進めていくことになる。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

外国語科においては、3 学年間を通じて目指すべき目標が示されているので、各学校においては、学校や生徒、地域の実態に応じて学年ごとの目標を定め、適切な指導計画を作成する。その際、外国語活動において育まれたコミュニケーション能力の素地を踏まえ、円滑な接続ができるように配慮するとともに、4 技能のバランスのとれた育成を目指し、3 学年間を通して外国語科の目標の実現が図れるようにする。年間指導計画作成においては、観点を絞って指導と評価の重点化を行う単元を設定する場合でも、年間を通しては、どの観点もバランスよく評価するように作成する。

単元の指導と評価の計画の作成に当たっては、各学校の年間計画に基づき、単元の指導に当たっての考え方（単元をどう捉え、どのような力を身に付けさせたいかなど）を明確にし、単元の目標を立てる。また、単元の目標を達成するための学習活動を適切に位置付けるとともに、単元の目標に対応した評価規準を設定する。

評価規準設定の際には、「評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例」を参考にしながら、「指導の結果」であることがわかり、評価が可能な表記にする必要がある。

(2) 評価方法及び評価の時期

生徒の学力を多角的に診断するためには、授業や単元のねらいに対応する評価の場面や時期などを含め、評価規準ごとに最も妥当な方法で評価することが大切である。以下、評価の方法として考えられる例をいくつか挙げる。

例) 活動の観察、ペーパーテスト、音読テスト、聞き取りテスト、スピーチテスト、作文のチェック（観察）、レポートのチェック（観察）など

なお、自己評価や生徒同士の相互評価については、「指導の一環」と捉えることができ、「評価方法」として用いるには慎重に扱う必要がある。

評価は、評価することが目的ではなく、指導の改善に生かしたり、生徒が自分自身の学習の到達状況を把握し、次の学習につなげたりすることが大切である。実際の指導と評価においては、評定につながる評価（総括的評価）を、単元ごと、あるいは学期ごとなど適切な時期に位置付け、各授業や各単元ごとの総括を行うことが大切である。単元の指導などにおいて、形成的評価を行いながら指導に生かすことも大切である。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

学習指導要領においては、4 技能それぞれで5つの言語活動の指導事項が示されている。言語活動を行わせる際には、年間の見通しをもち、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4領域のバランスに配慮しながら、考えや気持ちなどを伝え合う言語活動とともに、言語材料についての知識や理解を深める言語活動を設定することが重要である。

評価に当たっては、単元の指導において、単元の目標と評価規準に沿って、適切な場面に言語活動を位置付けるとともに、適切な評価方法を設定し評価するが、評価の結果を生かしながら、言語活動の充実を通じて言語材料の定着を図ることができるよう工夫する必要がある。

(2) 評価の機会の設定

評価規準について「十分満足できる(A)」「おおむね満足できる(B)」「努力を要する(C)」のどの状況にあるかを判断する際、どの程度安定して結果を得られるかを見極めて、評価の対象によって評価の場面や回数を吟味して計画を立てることが重要である。

例えば、「知識」のように、ある時点で目標に沿ってどの程度獲得しているかを一度で判断できる場合と、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」のように、活動や内容によって複数回にわたって評価の機会を設定する場合などが考えられる。また、「技能」については、何をねらいとして、どのような活動をさせ、どの場面で評価するかなどにより、一度で判断可能か、複数回設定かなど十分に配慮する必要がある。なお、国立教育政策研究所教育課程センター編の「評価規準作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 外国語】」に掲載されている事例も参考としたい。

(英語科における学習指導と学習評価の実際)

1 単元名 **Lesson 4 Enjoy Sushi** (NEW CROWN ENGLISH SERIES 2) (第2学年)

2 単元の目標

- (1) 間違ふことを恐れずに、積極的にコミュニケーションを図る。
- (2) 身近な地域の名所や名物を紹介する英文を書く。
- (3) ペアの活動で自分の部屋の様子や自分のことを説明する。
- (4) 日本の地域の食文化について読み取ったり、町の様子についての会話を聞き取ったりする。
- (5) There is (are) ~.や動名詞を用いる文の構造を理解する。

3 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
ペアの活動において、間違ふことを恐れず積極的にコミュニケーションを図っている。	①身近な地域の名所や名物について紹介する英文を書くことができる。 ②自分の部屋の様子を口頭で説明することができる。 ③自分のことについて話すことができる。	①地域の食文化について書かれた英文の内容を読み取ることができる。 ②町の様子についての会話の内容を聞き取ることができる。	① There is/are..., Is/Are there...?を用いる文の構造を理解している。 ②動名詞を用いる文の構造を理解している。

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、単元の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画 (本時)

学習のねらい	学習活動に即した評価規準 (評価方法)			
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1 【GET Part 1】 ○ 基本文 There is /are..., Is /Are there...?-Yes, there is (are).を用いる文の構造を理解する。				◆基本文の文構造を理解している。 (ワークシートチェック)
2 【GET Part 1】 ○ ペア活動で相手と積極的にコミュニケーションを図る。 ○ There is / are...の文を用いて自分の部屋の様子を説明する。	◆ There is / are...や Is/Are there..?の文を用いて、ペアの相手と積極的にコミュニケーションを図っている。 (行動観察)	◆ There is / are...や Is/Are there..?の文を用いて、口頭で情報を伝えることができる。 (行動観察)		
3 【GET Part 2】 ○ 動名詞を用いる文構造を理解する。				◆基本文の文構造を理解している。 (ワークシートチェック)
4 【GET Part 2】 ○ ペア活動で相手と積極的にコミュニケーションを図る。 ○ 動名詞の文を用いて自分のことについて話す。	◆動名詞を用いて、ペアの相手と積極的にコミュニケーションを図っている。 (行動観察)	◆動名詞の文を用いて、自分のことについて説明することができる。 (行動観察)		
5 【USE Read】 ○ 教科書本文を読み、地域の食文化について知る。			◆教科書本文を読んで内容を読み取ることができる。 (ワークシートチェック)	
6 【USE Listen】 ○ 会話を聞いて、その要点を聞き取る。			◆会話を聞いてその要点を聞き取ることができる。 (ワークシートチェック)	
7 【USE Write】 ○ 町の名所や名物の紹介文を書く。		◆町の名所や名物の紹介文を書くことができる。 (紹介文チェック)		
8 単元テスト				◆基本文の文構造を理解している。 (ペーパーテスト)

※ 「評価規準の設定例」を基に、具体的な学習活動を踏まえ、言葉を省略したり変更したりしている。

5 本時の目標

- ペア活動で相手と積極的にコミュニケーションを図る。
- There is / are...の文を用いて、自分の部屋の様子を説明する。

6 学習過程（指導と評価の計画）

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 評価規準（評価方法） ■ B に達しない生徒への手立て	
			T 1（JTE）	T 2（ALT）
導入	1 Greeting 2 Warm-up & Review (1) Q & A (Time Bomb) (2) 前時の復習を行う。 ・ There <u>is</u> a nice shop in this town. ・ There <u>are</u> nice shops in this town. ・ Is there a nice shop in this town? (Are) there nice shops in this town? Yes, there is. / No, there isn't. (are) (aren't)	8	○ 下位生徒の支援を行い全員参加させ、学習の雰囲気作りをする。 ○ 基本文の文構造を復習するとともに、掲示しておくことで、本時の学習活動の手助けとする。	○ 既習事項を用い質問する。 ○ 口頭練習を行い、全体で確認する。
	3 本時の課題把握		自分の部屋の様子を相手に伝えよう。	
展開	4 Listening Activity (1) 基本文を用いた英文を聞いてワークシートにその英文を書く。 (2) ALT と問答しながら解答を確認する。 (3) 黒板に掲示した絵を見ながら、解答の口頭練習を行う。	10	○ つまづいている生徒を支援し、次の活動にスムーズに入れるようにする。 ○ ワークシートの絵の拡大版を黒板に掲示し解答を貼り、表現とイメージをつなぐようにする。 ○ 場所を表す前置詞を確認する。	○ 基本文を用いた英文を言う。 ○ 生徒と問答しながら解答を行う。 ○ 口頭練習を行わせる。
	5 Communication Activity (1) ワークシートに自分の部屋の絵を描き、There is / are...や Is / Are there~?を用いて問答しながら、自分の部屋の様子を相手に伝えたり、相手の部屋の様子を聞き取ったりする。 (There is a desk by the window. There is a big bookcase in my room. There are many books and many CDs in it. Is there a TV in your room? -No, there is not.)	10	○ 未習の語については質問してよいことを伝える 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 There is / are...や Is/Are there..?の文を用いて、ペアの相手と積極的にコミュニケーションを図っている。(行動観察) ■ コミュニケーションを図ろうとしない要因を確認し、それに応じた支援を行う。 【外国語表現の能力】 There is / are...や Is/Are there..?の文を用いて、口頭で情報を伝えることができる。(行動観察)	
閉	6 ALTへの説明に挑戦 (1) There is / are...を用いて、ALT に説明する。	15	○ つまづきが基本文なのか、使用する語句なのかなど要因を確認し、状況に応じて支援する。 ○ つまづいている生徒がいるペアの支援を行いながら解答を確認し習熟を図る。 ○ 全員に2種類のワークシートを配付し、挑戦したい生徒に説明させる。	○ スムーズに活動を行っているペアの支援を行いながら解答を確認し、発展的な表現についても助言する。 ○ 生徒の説明を聞き、ワークシートの絵の拡大版に様子を書いていく。
	7 まとめ (1) 本時の学習を振り返る。 (2) あいさつをする。	7	○ 本時の内容を確認する。 ○ 次時の予告をする。	○ 内容確認後、口頭練習を行わせる。
終末			○ 本時の内容を確認する。 ○ 次時の予告をする。	○ 内容確認後、口頭練習を行わせる。

※ 評価規準は「おおむね満足できる状況 (B)」について設定する。

特別活動（小）

1 特別活動における学習評価の考え方

学習指導要領では、特別活動を通して育てたい力を一層明確にするために、全体の目標に「人間関係」を加えるとともに、各活動・学校行事を通して育てたい態度や能力を新たに目標として示した。

特別活動の評価については、各学校において、評価の観点を定め、各活動・学校行事ごとに評価することとされている。また、指導要録における「特別活動の記録」の欄については、各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入することとされている。

小学校学習指導要領第1章総則第4の2の(11)で、「児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること。」と示している。このことは、個性の伸長を目指し、実践的な活動を特質とする特別活動において、特に配慮すべきことであり、指導計画の作成、計画に基づく活動、活動後の反省という一連の過程のそれぞれの段階で評価する必要がある。

学級活動、児童会活動、及び学校行事のそれぞれの内容ごとに評価することから始まり、これらが特別活動の全体としての評価に統合されていくものである。さらに、この評価が各内容の活動場面に生かされるというように、循環的に繰り返されていくものであり、この積み重ねも各学校が特別活動の充実・改善を進めていく上で重要である。また、評価を通じて教師が指導の過程や方法について反省し、より効果的な指導が行えるような工夫や改善を図っていくことも大切である。

2 特別活動の目標及び評価の観点等

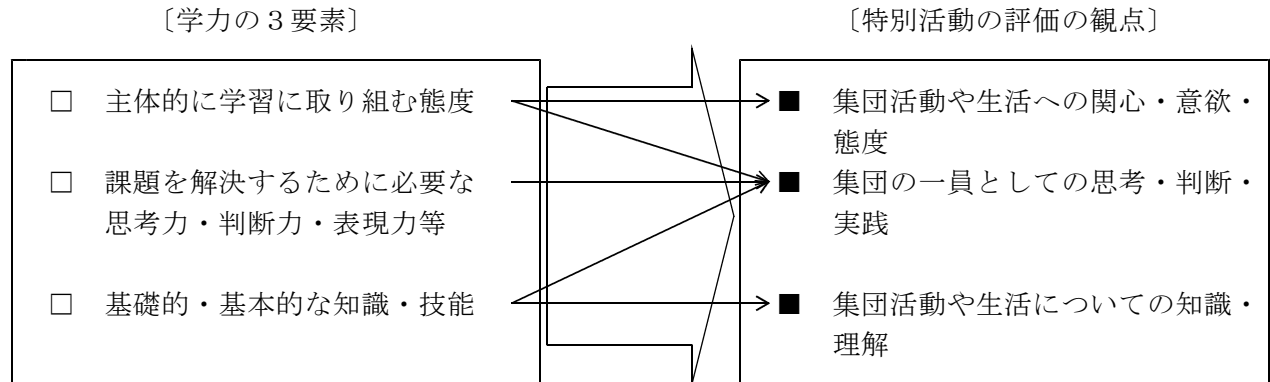
(1) 特別活動の目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。

(2) 評価の観点及びその趣旨

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の集団や自己の生活に関心をもち、望ましい人間関係を築きながら、積極的に集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団の一員としての役割を自覚し、望ましい人間関係を築きながら、集団活動や自己の生活の充実と向上について考え、判断し、自己を生かして実践している。	集団活動の意義、よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方、自己の健全な生活の在り方などについて理解している。

(3) 学力の3要素と評価の観点との関係



※ 「基礎的・基本的な知識・技能」が「集団活動や生活についての知識・理解」と主に関連している。「技能」の現れとして、「集団の一員として実践する姿」が考えられるため、技能と実践に関連性があると捉えることもできる。

「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」が「集団の一員としての思考・判断・実践」と主に関連している。「表現力」の現れとして「実践する姿」が考えられるため、表現力と実践に関連性があると捉えることもできる。

「主体的に学習に取り組む態度」が「集団活動や生活への関心・意欲・態度」と主に関連している。「主体的に学習に取り組む態度」の現れとして、集団活動や生活へ関心を持ち、それらの活動や生活そのものに意欲的に取り組む姿があると捉えることができる。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

各学校においては、児童の発達の段階や学級・学校の実態を考慮するとともに、各教科等及び家庭・地域・社会教育施設等との関連・活用を図り、各活動・学校行事ごとに指導と評価を適切に位置付けた計画を作成することが大切である。特別活動の指導と評価の計画については、目標、評価の観点、活動内容、活動時期、活動の場所、指導上の留意点等を記入し、各活動・学校行事の特質を踏まえて作成することが大切である。

なお、学級活動の1単位時間の指導計画に記入すべき事項としては、議題（題材）や児童の実態と議題設定（題材設定）の理由、本時のねらい、本時の活動計画（本時の展開）、指導上の留意点などがあり、これらとともに、事前・事後の活動も含めて記入することが効果的である。さらに、「目指す児童の姿」を明確にしておくことも重要である。

(2) 評価方法及び評価の時期

特別活動の評価に当たっては、多くの教師による評価の結果を反映させるように、評価体制を確立させ、学校全体で組織的に取り組む必要がある。

また、児童が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題がもてるように評価を進めるため、活動の結果だけではなく、活動の過程における児童の努力や意欲などを積極的に認めたり、児童のよさを多面的・総合的に評価したりすることが大切である。その方法としては、児童自身による自己評価や相互評価、観察法、質問紙法、チェックリスト法などが考えられる。

活動の積み重ねによって、年間を通して児童を育てようとする特別活動においては、全ての評価の観点について、事前・本時・事後などの一連の活動過程の中で評価できるようにしたり、各活動・学校行事における顕著な事項は補助簿を活用して記録したりしておき、一定期間に実施した活動や学校行事を評価規準に基づいてまとめて評価したりすることも大切である。

4 効果的に学習評価を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

特別活動では、様々な場面で話し合い活動により合意を形成したり、体験を通して感じたり気付いたりしたことを振り返り言葉でまとめたり、発表し合ったりする活動を重視する。特に、次のような言語活動を重視する必要がある。

- ① 集団として意見をまとめるための話し合い活動
- ② 自己の生き方について考えを見定めるための話し合い活動
- ③ 実践活動や体験活動を通して感じたり気付いたりしたことを振り返り、まとめたり発表し合ったりする活動

(2) 多面的、総合的な評価の工夫

児童一人一人について評価する方法としては、主として教師による観察を中心としながらも、質問紙法、チェックリストによる方法、児童自身の各種記録の活用などが考えられ、それぞれの評価方法の特質を十分に吟味していくことが必要である。

特別活動は、活動の場が様々に設定されたり、児童の自主的な活動が展開されたりすることが多い。また、特別活動として最も重視している「自分の活動を振り返り、自ら改善しようとする自主的、実践的な態度」を、児童が身に付ける上でも有効であることから、児童の学習活動として自己評価や相互評価を行うことも多い。観察による教師の評価と併せて、児童自身による評価を参考にすることも考えられる。

(特別活動における学習指導と学習評価の実際)

1 議題名「学級『ミュージック大会』をしよう」(第3学年)

※ 学習指導要領における位置付け 学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」

2 本活動の目標

- (1) 学級生活の充実と向上につながる議題を見だし、話し合っただけで決めたことに、友達と協力して意欲的に取り組もうとしている。
- (2) 仲間とともに活動をつくり上げるために、互いの思いを大切にしながら話し合い、集団の一員としてよりよい方法は何か考え、判断し、協力し合っただけで実践している。
- (3) みんなで楽しい学級生活をつくることの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の計画的な進め方などについて理解している。

3 活動における評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
「ミュージック大会」をすると、学級みんながもっと仲良くなるという思いをもち、他の児童と協力しながら、「ミュージック大会」に意欲的に取り組もうとしている。	よりよい「ミュージック大会」にするために話し合い、自分が集団の一員としてできることや、よりよい会にするための工夫などについて考え、判断し、協力し合っただけで実践している。	みんなで楽しい学級生活をつくることの大切さや、学級集団として意見をまとめる話し合い活動、「ミュージック大会」の準備や進行などの計画的な進め方などについて理解している。

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、活動の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画（本時 ）

		学習活動	学習活動に即した評価規準（評価方法）		
			集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
事前の活動	計画委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの計画を作成する。 ・歌う歌についてアンケートをとり学級に掲示し、意見を収集して歌を決定しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆提案者の思いに共感し、学級みんなが仲良くなり、よりよい学級になるために「ミュージック大会」を開きたいという思いをもって計画しようとしている。（観察記録の分析） 		<ul style="list-style-type: none"> ◆「ミュージック大会」を開くために話し合わなければならないことが分かり、活動計画を作っている。（計画委員会活動計画書） ◆話し合いの時に、計画委員として気を付けることが分かり、活動計画書に書いている。（計画委員会活動計画書）
	学級全員	<ul style="list-style-type: none"> ・「ミュージック大会」をよりよいものにするための工夫について考える。 ・学級会で話し合う時に使うポスター等を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆提案者の思いに共感し、学級みんなが仲良くなり、よりよい学級になるために「ミュージック大会」を開きたいという思いをもって考えようとしている。（観察記録の分析） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆友達に自分の考えを分かりやすく伝える方法を考えながら準備をしている。（観察記録の分析） 	
話し合い（本時）		<p>議題名 「3年4組学級ミュージック大会をしよう」 ＜話し合うこと＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが楽しむためにどんな工夫をするか。 ・どんな係が必要か。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆司会や記録の仕事に意欲的に取り組もうとしている。（観察記録の分析） ◆話し合い活動に意欲的に取り組もうとしている。（観察記録の分析） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆みんながもっと仲良くなるための「ミュージック大会」の内容や方法について友達の良いも受け止めながら考えたり、発言したりしている。（観察記録の分析） 	
事後の活動	準備	<ul style="list-style-type: none"> ・係ごとに、「ミュージック大会」までの具体的な活動計画を立て、協力して準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「ミュージック大会」の準備に協力したり、自分の役割を果たしたりするなど、進んで準備に取り組んでいる。（観察記録の分析） 		<ul style="list-style-type: none"> ◆役割分担や準備の内容や方法について理解している。（観察記録の分析） ◆「ミュージック大会」の進め方を理解している。（観察記録の分析）
	実践	<ul style="list-style-type: none"> ・「3年4組学級ミュージック大会」を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「ミュージック大会」に意欲的に取り組んでいる。（観察記録の分析） 		
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りノートに集会を振り返って思ったこと、感じたことを書いたり、発表し合ったりする。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆集会のめあてに関わる自分の感想や、友達の頑張っていたことやみんなのよさについて話したりノートに書いたりしている。（観察記録の分析） （ノート記述内容の分析） 	

5 本時の目標

- 学級のみんながもっと仲良くなるための「ミュージック大会」に必要な工夫や係及び分担について考え、話し合いにより決めることができる。

6 予想される本時の活動（指導と評価の計画）

予想される活動内容 (話し合いの順序)	時間	○指導上の留意点 評価規準 (評価方法) ■ Bに達しない児童への手立て
<p>【議題】 学級「ミュージック大会」をしよう。</p> <p>1 はじめの言葉</p> <p>2 議題と提案理由の確認</p> <p>3 話し合い (1) 工夫すること ①教室を飾る ②音楽に関するゲーム ③ダンス など</p> <p>(2) 係の分担 ①飾り係 ②ゲーム係 ③ダンス係 など</p>	35	<p>○ 事前に、本時に至るまでの過程を想起させることにより、必要感を高めて話し合いに臨めるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【関心・意欲・態度】 司会や記録の仕事に意欲的に取り組もうとしている。 (表情・発言内容・取組の様子)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【関心・意欲・態度】 話し合い活動に意欲的に取り組もうとしている。 (表情・発言内容・取組の様子)</p> </div> <p>■ 提案理由を確認させ、提案者や学級のみんなの思いを再確認させる。</p> <p>○ 互いの思いがぶつかり合い、話し合いが停滞する時には、今までの経験を想起させ、全員で分担・協力して困難を乗り越えてきたことを生かすようにさせる。</p> <p>○ 論点がずれてしまった時には、今は何について話し合っているのかを問いかける。また、論点を整理してグループごとに話し合う時間をとったり、アドバイスし合ったりすることができるように司会グループに助言をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【思考・判断・実践】 みんながもっと仲良くなるための「ミュージック大会」の内容や方法について友達の思いも受け止めながら考えたり、発言したりしている。 (表情・発言内容・取組の様子)</p> </div> <p>■ 自己中心的な発言が多い場合は、提案理由を確認させたり、今までの活動を想起させたりする。</p>
4 決まったことの確認	5	
5 先生のお話	5	○ 互いのよさを発表し合う場を設定する。
6 おわりの言葉		○ 終末の助言では、友達の考えを大切にしたい児童や、これまでの経験を生かして考えていた児童を称賛する。

※ 評価規準は「おおむね満足できる状況 (B)」について設定する。

特別活動（中）

1 特別活動における学習評価の考え方

学習指導要領では、特別活動を通して育てたい力を一層明確にするために、全体の目標に「人間関係」を加えるとともに、各活動・学校行事を通して育てたい態度や能力が新たに目標として示された。こうした学習指導要領の改善を踏まえ、特別活動の評価については、学習指導要領の目標及び特別活動の特質等に沿って、各学校において下記の2（2）「評価の観点及びその趣旨」を参考に評価の観点を定め、各活動・学校行事ごとに、評価することとされている。

また、指導要録における「特別活動の記録」の欄については、各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入することとされている。

中学校学習指導要領第1章総則第4の2の（12）で、「生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること。」と示している。このことは、特別活動の目標を立て、指導計画を作成する際にも配慮すべきことである。すなわち、指導計画の作成、計画に基づく展開、展開後の反省という一連の流れのあらゆる段階で評価は必要である。

学級活動、生徒会活動、及び学校行事のそれぞれの内容別に評価することから始まり、これが特別活動の全体としての評価に統合されていくものである。さらに、この評価が各内容の活動の場面に生かされるというように、循環的に繰り返されていくものであり、この積み重ねも各学校が特別活動の充実・改善を進めていく上で重要である。

なお、評価を通じて、教師が指導の過程や方法を必要に応じて見直し、より効果的な指導が行えるような工夫や改善を図っていくことが大切である。

2 特別活動の目標及び評価の観点等

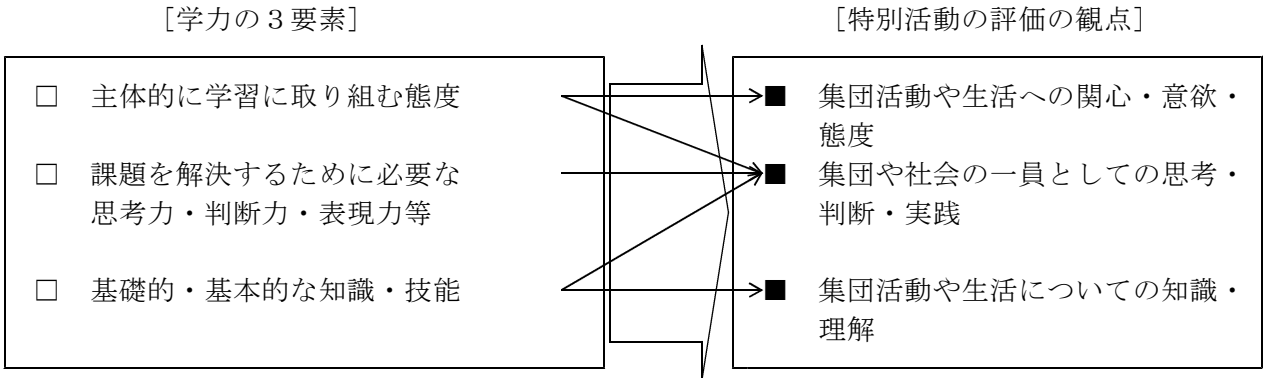
（1）特別活動の目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

（2）評価の観点及びその趣旨

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の集団や自己の生活に関心をもち、望ましい人間関係を築きながら、積極的に集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団や社会の一員としての役割を自覚し、望ましい人間関係を築きながら、集団活動や自己の生活の充実と向上について考え、判断し、自己を生かして実践している。	集団活動の意義、よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方、自己の健全な生活の在り方などについて理解している。

(3) 学力の3要素と評価の観点との関係



※ 「基礎的・基本的な知識・技能」に対する評価の観点は、「知識」の現れとなる「理解している姿」と「技能」の現れである「実践する姿」との関連が考えられる。実際の指導と評価に当たっては、[学級活動](1),(2),(3)[生徒会活動],[学校行事](1),(2),(3),(4),(5)の内容のまとまりごとに評価規準を設定し、さらに、一人一人のよさや可能性を積極的に評価できるようにするため、題材ごとに、事前、本時、事後の一連の活動過程において、評価規準を作成しておくことが必要である。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

指導計画作成に当たっては、生徒の実態を十分に把握するとともに、生徒の発達段階や特性等を生かすようにし、教師の適切な指導の下に、生徒の自主的、実践的な活動が助長できるようにする。

特別活動は、その目標や内容、指導の形態や方法において生徒指導と深くかかわるものがあり、生徒指導の機能を指導計画の作成に十分生かすことにより指導の効果が上がるものといえる。

また、学校生活への適応や人間関係の形成、進路の選択などの指導に当たっては、ガイダンスの機能を充実するよう工夫する必要がある。特に、中学校入学当初においては、個々の生徒が学校生活に適応するとともに、希望と目標をもって生活できるように工夫したい。

さらに、道徳の時間などとの関連については、特別活動における道徳性の育成を目指して、道徳教育の内容との関連を考慮しながら指導計画を作成することが大切である。

各学校においては、各活動・学校行事ごとに指導と評価を適切に位置付けた計画を作成することが必要である。特別活動の指導と評価の計画については、目標、評価の観点、活動内容、活動時期、活動の場、指導上の留意点等を記入し、特質を踏まえて作成することになる。

(2) 評価方法及び評価の時期

特別活動は、全校又は学年を単位として行う活動があり、学級担任以外の教師が指導することも多いので、評価に当たっては、評価体制を確立し、学校全体で組織的に取り組む必要がある。

生徒一人一人について評価する方法としては、主として教師による観察を中心としながらも、質問紙法、チェックリストによる方法、生徒自身の各種記録の活用などが考えられ、それぞれの評価方法の特質を十分に吟味しておくことが必要である。

特別活動として最も重視している「自分の活動を振り返り、自ら改善しようとする自主的、実践的な態度」を、生徒に育てる上で有効であることから、生徒の学習活動として自己評価や相互評価を行うことも多い。したがって、観察による教師の評価と併せて、生徒自身による評価を参考にすることも考えられる。

活動の積み重ねによって年間を通して生徒を育てようとする特別活動においては、すべての評価の観点について、事前、本時、事後などの一連の活動過程の中で評価できるようにしたり、各活動・学校行事における顕著な事項は補助簿を活用して記録しておき、一定期間に実施した活動や学校行事を評価規準に基づきまとめて評価したりするなど、効果的で効率的な評価となるよう時期を設定しておく必要がある。

4 効果的に学習を進めるために

(1) 言語活動の充実と学習評価

学級活動や生徒会活動において、生徒の自発的、自治的な活動が活発に行えるようにする観点から、話し合い活動を充実させていかなければならない。その際、集団として意見をまとめる（集団決定をする）ための話し合い活動、自己の生き方について考えを見定める（自己決定をする）ための話し合い活動を重視することにより、ねらいや目標の達成に迫ることができる。

学校行事において、自然体験や社会体験などの体験活動を充実させるとともに、体験活動を通して感じたり、気付いたりしたことを振り返り、まとめたり、発表し合ったりする活動を充実させるよう工夫する必要がある。

(2) 多面的、総合的な評価の工夫

生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題がもてるようにする評価を進めるため、活動の結果だけでなく活動の過程における生徒の努力や意欲などを積極的に認めたり、生徒のよさを多面的・総合的に評価したりすることが大切である。その際、所属集団の環境や状況に応じて評価方法を工夫するなど、一面的な捉え方にならないようにすることが大切である。また、特別活動で育成しようとしている「自主性」、「社会性」、「個性」などが、生徒の意欲や積極的な態度、正しい知識や適切な判断に基づいた実践などの様々な側面を含んでいることを理解し、各学校で設定した評価の観点に照らして総合的に評価することが大切である。

(特別活動における学習指導と学習評価の実例)

1 議題名「校内演劇コンクールに対する取組を見直そう」(第2学年)

※ 学習指導要領における位置付け 学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」

2 本活動の目標

- (1) 学級生活の充実と向上のために、現時点での課題を見だし、得意、不得意関係なく他の生徒と協力して、何事にも一生懸命取り組もうとしている。
- (2) 学級の一員としての自覚をもち、学級の仲間とともに共通の目標に向かって、思いやりの心を大切にし、協力しながら課題について考え、判断し、実践している。
- (3) 充実した学級生活を築くことの大切さや、よりよい生活づくりへの参画の仕方や意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。

3 活動における評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
「校内演劇コンクール」に向けての活動を通して、学級の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、他の生徒と協力して、自主的、自律的に集団活動に取り組もうとしている。	「校内演劇コンクール」を成功させるための活動を通して、学級の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、さらに学級生活が充実し向上していくための取組について考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	充実した集団生活を築くことの意義や、学級の生活づくりへの参画の仕方、「校内演劇コンクール」を成功させるための意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。

※ 「評価規準に盛り込むべき事項」を基に、活動の内容に合わせて、言葉を省略したり変更したりしている。

4 指導と評価の計画 (本時)

	学習活動	学習活動に即した評価規準 (評価方法)		
		集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員とし ての思考・判断・実践	集団活動や生活につ いての知識・理解
事前の活動	<ul style="list-style-type: none"> 校内演劇コンクールをよりよいものにするために見直すべき事項を考える。 考えた事項をアンケートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内演劇コンクールに関心を持ち、成功させるために何が必要かを考えている。(観察記録分析) 	<ul style="list-style-type: none"> 見直すべき事項を考え、自分の考えを分かりやすく具体的にまとめている。(観察記録分析) (アンケート分析) 	
	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの内容を確認し、話合いの進め方を検討する。 役割を分担する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級役員として、アンケートの意見を集約し、よりよくするための工夫点を考えようとしている。(観察記録分析) 		<ul style="list-style-type: none"> 話し合う内容が分かり、話合いの仕方を理解している。(観察記録分析)
話合い (本時)	<p>議題名「校内演劇コンクールに対する取組を見直そう」</p> <p><話し合うこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 今までの取組で、よかった点、足りなかった点は何か。 よりよい活動になるための取組は何か。 	<ul style="list-style-type: none"> 司会や記録の仕事に意欲的に取り組もうとしている。(観察記録分析) 学級生活の充実と向上のために、意欲的に話合い活動に参加している。(観察記録分析) 	<ul style="list-style-type: none"> 学級生活がより充実し向上していくための取組を考え、理由を示して意見を述べている。(観察記録分析) (学級活動カード分析) 	
事後の活動	<ul style="list-style-type: none"> 話合い活動における改善策に基づいて活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内演劇コンクールの練習に意欲的に取り組んでいる。(観察記録分析) 	<ul style="list-style-type: none"> 目標の実現に向け互いに信頼し支え合って改善策を実践している。(観察記録分析) 	
	<ul style="list-style-type: none"> 校内演劇コンクールで、協力しながら一人一人が一生懸命役割を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内演劇コンクールに意欲的に取り組んでいる。(観察記録分析) 		<ul style="list-style-type: none"> これまでの取組や本時における互いのよさを理解し、称賛している。(観察記録分析)
	<ul style="list-style-type: none"> 校内演劇コンクールへ向けての一連の活動を通して、気付いたことや学んだことを学級活動カードにまとめる。 今後の学校生活について考える。 		<ul style="list-style-type: none"> 学級の仲間とともに共通の目標に向かって努力したよさを話し合ったり、今後の生活について実践していくことを書いたりしている。(観察記録分析) (学級活動カード分析) 	<ul style="list-style-type: none"> 学級全体で課題を解決し、充実した学級生活を築くことの大切さを理解している。(観察記録分析) (学級活動カード分析)

5 本時の目標

- 学級生活の充実と向上のために、校内演劇コンクールに対する取組を見直し、現時点での課題を考え、話し合いにより改善策をまとめることができる。

6 予想される本時の活動（指導と評価の計画）

予想される活動内容 (話し合いの順序)	時間	○指導上の留意点 評価規準 (評価方法) ■ Bに達しない生徒への手立て
<p>【議題】 校内演劇コンクールに対する取組を見直そう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめの言葉 2 議題の発表と提案理由の説明 3 教師の話 4 練習の録画を見る 5 アンケート結果の発表 6 話し合い <ol style="list-style-type: none"> (1) 今までの取組でよかった点、足りなかった点についての話し合い (2) よかった点、足りなかった点についての発表 (3) 今後の活動についての話し合い <ol style="list-style-type: none"> ①進度が遅れている係への手助け ②計画の見直しと計画表の作成 ③スローガンの募集と決定 ④係長会の開催 など (4) 改善策の確認 7 校内演劇コンクールに向けての決意発表 8 自己評価・感想の記入 9 教師の話 10 おわりの言葉 	<p>10</p> <p>30</p> <p>10</p>	<p>○ 学級役員会での検討の経緯について説明するよう助言する。</p> <p>【関心・意欲・態度】 司会や記録の仕事に意欲的に取り組もうとしている。 (表情・取組の観察分析)</p> <p>○ 提案理由に関する補足をしながら、学級への所属感や連帯感が深められるような話し合いになるよう助言する。</p> <p>○ アンケート内容と結果を対応させて発表させる。</p> <p>○ 係ごとに集まり、係長が中心となり話し合いをさせ、意見をまとめさせる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 学級生活の充実と向上のために、意欲的に話し合い活動に参加している。(表情・取組の観察分析)(発言分析)</p> <p>■ 今までどのような活動をしてきたか振り返らせ、その時の思いや願い、充実感について想起させる。</p> <p>○ 足りなかった点を補うだけでなく、互いのよさを生かしながら、さらによりよい活動になるための取組を考えさせるよう司会グループに助言する。</p> <p>○ 学級生活を充実させ、向上させるための話し合いであることを常に意識させる。</p> <p>【思考・判断・実践】 学級生活がより充実し向上していくための取組を考え、理由を示して意見を述べている。 (発言分析)(学級活動カード記録分析)</p> <p>■ 今、何について話し合いをしているのかを確認させ、学級のために貢献できることを考えさせる。</p> <p>○ 共通するものに印を付けるなどして、いくつかにまとめさせる。</p> <p>○ 本時の話し合い活動を通して気付いたことや考えたことなどを、学級活動カードに記入させる。</p> <p>○ 学級や友達のために考えていた生徒たちを称賛する。</p> <p>○ 今後の実践の意欲を高めるように配慮する。</p>

※ 評価規準は「おおむね満足できる状況 (B)」について設定する。

道 徳 (小)

1 道徳における学習評価の考え方

道徳教育における評価は、教師が児童の人間的な成長を見守り、児童自身が自己のよりよい生き方を求めていく努力を評価し、勇気付ける働きをもつものである。また、それは、教師と児童の温かな人格的な触れ合いやカウンセリング・マインドに基づいて、共感的に理解されるべきものである。

2 道徳の目標及び評価の観点等

(1) 道徳の目標

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏怖の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

道徳教育の目標は、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うことである。

道徳の時間においては、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するものとする。

(2) 評価の観点及びその趣旨

道徳的心情	道徳的判断力	道徳的実践意欲と態度	道徳的習慣
道徳的に望ましい感じ方や考え方、行為に対してあるいは逆に望ましくない感じ方や考え方、行為に対して、どのような感情をもっているか。	道徳的価値についてどのようにとらえているか、また、道徳的な判断を下す必要がある場面に直面した際に、どのように思考し判断するか。	学校や家庭での生活の中で、道徳的によりよく生きようとする意志の表れや行動への構えが、どれだけ芽生え、また定着しつつあるか。	特に基本的な生活習慣をどの程度身に付け実践できているか。

※ 児童の道徳性は人格全体にかかわるものであり、いくつかの要素に分けられるものではない。

※ 指導との関係から上記のような観点で分析的に理解と評価に当たることが多い。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画作成上の留意点

道徳の目標を達成することを目指し、各学校においては、校長の方針の下に、道徳教育推進教師を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開するために、道徳教育の全体計画と道徳の時間の年間指導計画を作成する。また、全体計画を各学年や各学級で具体的に推進するための指針として学級における指導計画を作成していくことが望まれる。各教科における道徳教育にかかわる指導の内容及び時期を整理したもの、道徳教育にかかわる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの、道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを別葉にして加えるなど、年間を通して具体的に活用しやすいものとする工夫が望まれる。指導計画に沿った児童の成長を支えるための評価計画では、児童の変容をとらえ、成長の程度を明らかにする評価が求められる。

(2) 評価の方法及び評価の時期

① 評価の基本的態度について

児童は一人一人がよりよく生きる力をもっている。教師は、児童の成長を信じ願う姿勢をもつことが何より大切である。児童の立場に立って、意欲や努力を内面から支えるために、生徒の道徳性を評価し、共感的な理解を豊かなものにするための資料とすることが大切である。

② 評価の方法

それぞれの評価方法には一長一短がある。特徴を生かして幾つかの方法を併用することが望ましい。道徳性は、人格の全体にかかわるものであり、不用意に数値などによる評価を行うことは適切でない。

ア 観察や会話による方法	児童の行動を観察し記録を累積する。内面理解に努める。
イ 作文やノートなどによる方法	児童の思いを共感的に理解する。受容的なコメントを心掛ける。
ウ 質問紙などによる方法	質問や想定場面での判断やその理由から道徳性を理解する。
エ 面接による方法	児童の人格を尊重し、感じ方や考え方を理解する。
オ その他の方法	事例研究法や各種のテストを用いて児童の成長を理解する。

③ 評価の時期

事前と事後の児童の実態の把握に努め、どの程度成長したかを明らかにすることが大切である。

ア 事前の実態把握	日常の観察や質問紙等を利用し実態を把握する。
イ 道徳の時間等	授業の中で、可能な限り児童の心の変容をとらえ、日常の指導や個別指導に生かす。
ウ 事後の変容の把握	児童と教師の心の触れ合いの中で心の変容をとらえ、児童個人の成長と集団としての成長を評価し、指導に生かす。

4 効果的に学習評価を進めるために

- (1) 児童との心の触れ合いを通して得られる共感的理解を基盤として、児童自身のよりよく生きようとする意欲や努力に目を向けて、道徳性に関する自己理解・自己評価をその内面から理解していくように努める。
- (2) 児童理解の観点を固定的に考えず、児童のよさや個性を積極的に受け止め、多面的で幅広い視点に立った評価を心掛ける。
- (3) 児童一人一人の姿や変化を具体的に記述できるように努力し、個に目を向けた評価となるようにする。
- (4) 多様な方法で、複数の目を通して評価資料が得られるように工夫する。
- (5) 長期的な視点に立った評価を心掛け、継続的に観察するなどし、児童の一時期の様子だけで即断しない。
- (6) 評価の結果を児童の個に応じた指導や学級全体の指導に生かす。

(道徳における学習指導と学習評価の実際)

○ 評価の実際 ～観察や会話による方法例～

評価の方法の一つに、観察や会話による方法がある。この方法は、児童の行動を観察し記録を累積する過程で、児童の内面的理解に努める方法である。

下記の表は、「道徳の時間」の事前と事後に、抽出児（A児）にどのようなエピソードが生まれたかを時系列で記録したものである。本事例は、児童の学校生活における「児童の実態・行動」と「教師の関わり」の項目に分けて記録された一覧（エピソードシート）である。児童の道徳性をどのように教師が観察して見取ったか、授業の前後で児童の行動に変化が見られたかを累積していくことで、児童の道徳性（児童のよさ）を評価する方法である。

【エピソードシート 6年O組 Aさんの場合】

	児童の実態・行動	教師の関わり
事前	<p>〈1年生を迎える会〉</p> <p>◇新1年生に喜んでもらうために、会を盛り上げようと、同じ系の友達と協力して考えた進行原稿をもとに、一生懸命進行係の仕事に取り組んでいた。</p> <p>〈運動会〉</p> <p>◇高学年の団体種目「タイヤ引き」の初めのかげ声を友達と考へ、恥ずかしがらずに楽しそうに演じ、見ている人を楽しませることができた。</p> <p>〈小体連陸上競技大会〉</p> <p>◇練習の途中で脚をケガしてしまい、地区大会で優勝した走高跳への出場を断念し、リレー1本にしぼって一生懸命走ったが、思うような走りができず、結局優勝することができなかった。リレーの後、責任を感じて涙を流していた。</p> <p>〈毎日の学校生活〉</p> <p>◇以前と比べて授業中の発言が増えたり、代表の役割に進んで挑戦しようとしたり、自分から担任に話かけてきたりすることが多くなってきた。</p> <p>〈東日本大震災で転校してきた友達とお別れ会〉</p> <p>◇避難所の関係で転校することになった友達のために朝の時間や休み時間、放課後などに、学級の仲間と力を合わせながら、お別れ会の準備を一生懸命進めていた。お別れ会では、みんなと一緒に踊ったり、歌ったり、友達へのメッセージを、涙を流しながら心を込めて述べていた。</p> <p>◇〈道徳〉資料「この手に命を受けて」の学習では、授業の感想に「命の大切さやかけがえのなさを感じました。これからは他の人の命も大切にしたいと思いました。」と書いた。</p> <p>〈総合的な学習の時間 元気っ子発表会〉</p> <p>◇地域や自分たちを支えてくれている人たちの中の民生児童委員について、活動内容、思いや願いなどについて探求したことを、友達と協力してまとめたり、大勢の前で上手に発表したりすることができた。</p> <p>〈ロータリーサッカー大会〉</p> <p>◇チームのキャプテンとしてがんばり、自分自身も得点を決めるなどの活躍をする。PK戦でゴールを決めた時に、大きなガッツポーズをして喜ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで大変な役割をやろうとしたことや自分の役割に責任を持って果たそうとしていたこと、1年生のために今できることに真剣に取り組んでいたことについて、学級全体の前で称賛。本人もうれしそうな顔をしていた。 ・何をやるにも、恥じらいがあり進んでみんなの前に出ることを嫌がっていたが、運動会の準備では、友達とアイディアを出し合い楽しそうにしている姿を称賛。今後も、自信をもって何事にも積極的に取り組むよう励ました。 ・ケガにより個人種目を我慢し、リレーに絞って練習してきたこと、みんなの思いを受け止めながら、脚の痛みをこらえて最後までがんばったことを称賛。今、自分にできることを一生懸命にやるのがすばらしいと全体に指導した。 <p>・お別れ会の準備に中心となって取り組んだので「ありがとう」と声をかけた。最近は何事にも中心になって、取り組む姿が見られることについて話したら「積極的に取り組んだほうが楽しい。」という言葉が返ってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の感想から本人が命のかけがえのなさや大切さを感じているということがわかったので、今後の授業などで、意図的に指名したい。 ・地域の方々の話を真剣に聞いたり、祖母の言葉を丁寧にまとめたりしている姿を称賛。自分のことばかりでなく、同じグループの友達にアドバイスしたり、やる気にさせたりするなど、周囲のことを考えて行動している姿を称賛した。 ・試合前は、自信がなさそうで不安な表情をしていたが、試合後に声をかけたら「悔しかったけど、楽しかった。」と笑顔で答えていた。「よくがんばったな。」と声をかけた。
本時	<p>〈道徳〉かけがえのない命〔3-（1）生命尊重〕</p> <p>◇主発問「主人公が伝えたかったこと」では、「今生きていることは、夢を持てるし、いろんな体験ができるから幸せだ。」という考えをワークシートに書いていた。</p> <p>◇自分を振り返る場面では、今まで精一杯がんばったこととして、「陸上大会でのリレーでみんなのためにがんばった。」ことをワークシートに書いていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、意図的に指名し発言させた。「頑張ってたよ良かったか。」という問いかけに、そのときのことを思い出して涙ぐみながらも「よかった。」と答えていた。周囲の子どもたちの中にも本人のがんばりを思い出して泣いている子どももいた。

事後	<p>〈毎日の学校生活〉</p> <p>◇休み時間に友達を誘って、教室の整理整頓をするなど、自分にできることに取り組む姿がよく見られた。</p> <p>〈総合的な学習の時間（ボランティア活動）〉</p> <p>◇活動後の感想として「気が利く人や地域の一員として」という思いをもって一生懸命がんばったことを書いていた。</p> <p>〈学級活動（1）「みんなで心を一つにして楽しめる集会」〉</p> <p>〈卒業式に向けた取り組み〉</p> <p>〈道徳〉命の尊さ〔3－（1）生命尊重〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒にいた時に「ありがとう」と声をかけたら、照れてはいたがうれしそうだった。 ・本人の感想をみんなの前で発表し、称賛した。自分と同じような感想を周りの友達も述べていたので、みんなも同じ気持ちでやっていたことを感じ余計にうれしそうだった。
<p>〈総合所見〉変容：わかっているからできていた → もっとわかったからよりできるようになった</p> <p>○5年生の当初は、何事にも一生懸命取り組むが、やや消極的であり、精一杯取り組むことの素晴らしさやよさを感じることができなかったが、6年生になり、様々な体験と学んだことを通して、積極性ととも実践力も高まってきた。自分のがんばりがみんなのためになることを実感できたことが大きな要因だと思われる。</p> <p>○教育活動全体を通して、価値に対するの授業での気づき（再認識）←→体験を通しての実践（実感）←→日常の指導（評価）が、本人の道徳性を高めるために大変効果的であったと感じる。</p>		

【エピソードシート 6年〇組 Bさんの場合】

児童の実態・行動	教師の関わり
<p>（ 中 略 ）</p>	
<p>〈総合所見〉変容：わかっているからできていなかった → わかったからできるようになった</p> <p>○4月に転校してきた頃は、何事にも気持ちが入っていない様子がいるんな面で見られたが、学級の子どもたちとの関わりにより、精一杯がんばることの素晴らしさを実感できたと思う。前の学校での道徳の勉強でもねらいとする価値については学習してきたと思うが、実感としての気付きや自覚などが無かったと思われる。本当の意味での価値の気付きや自覚（理解）が、学級のみんなどの体験を通して深められ、実践ができるようになったと思う。</p> <p>○東日本大震災に係る避難での転校であるが、遠慮せずにかかわっていくことで、さらに実践力を高めたい。</p>	

エピソードシート中の本時では、主題を「かけがえのない命 3－（1）生命尊重（小学校第6学年）」とし、読み物資料を使って、目標「生命がかけがえのないものであることを知り、生きているすばらしさを感じて、力強く精一杯生き抜こうとする態度を育てる。」を掲げて授業を行った。

エピソードによる評価は、記録の累積という点では時間を要する評価であるが、一覧にして時系列で振り返ってみると、児童の選択や行動の傾向性、教師の働きかけが児童の実践意欲や態度につながる姿（ゴシック部分）が見て取れる。学級経営誌等の記述から本時の内容項目との関連した記述を洗い出す等、児童一人一人のよさをエピソードとして累積することは、学校の教育活動全体を通じて、授業者だけでなく、教職員間での児童理解にも役立つ評価である。

道徳の時間は、児童の人格そのものに働きかけるものであるため、その評価は難しい。しかし、可能な限り児童の変化をとらえ、それらを日常の指導や個別指導に生かしていくように努めなければならない。したがって、道徳教育における児童についての評価は、児童自身が自己の生き方について道徳的価値とのかかわりにおいて自覚を深め、自己のより豊かな心の成長を実感できるように、道徳の時間における評価を生かしながら見通しをもって進めていくことが大切である。

道 徳（中）

1 道徳における学習評価の考え方

生徒の道徳性については、道徳教育の目標や内容に照らして、どの程度成長したかを明らかにすることが大切である。そのためには事前や事後の生徒の実態の把握に努め、確かな生徒理解に基づく道徳性の評価を心掛ける必要がある。その際、生徒一人一人の人格を、その全体像において理解することが大切である。

教師は、常に生徒の立場に立って生徒を受容し尊重する共感的な生徒理解を心掛けるとともに、生徒の道徳的な成長の姿を温かく見守り、よさを認め励ましていくことが大切である。

あくまでも生徒の道徳性の評価は、生徒が自らの人間としての生き方についての自覚を深め、人間としてよりよく成長していくことを支えるためのものである。

2 道徳の目標及び評価の観点等

(1) 道徳の目標

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏怖の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

道徳教育の目標は、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うことである。

道徳の時間においては、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するものとする。

(2) 評価の観点及びその趣旨

道徳的心情	道徳的判断力	道徳的実践意欲と態度	道徳的習慣
道徳的に望ましい感じ方や考え方、行為に対してあるいは逆に望ましくない感じ方や考え方、行為に対して、どのような感情をもっているか。	道徳的価値についてどのようにとらえているか、また、道徳的な判断を下す必要がある場面に直面した際に、どのように思考し判断するか。	学校や家庭での生活の中で、道徳的によりよく生きようとする意志の表れや行動への構えが、どれだけ芽生え、また定着しつつあるか。	特に基本的な生活習慣をどの程度身に付け実践できているか。

※ 生徒の道徳性は人格全体にかかわるものであり、いくつかの要素に分けられるものではない。

※ 指導との関係から上記のような観点で分析的に理解と評価に当たることが多い。

3 指導計画及び評価計画の作成に当たって

(1) 指導計画及び評価計画の作成上の留意点

道徳の目標を達成することを目指し、各学校においては、校長の方針の下に、道徳教育推進教師を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開するために、道徳教育の全体計画と道徳の時間の年間指導計画を作成する。また、全体計画を各学年や各学級で具体的に推進するための指針として学級における指導計画を作成していくことが望まれる。各教科における道徳教育にかかわる指導の内容及び時期を整理したもの、道徳教育にかかわる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの、道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを別業に

して加えるなど、年間を通して具体的に活用しやすいものとするなどの工夫が望まれる。指導計画に沿った生徒の成長を支えるための評価計画では、生徒の変容をとらえ、成長の程度を明らかにする評価が求められる。

(2) 評価の方法及び評価の時期

① 道徳性の評価における基本的な考え方

道徳性の評価においては、生徒自らが成長を実感し、新たな課題や目標を見つけられるよう、教師が生徒の道徳的な成長を温かく見守り、よりよく生きようとする努力を認め、勇気付ける働きを重視する必要がある。

② 評価の方法

それぞれの評価方法には一長一短がある。特徴を生かして幾つかの方法を併用することが望ましい。道徳性は、人格の全体にかかわるものであり、不用意に数値などによる評価を行うことは適切でない。

ア 観察による方法	日常の生活の中で、生徒の行動を観察し記録を積み上げる。
イ 面接による方法	生徒と直接話し、感じ方や考え方を理解する。
ウ 質問紙などによる方法	質問や想定場面での判断やその理由から道徳性を理解する。
エ 作文やノートなどによる方法	作文や生活ノートなどから生徒の内面を理解する。
オ その他の方法	事例研究法や各種のテストを用いて生徒の成長を理解する。

③ 評価の時期

事前と事後の生徒の実態の把握に努め、どの程度成長したかを明らかにすることが大切である。

ア 事前の実態把握	日常の観察や質問紙等を利用し実態を把握する。
イ 道徳の時間等	授業の中で、可能な限り生徒の心の変容をとらえ、日常の指導や個別指導に生かす。
ウ 事後の変容の把握	様々な方法で生徒の心の変容をとらえ、生徒個人の成長と集団としての成長を評価し、指導に生かす。

4 効果的に学習評価を進めるために

- (1) 評価のための資料に基づいて生徒一人一人の道徳性を評価するとともに、学級や学年の集団としての成長の姿を評価し、指導に生かしていくことが望ましい。
- (2) 評価のための資料が不十分であったり、矛盾したりするときは結論を急がず、他の資料を追加するなどして、長い目で生徒を見守ることが大切である。
- (3) 道徳性の育成には、多くの場面や要因がかかわりあっているため、広い視野から総合的に理解する必要がある。そのためには、多くの教師やそれぞれの家庭の協力を得て資料を収集していくことが大切である。
- (4) 生徒が自ら成長を実感し、更によりよい生き方を求めて努力する意欲が生まれるよう、生徒の自己評価を工夫することが大切である。
- (5) 道徳性理解のための資料は、生徒のプライバシーにかかわる内容を含んでおり、その収集の仕方や収集した資料は慎重に扱う必要がある。
- (6) 指導を必要とする場合、学級全体に対する指導と同時に、個別に相談的な指導を行う必要がある。道徳教育推進教師、経験豊かな教師や教育相談等の専門家の助言を求めたり、必要に応じて学年や学校全体で取り組んだりすることも大切である。

(道徳における学習指導と学習評価の実際)

○評価の実際 ～質問紙などによる方法例～

評価の方法の一つに、質問紙による方法がある。この方法は、あらかじめ作成した生徒が直面すると考えられる問題場面での判断やその理由から道徳性を理解するという方法である。

(1) 授業者が質問紙を作成する場合

事前に授業者が質問紙(道徳意識調査)を作成し調査することがある。下記の実践は、年間2回調査(5月・11月)する道徳に関する意識調査で、学校教育全体を通して生徒はどのような変容があったのかを見て取るために作成されたものである。質問に対する回答は4段階評価(4 とても思う 3 そう思う 2 そう思わない 1 まったく思わない)とした。

(H中学校の場合)

	項目	1年	2年	3年	全体
1	「道徳の時間」の勉強は好きだ	2.8	2.5	2.6	2.6
2	「道徳の時間」の勉強はためになると思う	3.1	2.7	2.8	2.8
3	「道徳の時間」では他の人の考えを聞きながら自分のことについてよく考える	2.8	2.6	2.6	2.7
4	規則正しい生活を心がけ、健康的な生活を送りたいと思う	3.3	3.1	3.1	3.2
5	言葉遣いやマナーを守り、時と場に応じた言動を心がけている	3.2	3.1	3.1	3.2
6	人には親切にし、困っているときは進んで助けている	2.9	2.7	2.8	3.2
7	木を折ったり動物を傷つけたり、道路や公園にゴミを捨てたりすることがある	3.4	3.2	3.2	2.8
8	人の話や忠告に素直に耳を傾け、感謝の気持ちを忘れない	3.3	3.0	3.1	3.3
9	将来のためにも、今、勉強をがんばりたいと思う	3.3	3.1	3.4	3.1
10	服装や行動など学校のきまりを守っている	3.5	3.1	3.2	3.3
11	清掃活動や委員会活動など与えられた役割はきちんと果たしている	3.5	3.2	3.3	3.3
12	学校行事に積極的に参加し励まし合ってよりよい学級生活を作ろうとしている	2.7	2.7	2.7	2.7
13	いじめを見たりするとほおっておけない	2.9	2.6	2.6	2.7
14	日本や自分が住んでいるふるさとし、誇りや愛情がある	3.2	2.9	2.8	3.0
15	自分の学校に誇りをもち、伝統や校風を大切にしたい	3.3	2.9	3.0	3.1

道徳に関する意識調査について、質問紙により「年度当初と年度末」や「授業の事前と事後」等、生徒の実態を把握することは、生徒自身の自己評価になる上に、授業者の授業改善につながる評価にもなる。

学校においては、毎年多くの質問紙調査(アンケート)調査が行われています。その内容は、学力、生活実態、家庭環境、趣味や特技、交友関係、悩みや不安、いじめなどに関するアンケート調査であります。これらの結果をまとめておくことは大切なことです。また、以前の調査と比較検討することによって、生活実態が明らかにされ児童生徒の変化や学校での取組の計画、実行、評価、改善を図ります。 (平成22年文部科学省「生徒指導提要」より)

(2) 市販されている道徳性診断テストを使用する場合

生徒の実態を客観的に把握し、数字で全体及び個人の傾向を知ることができる質問紙がある。生徒に対して事前に質問紙で回答を求め、想定場面での判断やその理由から道徳性を理解することのできる評価方法である。

例えば、登場する子どもの身になって、その心情と判断の選択を求める問題場面を質問紙で調査する方法で、道徳性を「心情」と「判断」の二つの側面からとらえる調査がある。道徳性を学習指導要領の4つの視点「1 主として自分自身に関すること、2 主として他の人とのかわりに関するこ

と、3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること、4 主として集団や社会とのかかわりに関すること。」で分類し測定評価する。その結果、各内容項目や道徳的心情・道徳的判断力を段階ごとに全国と比較したり前年度と比較したりすることができる。

なお、市販されている診断テストを使用する場合には、何を診断するテストなのかをきちんと把握する必要がある。

調査質問紙は専門家の協力を得て、なるべく十分に妥当性・信頼性の確かめられたものを用いると、有効性が高まります。妥当性や信頼性の高い調査の多くは、一見同じような質問内容の項目を複数回尋ねているように見える構成となっていますが、それらの複数の項目をまとめ、分析することが有効とされています。独自に作成することは専門的な訓練が必要なため、大学諸機関などの専門家と連携して質問紙を作成、実施、分析、解釈することが求められます。

結果の解釈にも注意が必要です。該当者の割合（％）、平均値と比較したときの個人（や対象クラス）の得点、1学期と比べた時の2学期の得点などのような時系列を追った変化が、各基準より数ポイント高い低いということで、結果の良し悪しを判断することはできません。質問紙調査結果には誤差が多く含まれます。児童生徒も、答えたときの気分やその日の出来事により回答が大きく揺らぎます。基準と比較したときの差に基づいて結果を解釈する場合は、その誤差の範囲を超えて割合や得点の高低の有無を検定し、解釈していく必要があります。（中略）

調査結果から何らかの問題点が見つかったときは、調査の妥当性や信頼性を再度確認した上で、他の調査結果や資料と照合させながら問題点を明らかにします。さらに、児童生徒本人や、必要に応じて保護者との面接を実施し、問題の早期発見、児童生徒理解に努めます。

（平成22年文部科学省「生徒指導提要」より）

H中学校の実践では、市販の調査結果を分析し、学校全体の傾向として、視点2「主として他の人とのかかわり」の（3）信頼・友情で、1・2年生が全国の傾向より望ましい方向にあるという結果に対して、3年生が全国とほぼ変わらない結果を得た。

また、3学年のある学級の実態を「男子17名、女子17名、計34名の学級で、全体的には、ややおとなしい雰囲気であるが、男子の中に積極的に発言する生徒が数名いる。4月に実施した道徳性診断テスト（T社）の結果を見ると、視点2（主として他の人とのかかわりに関すること）がやや全国平均を下回っていた。記述式の事前アンケートでは、友人やライバルについて自分なりの考えをほとんどの生徒が述べることもできた。生徒の中には、しっかりとした友人関係を築くことができると思われる発言が見られた一方で、友人関係を表面的な関係で捉えている生徒も一部見られ、友人関係の大切さについての理解は十分とは言えない。」と分析した。

この分析に基づいて行った授業の主題は、「試練が育てる友情 2－（3）友情（第3学年）」である。本時は、読み物資料を使って、目標「真の友情や友の尊さに気づき、互いに信頼し認め合い、励まし高め合える友人関係を築こうとする態度を育てる。」を掲げて授業を計画的に行っている。

道徳の時間は、生徒の人格そのものに働きかけるものであるため、その評価は難しい。しかし、可能な限り生徒の心の変容をとらえ、それらを日常の指導や個別指導に生かしていくように努めなければならない。したがって、道徳教育における生徒についての評価は、生徒が道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、自己のより豊かな心の成長を実感することができるように、道徳の時間における評価も生かしながら進めていくことが大切である。

第3章

各教科等のQ & A

Q & A (国 語)

Q 1 国語科ではどうして5観点で評価するのですか。

A 国語科においては、「思考・判断・表現」という評価の観点が見えていません。それは、「思考・判断・表現」の能力と「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」のそれぞれの能力とを分けて評価することは困難であるからです。

「話すこと・聞くこと」の領域の学習活動を考えてみましょう。児童生徒は、相手の話を聞いたり、自分の考えや意見を話す中で、思考し、判断し、表現しています。また、その中で基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせていくことが求められます。「書くこと」「読むこと」の領域の学習活動においても同様です。

また、「言語についての知識・理解・技能」については、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に示された指導すべき事項の内容についての評価です。

これらを踏まえ、国語科においては5観点で評価することになっています。

Q 2 どの単元でも5つの観点を評価しなければなりませんか。

A 基本的にどの単元でも評価するのは、「国語への関心・意欲・態度」と「言語についての知識・理解・技能」です。「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」については、年間指導計画の見直しのもと、当該単元で重点的に指導するものを精選して設定していきます。

「読むこと」の領域において、物語文を読んでいく学習活動を想定してみましょう。例えば、単元を貫く言語活動は、「本を読んで推薦の文章を書くこと」を位置付けます。この際、「推薦の文章を書くこと」を通して「読む能力」を高めていきます。学習活動自体に書く活動があるからといって、「書く能力」を高めるために行うとは限らないことに注意する必要があります。

単一の単元において、複数の領域を取り扱う場合においても、単元を通してどんな力を育てたいのか、そのためにどんな言語活動を位置付けるのか、それらを年間指導計画の中で確認しながら、精選するとともに重点化を図り評価項目を設定していくことが大切です。

Q 3 学習指導案の評価の欄に、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」と書き入れてもよいですか。

A 領域と評価は異なるものです。そのように書き入れることは適切ではありません。

領域は、学習指導要領の内容ごとのまとまりであり、その(1)には指導事項、(2)には言語活動例を示しています。指導事項は、児童生徒に確実に身に付けさせたい学習内容であり、評価はそれを児童生徒がきちんと身に付けたかどうかを5つの観点で判断するものです。領域の「話すこと・聞くこと」と評価の「話す・聞く能力」は、それぞれ指導の側面からと評価の側面から述べたものです。評価に「能力」「技能」という表現を用いているのはそのためです。

国語科の場合、領域と評価の観点が非常に近い文言であるため、誤解が生じやすいと考えられます。他教科、例えば算数科の場合を考えてみましょう。この場合、学習評価の欄に「図形」「数量関係」……と書くことが適切でしょうか。「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」の4観点で表記することを考えると、国語科での評価の5観点の位置付けが明確になるのでしょうか。

Q 4 評価規準はどのように設定すればよいですか。

A 「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」（文部科学省 国立教育政策研究所）では，評価規準の設定例は，指導事項等と言語活動例とを組み合わせることを基本として例示してあります。このように，評価規準は，指導事項と言語活動とをかけあわせて具体的に設定していきます。

具体的な例を考えてみましょう。下記（小学校）の場合，「評価規準に盛り込むべき事項」は指導事項「書くこと」（1）イ「文章全体における段落の役割を理解し，自分の考えが明確になるように，段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。」に基づいています。この指導事項を「評価規準に盛り込むべき事項」に位置付けます。

その際，多様な言語活動から最適なものを精選します。まずは，学習指導要領に示された言語活動例から選択してみましょう。ここでは，「イ」と「エ」の言語活動例を取り上げています。「イ」は，報告文などに表す言語活動です。報告文という具体的な形に表現させる場合，調査の目的や方法，調査の結果とそこから考えたことなどが，「段落」の具体的な内容となることが考えられます。一方，「エ」は，手紙を書く言語活動です。手紙の表現形式である前文，前付，主文，末文，後付などが，「段落」の具体的な内容となることが考えられます。これらの段落の内容を，文章の特徴を踏まえて構成していく能力を身に付けたかどうかを評価規準に表現される必要があります。

このようにして，どの指導事項をどのような言語活動によって指導していくかを決定していけば，より具体的な評価規準を設定していくことができます。

◇ 小学校3・4年「B書くこと」の例

言語活動例	イ「疑問に思ったことを調べて，報告する文章を書いたり，学級新聞などに表したりする言語活動」を通した指導	エ「目的に合わせて依頼状，案内状，礼状などの手紙を書く言語活動」を通した指導
評価規準に盛り込むべき事項	・文章全体における段落の役割を理解し，自分の考えが明確になるように，段落相互の関係などに注意して文章を構成している。（イ）	・手紙の種類に応じて，基本的な手紙の形式を理解し，手紙に書く内容を構成している。（イ）

次に，中学校の場合を例に挙げます。「評価規準に盛り込むべき事項」は指導事項「書くこと」（1）イ「自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして，文章の構成を工夫すること。」に基づいています。この指導事項を「評価規準に盛り込むべき事項」に位置付けます。言語活動例は「ア」と「イ」を取り上げました。「ア」は詩をつくる言語活動，「イ」は意見文を書く言語活動です。詩では感動の中心をどこに置くか，意見文では，自分の立場や意見を表明する部分や，その理由，根拠となる部分をどこに表現していくかを評価規準に設定し，その能力が確実に育まれたかを評価することに設定しています。

◇ 中学校2年「B書くこと」の例

言語活動例	ア「表現の仕方を工夫して詩をつくる言語活動」を通した指導	イ「多様な考えができる事柄について立場を決めて意見を述べる文章を書く言語活動」を通した指導
評価規準に盛り込むべき事項	・自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして，文章の構成を工夫している。（イ）	・自分の立場や意見を明らかにして，それを表明する部分を文章のどこに置くかについて考えている。（イ）

Q & A (社 会)

Q 1 東日本大震災以降、学校外での学習活動ができにくい状況にあります。そのような中で特に小学校第3学年及び第4学年の地域における社会的事象の調査、観察は、どのように行えばよいのでしょうか。また、そのときの評価についてはどのように行えばよいのでしょうか。

A 児童、学校及び地域の実態に応じて、ICTやゲストティーチャーを活用するなどの学習の充実を図る工夫が考えられます。また、そのときの評価についても、単元の指導のねらい、教材、学習活動等に即して適切な評価規準を設定し、教師が指導した内容について評価を行います。

Q 2 「社会的事象への関心・意欲・態度」の観点とは、発言や挙手の回数、忘れ物の回数、授業中の私語で注意を受けた回数などで評価してもよいのでしょうか。

A 「社会的事象への関心・意欲・態度」の観点では、学習の対象となる社会的事象に対する関心・意欲・態度を評価します。教師は単元を構成する際に、本単元で学習の対象となる社会的事象は何なのかを明確にしておく必要があります。評価方法としては、児童生徒の活動の様子や発言の内容で評価することが考えられます。また、単元の中で意図的に感想や疑問などを記述させる場面を設定し、その記述内容を参考にすることも全ての児童生徒を評価するためには有効です。これらの方法を組み合わせながら単元全体を通して長いスパンで多面的に評価することが大切です。

これらは学習態度（授業に臨む態度）であり、学習指導において大切なことではありますが、これらに偏った評価はすべきではありません。

Q 3 「社会的な思考・判断・表現」は、どのように評価すればよいのでしょうか。

A 社会的事象から学習問題を見いだして追究し、事象の意味などについて思考・判断したことを発表や討論等を通して、さらには文章や図表といった言語活動を通じて適切に評価することが重要になります。思考・判断したことをどのように表現させるか。あるいは逆に、表現して分かり合い、伝え合うためにどのように思考・判断させるか。具体的な評価方法の検討とともに社会科授業の充実・改善も求められているといえます。

Q 4 「観察・資料活用の技能・表現」の観点「観察・資料活用の技能」と変更されましたが、どのように評価したらよいのでしょうか。

A 平成22年5月11日付けで文部科学省初等中等教育局通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」において、「技能」の観点について次のように示されており、「観察・資料活用の技能」と「表現」が取り除かれた表記となりましたが、評価の方法や内容についてはこれまでどおりとなります。

「技能」の観点では、従前の「技能・表現」が対象としていた内容を引き継ぐことになる。これまで「技能・表現」については、例えば社会科では資料から情報を収集・選択して、読み取ったりする「技能」と、それらを用いて図表や作品などにまとめたりする際の「表現」とをまとめて「技能・表現」として評価してきた。今回の改訂で設定された「技能」についてはこれまで「技能・表現」として評価されていた「表現」を含む観点として設定されることとなった。

Q 5 歴史的分野の指導計画・評価計画を作成する際の時代区分は、古代、中世、近世、近代、現代という大項目ごとに行わなくてはならないのでしょうか。（中学校）

A 時代区分は、古代、中世、近世、近代、現代というまとまりに分けるのが原則です。しかし我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させるために、各学校の生徒の実態をとらえ、どの区切りが最もよいのかを吟味していくことも考えられます。

Q 6 1 単位時間の評価は、何回行うのが適当ですか。

A 1 単位時間に、全ての指導事項に対して評価の観点と評価規準を設定して評価するのではなく、焦点化された本時の指導のねらいに照らして、そのねらいが達成できたかどうかについて1～2回の評価を行うことが、評価の信頼性と妥当性を高めることにもなります。また、単元の学習を進めながら、児童生徒の学習の状況を観察し、適切な働きかけや指導により全ての児童生徒が「おおむね満足 (B)」と判断できるようになるよう支援していくことが大切です。

Q&A (算 数)

Q 1 算数科の評価の観点及びその趣旨についての変更点を教えてください。

A 学習指導要領の改訂に伴い、算数科の評価の各観点名とその趣旨が、一部変更されました。「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」「数量や図形についての知識・理解」の3つの観点名は変更されていませんが、「数量や図形についての表現・処理」が、「数量や図形についての技能」と変更されました。つまり、従来の「表現・処理」が「技能」と観点名が変更になったのです。その趣旨は、事象を数、式、図、表、グラフなどを用いて表現する技能を評価することを意味しているのです。

また、「数学的な考え方」においては、観点名は変わっていませんが、「思考・判断・表現」の「表現」の評価を重視するという趣旨が含まれています。従って、従来の「表現・処理」で評価されていた「表現」ではなく、思考・判断した過程や結果を、言葉、数、式、図、表、グラフなどの表現手段を用いながら問題を解決したり、自分の考えを筋道立てて説明したりするなど、児童がどのように表出しているかを内容としており、思考・判断したこととその内容を表現する活動とを一体的に評価することを意味しているのです。

Q 2 「数学的な考え方」の評価におけるポイントは、どのようなことですか。

A 「数学的な考え方」を評価するとは、「日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている」かどうかを評価することです。だから、問題を把握した後に、児童が問題を解決する過程やその結果を表出させる場と時間が必要になります。例えば、ノートに解決の過程やそこで用いた考え方を言葉、式、図などで表現させる場を設けることや小集団あるいは全体での話し合いの活動で、考えを伝え合ったり友だちと自分の考えの違いをノートに書かせたりすることなどが考えられます。大切なことは、思考・判断の結果としての「表現」だけを評価するのではなく、思考・判断している過程を含めて評価することです。

ここでは、第3学年「かけ算のひっ算(1)」の「 23×3 の計算の仕方を考える」場面の児童のノートをもとに、「数学的な考え方」の評価の具体例を紹介します。

「数学的な考え方」：既習事項を活用して、2位数×1位数の計算の仕方を考えている。

< Bと評価する例 >

例1：23は、20と3をあわせた数とみて

$$20 \times 3 = 60 \quad 3 \times 3 = 9$$

$$60 + 9 = 69 \quad 69 \text{ 円}$$

※既習事項を生かし、計算の仕方を考えていればBと評価する。式表現だけなので、図や言葉を用いて説明できるように言葉かけを行う。

例2： $23 \times 3 = 69$ 69円

※式だけではどのような考えを用いたかが分からないので、「どのように考えたのかな」と問うと「20と3に分けて計算して…」と答えたので、Bと評価できる。

全国学力・学習状況調査の「主として『活用』に関する問題」を参考に作成した適切な問題を用いて「数学的な考え方」の評価を行うこともできますが、そのような問題を一定の制限時間内に解決し、記述できるかどうかのみを評価するものではないことに留意しなければなりません。

< Cと評価する例 >

$$23 + 23 + 23 = 69 \quad 69 \text{ 円}$$

※「何十×1位数」の考えが用いられていない。

※考えを認めつつ、教科書やノートを用いて、既習内容である 20×3 の学習を振り返らせる。

< Aと評価する例 >

十の位	一の位	
(10)(10)	(1)(1)(1)	} 23×3 {
(10)(10)	(1)(1)(1)	
(10)(10)	(1)(1)(1)	
		} $\left\{ \begin{array}{l} 20 \times 3 = 60 \\ 3 \times 3 = 9 \\ \hline \text{あわせて } 69 \end{array} \right.$

$$20 \times 3 \quad 3 \times 3$$

※Bと評価する例に加えて、絵や図と式を関連付けながら、自分の考えを分かりやすく説明している。

Q & A (数 学)

Q 1 数学科の評価の観点及びその趣旨についての変更点を教えてください。

A 学習指導要領の改訂に伴い、数学科の評価の観点の名称とその趣旨が、一部変更されました。「数学への関心・意欲・態度」、「数学的な見方や考え方」、「数量や図形についての知識・理解」の3つの観点の名称に変更はありませんが、「数学的な表現・処理」は「数学的な技能」に変更されました。これは、思考・判断したことを、表現する活動を通して評価することが重視され、この意味での「表現」と、従来の「数学的な表現・処理」の「表現」との混同を避けるためです。

なお、表現にかかわる学習を、すべて「数学的な見方や考え方」の観点で評価するわけではないことに注意する必要があります。例えば、「式の意味を読み取る」、「作図をする」、「資料を表やグラフに整理する」などの技能としての表現については、「数学的な技能」の観点で評価し、見いだした数や図形の性質やそれらが成り立つ理由などの説明及び解釈などについては、「数学的な見方や考え方」の観点で評価することになります。

Q 2 「数学への関心・意欲・態度」の観点で評価するポイントは、どのようなことですか。

A 「数学への関心・意欲・態度」の観点においては、本観点を評価するために単独で評価場面を設定して評価しても、また、効率的に評価を行うために、他の観点の評価場面と合わせて評価することも可能です。例えば「数学的な見方や考え方」の観点での評価場面で、事象を数学的に捉えて、論理的に考察して表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、思考・判断・表現に関する学習場面で、既習事項を基に解決の方法を考えようとしているか、問題を解決するために数学を活用しようとしているかを捉えることになります。ノートやワークブック等の提出率や授業中の発言回数のみで捉えることがないように留意する必要があります。

Q 3 「数学的な見方や考え方」の観点で評価するポイントは、どのようなことですか。

A 「数学的な見方や考え方」の観点においては、「思考・判断・表現」の「表現」の評価を重視するという趣旨が含まれています。したがって、生徒が、思考・判断した過程や結果を、どのように言葉、数、式、図、表、グラフなどの表現手段を用いながら問題を解決したり、自分の考えを筋道立てて説明したりしているかを評価することになります。そこで、問題を把握した後、生徒が問題を解決する過程やその結果を表出させる場面が必要になります。例えば、ノートに解決の過程やそこで用いた考え方を言葉、式、図、表、グラフなどで表現させる場を設けること、小集団あるいは全体での話し合いの活動では、考えを伝え合ったり、友達と自分の考えの違いをノートに書かせたりすることなどが考えられます。評価場面としては、解決の見通しをもつ場面、解決の方法を考える場面、解決方法について振り返り話し合う場面などが考えられます。思考・判断の結果としての「表現」だけを評価するのではなく、思考・判断している過程を含めて評価することが極めて大切となります。

Q & A (理 科)

Q 1 : 評価計画を作成する際、理科で留意する点は何ですか。

A 教師が無理なく児童生徒の学習状況を評価できるように計画し、評価したことを指導に生かすことができるようにしましょう。

1つの単元において、多くの評価規準を設定したり、多くの評価方法を組み合わせたりすると、評価を行うこと自体に大きな負担がかかり、評価を指導に生かすことができなくなってしまうおそれがあります。各観点で1単元内で平均すると1単位時間あたり1～2回の評価回数となるように計画すれば、評価したことを指導に生かすことができると考えられます。

Q 2 : どのような方法で評価すればよいのですか。

A 授業後に教師が確認しながら評価を行える方法と、授業中の見取りを組み合わせることが大切です。

学習指導案の中には、評価方法を（ ）で示す場合があります。例えば（記述分析・発言分析）などです。（記述分析）とは、ノートやワークシートなどに記述されたものであり、授業後にも、教師はそれを見て評価を行うことが可能です。しかし、児童生徒が書いたものだけで評価するのではなく、（発言分析）など、授業中の児童生徒の発言や行動などをもとに評価することが大切です。話すことが得意な児童生徒もいれば、書くことが得意な児童生徒がいます。それぞれの児童生徒の特性に配慮して評価方法を工夫する必要があるのです。

Q 3 : 「自然事象への関心・意欲・態度」を評価する際のポイントを教えてください。

A 以下のようなポイントで、児童生徒の言動を分析しましょう。

- 自然の事物・現象に意欲的にかかわろうとしているか。
- 自然の事物・現象の特徴や規則性を適応し、実際の自然や日常生活を見直そうとしているか。
- 生物を愛護し、生命を尊重したり、自然への畏敬の念をいだいたりしているか。

Q 4 : 「科学的な思考・表現」を評価する際のポイントを教えてください。

A 以下のようなポイントで、児童生徒の記述や言動を分析しましょう。

- 問題に正対した予想や仮説をもち、それを表現しているか。
- 観察、実験の結果を基に考察し、言語化して、自分の考えを顕在化しているか。
- 論理に矛盾や飛躍はないか。
- 実験結果から考察した結論を相手にわかりやすく表現しているか。

Q 5 : 「観察・実験の技能」を評価する際のポイントを教えてください。

A 以下のようなポイントで、児童生徒の行動や記録を分析しましょう。

- 観察や実験を計画的に実施しているか。
- 観察や実験を目的に応じて工夫して行ったり、実験器具などを正しい方法で扱ったりしているか。
- 調べた過程や結果を的確に記録し整理しているか。

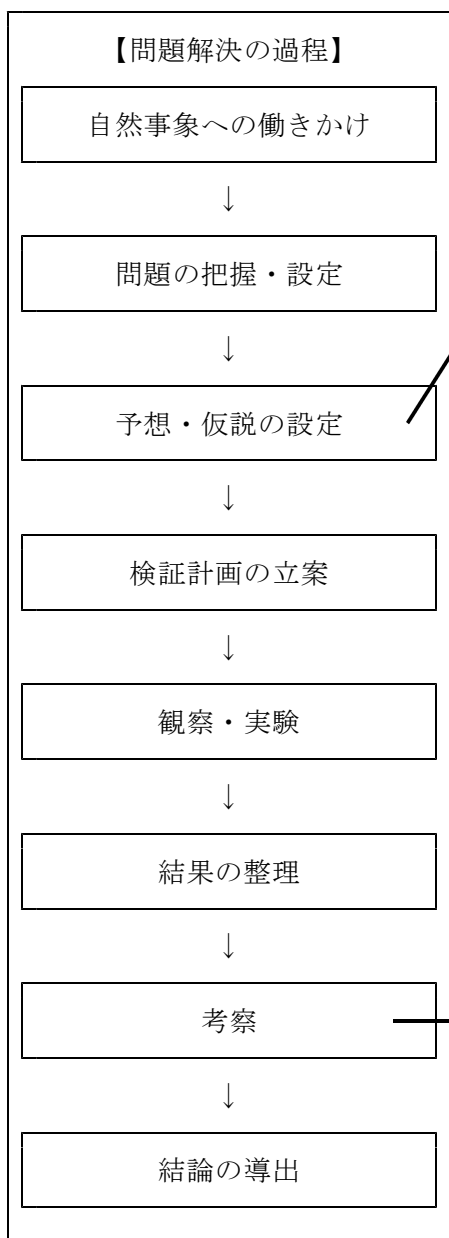
Q 6 : 「自然事象についての知識・理解」を評価する際のポイントを教えてください。

A 以下のようなポイントで、児童生徒の記述を分析しましょう。

- 自然事象についての知識を理解しているか。
- 科学的な言葉や概念をとらえているか。
- 学習したことを実際の自然や日常の生活に適用しているか。

Q 7 : 「言語活動の充実」と「科学的な思考・表現」との関連を詳しく教えてください。

A 言語活動を充実させることで、科学的な思考力・表現力をよりよくはぐくみます。



「科学的な思考・表現」について、児童生徒の学習状況を評価するポイントの1つ目は、「観察、実験に入る前の段階」つまり、予想や仮説をもつ場面です。

ここでは、児童生徒がもった予想や仮説が科学的な知識や事実、概念として合っているか、合っていないかということは問題とはなりません。児童生徒がどのような予想や仮説をもっているのか、根拠はあるのか、ということが重要になります。

ですから、まずは、自分なりの予想や仮説をノート等にかくという言語活動を位置付けましょう。児童生徒一人一人の予想や仮説を基にした話し合いを行う場合は、相互理解の話し合い活動になります。

「科学的な思考・表現」について、児童生徒の学習状況を評価するポイントの2つ目は、「観察、実験を行った後の段階」つまり、観察、実験の結果から何が言えるのかを考察しまとめていく場面です。

ここでは、自らの観察記録や実験結果を整理し、それに基づいて考えたり、それを根拠にして説明したりすることが重要となります。このような活動がグループや学級全体での話し合いの中で行われ、繰り返されることにより考察が深まっていきます。ここで行われる話し合い活動は合意形成の話し合い活動となります。

Q & A (生活)

Q 1 評価の観点「活動や体験についての思考・表現」の趣旨に、「すなおに表現している」とありますが、これはどのようなことを指すのですか。また、その際に留意することはありますか。

A 飾りのないつぶやきや発言、行動、あるいは主体的に表現した絵や文など、児童のありのままの表現を指します。この評価の観点は、活動や体験を通して児童なりに思考したことを、表現したもの（こと）から見取っていきこうとするものです。「思考」は児童の内面で生じる働きであり、直接見ることはできないため、このような「すなおに表現」しているものから見取るのです。故に、「表現」だけを取り出して「わかりやすい表現」「上手な表現」などと技術面や出来映えを評価するものではないこと、また作品などの成果物からだけでなく、活動の過程全体を見取って評価することが大切であることに留意する必要があります。

Q 2 評価規準は、1時間ごとに全ての観点を設定しなくてもよいのですか。

A 1時間ごとに評価を行い累積していくことは大切です。しかし、1時間ですべての観点を評価するのは難しく評価のための評価に陥るおそれがあります。特に、生活科においては「長い目」で評価をする姿勢をもち、活動の段階毎や単元全体などのスパンで児童の変容を見取り、それぞれの観点をバランスよく評価していくことが大切です。1時間ごとに全ての観点で評価規準を設定する必要はありません。「55ページ 生活科実践事例3-(2) 評価方法及び評価の時期」も参照してください。

Q 3 評価の信頼性を高めるために、どんなことが必要ですか。

A 「評価の妥当性」と同時に、「評価の信頼性」を高めることが求められています。いつ行っても、誰が行っても、何度行っても評価結果が変わることがないという安定性や一貫性のことです。そのためにも、「学習カード」に表現されたことだけで評価するのではなく、「行動観察」や「発言・つぶやきの分析」、「作品」、「自己評価」、「相互評価」、「他の教師や家庭などからの情報収集」など、多様で多面的な評価方法を準備することが大切です。

Q 4 生活科の評価の特質について教えてください。

A 生活科の評価には、以下の三つの特質があります。

「具体的な活動や体験の広がりや深まりを評価する」…生活科は、具体的な活動や体験を通して、児童一人一人の思いや願いを生かした学習活動が展開されます。そのため、児童の考え方や行動がどのように広がり、深まっていったのか、また、その中でどのようなことに気付いたのかなどを評価することが求められます。

「一人一人に即して評価する」…生活科では、自分のよさや可能性に気付き、やる気と自信をもつようになることを目指しています。そのため、その子どもなりの「関心・意欲・態度」「思考・表現」「気付き」などがどのように発揮され、表れているのかを評価し、それを指導に生かすことが大切となります。児童一人一人をよりよく伸ばす評価の在り方が求められます。

「実践的な態度の評価を重視する」…生活科の究極の目標は、自立への基礎を養うことです。つまり、児童がよき生活者になることを目指しています。児童が日常生活の中でどのように考え、工夫し、行動するようになったのかを見取ることが大切です。

Q & A (音 楽)

Q 1 効果的・効率的な評価について詳しく教えてください。

A 教師による評価方法には、観察（発話や表情）、ワークシート、学習カード、実技テスト、作品、レポート、ペーパーテスト等があります。これらを、学習の場面や評価の観点等に応じて適切に選択したり組み合わせたりして用いることにより、児童生徒の資質や能力の実情に応じた的確な指導が可能となります。ただし、評価に追われることのないように1単位時間当たり1～2回、結果を記録に残す評価を行う場面等を精選することが重要です。

また、児童生徒にとって、学習のめあてが明確になり、課題意識をもった取組が促されることとなる「自己評価・相互評価」も効果的に取り入れ、多面的な評価を心がけたいものです。

Q 2 多面的な評価のために、題材構成はどのようなことに配慮すればよいでしょうか。

A まず、題材構成には次の3つのタイプがあります。

- A 特定の領域・分野で構成
- B 表現領域における複数の分野で構成
- C 表現領域と鑑賞領域で構成

これまでは、Aタイプの題材構成が多く、多様で幅広い音楽活動が十分に行えなかったり、児童生徒の評価も一面的なものとなりがちだったりすることが課題とされています。ですから年間指導計画に、B・Cタイプの題材を設定し、様々な領域・分野を関連付けた指導をするとともに、児童生徒の学びの姿を多面的に評価していくことが大切です。

Q 3 指導に夢中になり評価を忘れがちです。音楽活動中にはどのような方法で評価していけばよいですか。

A 記録の取り方を工夫してみてもよいでしょうか。

名簿や座席表等をチェックリストとして活用する際には、「おおむね満足できる状況（B）」の場合は空欄にし、「Bに達しない状況（C）」と思われる場合には✓のようなチェックマークを、「十分満足できる状況（A）」と思われる場合には気付いたことをメモして残すといった方法があります。また、使用教材の拡大楽譜を準備し、教師だけでなく児童生徒自身も活動中に感じたことや気付いたこと、考えたことなどを付箋紙に記入してその楽譜に貼付したものを活用する方法もあります。さらに授業の様子や児童生徒の演奏を録音・録画し、授業後の分析資料とするのも有効な方法といえます。

Q 4 児童生徒の内面での知覚・感受はどのように見取っていけばよいのですか。

A 例えば登山で頂上に到着し、太陽や青空に浮かぶ雲、遠くの街並みなどが見えたら、表情が輝いたり声を発したりするように、外からの刺激に人間は何らかの反応を示します。音楽の授業で言えば、児童生徒が音楽という刺激を受けたとき、表情や仕草、つぶやきなどで感じていることを表出しているのです。その機会や場を見逃さないよう、事前に様々な反応を想定しておくとともに、授業では児童生徒の様子がよく見える位置に立つことが大切です。そして児童生徒の様子の変化を見つけたら、何にどのように感じているのか、意味付けをしていく手立てを講じる必要があります。その際、知覚・感受したことを自己認識したり共有したりするために、〔共通事項〕と結び付けていくことを大切にしましょう。

Q 5 児童生徒の学びを「可視化」するための有効な手立てを教えてください。

A いろいろな評価方法を組み合わせて児童生徒の学びを見取っていくことが大切ですが、ワークシート等に「書くこと」による見取りは有効です。指導のねらいに応じてワークシートを作成することはもちろんのこと、どのような内容の記載を「おおむね満足できる状況（B）」と判断するか、そのポイントをあらかじめ設定しながら作成しましょう。また、音楽に対するイメージ、思い、意図などを楽譜に書き込むことは、児童生徒の表現したい音楽を理解したり再現したりする上で効果的です。さらに、児童生徒が自ら題材全体を見通した学習を展開することが可能となる、OPP（一枚ポートフォリオ）などによる評価も積極的に取り入れたいものです。一枚のポートフォリオに学習の開始から終了までの経過を書き込むことにより、児童生徒は学習の成果を実感することが、教師は児童生徒の学習状況を常に評価し指導に生かすことができるようになるはずです。

なお、自他の感じ方や考え方の相違などを理解し、音楽の聴き方や感じ方を広げたり深めたりする上で、「話すこと」も重要な活動となります。この場合は、授業や指導のねらいに関連する〔共通事項〕をカードで提示したり楽譜と照らし合わせたりするなど指導方法を工夫することにより、児童生徒が意識的に音楽に関する言葉を用いて、音楽に対するイメージ、思い、意図などを伝え合うことができるようにすることが大切です。

Q 6 鑑賞活動の評価はどのようにすればよいのですか。

A 音楽科の評価には「音楽への関心・意欲・態度」「音楽表現の創意工夫」「音楽表現の技能」「鑑賞の能力」の4観点があります。このうち、表現領域の学習（歌唱・器楽・音楽づくり（創作））では、「音楽への関心・意欲・態度」「音楽表現の創意工夫」「音楽表現の技能」の3観点で、鑑賞領域の学習では、「音楽への関心・意欲・態度」「鑑賞の能力」の2観点で評価します。「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」の趣旨には、共に音楽的な感受に係る内容が位置付けられていることから、表現領域における鑑賞活動は「音楽表現の創意工夫」の観点で、そして鑑賞領域の鑑賞活動は「鑑賞の能力」で評価することとなっています。

範唱や範奏を聴く、CDで音楽を聴く、発表で友達の演奏を聴く、というように音楽の学習では聴く行為が基本となっています。この聴く行為には、音を感じる、音楽を形づくっている要素を聴き取る（知覚する）、雰囲気や特徴を感じ取る、思考を深めるといった段階があるので、単純に「聴く＝鑑賞の能力」とは言えません。したがって参考となる音楽や友達の演奏を聴いて感受したことから表現への思いや意図をもたせることがねらいなのか、聴いて感受したことから音楽を解釈したり価値を考えたりしてよさを味わうことがねらいなのかなど、題材を通して児童生徒に見つけさせたい力を明確にし、展開を構想することが重要です。

Q 7 授業の評価を題材で総括するときどのようなことを配慮するとよいですか。

A 前述したように1単位時間では1～2観点の評価を行うことが効率的です。したがって題材を構想する段階で、観点のバランスをとりながら評価規準を設定することが肝心です。そして設定後は、観点ごとの評価規準の重み付けを行います。同等に扱うか重点をおくかを明確にしておくと、総括もスムーズにできます。

なお、「題材終末の評価に重みをつける」「テストの点数を加える」など、総括における学校としての方針を明確に決め、共通理解を図っておくことも大切です。

Q&A (図画工作)

Q 1 「題材の評価規準」を設定する際は、4つの評価の観点の趣旨を生かしながら、適切な評価規準を設定しますが、具体的にはどのようなことですか。

A 「内容のまとめり」ごとの「評価規準に盛り込むべき事項」や「評価規準の設定例」を参考にして、実施しようとする題材の「題材の評価規準」を設定します。留意点として、題材におけるそれぞれの学習活動が、どのような資質や能力を育成することになるのか、明確に位置付ける必要があります。

Q 2 題材によっては、複数の「評価規準の設定例」を参考にして設定することが考えられますが、具体的な例を教えてください。

A 「A 表現 (1) 造形遊び」, 「A 表現 (2) 絵や立体, 工作」が一体的に展開する題材や「A 表現 (2) 絵や立体, 工作」と「B 鑑賞 (1)」を組み合わせた題材が考えられます。

Q 3 「造形への関心・意欲・態度」について、学習活動の特性や題材の関連などを考慮しながら、どのような姿をどのような方法で評価しますか。

A 自分の思いをもって、進んで表現や鑑賞の活動に取り組むことや、その過程や結果においてつくりだす喜びを味わっている児童の姿を評価の観点とします。具体的には、発言や行動などを観察します。また、ワークシートやレポートの作成、発表といった学習活動を通して評価します。留意点として、挙手や発言の回数といった表面的な状況のみに着目することにならないようにしなければなりません。

Q 4 「発想や構想の能力」を評価する際、設定する題材のどの場面でどのような方法で評価しますか。

A 形や色、材料、用途等をもとに、自分の表したいことを思い付いたり、いろいろ考えながら表現に見通しをもったりしている児童の姿を評価の観点とします。児童の姿や作品だけでなく、ワークシートや感想文なども具体的な手がかりにしましょう。

Q 5 「創造的な技能」をどのようにとらえ、どのように評価するのですか。

A 自分の表したいことに応じて、感覚や経験を生かしながら、材料を用いたり、表し方を工夫したりしている児童の姿を評価の観点とします。「創造的な技能」は単に材料や用具を用いることだけを示したのではなく、児童たちが創造的に技能を発揮している姿を評価することが大切です。

Q 6 「鑑賞の能力」を評価するに当たり、〔共通事項〕との関連をどのように位置づけるのですか。

A 美術作品や自他の作品などから形や色から、表現の面白さを感じたり、よさを把握したりしている児童の姿を評価の観点とします。その際、〔共通事項〕で示された形や色、イメージなどが有効な手掛かりとなります。例として〔共通事項〕の視点からワークシートや発問などを具体化することができます。

Q&A (美術)

Q1 美術科の評価の4観点について、具体的なポイントは何ですか。

A 評価の4観点の具体的なポイントについては、以下の通りです。

- ①「美術への関心・意欲・態度」は、課題に取り組む意欲や態度をみる観点です。主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする」という趣旨から、生徒に関心・意欲・態度が継続的に発揮されていることが望ましいとされています。
- ②「発想や構想の能力」は、発想・構想を練る力をみる観点です。主に発言内容やワークシートなどへの記述や表現された内容、アイデアスケッチの内容などで評価を行います。
- ③「創造的な技能」は、形、色彩、材料を使い、描いたりつくったりする力をみる観点です。技能は、作業の工程によって大きく評価が分かれるため、制作のねらいに応じて評価の重点項目をはっきりと示した上で、評価の判定を行っていく必要があります。
- ④「鑑賞の能力」は、学習指導要領「B 鑑賞」に対応した力をみる観点です。鑑賞の授業では、単なる作品の鑑賞だけでなく生徒相互のコミュニケーションを重視し活動場面を設定することで、作品の見方や考え方が大きく発展するといった学習成果を得ることができます。

Q2 美術科における「言語活動」で重視する観点は何ですか。また、どのように取り扱いますか。

A 美術科ではコミュニケーションや感性、情緒の基盤としての言語活動に視点をおいて評価を行う必要があります。表現の「主題を生み出す」学習活動においては、表したいテーマやイメージを明確にするために、言葉や文章で表すことによって自分の考えを深められるようにします。また、鑑賞の学習活動においては、自分なりの意味や価値をつくりだしていく学習を重視して、作品などに対する思いや考えを説明し合う学習を取り入れ、説明し合ったり批評し合ったりする場面で、言語活動を取り扱います。また、表現領域においては、形や色などの造形言語も他の教科にはない独自の言語活動です。

Q3 新たに設定された〔共通事項〕の評価の観点は何ですか。また、指導上どのような工夫が必要ですか。

A 〔共通事項〕で示された内容については、「A 表現」「B 鑑賞」の活動を通して指導されるべきものであるため、この部分を単独で評価することはありません。「発想や構想の能力」「創造的な技能」及び「鑑賞の能力」などの評価の観点に照らし合わせた上で、評価していくことが基本となります。また、〔共通事項〕は、形や色彩、材料などの性質や、それらがもたらす感情を理解したり、対象のイメージを捉えたりするなどの資質や能力を育成し、表現や鑑賞の能力を高めることをねらいとして設けたものです。〔共通事項〕に示されている「形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること」や、「形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること」をどの場面で指導するのか明確にし、指導計画の中に位置付ける必要があります。その際、〔共通事項〕の視点で指導を見直し学習過程を工夫することや、生徒自らが必要性を感じて〔共通事項〕の視点を意識できるような題材を工夫するなどして、形や色彩などに対する豊かな感覚を働かせて表現及び鑑賞の学習に取り組むことができるようにすることが大切です。なお、小学校図画工作科の〔共通事項〕を踏まえた指導にも十分配慮する必要があります。

Q4 美術科教育における「指導と評価の一体化」とは何ですか。

A 美術科教育の評価は、評価のための評価ではなく、生徒一人一人の学習の成立を促すための評価でなければなりません。教師が自らの指導を振り返り、指導の改善に生かしていくことが必要です。

Q & A (家庭)

Q 1 「生活を創意工夫する能力」の評価の仕方について教えてください。

A 家庭科においては、従来、「生活の技能」の中に位置付けられていた「表現」が「生活を創意工夫する能力」への位置付けとなりました。「生活を創意工夫する能力」の観点では、家庭科で学習したことを基に近隣の人々や身近な環境との関わりを考え、家庭生活について見直しているか、習得した知識や技能を活用して課題の解決を目指して考えたり工夫したりしているかなどについて評価します。家庭科では主体的に生活を営む能力を育てるために問題解決的な学習を重視していることから、結果としての創意工夫だけでなく、家庭生活に問題意識をもち、課題の解決を目指して、いろいろと考えてよい方法を得ようと自分なりに工夫するその過程を含めて評価することが重要です。その際、児童が考えたり創意工夫したりしたことを図や言葉でまとめ、発表し合うなど、言語活動を中心とした「表現」に係る活動等を通して評価することに留意する必要があります。それゆえ、ワークシート等では、児童の考えた過程が把握できるような記入欄を工夫することが大切です。「自分なりに」とは、児童がそれぞれの生活において自分の考えを生かして工夫することを重視したものです。

つまり、

- 習得した知識や技能を活用して課題の解決を目指して考えたり工夫したりしているかを評価すること
- 結果だけでなく、過程を含めて評価すること
- 言語活動を中心とした「表現」に係る活動等を通して評価することが、ポイントになります。

Q 2 ガイダンスや自分の成長を自覚する評価は、どのように行えばよいのでしょうか。

A 「A家庭生活と家族」の(1)のアの学習については、第4学年までの学習を振り返り、家庭科の学習に関心を持ち、2年間の学習の見通しをもたせるためのガイダンスとして取り扱い第5学年の最初に履修させるようになっていきます。つまり、「第4学年までの学習を振り返り、家庭科の学習に関心を持ち、2年間の見通しもって学習に取り組もうとしているかどうか」を評価します。

また、A(1)アの事項のもう一つの側面として、「A家庭生活と家族」から「D身近な消費生活と環境」の各内容と関連させて扱う事項として位置付けられています。そのため、2学年間を見通して、学期や学年の区切りなどの適切な時期に成長した自分が確認できるように、他の内容と関連させた題材を配列し、効果的に学習できるようにすることが重要です。学習の区切りの時期に学習の成果を振り返ることを通して、できるようになったことや家族への思いを学習カードに記入することにより、自分の成長を確認することができるようにします。2年間分のワークシートを準備し、継続して記録させていくことなども考えられます。

評価規準については各学年の3月に重点を置いて評価しますが、適切な時期に補助簿等に記録することにより、長期的に変容を捉え評価することが大切です。その際、「十分満足できる」状況と判断される理由などを記録しておくといよいでしょう。A(1)アの評価の観点は「家庭生活への関心・意欲・態度」になります。

Q 3 調理計画や製作計画等，計画の評価の観点を教えてください。

A 実習計画については，従来「生活の技能」として評価していました。しかし，計画は，習得した知識・理解を活用して，自分なりに考えたり工夫したりしながら立てていくので，評価の観点は「生活を創意工夫する能力」と「家庭生活についての知識・理解」が中心となります。もちろん，指導計画によっては，「家庭生活への関心・意欲・態度」も評価できます。

また，B（2）ウの「1食分の献立を考えること」についても，「生活の技能」は評価しません。ただし，B（3）と関連を図る場合には「生活の技能」も評価することになります。

「内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」（国立教育政策研究所）を参考に，評価の観点を明確にすることが大切です。

Q 4 「D（1）イ 身近な物の選び方，買い方を考え，適切に購入できること」の技能面での評価はどのように行えばよいのでしょうか。

A 物の選び方，買い方については，教師による行動観察の他に，児童が「購入しようとする物の品質や価格などの情報を集め，整理することができるか」を生活の技能として評価します。つまり，購入しようとする物の賞味期限や内容量，値段等の品質や価格などの情報を集め，観点到って整理できているかどうかを評価します。よって，評価方法としては，ノートやワークシート等が考えられます。

Q 5 児童に，自己評価や相互評価を行わせる際の留意事項はどんなことですか。

A 技能の評価を行う際，教師の行動観察だけでなく，児童の自己評価や相互評価を取り入れることがよくあります。その時大切になることが，「切り方見本」や「縫い方見本」，「写真」等，評価の基準となるものを示すことです。また，友達の様子を観察させ記録させる際も，観察するポイントを具体的に示すことが大切です。

つまり，児童自身に「何を」「どのような観点を」「どのような状態」が「十分満足できる」「おおむね満足できる」「努力を要する」状態なのかを明確に示すことが，自己評価，相互評価をさせる際のポイントになります。

Q & A (技術・家庭 (技術分野))

Q 1 評価規準の文言は、何学年を想定し作成しているでしょうか。

A 3年生を想定しています。この題材を2年生や1年生で取り組む時はそのレベルに合わせて評価規準を設定することが必要です。

Q 2 学習のガイダンス的な内容の取扱いと評価の留意点について説明してください。

A 技術・家庭科(技術分野)は、教科としては中学校で初めて学習するものですが、内容は小学校で学習してきた多くの教科との関連があります。既習内容との関連性を基に、中学校での学習の見通しをもち、体系的に学習を行う視点から、第1学年の最初に履修します。近年は生徒の体験不足や物に不自由しないという現状があり、日常生活で技術の果たす役割に気が付きにくい状況があるため、技術分野を学習する意義に対する動機付けを行う必要があると考えられます。

評価の場面においては、技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割と、技術の進展と環境との関係について関心をもたせることがねらいとされています。このねらいを達成するために、必要に応じて実習や実験、小学校での経験を基にした製作活動を組み込むことも可能ですが、知識や技術の習得はねらいとされていません。

Q 3 ものづくりの設計や、プログラムによる計測・制御に関する評価はどの観点で、捉えるべきでしょうか。

A これまで、設計や計画は図や表で表現されているので、「生活の技能」で評価されがちでした。しかし今回の整理では、表現の基本的なスキルとしての「図の描き方」や「工程表やフローチャートの書き方」は「技能」で評価しますが、使用目的や使用条件を踏まえて自らの考えを表現するものは「生活を工夫し創造する能力」として評価するように、区分けが明確になりました。

また、設計や製図、工程表やフローチャートなど「図で表す」ことは、自分の考え、工夫などを形に表し相手に伝える「言語活動の工夫」という視点でも、本教科において重要な評価の観点になります。

Q 4 生物育成の実習の過程で、栽培途中で枯死してしまった場合等の評価はどうすればよいでしょうか。

A 育成作物等が枯死してしまった場合、「完成度」という意味からすると悪い評価と考えがちですが、適切な管理作業であっても枯れてしまうこともあります。したがって枯れてしまった結果を評価するのではなく、管理作業の過程を評価することが大切です。また、枯れてしまった原因を考え、対策を講じることでの思考力、判断力等を評価することも一つの観点として考えられます。可能であればその後、短期間で育成できるもの等で再挑戦させたりすることで、検証を行ったり、結実、収穫などの成就感を体感させることも大切です。

Q 5 情報モラルについての評価はどうすればよいでしょうか。

A 情報モラルの評価については、著作権や情報の発信に伴って発生する可能性のある問題等、「知識・理解」の観点で評価することが必要です。また、今後、情報に関する技術の進歩により問題そのものが変化することが予想されるため、「関心・意欲・態度」や「生活を工夫し創造する能力」の観点からも評価する必要があります。これら情報モラルについては道徳教育との関連から、教科のみならず、様々な教育活動の中で、技術で指導したことを基に、考えさせていくことが大切です。

Q & A (技術・家庭 (家庭分野))

Q 1 「生活を工夫し創造する能力」の評価の仕方について教えてください。

A 技術・家庭科においては、従来、「生活の技能」の中に位置付けられていた「表現」が「生活を工夫し創造する能力」への位置付けとなりました。「生活を工夫し創造する能力」の観点では、結果としての工夫だけでなく、課題の解決を目指して思考する過程を含めて評価することが重要です。したがって、

- 衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付けているか
- 課題を多面的に考察しているか
- 学習した知識と技術を活用して課題解決をしているか
- 解決を目指して自分なりに工夫したり、自分の考えを生かした取組をしたりしているかなどについて評価することになります。

また、今回、この観点の評価は、言語活動を中心とした表現に係る活動等を通して行うことが明確にされました。そのため、生徒が考えたり工夫したりしたことを図や言葉でまとめることのできる計画表や実習記録表、ワークシート等を作成し、その記述内容から評価を行ったり、発表内容から評価したりすることに留意する必要があります。

Q 2 「生活の課題と実践」の評価の観点を教えてください。

A 「生活の課題と実践」は、今回の学習指導要領で新しく設定された指導事項であり、家族・家庭や衣食住の学習に関心をもち、生活の課題を主体的にとらえ、実践を通してその解決を目指すことにより、生活を工夫し創造する能力や実践的な態度を育てることをねらいとしています。計画、実践、評価、改善の一連の学習活動（問題解決的な学習）を適切に組み立て、生徒が段階を追って学習を深められるよう配慮する必要があります。その際、計画及び実践後の評価、改善については、授業の中で行い、言語活動を中心とした表現に係る活動等を通じて行いますが、実践については家庭や地域で行うため評価ができません。よって、「生活の技能」の観点は評価しません。また、習得した知識や技能を活用して計画を立てるので、「生活や技術についての知識・理解」についても評価済みと考え評価しません。

つまり、「生活の課題と実践」で評価する観点は、「生活や技術への関心・意欲・態度」と「生活を工夫し創造する能力」の2つの観点になります。

Q 3 幼児との触れ合い体験での「生活の技能」を評価するポイントを教えてください。

A 「A(3)ウ 幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児への関心を深め、かかわり方を工夫できること」の「生活の技能」の評価は、幼児の遊びや幼児の発達と家族との関わりなどについて、「観点に基づいて観察し、整理することができているか」について評価します。つまり、教師による行動観察の他に、生徒がまとめた観察記録表の記述内容により評価することになります。よって、幼児を観察する観点を明確にした観察記録表を作成することが何より大切です。

Q 4 ガイダンス及びA（1）アの評価は、どのように行えばよいのでしょうか。

A 「A家族・家庭と子どもの成長」の（1）のアの学習については、家庭分野のガイダンスとして扱い、第1学年の学習の最初に設定します。家庭分野の学習内容のねらいを理解させ、3学年間の学習の見通しをもつことができるようにするとともに、家庭分野の学習を学ぶ必要性に気付かせることが重要です。つまり、「小学校の学習を振り返り、3年間の見通しをもって学習に取り組もうとしているかどうか」を評価します。

また、A（1）アの事項のもう一つの側面として、A（2）や（3）と関連させて扱う事項として位置付けられています。そのため、A（2）又は（3）の導入として、自分の成長を振り返ることによって、中学生の時期にある自分と家族や家庭生活とのかかわりについて考え、自分の成長や生活は、家族やそれにかかわる人々に支えられてきたことに気付くようにすることをねらいとしています。

A（1）アの評価は、継続して記録させ、長期的に変容を捉え評価することが大切です。その際、「十分満足できる」状況と判断される理由などを記録しておくといよいでしょう。A（1）アの評価の観点は「生活や技術への関心・意欲・態度」になります。

Q 5 調理計画や製作計画等、計画の評価の観点を教えてください。

A 実習計画については、従来「生活の技能」として評価していました。しかし、計画は、習得した知識・理解を活用して、自分なりに考えたり工夫したりしながら立てていくので、評価の観点は「生活を工夫し創造する能力」と「生活や技術についての知識・理解」が中心となります。もちろん、指導計画によっては、「家庭生活への関心・意欲・態度」も評価できます。

また、B（2）イの「中学生の1日分の献立を考えること」についても、「生活の技能」は評価しません。ただし、B（3）アと関連を図る場合には「生活の技能」も評価することになります。

「内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」（国立教育政策研究所）を参考に、評価の観点を明確にすることが大切です。

Q 6 生徒に、自己評価や相互評価を行わせる際の留意事項はどんなことですか。

A 技能の評価を行う際、教師の行動観察だけでなく、生徒の自己評価や相互評価を取り入れることがよくあります。その時大切になることが、「切り方見本」や「縫い方見本」、「写真」等、評価の基準となるものを示すことです。また、他者の様子を観察させ記録させる際も、観察するポイントを具体的に示すことが大切です。

つまり、生徒自身に「何を」「どのような観点で」評価し、「どのような状態」が「十分満足できる」「おおむね満足できる」「努力を要する」状態なのかを明確に示すことが、自己評価、相互評価をさせる際のポイントになります。

Q & A (体育・保健体育)

Q 1 評価で特に留意すべき点は何ですか。

A 身に付けたい学力の要素を、4観点(領域によっては3観点)で漏れなくバランスよく評価することです。その際、次の点に留意することが大切です。

- 適切な評価とするには、具体的な児童生徒の姿を評価規準として設定し、指導内容に合わせた評価計画を作成する。
- タイムや距離など記録重視の評価にならないようにする。

例えば、「ハードルをリズムよく走り越える」ことをねらいとした授業において、タイムが良いから運動の技能の評価を「十分満足できる」状況(A)とするのではなく、「ハードルをリズムよく走り越えられたか」というハードルの越え方や走り方の質に関わる評価が必要です。この場合、タイムや距離などの記録に関わりなく、その児童生徒が身に付けた技能を評価することが望まれます。指導したことが正しく身に付いているかどうかを適切に評価することが大切です。

Q 2 「思考・判断・表現」に該当する評価の観点に「表現」という文言が含まれていないのはなぜですか。

A 体育・保健体育については、学習指導要領の指導内容として、ダンスなどの身体表現を技能として示していることから、観点の混同を避けるため「思考・判断」として示しています。

Q 3 「体づくり運動」の評価について教えてください。

A 小学校の「体ほぐしの運動」は、運動の技能の習得・向上を直接のねらいとするものではないことから、『運動の技能』の観点からの評価は行いません。

中学校の「体づくり運動」の体ほぐしの運動は、小学校同様、技能の習得・向上を直接のねらいとするものではないこと、また、体力を高める運動は、運動の計画を立てることが主な目的となることから、『運動の技能』の観点は設定せず、主に『運動についての思考・判断』に整理しています。

Q 4 体育・保健体育科の学習に、なぜ「思考・判断」が必要なのですか。

A 運動学習は、いわゆる知・徳・体の体、つまり身体活動のみではなく、頭脳と身体、理性と感性、思考と行動が統合された全人的活動です。学習指導要領(体育)の内容もそのような前提に立って「技能」「態度」「知識」「思考・判断」で構成されています。今回の改訂で指導内容が明確化されたことを受け、「体育＝体力・技能」という考え方から見方を広げ、知識を基盤とした技能の習得や規範的態度、思考力・判断力など、これらをバランスよく育むことを意図しています。

このことは、体育・保健体育科が保障できる資質や能力を明確にするとともに、教科としてのアカウントビリティ(説明責任)にも応えるものであり、体育・保健体育科の価値を示す大切な視点だと言えます。

Q 5 体育・保健体育科における言語活動の充実の必要性と、指導上の留意点を教えてください。

A 体育・保健体育科の授業では、体を動かすことで身体能力を身に付け、情緒面や知的な発達を促し、集団的な活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動を通じて論理的思考力を育むことなどが求められており、その際に言語活動の果たす役割は大きいと言えます。

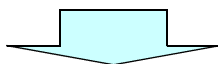
なお、体育・保健体育科では、運動しながら学ぶことが基本であり十分な運動量を確保する必要があります。そのため、授業においては言語活動の量ではなく、質的向上を目指すことが特に望まれます。

Q 6 思考・判断の具体的な評価方法を教えてください。

A 『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）』の「学習指導要領の内容，内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例」や『学習指導要領保健体育編』に示された「例示」などから児童生徒の実態や系統性を踏まえて評価規準を具体化します。

＜小学校第5学年及び第6学年の評価規準の作成例＞

- ルールを工夫したり，自分のチームの特徴に合った作戦を立てたりしている。
 - ゴール型の楽しいゲームの行い方を知り，プレイヤーの数，コート広さ，プレーの制限，得点の仕方などのルールを選んでいるか。
 - チームの特徴に応じた攻め方を知り，自分のチームの特徴に応じた作戦を立てているか。



＜中学校第1学年及び第2学年の評価規準の作成例＞

- 球技を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。
 - ボール操作や，ボールを持っていないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けているか。
 - 自己やチームの課題を見付けているか。
 - 提供された練習方法から，自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいるか。

この観点には、学習カード等書かれた練習の計画などと実際の活動を合わせて評価する必要があります。考えたことや話し合ったことなどを記録として残すような手立てを行うことが大切です。相互評価等での友達からのアドバイスなども記録させておきましょう。

⇒ 学習カード等の記述，振り返りでの相互評価，チームの作戦ボード，行動の観察

Q 7 児童生徒が活用する「自己評価カード」等を作成するときと活用上の留意点を教えてください。

A 教師が、評価カードを作成するときと活用の主な留意点を示しました。

【作成の留意点】

- (1) ねらいと内容を明確にすること。どんな目的で使用するのか，どのように指導に役立てるのかなど何のために評価するのかをはっきりさせることです。

- (2) 評価の観点を絞り込むこと。このことにより、評価の精度が高まり、正確なデータを得ることができます。さらに、自己評価の時間が短縮され、体を動かさず時間が保障されることにもなります。
- (3) 評価規準と尺度を明確にすること。特に、評価規準については、児童生徒でも判断できる具体的な姿を具体的な言葉で表す必要があります。また、評価の尺度については、児童生徒の評価能力等に合わせて、3段階や5段階などの尺度が考えられます。

【活用上の留意点】

- (1) 毎時間継続して記入させていくこと。このことで、技能の伸びや学習意欲などの変容をつかみ、児童生徒に評価の大切さを理解させたり、一人一人の評価能力を高めたりすることになります。
- (2) カードを記入する時間を学習活動としてきちんと位置付けること。ただし、運動量が必要だからという理由で、形だけの評価活動にならないように注意する必要があります。
- (3) カードに書かせたら、教師は記入された内容をもとに、評価し、次の指導に生かすことが大切です。また、助言や励ましの言葉を記入することは、児童生徒の次時への意欲付けや思考の高まりに生かされます。

Q 8 実技見学者や欠席者の評価はどうしたらいいのでしょうか。

A これまでは、体育領域（体育分野）の評価において、「技能」の比重が大きく扱われていたケースが見受けられました。しかし、今回の学習指導要領において、児童生徒の「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「知識・理解」の面も、バランスよく確実に評価していくことが示されました。このことから、実技を行うことができない児童生徒に対しても、状況に応じてできるだけ学習に参加させ、評価することが必要です。例えば、運動する場づくりの方法やボールゲームの作戦の話合いなどに参加させ、「技能」以外の内容の評価ができます。この際、指導する側は、見学の理由に応じて、その時間に児童生徒ができることを考えておくことが必要になります。

また、欠席者については、単元の中で出席できるときに評価したり、後日、ペーパーテストで他の内容を評価したりすることが可能です。つまり、これからの体育領域（体育分野）の評価は、「技能」だけではなく、すべての観点から評価するといった意識が必要なのです。また、同時に、見学する児童生徒にも体育に参加しているという意識と自分の課題をしっかりとらせておくことが大切となります。

Q & A (外国語活動)

Q 1 外国語活動の目標「外国語を通じて～(略)～コミュニケーション能力の素地を養う」とは、具体的にはどのような内容を想定しているのでしょうか。

A 国際理解を図ることのみを目的とした活動ではなく、中学校の外国語科の学習に接続するものとして位置付けられており、小学校段階で養われる言語や文化に対する体験的な理解、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみをコミュニケーション能力の素地としています。

Q 2 各教科の学習の記録について、観点別学習状況はA～C、評価は3～1(第3学年以上)で記入することとなっていますが、外国語活動の評価はどのように記入すればよいのでしょうか。

A 外国語活動の評価は、「改善通知」に「評価の観点を記入した上で、それらの観点に照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述する」ことが示されています。外国語活動の目標や内容を踏まえると、数値での評価はふさわしくありません。
また、例えば「聞くことができる」、「話すことができる」など「～することができる」といった技能や、音と文字を一致させたりする知識・理解は中学校からの外国語科のねらいや内容であることも理解しておく必要があります。

Q 3 外国語活動の評価は「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の観点で行うのでしょうか。

A 外国語活動の評価の観点は、「改善通知」を参考に、学校の設置者が設定することとなっています。また、各学校がその実態に応じて指導内容や活動を設定することから、学習指導要領の目標等を踏まえて、各学校が観点を追加することができます。評価はこれらの観点到照らして行います。

Q 4 外国語活動の授業を通して身に付いた力を評価するためのテストを実施してもよいのでしょうか。

A 「改善通知」の例示にもあるとおり、外国語活動は言語の運用能力の定着を評価するものではありません。したがって「聞くこと」、「話すこと」等の能力に特化した課題の達成状況の評価することはふさわしくありません。

Q 5 観点別学習状況の評価を効果的に行うために、どのようなことが考えられるでしょうか。

A 文部科学省が提示している、年間や単元、各時間の指導計画や授業のねらいに対応して各校の実態に合った評価規準を設定することが考えられます。これにより、指導者は求める児童の具体的な姿とともに、どのような指導をすればよいかが明確になります。また、授業の観点到沿ったためあてを提示することで、児童にとっても各単元、各授業等でどのような力を付けるかが明確になり、意欲的に取り組む契機にもなります。
ただし、すべての単元においてすべての観点到についての評価規準を設定しなければならないわけではありません。年間を通してバランスよく評価できるように指導と評価の計画を作成する必要があります。

Q 6 「改善通知」の例示にある各観点到について評価を行う際、具体的にはどのように評価すればよいのでしょうか。

A 例示の3つの観点到をもとに評価を行う際には、以下の点について留意します。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
児童が相手意識をもってコミュニケーションを図っている行動を捉える。
【外国語への慣れ親しみ】
単元に設定されている外国語を聞いたり話したりしている児童の行動や様子を捉える。
【言語や文化に関する気付き】
単元に設定されている外国語と日本語との比較などを通して発見した言語の共通性や相違点から、言葉の面白さや豊かさ、多様なものの見方等に気付いている様子を捉える。
なお、指導と評価の計画の作成や評価に当たっては、「小学校外国語活動における評価方法等の工夫改善のための参考資料(国立教育政策研究所編)」等も参考にしてください。

Q & A (外国語)

Q 1 評価規準設定の際に参考とすべき「評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例」とはどのような内容ですか。

A 「評価規準作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 外国語】第2編『評価規準に盛り込むべき事項等』(国立教育政策研究所教育課程センター編・同HP掲載)」に、各評価の観点ごとに、次の評価規準に盛り込むべき事項が掲載されています。「評価規準の設定例」の詳細も示されていますので参照してください。

【評価規準に盛り込むべき事項】

観点 まわり	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
聞く こと	<ul style="list-style-type: none"> 「聞くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 様々な工夫をして、聞き続けようとしている。 	/	<ul style="list-style-type: none"> 英語で話されたり読まれたりする内容を正しく聞き取ることができる。 場面や状況に応じて英語を適切に聞いて理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語やその運用についての知識を身に付けている。 言語の背景にある文化について理解している。
話す こと	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 様々な工夫をして、話し続けようとしている。 		<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや気持ち、事実などを英語で正しく話すことができる。 場面や状況に応じて英語で適切に話すことができる。 	
読む こと	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 様々な工夫をして、読み続けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語で正しく音読することができる。 英語で書かれた内容が表現されるように適切に音読することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語で書かれた内容を正しく読み取ることができる。 目的に応じて英語を適切に読んで理解することができる。 	
書く こと	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 様々な工夫をして、書き続けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや気持ちなどを英語で正しく書くことができる。 目的に応じて英語で適切に書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語で書かれた内容を正しく読み取ることができる。 目的に応じて英語を適切に読んで理解することができる。 	

Q 2 すべての単元で4観点すべてについて評価する必要はありますか。

A 単元の指導と評価を進めるに当たって大切なことは、単元をどう捉え、その単元でどのような力を身に付けさせたいかなどの単元観を明確にもつことです。その単元観のもと、目標や評価規準の設定、指導と計画の作成、授業の構想等を進め実践します。

単元によっては、指導と観点の評価の重点化を図ることも考えられます。ただし、「4技能を総合的に育成する」ことから、年間を通してはバランスよく指導と評価を行うことが必要であり、見通しをもった年間の指導と評価の計画を作成しておくことが大切です。

Q 3 入学当初の1学年の評価はどうすればよいでしょうか。

A 小学校では、「聞くこと」、「話すこと」を中心として、「～することができる」という運用能力ではなく、英語に慣れ親しませたり、日本語と英語の違いに気付かせたりしながら「コミュニケーション能力の素地」を養います。中学校ではそれを生かしながら、「読むこと」、「書くこと」の技能を加え、生徒たちは初めて、「～することができる」ことを目指します。音と文字を一致させることなども、中学校での内容となります。

入学当初の授業においては、小学校外国語活動との円滑な接続を図る意味で、オリエンテーションの時間を数時間設定し、小学校との接続を図りながら、生徒が中学校の学習にスムーズに入ることができるように配慮したり、指導者にとっては生徒の実態を確認したりできるようにするなど指導計画を工夫することが大切です。

その時期の評価については、地域や学校、生徒の実態などを踏まえて、「関心・意欲・態度」に絞って評価したり、評定にはつながらない形成的評価のみを行ったり、あるいは評価は行わないなど、生徒にとって適切な評価計画を立てることが大切です。

Q 4 年間の時数が増えましたが、「週1時間増えた」と捉えて、週に1時間言語活動を設定すべきですか。

A 増加時数については、学校や生徒の実態に応じて、年間140時間を各単元にどう配分するかという発想＝各単元の「層」をいかに厚くするかという発想により指導と評価の計画を作成することが大切です。

Q & A（特別活動）

Q 1 特別活動と道徳との関連が強調されていますが、どのような点に配慮すればよいのでしょうか。

A 小学校学習指導要領解説特別活動編第4章第1節（4）でも述べられているように、道徳的実践の指導の充実が重視される特別活動においては「自己の生き方についての考えを深め」が道徳と特別活動のいずれの目標にも共通に示されていることを踏まえ、積極的に道徳との関連を図る必要があります。

特に、自然体験や社会体験を充実させ、学校や地域の実態を生かして、両者の関連に十分配慮した指導計画及び評価計画の作成が必要となります。

Q 2 特別活動の授業では、学級担任以外の教師が指導することもあります。多くの教師で効果的に評価する方法はないのでしょうか。

A 学級活動は、主として学級担任が行いますが、生徒会活動や学校行事では他の教師の指導を受けることが多くなります。

特別活動においては、児童生徒に自信をもたせたり意欲を高めさせたりするために、児童生徒一人一人のよさや可能性などを積極的に評価することが極めて重要です。したがって、児童生徒のよさや進歩の状況などをどのように捉えるかなどについて共通理解を図るとともに教師相互の話合いや情報交換を積極的に行うことが大切です。

したがって、次のようなことに配慮し、多くの教師による評価の結果を反映できるようにしましょう。

- ・ 個々の児童生徒の活動状況について、担当する教師との間で情報交換を密にすること。
- ・ 評価に必要な資料を収集する方法を工夫するとともに、それらが学級担任の手元に収集され、活用されるようにすること。
- ・ 必要に応じて評価した結果を全教師が共有し、指導に生かせるようにすること。
- ・ 年間を通してより多くの教師の目で「個人の変容」や「集団の変容」について評価すること。

Q 3 学級活動（1）の話合い活動について、どのように評価すればよいのでしょうか。

A 学級活動（1）では、よりよい学級や学校の生活づくりを目指して、提案理由などに沿って話合いが行われます。評価に当たっては、話合いの状況について、提案理由に沿って、よりよい方法等について友達の意見も尊重しながら考え、判断し、自己の考えを理由を示して述べているかといった点から評価を行います。また、「学習活動カード」等を作成し、その記載内容を評価の参考にします。

事後の活動の評価では、話合いで決定したことについての実践の状況を、自分の役割に責任をもち、目標の実現に向けて互いに信頼し支え合って実践しているかといった点から評価を行います。また、一連の活動の意義についての理解の状況等については、「振り返りカード」等を作成し、記載内容を評価の参考とします。

Q 4 児童会・生徒会活動における評価の工夫を教えてください。

A 児童会・生徒会活動は、指導等を分担するなどして、学校のすべての教師によって展開されます。また、学級や学年の枠を超えて行われます。評価に当たっては、児童会・生徒会や各種の委員会の担当教師及び学年主任等が、当日の様子のほか事前の準備や事後の活動における取組状況等について、「目指す児童生徒の姿」等を基にして評価を行います。また、児童生徒が記入した「振り返りカード」等を評価の参考にします。

Q 5 学校行事で、全児童生徒の活動を把握することは困難です。よい方法はないでしょうか。

A 行事の準備段階から振り返りの段階までの一連の活動過程において活用できる「学校行事カード」等を作成しておくといよいでしょう。その際、言語活動の充実を図ることも考え、体験活動を振り返って感想文にまとめさせたり発表原稿を作成させたりすることにより、内容も評価の参考とします。
学校行事の評価に関しては、無理のない評価計画を作成し、すべての教師の共通理解の下で適切な評価を行ってください。

Q 6 特別活動において、言語活動の充実を図るために、どのような工夫をすればよいのでしょうか。

A 特別活動は、望ましい集団活動を通して、「よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度」「自己（人間として）の生き方についての考え（自覚）を深め、自己を生かす能力」の育成を目標としています。その中核的な活動が話し合いなどの「言語活動」です。そこで、次のような言語活動を重視する必要があります。

- ① 集団として意見をまとめる（集団決定する）ための話し合い活動
- ② 自己の生き方について考えを見定める（自己決定する）ための話し合い活動
- ③ 実践活動や体験活動を通して感じたり、気付いたりしたことを振り返り、まとめたり、発表し合ったりする活動

Q 7 自治的な話し合い活動の指導のポイントを教えてください。

A 自治的な話し合い活動では、次のような思考力・判断力・実践力の育成を図ることが大切です。

- ① 提案理由に即して考え、判断し、理由や根拠を明確にして表現できる。
- ② みんなにとっても、自分にとってもよいようにするためにはどうしたらよいかと考え、判断し、実践できる。
- ③ 多様な他者のことにも思いをめぐらせながら、どの子どもにとってもよいようにするためにはどうしたらよいかと考え、判断し、実践できる。
- ④ 多様な意見を尊重し、できるだけ多くの人々が納得できるようにするためにどうしたらよいかと考え、判断し、実践できる。
- ⑤ 多様な意見を、考え方や発想などから分類や整理をし、論点や対立点などを明確にして考え、判断し、表現できる。
- ⑥ 活動の内容、場所、時間、必要な知識など、実行する上での見通しをもって、よりよく考え、判断し、実践できる。

参考資料

(表1) 小学校

改 正	現 行
国 語	国 語
国語への関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 言語についての知識・理解・技能	国語への関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 言語についての知識・理解・技能
社 会	社 会
社会的事象への関心・意欲・態度 社会的な思考・判断・表現 観察・資料活用の技能 社会的事象についての知識・理解	社会的事象への関心・意欲・態度 社会的な思考・判断 観察・資料活用の技能・表現 社会的事象についての知識・理解
算 数	算 数
算数への関心・意欲・態度 数学的な考え方 数量や図形についての技能 数量や図形についての知識・理解	算数への関心・意欲・態度 数学的な考え方 数量や図形についての表現・処理 数量や図形についての知識・理解
理 科	理 科
自然事象への関心・意欲・態度 科学的な思考・表現 観察・実験の技能 自然事象についての知識・理解	自然事象への関心・意欲・態度 科学的な思考 観察・実験の技能・表現 自然事象についての知識・理解
生 活	生 活
生活への関心・意欲・態度 活動や体験についての思考・表現 身近な環境や自分についての気付き	生活への関心・意欲・態度 活動や体験についての思考・表現 身近な環境や自分についての気付き
音 楽	音 楽
音楽への関心・意欲・態度 音楽表現の創意工夫 音楽表現の技能 鑑賞の能力	音楽への関心・意欲・態度 音楽的な感受や表現の工夫 表現の技能 鑑賞の能力
図画工作	図画工作
造形への関心・意欲・態度 発想や構想の能力 創造的な技能 鑑賞の能力	造形への関心・意欲・態度 発想や構想の能力 創造的な技能 鑑賞の能力
家 庭	家 庭
家庭生活への関心・意欲・態度 生活を創意工夫する能力 生活の技能 家庭生活についての知識・理解	家庭生活への関心・意欲・態度 生活を創意工夫する能力 生活の技能 家庭生活についての知識・理解
体 育	体 育
運動や健康・安全への関心・意欲・態度 運動や健康・安全についての思考・判断 運動の技能 健康・安全についての知識・理解	運動や健康・安全への関心・意欲・態度 運動や健康・安全についての思考・判断 運動の技能 健康・安全についての知識・理解

(※) 下線部は今回見直す部分。

(表2) 中学校

改 正	現 行
国 語	国 語
国語への関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 言語についての知識・理解・技能	国語への関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 言語についての知識・理解・技能
社 会	社 会
社会的事象への関心・意欲・態度 社会的な思考・判断・表現 資料活用の技能 社会的事象についての知識・理解	社会的事象への関心・意欲・態度 社会的な思考・判断 資料活用の技能・表現 社会的事象についての知識・理解
数 学	数 学
数学への関心・意欲・態度 数学的な見方や考え方 数学的な技能 数量や図形などについての知識・理解	数学への関心・意欲・態度 数学的な見方や考え方 数学的な表現・処理 数量・図形などについての知識・理解
理 科	理 科
自然事象への関心・意欲・態度 科学的な思考・表現 観察・実験の技能 自然事象についての知識・理解	自然事象への関心・意欲・態度 科学的な思考 観察・実験の技能・表現 自然事象についての知識・理解
音 楽	音 楽
音楽への関心・意欲・態度 音楽表現の創意工夫 音楽表現の技能 鑑賞の能力	音楽への関心・意欲・態度 音楽的な感受や表現の工夫 表現の技能 鑑賞の能力
美 術	美 術
美術への関心・意欲・態度 発想や構想の能力 創造的な技能 鑑賞の能力	美術への関心・意欲・態度 発想や構想の能力 創造的な技能 鑑賞の能力
保健体育	保健体育
運動や健康・安全への関心・意欲・態度 運動や健康・安全についての思考・判断 運動の技能 運動や健康・安全についての知識・理解	運動や健康・安全への関心・意欲・態度 運動や健康・安全についての思考・判断 運動の技能 運動や健康・安全についての知識・理解
技術・家庭	技術・家庭
生活や技術への関心・意欲・態度 生活を工夫し創造する能力 生活の技能 生活や技術についての知識・理解	生活や技術への関心・意欲・態度 生活を工夫し創造する能力 生活の技能 生活や技術についての知識・理解
外 国 語	外 国 語
コミュニケーションへの関心・意欲・態度 外国語表現の能力 外国語理解の能力 言語や文化についての知識・理解	コミュニケーションへの関心・意欲・態度 表現の能力 理解の能力 言語や文化についての知識・理解

(※) 下線部は今回見直す部分。

各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨

1. 各教科の学習の記録

国語

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 国語>

観点	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、国語を尊重しようとする。	相手や目的、意図に応じ、話したり聞いたり話し合ったりし、自分の考えを明確にしている。	相手や目的、意図に応じ、筋道を立てて文章を書き、自分の考えを豊かにしている。	目的に応じ、内容をとらえながら本や文章を読み、自分の考えを明確にしている。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて書いている。

<中学校 国語>

観点	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、国語を尊重しようとする。	目的や場面に応じ、適切に話したり聞いたり話し合ったりして、自分の考えを豊かにしている。	相手や目的、意図に応じ、筋道を立てて文章を書き、自分の考えを豊かにしている。	目的や意図に応じ、様々な文章を読み、親しんだりして、自分の考えを豊かにしている。	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて速く書いている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 国語>

学年	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
第1学年及び第2学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、進んで話したり聞いたり書いたり、楽しんで読書したりしようとする。	相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話したり、大切なことを落とさないように聞いたり、話題に沿って話したりしている。	経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書いている。	書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたりして、想像を広げたりして本や文章を読んでいる。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく丁寧に書いている。
第3学年及び第4学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、工夫をしながら話したり聞いたり書いたり、幅広く読書したりしようとする。	相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話したり、話の中心に気を付けて聞いたり、進行に沿って話したりしている。	相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書いている。	目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら本や文章を読んでいる。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を形や大きさ、配列、筆圧などに注意して書いている。

学年	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
第5学年及び第6学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、適切に話したり聞いたり書いたり、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする。	目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話したり、相手の意図をつかみながら聞いたり、計画的に話し合ったりしている。	目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書いている。	目的に応じ、内容や要旨をとらえながら本や文章を読んでいる。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を書く目的や用紙全体との関係、点画のつながりなどに注意して書いている。

<中学校 国語>

学年	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
第1学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、話したり聞いたり書いたりして考えをまとめ、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする。	目的や場面に応じ、構成を工夫して話したり、意図を考えながら聞いたり、話題や方向をとらえて話し合ったりしている。	目的や意図に応じ、構成を考え、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして文章に書いている。	目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえて、自分のものの見方や考え方を広くしている。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、文字を楷書で書き、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書いている。
第2学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、話したり聞いたり書いたりして考えを広げ、読書を生活に役立てようとする。	目的や場面に応じ、立場や考えの違いを踏まえて話したり、考えを比べながら聞いたり、相手の立場を尊重して話し合ったりしている。	目的や意図に応じ、構成を工夫し、伝えたいことが効果的に伝わるように文章を書いている。	目的や意図に応じ、内容や表現の仕方に注意して文章を読み、知識や体験と関連付けて自分の考えをもっている。	伝統的な言語文化を楽しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、漢字の行書とそれに調和した仮名を書き、楷書又は行書を選んで書いている。
第3学年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、話したり聞いたり書いたりして考えを深め、読書を通して自己を向上させようとする。	目的や場面に応じ、相手の様子に合わせて話したり、表現の工夫を評価して聞いたり、課題の解決に向けて話し合ったりしている。	目的や意図に応じ、文章の形態を選択し、論理の展開を工夫して説得力のある文章を書いている。	目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読み、人間、社会、自然などについて自分の意見をもっている。	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、身の回りの文字に関心をもち、効果的に文字を書いている。

社会

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 社会>

観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
趣旨	社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べ、社会の一員として自覚をもってよりよい社会を考えようとする。	社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	社会的事象を的確に観察、調査したり、各種の資料を効果的に活用したりして、必要な情報をまとめている。	社会的事象の様子や働き、特色及び相互の関連を具体的に理解している。

<中学校 社会>

観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
趣旨	社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。	社会的事象から課題を見いだし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身に付けている。

(2) 学年・分野別の評価の観点の趣旨

<小学校 社会>

観点 学年	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第3学年及び第4学年	地域における社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べ、地域社会の一員としての自覚をもつとともに、地域社会に対する誇りと愛情をもとうとする。	地域における社会的事象から学習問題を見いだして追究し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて思考・判断したことを適切に表現している。	地域における社会的事象を的確に観察、調査したり、地図や各種の具体的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動、地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きを理解している。
第5学年	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べ、国土の環境の保全と自然災害の防止の重要性、産業の発展や社会の情報化の進展に関心を深めるとともに、国土に対する愛情をもとうとする。	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象を的確に調査したり、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	我が国の国土と産業の様子、国土の環境や産業と国民生活との関連を理解している。

観点 学年	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第6学年	我が国の歴史と政治及び国際社会における我が国の役割に関心を持ち、それを意欲的に調べ、我が国の歴史や伝統を大切にし国を愛する心情をもつとともに、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることの自覚をもとうとする。	我が国の歴史と政治及び国際理解に関する社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味についてより広い視野から思考・判断したことを適切に表現している。	我が国の歴史と政治及び国際理解に関する社会的事象を的確に調査したり、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解している。

<中学校 社会>

観点 分野	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
地理的分野	地理的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の特色について認識を養おうとする。	地理的事象から課題を見だし、日本や世界の地域的特色を地域の規模に応じて環境条件や人々の営みなどに関連付けて多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、映像など地域に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日本や世界の諸地域について、その地域構成や地域的特色、地域の課題などを理解し、その知識を身に付けている。
歴史的分野	歴史的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って我が国の伝統と文化について考え国民としての自覚をもとうとする。	歴史的事象から課題を見だし、我が国の歴史の大きな流れや各時代の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	年表や歴史地図、映像など歴史に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解し、その知識を身に付けている。
公民的分野	現代の社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立ってよりよい社会を考え公民としての自覚をもって責任を果たそうとする。	現代の社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や役割、相互の関連などを多面的・多角的に考察し、様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	統計や新聞、映像など現代の社会的事象に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代社会についての見方や考え方の基礎、現代の社会生活及び政治や経済の基本的な考え方や役割、相互の関連などを理解し、その知識を身に付けている。

算数・数学

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 算数>

観点	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
趣旨	数理的な事象に関心をもつとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする。	日常の事象を数理的にとらえ、見通しをもち筋道立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	数量や図形についての数学的な表現や処理にかかわる技能を身に付けている。	数量や図形についての豊かな感覚をもち、それらの意味や性質などについて理解している。

<中学校 数学>

観点	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
趣旨	数理的な事象に関心をもつとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を活用して考えたり判断したりしようとする。	事象を数学的にとらえて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数量や図形などで数学的に表現し処理する技能を身に付けている。	数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 算数>

学年	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
第1学年	数量や図形に親しみをもち、それらについて様々な経験をもとうとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、数理的な処理に親しみ、考え表現したり工夫したりしている。	整数の計算をしたり、身の回りにある量の大きさを比較したり、図形を構成したり、数量の関係などを表したり読み取ったりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の意味と表し方及び整数の計算の意味を理解し、量、図形及び数量の関係についての理解の基礎となる経験を豊かにしている。
第2学年	数量や図形に親しみをもち、それらについて様々な経験をもとうとともに、知識や技能などを進んで用いようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、数理的な処理に親しみ、考え表現したり工夫したりしている。	整数の計算をしたり、長さや体積などを測定したり、図形を構成したり、数量の関係などを表したり読み取ったりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の意味と表し方、整数の計算の意味、長さや体積などの単位と測定の意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。

学年	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
第3学年	数理的な事象に関心をもつとともに、知識や技能などの有用さ及び数量や図形の性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることのよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	整数などの計算をしたり、長さや重さなどを測定したり、図形を構成要素に着目して構成したり、数量の関係などを表したり読み取ったりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数、小数及び分数の意味と表し方、計算の意味、長さや重さなどの単位と測定の意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。
第4学年	数理的な事象に関心をもつとともに、知識や技能などの有用さ及び数量や図形の性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることのよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	整数、小数及び分数の計算をしたり、図形の面積を求めたり、図形を構成要素の位置関係に着目して構成したり、数量の関係などを表したり調べたりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数、小数及び分数の意味と表し方、計算の意味、面積などの単位と測定の意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。
第5学年	数理的な事象に関心をもつとともに、数量や図形の性質や関係などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりすることのよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について論理的に考え表現したり、そのことを基に発展的、統合的に考えたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	小数や分数の計算をしたり、図形の面積や体積を求めたり、図形の性質を調べたり、数量の関係などを表したり調べたりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の性質、分数の意味、小数や分数の計算の意味、面積の公式、体積の単位と測定の意味、図形の意味や性質及び数量の関係などについて理解している。
第6学年	数理的な事象に関心をもつとともに、数量や図形の性質や関係などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりすることのよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について論理的に考え表現したり、そのことを基に発展的、統合的に考えたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	分数の計算をしたり、図形の面積や体積を求めたり、図形を構成したり、数量の関係などを表したり調べたりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、分数の計算の意味、体積の公式、速さの意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。

<中学校 数学>

学年	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
第1学年	様々な事象を数量や図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする。	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を見通しをもって論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	正の数と負の数の四則計算ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり、基本的な図形の作図や図形の計量をしたり、関数関係を的確に表現したり、資料を整理したりするなど、技能を身に付けている。	正の数と負の数、文字を用いることの必要性と意味、一元一次方程式、平面図形についての性質や関係、空間における図形の位置関係、関数関係や比例・反比例、ヒストグラムや代表値などを理解し、知識を身に付けている。
第2学年	様々な事象を数量や図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする。	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	文字を用いた四則計算ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり、図形の性質について簡潔に表現したり、関数関係を的確に表現したり、確率を求めたりするなど、技能を身に付けている。	文字式のはたらき、連立二元一次方程式、平面図形の性質、図形の証明の必要性と意味及びその方法、一次関数の特徴、確率の必要性と意味などを理解し、知識を身に付けている。
第3学年	様々な事象を数量や図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする。	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象に潜む関係や法則を見いだしたり、数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	平方根を含む式の計算ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり、図形の性質について簡潔に表現したり、関数関係を的確に表現したり、標本を抽出したりするなど、技能を身に付けている。	数の平方根の必要性と意味、式の変形の意味とはたらき、二次方程式、図形の相似の意味や円周角と中心角の関係の意味、三平方の定理の意味、関数 $y=ax^2$ の特徴、標本調査の必要性と意味などを理解し、知識を身に付けている。

理 科

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 理科>

観 点	自然事象への関心・意 欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知 識・理解
趣 旨	自然に親しみ、意欲を もって自然の事物・現 象を調べる活動を行い、 自然を愛するとともに 生活に生かそうとする。	自然の事物・現象から 問題を見だし、見通 しをもって事象を比較 したり、関係付けたり、 条件に着目したり、推 論したりして調べるこ とによって得られた結 果を考察し表現して、 問題を解決している。	自然の事物・現象を観 察し、実験を計画的に 実施し、器具や機器な どを目的に応じて工夫 して扱うとともに、そ れらの過程や結果を的 確に記録している。	自然の事物・現象の性 質や規則性、相互の関 係などについて実感を 伴って理解している。

<中学校 理科>

観 点	自然事象への関心・意 欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知 識・理解
趣 旨	自然の事物・現象に進 んでかかわり、それら を科学的に探究すると ともに、事象を人間生 活とのかかわりでみよ うとする。	自然の事物・現象の中 に問題を見だし、目 的意識をもって観察、 実験などを行い、事象 や結果を分析して解釈 し、表現している。	観察、実験を行い、基 本操作を習得するとと もに、それらの過程や 結果を的確に記録、整 理し、自然の事物・現 象を科学的に探究する 技能の基礎を身に付け ている。	自然の事物・現象につ いて、基本的な概念や 原理・法則を理解し、 知識を身に付けている。

(2) 学年・分野別の評価の観点の趣旨

<小学校 理科>

観 点 学年	自然事象への関心・意 欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知 識・理解
第 3 学 年	自然の事物・現象に興 味・関心をもって追究 し、生物を愛護すると ともに、見いだした特 性を生活に生かそうと する。	自然の事物・現象を比 較しながら問題を見 だし、差異点や共通点 について考察し表現し て、問題を解決してい る。	簡単な器具や材料を見 付けたり、使ったり、 作ったりして観察、実 験やものづくりを行い、 その過程や結果を分か りやすく記録している。	物の重さ、風やゴムの 力並びに光、磁石の性 質や働き及び電気を働 かせたときの現象や、 生物の成長のきまりや 体のづくり、生物と環 境とのかかわり、太陽 と地面の様子などにつ いて実感を伴って理解 している。

学年	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
第4学年	自然の事物・現象に興味・関心をもって追究し、生物を愛護するとともに、見いだした特性を生活に生かそうとする。	自然の事物・現象の変化とその要因とのかかわりに問題を見だし、変化と関係する要因について考察し表現して、問題を解決している。	簡単な器具や材料を見付けたり、使ったり、作ったりして観察、実験やものづくりを行い、その過程や結果を分かりやすく記録している。	空気や水の性質や働き、物の状態の変化、電気による現象や、人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境とのかかわり、気象現象、月や星の動きなどについて実感を伴って理解している。
第5学年	自然の事物・現象を意欲的に追究し、生命を尊重するとともに、見いだしたきまりを生活に当てはめてみようとする。	自然の事物・現象の変化とその要因との関係に問題を見だし、条件に着目して計画的に追究し、量的変化や時間的变化について考察し表現して、問題を解決している。	問題解決に適した方法を工夫し、装置を組み立てたり使ったりして観察、実験やものづくりを行い、その過程や結果を的確に記録している。	物の溶け方、振り子の運動の規則性、電流の働きや、生命の連続性、流水の働き、気象現象の規則性などについて実感を伴って理解している。
第6学年	自然の事物・現象を意欲的に追究し、生命を尊重するとともに、見いだしたきまりを生活に当てはめてみようとする。	自然の事物・現象の変化とその要因との関係に問題を見だし、推論しながら追究し、規則性や相互関係について考察し表現して、問題を解決している。	問題解決に適した方法を工夫し、装置を組み立てたり使ったりして観察、実験やものづくりを行い、その過程や結果を的確に記録している。	燃焼、水溶液の性質、この規則性及び電気による現象や、生物の体の働き、生物と環境とのかかわり、土地のつくりと変化のきまり、月の位置や特徴などについて実感を伴って理解している。

<中学校 理科>

学年 分野	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
第1分野	物質やエネルギーに関する事物・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探究するとともに、事象を人間生活とのかかわりでみようとする。	物質やエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、表現している。	物質やエネルギーに関する事物・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理など、事象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	観察や実験などを通して、物質やエネルギーに関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
第2分野	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探究するとともに、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとする。	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、表現している。	生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に関する観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理など、事象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	観察や実験などを通して、生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

生活

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 生活>

観点	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
趣旨	身近な環境や自分自身に関心をもち、進んでそれらとかかわり、楽しく学習したり、生活したりしようとする。	具体的な活動や体験について、自分なりに考えたり、工夫したりして、それをすなおに表現している。	具体的な活動や体験によって、自分と身近な人、社会、自然とのかかわり及び自分自身のよさなどに気付いている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 生活>

学年	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
第1学年及び第2学年	身近な人、社会、自然及び自分自身に関心をもち、進んでそれらとかかわり、楽しく意欲的に学習したり、生活したりしようとする。	調べたり、育てたり、作ったりするなどの活動や学校、家庭、地域における自分の生活について、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりして、それをすなおに表現している。	具体的な活動や体験によって、学校、家庭、地域、公共物、身近な自然、動植物、自分の成長などの様子、それらと自分とのかかわり及び自分自身のよさに気付いている。

音楽

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 音楽>

観点	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
趣旨	音楽に親しみ、音や音楽に対する関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え、味わって聴いている。

<中学校 音楽>

観点	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
趣旨	音楽に親しみ、音や音楽に対する関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わって聴いている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 音楽>

学年	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
第1学年及び第2学年	楽しく音楽にかかわり、音や音楽に対する関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いをもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲や演奏の楽しさに気付き、味わって聴いている。
第3学年及び第4学年	進んで音楽にかかわり、音や音楽に対する関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を伸ばし、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさに気付き、味わって聴いている。

学年	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
第5学年及び第6学年	創造的に音楽にかかわり、音や音楽に対する関心をもち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組みようとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を高め、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさを理解し、味わって聴いている。

<中学校 音楽>

学年	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
第1学年	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽に対する関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組みようとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり価値を考えたりして、多様な音楽のよさや美しさを味わって聴いている。
第2学年及び第3学年	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽に対する関心を高め、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組みようとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、ふさわしい音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を伸ばし、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり価値を考えたりして、多様な音楽に対する理解を深め、味わって聴いている。

図画工作・美術

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 図画工作>

観 点	造形への関心・意欲・ 態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
趣 旨	自分の思いをもち、進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや材料などを基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途などを考えたりしている。	感覚や経験を生かしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫している。	作品などの形や色などから、表現の面白さをとらえたり、よさや美しさを感じ取ったりしている。

<中学校 美術>

観 点	美術への関心・意欲・ 態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
趣 旨	美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。	感性や想像力を働かせて、美術作品などからよさや美しさなどを感じ取り味わったり、美術文化を理解したりしている。

(2) 学年別の評価の観点を趣旨

<小学校 図画工作>

観 点 年 別	造形への関心・意欲・ 態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
第 1 学 年 及 び 第 2 学 年	思いのままに表したり、作品などを見たりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや材料などを基に表したいことを思い付いたり、形や色、つくり方などを考えたりしている。	体全体の感覚を働かせながら材料や用具を使い、工夫して表している。	身の回りの作品などの形や色などから、面白さに気付いたり、楽しさを感じたりしている。
第 3 学 年 及 び 第 4 学 年	自分の思いで表現したり、鑑賞したりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや見たこと、材料や場所などを基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途などを考えたりしている。	手や体全体の感覚を働かせながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫している。	身近にある作品などの形や色などから、表現の感じの違いをとらえたり、よさや面白さを感じ取ったりしている。

学年	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
第5学年及び第6学年	自分の思いをもって表現したり、鑑賞したりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや見たこと、材料や場所などの特徴を基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途や構成などを考えたりしている。	感覚を働かせたり経験を生かしたりしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、様々な表し方を工夫している。	親しみのある作品などの形や色などから、表現の意図や特徴をとらえたり、よさや美しさを感じ取ったりしている。

<中学校 美術>

学年	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
第1学年	美術の創造活動の喜びを味わい、表現や鑑賞の能力を身に付けるために、主体的に学習に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に豊かに発想し、形や色彩の構成などを工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具を生かしたり、制作の順序などを考えたりし、創意工夫して表している。	感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、生活の中の美術の働きなどを感じ取り見方を広げたり、美術文化の特性やよさに気付いたりしている。
第2学年及び第3学年	美術の創造活動の喜びを味わい、表現や鑑賞の能力を高めるために、主体的に学習に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、対象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に独創的で豊かな発想をし、形や色彩などの効果を生かし、心豊かで創造的な表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考えたりするなどし、創意工夫して創造的に表している。	感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化などについての理解や見方を深めたりしている。

家庭、技術・家庭

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 家庭>

観点	家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
趣旨	衣食住や家族の生活などについて関心をもち、その大切さに気付き、家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。	家庭生活について見直し、身近な生活の課題を見付け、その解決を目指して生活をよりよくするために考え自分なりに工夫している。	日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

<中学校 技術・家庭>

観点	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
趣旨	生活や技術について関心をもち、生活を充実に向上するために進んで実践しようとする。	生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	生活に必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活と技術とのかかわりについて理解している。

(2) 学年・分野別の評価の観点の趣旨

<小学校 家庭>

学年	家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
第5学年及び第6学年	自分の成長と衣食住や家族の生活などについて関心をもち、その大切さに気付き、家族の一員として家庭生活をよりよくするために進んで取り組み実践しようとする。	衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために考えたり自分なりに工夫したりしている。	生活の自立の基礎として日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	家庭生活を支えているものや大切さを理解し、日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

<中学校 技術・家庭(技術分野)>

分野	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
技術分野	材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する技術について関心をもち、技術の在り方や活用の仕方等に関する課題の解決のために、主体的に技術を評価し活用しようとする。	材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する技術の在り方や活用の仕方等について課題を見付けるとともに、その解決のために工夫し創造して、技術を評価し活用している。	材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する技術を適切に活用するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する技術についての基礎的・基本的な知識を身に付け、技術と社会や環境とのかかわりについて理解している。

<中学校 技術・家庭（家庭分野）>

評価 分類	生活や技術への関心・ 意欲・態度	生活を工夫し創造する 能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
家 庭 分 野	衣食住や家族の生活などについて関心をもち、これからの生活を展望して家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。	衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫し創造している。	生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

体育・保健体育

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 体育>

観点	運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全につ いての思考・判断	運動の技能	健康・安全についての 知識・理解
趣 旨	運動に進んで取り組む とともに、友達と協力 し、安全に気を付けよ うとする。また、身近 な生活における健康・ 安全について関心をも ち、意欲的に学習に取 り組もうとする。	自己の能力に適した課 題の解決を目指して、 運動の仕方を工夫して いる。また、身近な生 活における健康・安全 について、課題の解決 を目指して考え、判断 し、それらを表してい る。	運動を楽しく行うため の基本的な動きや技能 を身に付けている。	身近な生活における健 康・安全について、課 題の解決に役立つ基礎 的な事項を理解してい る。

<中学校 保健体育>

観点	運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全につ いての思考・判断	運動の技能	運動や健康・安全につ いての知識・理解
趣 旨	運動の楽しさや喜びを 味わうことができるよ う、運動の合理的な実 践に積極的に取り組も うとする。また、個人 生活における健康・安 全について関心をもち、 意欲的に学習に組み 組もうとする。	生涯にわたって運動に 親しむことを目指して、 学習課題に応じた運動 の取り組み方や健康の 保持及び体力を高める ための運動の組み合わ せ方を工夫している。 また、個人生活におけ る健康・安全について、 課題の解決を目指して 考え、判断し、それら を表している。	運動の合理的な実践を 通して、運動の特性に 応じた基本的な技能を 身に付けている。	運動の合理的な実践に 関する具体的な事項及 び生涯にわたって運動 に親しむための理論に ついて理解している。 また、個人生活におけ る健康・安全について、 課題の解決に役立つ基 礎的な事項を理解して いる。

(2) 学年・分野別の評価の観点の趣旨

<小学校 体育>

学年	運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全につ いての思考・判断	運動の技能	健康・安全についての 知識・理解
第 1 学 年	運動に進んで取り組む とともに、だれとでも 仲よく、健康・安全に 留意しようとする。	運動の仕方を工夫して いる。	運動を楽しく行うため の基本的な動きを身に 付けている。	
第 2 学 年	運動に進んで取り組む とともに、だれとでも 仲よく、健康・安全に 留意しようとする。	運動の仕方を工夫して いる。	運動を楽しく行うため の基本的な動きを身に 付けている。	

級 学年	運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全につ いての思考・判断	運動の技能	健康・安全についての 知識・理解
第 3 学 年	運動に進んで取り組むとともに、きまりを守り互いに協力し、健康・安全に留意しようとする。さらに、健康な生活について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力に適した課題をもち、運動の仕方を工夫している。また、健康な生活について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。	運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けている。	健康な生活について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
第 4 学 年	運動に進んで取り組むとともに、きまりを守り互いに協力し、健康・安全に留意しようとする。さらに、体の発育・発達について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力に適した課題をもち、運動の仕方を工夫している。また、体の発育・発達について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。	運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けている。	体の発育・発達について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
第 5 学 年	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、進んで運動に取り組むとともに、協力、公正などの態度を身に付け、健康・安全に留意しようとする。さらに、心の健康やけがの防止について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力に適した課題の解決の仕方や運動の取り組み方を工夫している。また、心の健康やけがの防止について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。	運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	心の健康やけがの防止について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
第 6 学 年	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、進んで運動に取り組むとともに、協力、公正などの態度を身に付け、健康・安全に留意しようとする。さらに、病気の予防について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力に適した課題の解決の仕方や運動の取り組み方を工夫している。また、病気の予防について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。	運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	病気の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

<中学校 保健体育>

学年 分野	運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全につ いての思考・判断	運動の技能	運動や健康・安全につ いての知識・理解
第1学年 及び 第2学年 体育 分野	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとする。	運動を豊かに実践するための課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。また、体力を高めるための運動を組み合わせ方を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツが心身の発達に与える効果についての考え方を理解している。
第3学年 保健 分野	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとする。	生涯にわたって運動を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。また、自己の状況に応じて体力を高めるための運動の計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法及び文化としてのスポーツの意義の考え方を理解している。
保健 分野	心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決を目指して科学的に考え、判断し、それらを表している。		心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

2. 外国語活動の記録

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 外国語活動の記録>

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気づき
趣旨	コミュニケーションに関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言葉の面白さや豊かさ、多様なものの見方や考え方があることなどに気付いている。

外国語

(1) 評価の観点及びその趣旨

<中学校 外国語>

観 点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
趣 旨	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<中学校 外国語>

観 点 学 年	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
第 1 学 年 、 第 2 学 年 及 び 第 3 学 年	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

3. 特別活動の記録

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 特別活動の記録>

観 点	集団活動や生活への関心・意 欲・態度	集団の一員としての思考・判断 ・実践	集団活動や生活についての知 識・理解
趣 旨	学級や学校の集団や自己の生活に関心を持ち、望ましい人間関係を築きながら、積極的に集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団の一員としての役割を自覚し、望ましい人間関係を築きながら、集団活動や自己の生活の充実と向上について考え、判断し、自己を生かして実践している。	集団活動の意義、よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方、自己の健全な生活の在り方などについて理解している。

<中学校 特別活動の記録>

観 点	集団活動や生活への関心・意 欲・態度	集団や社会の一員としての思考 ・判断・実践	集団活動や生活についての知 識・理解
趣 旨	学級や学校の集団や自己の生活に関心を持ち、望ましい人間関係を築きながら、積極的に集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団や社会の一員としての役割を自覚し、望ましい人間関係を築きながら、集団活動や自己の生活の充実と向上について考え、判断し、自己を生かして実践している。	集団活動の意義、よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方、自己の健全な生活の在り方などについて理解している。



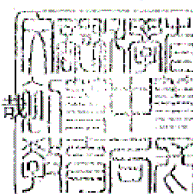
22文科初第1号
平成22年5月11日

各都道府県教育委員会
各指定都市教育委員会
各都道府県知事
附属学校を置く各国立大学長
構造改革特別区域法第12条第1項の
認定を受けた地方公共団体の長

殿

文部科学省初等中等教育局長

金森越哉



(印影印刷)

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の
学習評価及び指導要録の改善等について（通知）

このたび、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会において、「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成22年3月24日）（以下「報告」という。）がとりまとめられました。

「報告」においては、学習指導要領において示された基礎的・基本的な知識・技能、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等及び主体的に学習に取り組む態度の育成が確実に図られるよう、学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善すること等が重要とされています。また、保護者や児童生徒に対して、学習評価に関する仕組み等について事前に説明したり、評価結果の説明を充実したりするなどして学習評価に関する情報をより積極的に提供することも重要とされています。

指導要録は、児童生徒の学籍並びに指導の過程及び結果の要約を記録し、その後の指導及び外部に対する証明等に役立たせるための原簿となるものであり、各学校で学習評価を計画的に進めていく上で重要な表簿です。

文部科学省においては、「報告」を受け、各学校における学習評価が円滑に行われ

るとともに、各設置者による指導要録の様式の決定や各学校における指導要録の作成の参考となるよう、学習評価を行うに当たっての配慮事項、指導要録に記載する事項及び各学校における指導要録の作成に当たっての配慮事項等を別紙1～6のとおりとりまとめました。

については、下記に示す学習評価を行うに当たっての配慮事項及び指導要録に記載する事項の見直しの要点並びに別紙について十分に御了知の上、各都道府県教育委員会におかれては、所管の学校及び域内の市町村教育委員会に対し、各指定都市教育委員会におかれては、所管の学校に対し、各都道府県知事及び構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた地方公共団体の長におかれては、所轄の学校及び学校法人等に対し、国立大学長におかれては、その管下の学校に対して、「報告」の趣旨も踏まえ、指導要録の様式が適切に設定され、新しい学習指導要領に対応した学習指導と学習評価が行われるよう、これらの十分な周知及び必要な指導等をお願いします。

さらに、幼稚園、特別支援学校幼稚部、保育所及び認定こども園（以下、「幼稚園等」という。）と小学校及び特別支援学校小学部との緊密な連携を図る観点から、幼稚園等においてもこの通知の趣旨の理解が図られるようお願いします。

なお、平成13年4月27日付け13文科初第193号「小学校児童指導要録、中学校生徒指導要録、高等学校生徒指導要録、中等教育学校生徒指導要録並びに盲学校、聾学校及び養護学校の小学部児童指導要録、中学部生徒指導要録及び高等部生徒指導要録の改善等について」及び平成20年12月25日付け20文科初第1081号「小学校学習指導要領等に関する移行期間中における小学校児童指導要録等の取扱いについて」のうち、小学校及び特別支援学校小学部に関する部分は平成23年3月31日をもって、中学校（中等教育学校の前期課程を含む。以下同じ。）及び特別支援学校中学部に関する部分は平成24年3月31日をもって、高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。）及び特別支援学校高等部に関する部分は平成25年3月31日をもって、それぞれ廃止します。

記

1 学習評価の改善に関する基本的な考え方について

(1) 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要であること。その上で、新しい学習指導要領の下における学習評価の改善を図っていくためには以下の基本的な考え方に沿って学習評価を行うことが必要であること。

- ① きめの細かな指導の充実や児童生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価する、目標に準拠した評価を引き続き着実に実施すること。

② 新しい学習指導要領の趣旨や改善事項等を学習評価において適切に反映すること。

③ 学校や設置者の創意工夫を一層生かすこと。

(2) 学習評価における観点については、新しい学習指導要領を踏まえ、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」に整理し、各教科等の特性に応じて観点を示している。設置者や学校においては、これに基づく適切な観点を設定する必要があること。

(3) 高等学校における学習評価については、引き続き観点別学習状況の評価を実施し、きめの細かい学習指導と生徒一人一人の学習の確実な定着を図っていく必要があること。

(4) 障害のある児童生徒に係る学習評価の考え方は、障害のない児童生徒に対する学習評価の考え方と基本的に変わるものではないが、児童生徒の障害の状態等を十分理解しつつ、様々な方法を用いて、一人一人の学習状況を一層丁寧に把握することが必要であること。また、特別支援学校については、新しい学習指導要領により個別の指導計画の作成が義務付けられたことを踏まえ、当該計画に基づいて行われた学習の状況や学習の結果の評価を行うことが必要であること。

2 効果的・効率的な学習評価の推進について

(1) 学校や設置者においては、学習評価の妥当性、信頼性等を高めるとともに、教師の負担感の軽減を図るため、国等が示す評価に関する資料を参考にしつつ、評価規準や評価方法の一層の共有や教師の力量の向上等を図り、組織的に学習評価に取り組むことが重要であること。

(2) その際、学習評価に関する情報の適切な管理を図りつつ、情報通信技術の活用により指導要録等に係る事務の改善を検討することも重要であること。なお、法令に基づく文書である指導要録について、書面の作成、保存、送付を情報通信技術を活用して行うことは、現行の制度上も可能であること。

(3) 今後、国においても、評価規準等の評価の参考となる資料を作成することとしているが、都道府県等においても、学習評価に関する研究を進め、学習評価に関する参考となる資料を示すとともに、具体的な事例の収集・提示を行うことが重要であること。

3 小・中学校及び特別支援学校小・中学部の指導要録について

(1) 小学校及び特別支援学校小学部の外国語活動について、設置者において、学習指導要領の目標及び具体的な活動等に沿って評価の観点を設定することとし、文章の記述による評価を行うこと。

(2) 特別活動について、学習指導要領の目標及び特別活動の特質等に沿って、各学

校において評価の視点を定めることができるようにすることとし、各活動・学校行事ごとに評価すること。

4 高等学校及び特別支援学校高等部の指導要録について

各教科・科目の評定については、視点別学習状況の評価を引き続き十分踏まえること。

〔別紙1〕 小学校及び特別支援学校小学部の指導要録に記載する事項等

〔別紙2〕 中学校及び特別支援学校中学部の指導要録に記載する事項等

〔別紙3〕 高等学校及び特別支援学校高等部の指導要録に記載する事項等

〔別紙4〕 各学校における指導要録の保存、送付等に当たっての配慮事項

〔別紙5〕 各教科等・各学年等の評価の視点等及びその趣旨（小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部）

〔別紙6〕 各教科の評価の視点及びその趣旨（高等学校及び特別支援学校高等部）

〔参考1〕

文部科学省ホームページ 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成22年3月24日）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1292163.htm

〔参考2〕

各設置者における指導要録の様式の設定に当たっての検討に資するため、別添として指導要録の「参考様式」を示している。

本件担当：文部科学省初等中等教育局教育課程課
教育課程企画室審議・調整係

電話：03-5253-4111（内線2369）

FAX：03-6734-3734

e-mail：kyokyo@mext.go.jp

児童生徒の学習評価の在り方について（報告）の概要

1. 学習評価の基本的な考え方とその見直しの経緯等

- 学習評価は、学習指導要領の目標の実現状況を把握し指導の改善に生かすもの。
- そのため、学習指導要領の改訂に伴い、学習評価の基本的な在り方について検討を行うとともに、指導要録に記載すべき事項等を文部科学省として提示。

2. 学習評価の現状と課題

- 現在の「観点別学習状況の評価」と「目標に準拠した評価」は、小・中学校において教師に定着してきているが、負担感があるとの声がある。
- 高等学校においては、小・中学校ほど観点別学習状況の評価が定着していない。

3. 学習評価の今後の方向性

- 学習指導に係るPDCAサイクルの中で、学習評価を通じ、授業の改善や学校の教育活動全体の改善を図ることが重要であり、以下の3つの考え方を中心に学習評価を改善。
 - ① きめの細かな指導の充実や児童生徒一人一人の学習の定着を図ることのできる「目標に準拠した評価」による「観点別学習状況の評価」や「評定」を着実に実施。（学習評価の在り方の大枠は維持し、深化を図る。）
 - ② 学習評価においても学習指導要領等の改正の趣旨を反映。
 - ③ 学校等の創意工夫を生かす現場主義を重視した学習評価の促進。

4. 観点別学習状況の評価の在り方

- 学習状況を分析的に見る「評価の観点」については、成績付けのための評価だけでなく、指導の改善に生かす評価においても重要な役割。
- そのため、今回、学習指導要領等で定める学力の3つの要素に合わせ、評価の観点を整理することとし、概ね、
 - ① 基礎的・基本的な知識・技能は「知識・理解」「技能」において、
 - ② これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等は「思考・判断・表現」において、
 - ③ 主体的に学習に取り組む態度は「関心・意欲・態度」において、それぞれ評価を行うことと整理。
- 各教科の評価の観点は上に示した観点を基本としつつ教科の特性に応じて設定。

(※) 各教科の内容等に即して思考・判断したことについて、その内容を言語活動を中心とする表現に係る活動と一体的に評価する観点として「思考・判断・表現」を設定する。

それに伴い、従来の「技能・表現」の観点の「表現」との混同を避けるため、当該観点を「技能」に改める。

5. 指導要録の改善

- 指導要録は、指導の過程と結果の要約を記録し、その後の指導と外部に対する証明等に使用するもの。指導要録においても、学習評価の基本的方向性（学習指導要領等の改正の趣旨の反映）を踏まえた改善を行うことが必要。
- 具体的には、
 - ・ 「関心・意欲・態度」の評価に伴う負担感等について指摘があったことを受け、評価方法や評価時期等の工夫を推進。（評価の段階を3段階から2段階とする等の工夫を行う場合は、都道府県等ごとに一定の統一性を保ちつつ行うことが必要。）
 - ・ 小学校「外国語活動」について、「総合的な学習の時間」と同様に文章記述により評価。
 - ・ 「特別活動」について、学習指導要領の目標を踏まえ、各学校における教育活動に合わせて評価の観点を定めて評価することを促進。
 - ・ 児童生徒の行動の様子を評価する「行動の記録」の基本的な在り方は維持。設定項目について各学校がその教育目標に合わせて項目を加えることも適当。

6. 高等学校における学習評価の在り方

- 高等学校においても、評価による指導の改善を図るとともに、評価を通じた教育の質の保障を図るため、観点別学習状況の評価を推進していくことが必要。
- 一方、各学校の生徒の特性、進路等が多様であることへの配慮も必要。

7. 障害のある児童生徒に係る学習評価の在り方

- 障害のある児童生徒に係る学習評価の考え方は、障害のない児童生徒に対する学習評価と基本的に変わらないが、学習評価に当たっては、児童生徒の障害の状態等を十分理解しつつ、様々な方法を用いて、一人一人の学習状況を一層丁寧に把握することが必要。
- また、学習指導要領等の改正の主な改善事項を踏まえ、個別の指導計画に基づいて行われた学習状況や学習の結果の評価を実施することなどが必要。

8. 学習評価に係る学校における組織的な取組と国や教育委員会等の支援による効果的・効率的な学習評価の推進

- 教師の負担感の軽減を図るとともに、各学校における評価の妥当性、信頼性等を高めるためには、学校、設置者、都道府県、国は、学習評価におけるそれぞれの役割を果たすことが必要。
 - ① 学校・設置者においては、学習評価に関する規準や方法の一層の共有化や教師の力量の向上を図るなど組織的に学習評価に取り組むことが重要。
また、児童生徒や保護者に対して、評価結果の説明を充実することも重要。
 - ② 国・都道府県等においては、学習評価に関する研究を進め、参考となる評価の観点等を示すとともに、学習評価に係る具体的な事例を収集・提示。
- その際、情報通信技術を活用し、学校や同一地域で評価関係資料を共有したり、指導要録の電子化を進めたりすることにより事務の改善を推進することも重要。

参 考 文 献

小学校学習指導要領， 中学校学習指導要領（平成20年3月告示），
小学校学習指導要領解説（各編）， 中学校学習指導要領解説（各編），
評価規準の作成， 評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校 各編），
評価規準の作成， 評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 各編），
児童生徒の夢がかなう福島の教育の実現に向けてⅡ 新訂 指導要録記入の手引（福島県
教育委員会）（平成14年3月）
指導要録記入の手引き【幼稚園幼児指導要録、小学校児童指導要録、中学校生徒指導要録、
特別支援学級（生徒）指導要録】（福島県教育委員会）（平成23年3月）
観点別学習状況の評価規準と判定基準〔平成23年版〕（各編， 図書文化），
初等教育資料（平成22年度～平成24年度版），
中等教育資料（平成22年度～平成24年度版）

○ 作成委員

各教育事務所作成委員

板橋 竜男	県北教育事務所指導主事
山本 浩	県中教育事務所指導主事
川上 一美	県南教育事務所指導主事
高橋 伸明	会津教育事務所指導主事
芳賀 稔	南会津教育事務所指導主事
佐藤 恭司	相双教育事務所指導主事
大内 克之	いわき教育事務所指導主事

教育センター作成委員

鈴木 雅彦	教育センター指導主事
芦沢 康	教育センター指導主事
土屋 直之	教育センター指導主事
富岡 信	教育センター指導主事
二瓶 浩治	教育センター指導主事
高澤 正男	教育センター指導主事
佐藤 裕子	教育センター指導主事
難波 和生	教育センター指導主事
星 博人	教育センター指導主事
鳴川 哲也	教育センター指導主事
鈴木 千晶	教育センター指導主事
小林 真一	教育センター指導主事
田野入 秀浩	教育センター指導主事

県教育庁義務教育課作成委員

吉田 尚	義務教育課長
佐川 正人	義務教育課主幹
管原 克章	義務教育課主任指導主事
佐藤 秀美	義務教育課主任指導主事
福地 淳一	義務教育課指導主事
伏見 珠美	義務教育課指導主事
鯨岡 寛泰	義務教育課指導主事
増子 春夫	義務教育課指導主事
五十嵐 幸男	義務教育課指導主事
阿部 洋己	義務教育課指導主事
菊池 淳一	義務教育課指導主事
渡邊 真魚	義務教育課指導主事
酒井 康雄	義務教育課指導主事
原 孝行	義務教育課指導主事
小松 信哉	義務教育課指導主事

県教育庁健康教育課作成委員

丹野 英雄	健康教育課指導主事
石幡 良子	健康教育課指導主事

（平成25年 3月現在）